紙のプロレス RADICAL

No.5

リングスvsパンクラス
戦場はどこだ? 局地戦争勃発!

A猪木、Puffy他
高田vsヒクソンを大予想!



世紀の一戦10・11を語る!
高田延彦

人生を語らない新連載!!
前田日明
の人生相談開始!!

A猪木、小川直也よもやま話
タイガーキング

長井満也/柳澤龍志

長与千種
/ライオネス飛鳥

打倒ヒクソンに
最後の刺客!!


藤原喜明vsドン荒川第2弾!

特集:みちのくプロレス危機一髪!

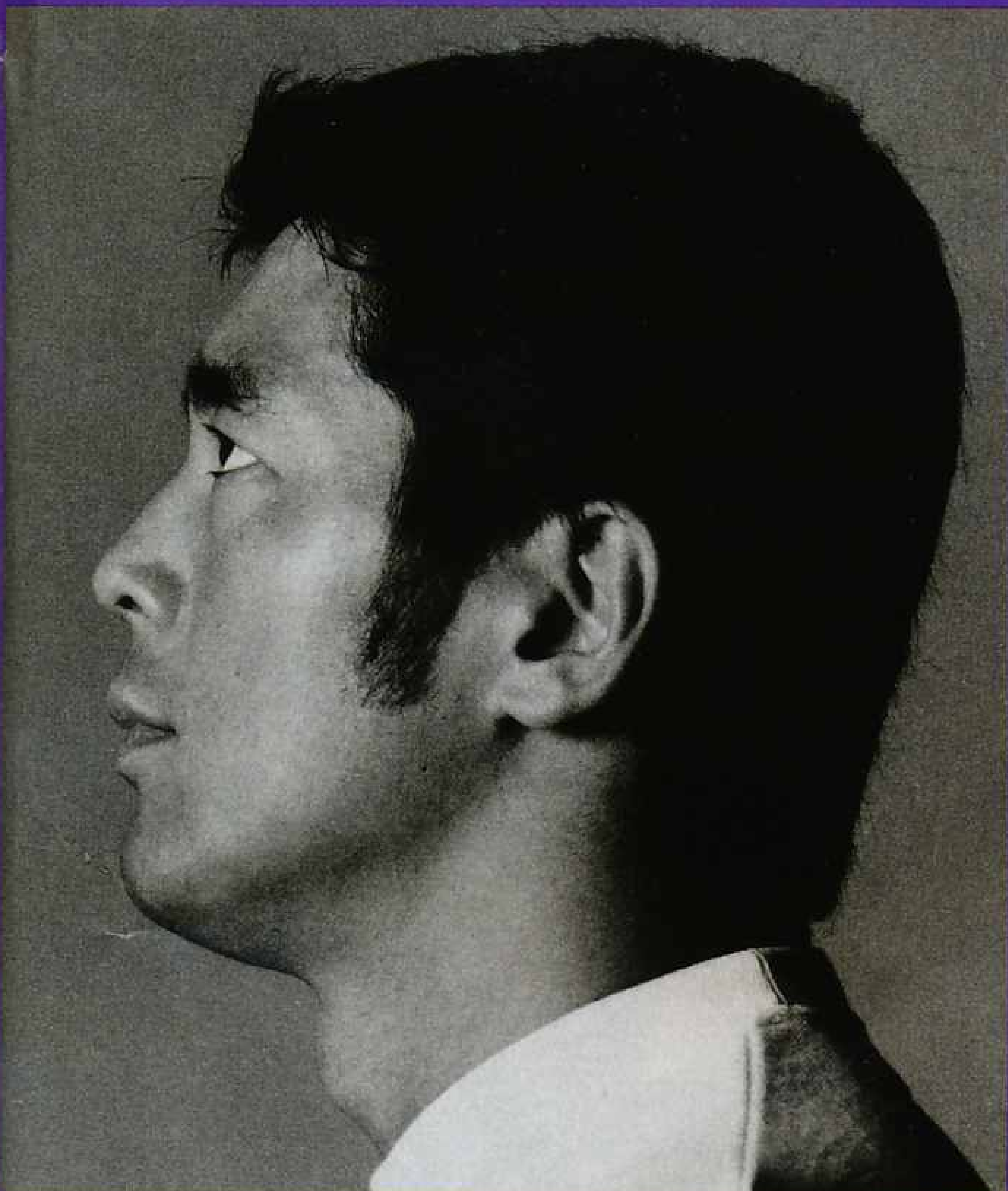
RADICAL MYSTERY TOUR
ジャンボ鶴田ぶどう園!!

紙のプロレス RADICAL No.5 最後の刺客!!

発行元:(株)ダブルクロス 〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188


高田延彦
樹海へ——

現代の賞金稼ぎ・ヒクソン・グレイシー！
世界最強ともいわれるヒクソン・グレイシー！
そのヒクソンにとってもプロレスラーを迎え打つのは
恐らくこれが最後になるはずである
プロレスラー
最後の刺客！
高田延彦！



NOBUHIKO TAKADA

聞き手／**山口昇**
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／**斉藤ユーリ**
photographs by Yuri Saito

高田　（撮影用のバック紙をさして）ああ、**ラッキーカラー**ですよ。パープルは。

――エ？　誰かとの試合に勝ったときのトランクスの色とかですか？

高田　いや、なんとなく（微笑）。

――あの、今日はね、高田さんがものすごく張りつめてるんじゃないか？とかいろいろ想像してたんですよ。酒飲んでるとき以上に怖かったらイヤだな～とかね（笑）。なにせ酒豪・高田のパワーは凄いですからね。

高田　逆にいえば、それ以上、怖いときはないですよ（笑）。実際、最近は飲んでないしね。

――もし、あれ以上爆発してたらどうしようかと思って（笑）。

高田　赤井（英和）さんがいないから大丈夫（笑）。

※過去に聞き手の山口昇は、ある雑誌での対談中、赤井英和＆高田延彦に胃から地球が出てくるかと思うほど飲まされたことがある。

――でも、ホント思ったより爽やかな顔してるし、なんかうまい具合に肩の力も抜けてる気がするし、なんかホッとしましたね。

高田　そうかな。ま、いいんですよ。いまから**エネルギー**使っても、しょうがない。

――ところでいま、練習スケジュールはどうなってるんですか？

高田　まっ、適当に（キッパリ）！

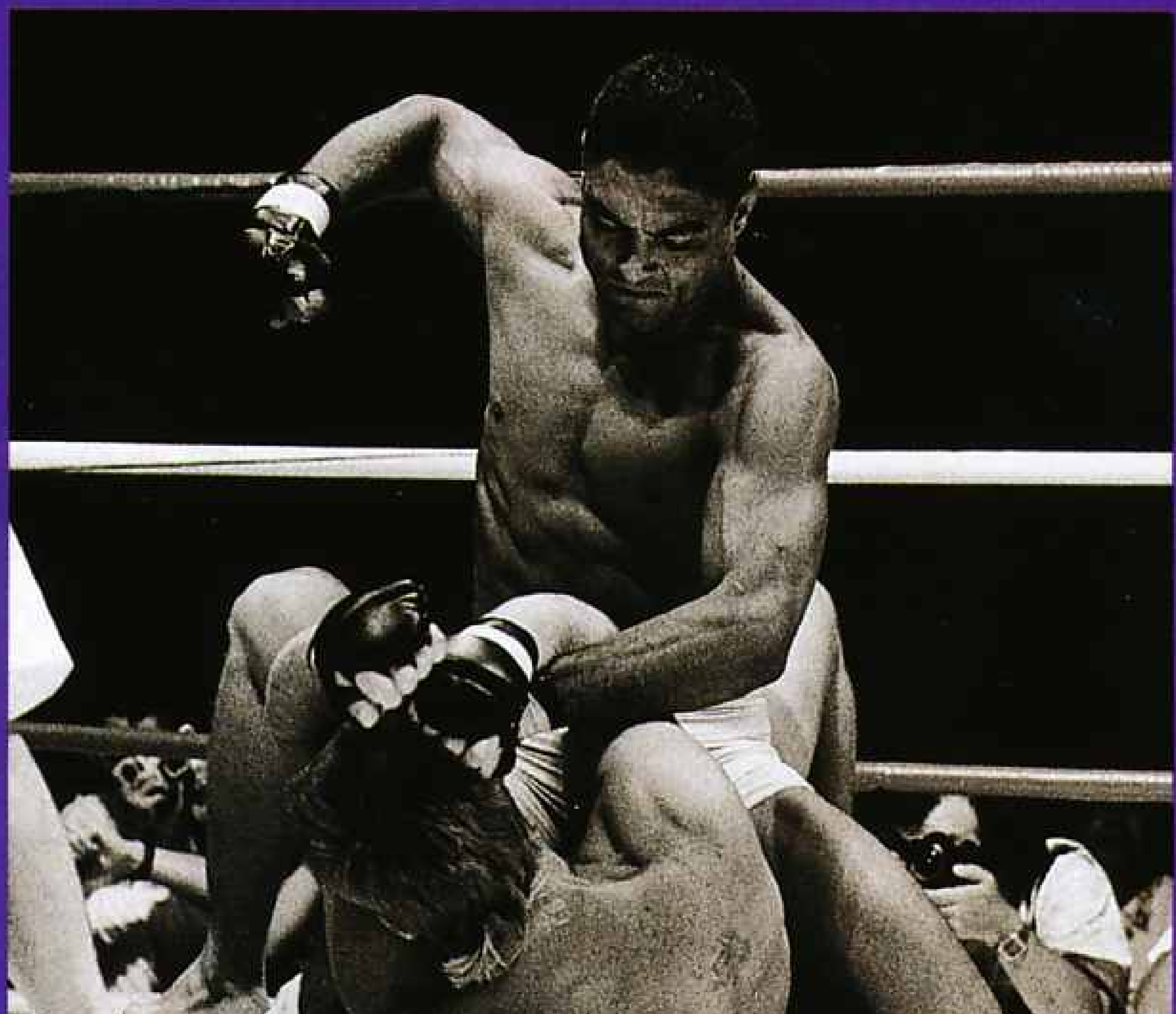
――適当!?

高田　体と相談しながらね。**企業秘密です。**

――漏洩しないように（笑）。

高田　そうですね。そんなにいままで

すべての終わりか？　始まりか？
「ヤキトリ」か？　「役満」か？
格闘競技か？　戦争か？
スポーツか？　果たし合いか？
世紀の決戦！
勝て！　高田延彦!!



やるんなら RADICALは 高田延彦を 応援するゼ!!

と変わりはないです。

——いま、ウェイトはどれぐらい？

高田　**90～93キロ**を行ったり来たりしてます。

——いちばん重いときはいくつくらいありました？

高田　いちばん重いときで110キロ。昔の**UWF**のとき。だから、最近はズッと97～98キロだったんで、それから比べると5キロほど落ちてるんですよ。今年3月の沖縄のキャンプの後は88キロくらいまで落ちましたから。

——それまでと比べるとゲッソリって感じだったもんなぁ。そんなに変わってるのに、「体重は変わってない」って、何かのインタビューだか会見で言い切ってましたよね。

高田　それは**カムフラージュ**でしょ（キッパリ）。

——あ、カムフラージュ（笑）。自分でバラしますか。

高田　どう見ても変わってるじゃない（笑）。

——だから、こんだけシェイプアップしたのに何で変わってねーんだって誌面見ながら突っ込んでたんですよ（笑）。

高田　ハハハ。だけどね、短期間で体重が動いてるから。3キロくらいって上下しやすいんですよ。要するに下のピークが88キロだとすると、91キロとか92キロにはすぐ戻っちゃうから。でも、結果的に当日いかに動けるかということ。当日量ってみたら98キロだとか、92キロだった、ということであって。自分のペースで**トレーニング・スケジュール**を組み立てて、**当日出来上がった体重がベスト**

いままでいちばん大きい闘い！日本の格闘技界を襲った黒船だからね！

の体重でしょう。

——契約体重とかはないんですよね？

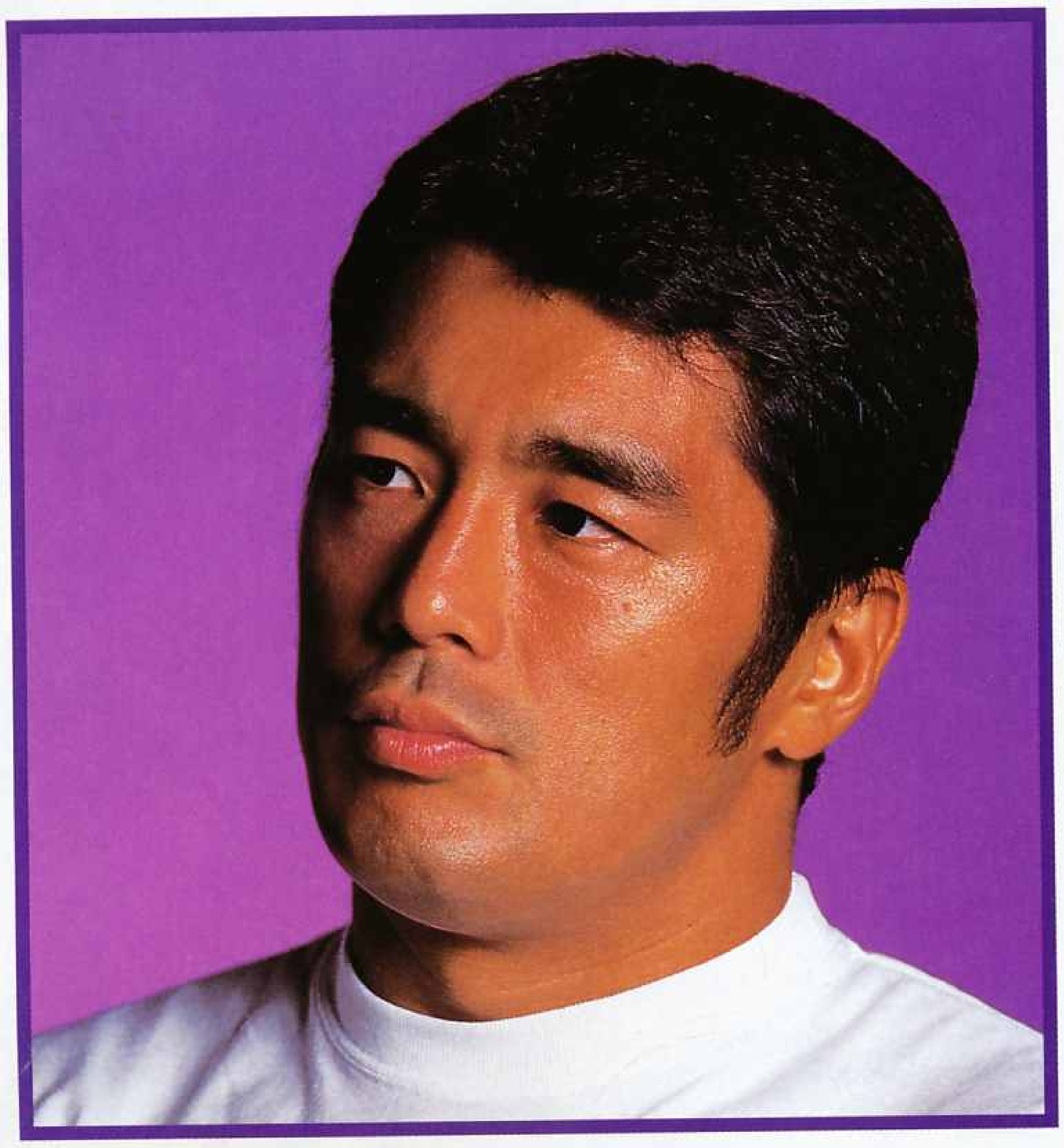
高田　それはないです。無制限。だから、**150キロ**ぐらいまで持っていこうかと思ってるんだけどね（笑）。

——ガハハハハ。巨漢・高田延彦も見てみたいですね（笑）。

高田　やっぱり技術が拮抗してたらデカイのが有利だから。いまのフリーファイト系のデカいのになると、めちゃくちゃデカくて、プラスアルファ技術っていう奴はなかなかいないから。デカいヤツは、どちらかというと体に頼っちゃって、**荒削り以下**のもんですからね。あとはハートで行っちゃうとかね。だって、150キロのヤツが80キロ、90キロのヤツと同じ**技術とスタミナとスピリット**を持ってたら勝てるワケがない。そうなってくると、絶対にウェイト制を作らなきゃ無理だよね。

——なるほど。月並みな質問ですけど、ヒクソンの印象は？

高田　思ってた通りのイメージだね。例えば**"たたずまい"**とかね。まあ**スキル（技術）の部分や闘いの部分**では、肌を合わせてみなきゃ、そういう感想は出ないけども、近い距離で同じ空気を味わったときに、**武士道**というかね。日本人ですら持ってない**独特の雰囲気**というのがあるなと。



——武士道的な、というのは具体的に言うとどういうものなんですか？　殺るか殺られるかという雰囲気を醸し出してるんですか？　それとも秘めたる思いみたいなものが空気で伝わってくるんですか？

高田　うん、総合的だと思うんですよ。やっぱり、リングに上がったときに中身は空っぽで**表面だけでビビらしてやろうっていうヤツは山ほどいるじゃない。**

——プロレス界には多いですね。

高田　そういうのじゃなくて、何もオーバーアクションがないのに、ただありのままを出してる。ありのままなのに、そういうものを**醸し出してるっていう**。つくってるものじゃなくね。

——膨大な武士道的オーラを発していると。

高田　そうですね。あんまり他の人間が持ってない……これはおそらく主観的な見方じゃないと思うんですよ。大勢の人が彼のたたずまいに対して、そういう雰囲気を間違いなく感じてると思うよ。

——寡黙というイメージもデカいんですかね？

高田　インタビューとか見てると、そんなに極端には**寡黙ではない**と思うんだけどね（笑）。だから、言葉で表せない。ビジュアルで見て感じるか感じないかでしょ。だから、あれで着物着て、**ギュッと（日本刀でも）1本2本腰にさしたら、**ピタッとはまるんじゃない？

——そういうのはいまの日本人には逆に似合わないですからね。

高田　うん。日本人がヒザに穴の開いたGパンとか、**サンダル履きで茶パツでピアスまでしてるからね。**

——で、その武士道的なヒクソンは「惑わされたくないので、対戦相手のデータを分析したりしない」と言ってるんですけど、高田さんは今回はヒクソンのデータを分析してるんですか？

高田　そんな細かいことは**やってない**です。

——ビデオで見る程度？

高田　それもあんまり**見てない**です。

——はっはー。ヒクソンは「私だって闘いの前に怖くなるときがある」という言い方をしてたんですよ。これはVS高田戦に限った言い方じゃないんだけど。正直な話、高田さんはいま怖いっていう思いはないですか？

高田　いろんな意味で10・11のリングは未知だから。"ヒクソンだから"というのもセットで、あのルールの中で**「果たしてどんな世界なのか？」というのは、ロープをくぐってみないとリングの中の空気はわからないから。**

——想像すらもできないって感じ？

高田　いや、そろそろ自分の脳の中の触覚が活発に動き出してきて、それまではボンヤリ捉えてたのが、ヒクソンが来日して、記者会見のあたりから、

自然とそういうものを想像したりシミュレーションしたりするような状態になってきてます。

——ボクシングのバービック戦や北尾戦とかありましたけど、高田さんの中では、このヒクソン戦は、やっぱりこれまでの闘いより大きいもんですか?

高田　そうですね……（長い沈黙）……やっぱり**いままでの中でいちばん大きい試合だと思いますね。日本の格闘技界を襲ってきた黒船だから。**

——「樹海の中にコンパスを持っていくようなものだ」というような言い方をしてましたよね。

高田　はい。あとは、**獣が出てきたり、思わぬものと出くわしたり**したときに、考えないで体がバッと対応できる。そういうものをある程度体に染み込ませておけば、**落とし穴に落ちたとしても、這いあがって来れるでしょう。** ものにつまづいても、また体勢立て直せるし。瞬間瞬間で出くわしたものに対処できると思うんでね。あとは前後左右を見失わないように、**コンパスをもってリングに上がる**ということ。

——これは何回も聞かれてると思うんですけど、安生洋二の道場破りがきっかけなのか、UWFインターの解散がきっかけなのかなんなのか、この対戦をやろうと決めた動機はそもそもなんなんですか?

高田　うーん、そうですね、俺というひとりのレスラーが、純粋にこの男と闘いたいなと。**力試しをしてみたいと。** それを実現することができたということであって、単純にそういうことなんですよ。

——あくまでもそれだけ?

高田　その中に、「そこに至るまでのきっかけがあったのか?」と言われれば、例えば安生のことに関しても、何もないとはいえないけど、それまで無関心だったヒクソン・グレイシーという男に対して「どういう男なの?」っていうね。それから彼が**バーリ・トゥード**で来日するようになって、彼のことを知ろうとしなくても耳に入るようになってきた。その中で、あのときポツンと**胸の中に種が落とされて、着実に肥料をもらって育ってきてた**ということです。それに自分が気が付いたっていう。「あ! オレの中にこんなにヒクソンに対する思いが育ってたんだな」という感じだね。

——しかし、育っちゃってからが実に長かったですね（笑）。

高田　育って、実がなってるのに、その**実が腐っちゃって、ポトンと落ちる寸前**でしたからね。

——これは正直いって、いまだに実現するのか、しないのか?っていうのは、マスコミや業界関係者の中でも疑問視してる部分もあるし、ファンとしても「えっ、ホントなの?」って部分があると思うんですよ。高田さんは、主催者のKRSとはひんぱんにコンタクトを取ってるんですか?

高田　**取ってないです!**

——じゃあ、興行というかハードに関しては完全に主催者側まかせ?

高田　はい。代理人にまかせてます。

——じゃあ実際にリングに上がるまではわからないですね、現段階では。

高田　いや、**わからないとは思ってない。100%やる**という気持ちで毎日過ごしてます。それは100に1つでも、そういうことになったら、なったときに初めて自分が対処すればいいことだから。いまはやることを信じて!　それ以外のことはまったく考えてないね。

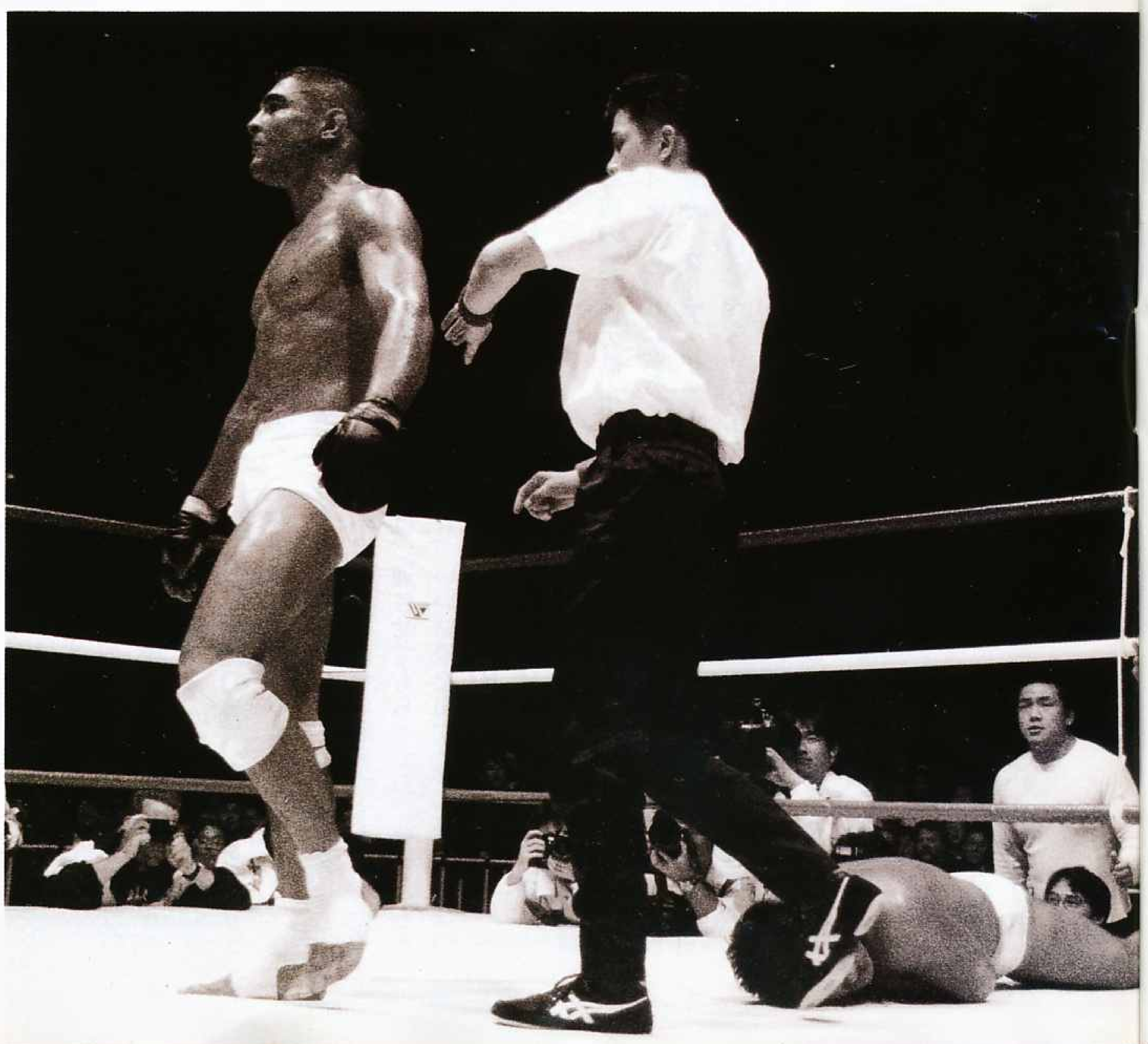
——もう、ひたすら実現する闘いに向けて専念してると。

高田　そうですね。

——今回は興行やら組織やらを背負ってないということですね。背負うってことに関していえば、「プロレスラーの代表には見られたくない」というような発言がありますけど。

高田　**それは好きにしてくれということです!** ただ、「プロレスの代表という気持ちを持て」と言われても、そうそうこっちも都合よく持てないよ。プロレスの代表という見方を

NT 最後の刺客 NOBUHIKO TAKADA



皆さんがすることは当然のことだろうし、自由だと思う。ただ、**「オマエはプロレスの代表なんだから、自覚を持ってやれよ」って言われたら、「違うんじゃない？」っていう気持ち**なんだよね。

——エ⁉「違うんじゃない？」っていうのはどういうことですか？

高田　プロレスの代表と思える時というのは、プロレス界との一体感を感じる一個人がそういった感情を持って、あるいは自然とその感情を心にたずさえてリングに上がる場合でね。いまのプロレス界が果たして縦横の線が隅々まで**クロスファイヤー**してるのか？　ということだと思うんだよね。俺はバラバラだと思ってるよ。例えば、プロレス界のマットに、**とてもプロレスラーとは思えない人間が続々とデビューをしてファイトしてるでしょ！**　この一例から始まって、それぞれの団体が好きなことをやってるんだから。

——たしかに、全部ではないにしても、どこも自分の団体の利益になることを優先させてますよね。

高田　団体がバラバラなのがいけないとは、**つゆほども思ってないよ。**それがプロレス界の現状だろうしね。

——いまの話は、なんだかわかったようなわかんないような感じなんだけど、よっぽどプロレス界の現状とか業界のシステムに我慢ならない部分があるようですね。

高田　同じ世界にいる人間から、負ければ**「ほら見たことか！」**って言われないとも限らないということだね。

——要するに、バラバラな状態がいけないとは言わないけど、そんなバラバラのプロレス界の代表というのはゴメンだよ、ということですね。

高田　そんな一体感のない業界に代表意識を感じるはずがないし、その必要もないというね。**代表意識**っていうのは俺が感じることでハッキリいってこの業界が無理矢理押しつけてくるもんではないからね。ただ、誤解してほしくないのは、いままで**リング**で闘ってきたキングダムの選手や他団体の選手たちに対しては、**俺なりに代表意識みたいなものはあるよ。**

——ただ、いまの高田さんの話は業界に向けてのものだと思うんだけど、ファンからしてみたら、感情移入という部分でも「プロレスラーの代表」として見た方が絶対に面白いでしょう。

高田　だから、もう一度いいたいのは、見る人たちの感情移入は自由ということです。**自分がカッコよく勝つ姿を期待する人、ブザマな姿を期待する人、いろんな見方があっていいと思う。ただ、10・11に自分が勝てば、「プロレス勝利！」になるでしょう。**その瞬間に、ファンの人たちと自分のハートが**フラットな状態になる。**そのことを励みに頑張りたいですね。

——Uインター時代に掲げてきた『最強』というスローガンがありますよね。そんな中でバーリ・トゥードとかが出てきて、「プロレスラー＝最強」っていうイメージは崩れてますよね、正直な話。それはボクら、プロレス雑誌をつくってる人間も真っ正面から見据えないといけないと思うんですよ。その中で、高田VSヒクソン戦というのは、自然と「最後の砦」的になってる部分はしょうがないと思うんですよ。それは全然、高田さんにプレッシャーを与えるとかいうんじゃなくて、それがいい方向に、さ、さゆう……あれ？

最後の刺客
NOBUHIKO TAKADA

高田　**作用!!**

——そう、作用作用（笑）。作用してくれればいいわけですよ。

高田　とにかく、勝ってナンボですから。勝ったときに、自分がどういう態度を取るかとか、どういう言葉を吐くかということであって。とにかく結果が出るまでは自分のことをいじめて、いたわり、そして万全の状態でリングに上がり、その結果が出たときに**新しい感情**が出てくると思うよ。

——でも、極端な話、例えばヒクソンに勝った後に「ほら、プロレスを背負うっていうのは、こういうことなんだよ」「オレやったよ、ザマーミロ！」って高田さんが言ったとしたら、ボクなんかは、個人的にめちゃくちゃ気持ちいいと思いますけどね（笑）。

高田　はい（微笑）。

——さっき、今回の興行面の話が出ましたけど、Uインター時代は会社とか組織のことを考え、フォア・ザ・チームでやってきたわけじゃないですか。それが高田さんにとって足カセになってた部分って確実にあると思うんですよ。で、いま現在、旗揚げして間もないキングダムの興行にも出ずに、ヒクソン戦一本に絞ってると。それについて、安生さんが「そんなワガママな高田延彦が一番魅力的なんじゃないの？」って言ってるんですよ。すごく面白いこと言うなあと思ってね。これはボクも個人的には同意見です。いままで、あまりにもワガママじゃないニュートラルな高田延彦を見過ぎてたんで（笑）。

高田　キングダムのメンバーには、**ある部分申し訳ないな**という気持ちは**人間として**持ってますんでね。

——人間として、ときましたか！　高田さん、人間だったんですか？（笑）。

高田　人間だったんですよ（爽やかに）。

——ああ、知らなかった。機械じゃなかったんですね（笑）。

高田　キングダムのメンバーは練習の部分でも、**最高の協力体制**をとってくれてる。このことで、選手との**脈々たる血の通い合い**を確認できた。それも大きいね。メチャクチャうれしいよ。だけど、じゃあ撤回というわけにはいかない問題ですから。そこは、通させてもらってね。何はともあれ、いい結果を出すことが、みんなへの**いちばんのお土産**ですから。

——そういえば「20年近くフリーファイトでやってきたんだから、高田は99％ヒクソンに勝てる」「高田がいかれたら俺がいく」と前田（日明）さんが言ってたんですよね。それに対して安生さんは「いつまでも高田さんのことを副将扱いするのはやめてほしい。『負けたら仇を討つ』とか言わないでほしい」と。それに関してはどう思ってますか？

高田　**何扱い？**

——副将扱い。だから、「高田が負けたら俺が仇を討つ」といった前田さん



いろんな見方があってもいい。ただ、10・11で
自分が勝てば『プロレスの勝利』でしょう

の発言に対して安生さんが「いつまでもUWFの大将気取りでいるのはやめてほしい」といったコメントを出してるんですよ。

高田　うーん、昔からそのへんはね、人のやることに何でも口を出したいっていう性分だから。

――前田さんは好奇心が旺盛ですからね（笑）。

高田　**しゃーないな。**

――さっきの高田さんのプロレス界への思いと同じように、プロレスという世界にいながらも「ヒクソンには勝てない」って簡単に言っちゃう業界への憤りを含めた部分で、前田選手は「99％、高田は大丈夫や」っていう言葉を吐いたんだと思うんですよ。

高田　うん。

――でも、そこから先が、安生さんからするとカチンとくるところで、「高田が負けたら、オレが後ろに控えてるから大丈夫や」っていう風に聞こえちゃうんでしょうね。

高田　**前田さんのフライング**はいまに始まったことじゃないからいいんだよ。

――フライングですか。

高田　ただ、どんな発言にせよ、**真正面から高田VSヒクソン戦に関してコメントしているのは、あの人だけだからね。**あんまり外の声は聞きたくないけど、**エールという意味で捉えるならうれしいよね。それにしても、前田さんはいつも、ふた言よけいなんだよね**（苦笑い）。

――ふた言（笑）。前田さんの場合はしゃべってるうちに熱くなってっちゃうタイプですからね（笑）。

高田　うん、でもハッキリいって、そういうのも、もはや耳まで頭に入ってこないから。余分なことは全部シャットアウト！**「99％勝てる」なんていうのは何の根拠もないし。やっぱり、最低五分五分。**お互いそういう可能性があるから。**闘う以上は100％も99％も70％もない。**あと2ヶ月間、そういう数字が明確に見えるようになるか、そういう準備が出来るか出来ないかっていうこと。そして、その準備が成功だったかどうかは、彼と肌を合わせて初めてわかることですから。確かに戦前の評価っていうのは**「ヒクソン有利」っていう方が多い**ようだけど。仮に自分の方が有利だと言う人がいても、まったくそういうのは自分の中に入ってこないですね。入れたくないし。

――有利不利でいうと、ロープブレイクなしというルールひとつ取っても、高田さんが20年近くプロレスやってきて、体に染みついたものってありますよね。「肉体は保守的である」ってことでいえば、一回肉体に染みついちゃったものはなかなか離れないっていうのはあると思うんですね。そういったものは練習を通じて、だいぶ離れてきてるんですか？　それとも、あくまでもいままで培ったもので勝負するんですか？

レスラーがこの試合について触れないのは興味ないわけないんだから！

NT　最後の刺客　NOBUHIKO TAKADA



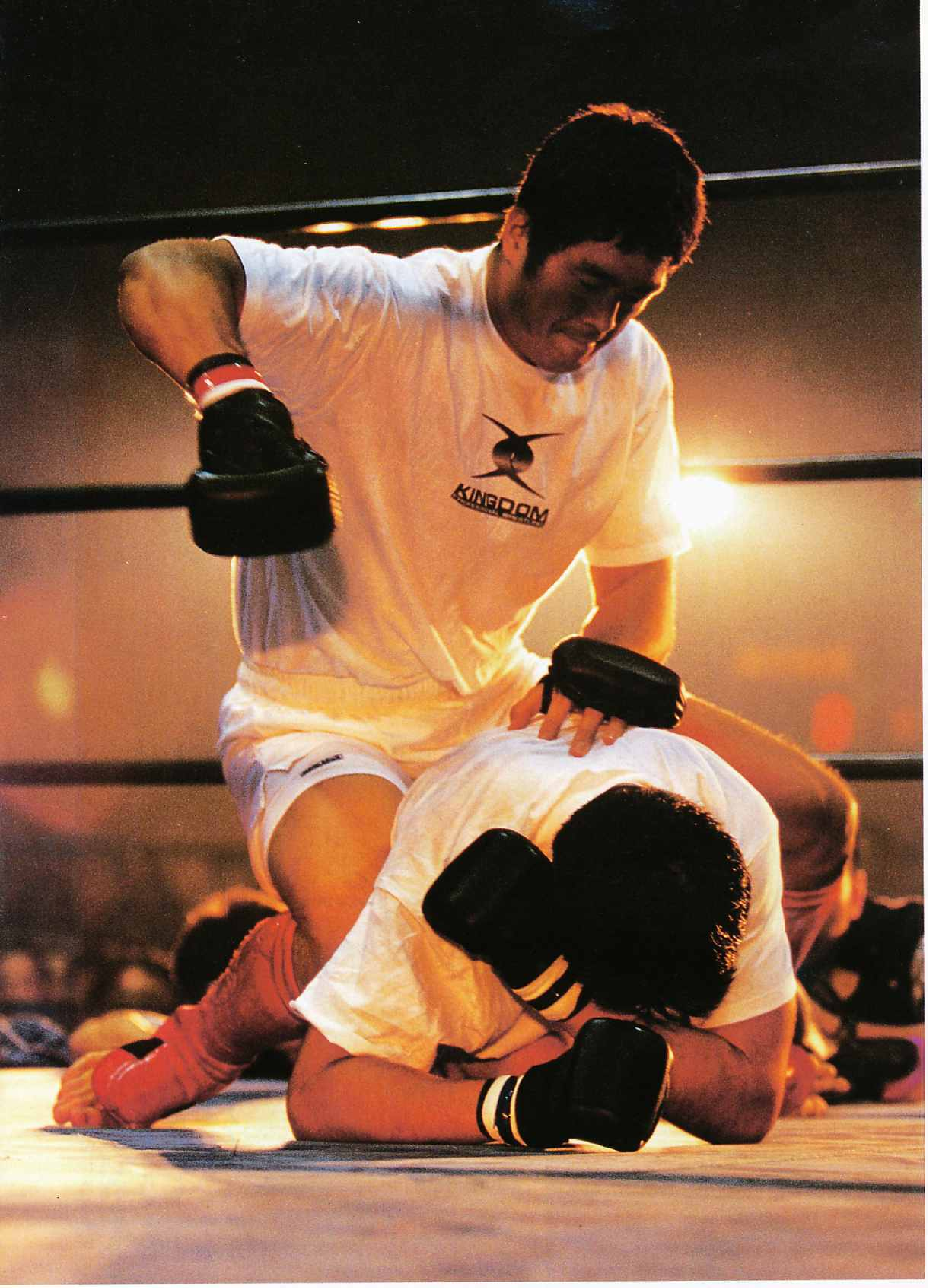
高田　**培ったもので勝負します！**　自分のスタイルがどれだけのものか、というのをぶつけるんであって、**柔術に近づいて勝負するわけじゃない**ですから。

――ああ、それは面白いですね！

高田　そうでなきゃ自分の力の確認じゃなくなるでしょ？　自分の少ない**武器の中から、その武器をさらに磨いて、ヒクソンにぶつける**というのが今回の闘いなんでね。

――じゃあ、いままでやってきたことをまったく切り離して、バーリ・トゥード用につくりなおすというわけじゃないんですね。

高田　違います！（キッパリ）。それ



はムリ。

——そうなると、よく違うジャンルに出る場合は「それまでやってきたことを忘れなきゃ勝てない」といわれるけど、プロレスを背負う云々、責任云々は抜きにしても、やっぱりこの一戦はプロレス界にとっても大きな闘いであるのは間違いないですよ!!

高田　そうでしょうね。

——これはぶっちゃけた話、10・11に両者がリングに立っていたら、興行の仕切りがどうのこうの関係なく、リング上の闘いはプロレス業界全体が応援しなきゃならない世界になってきますよね。

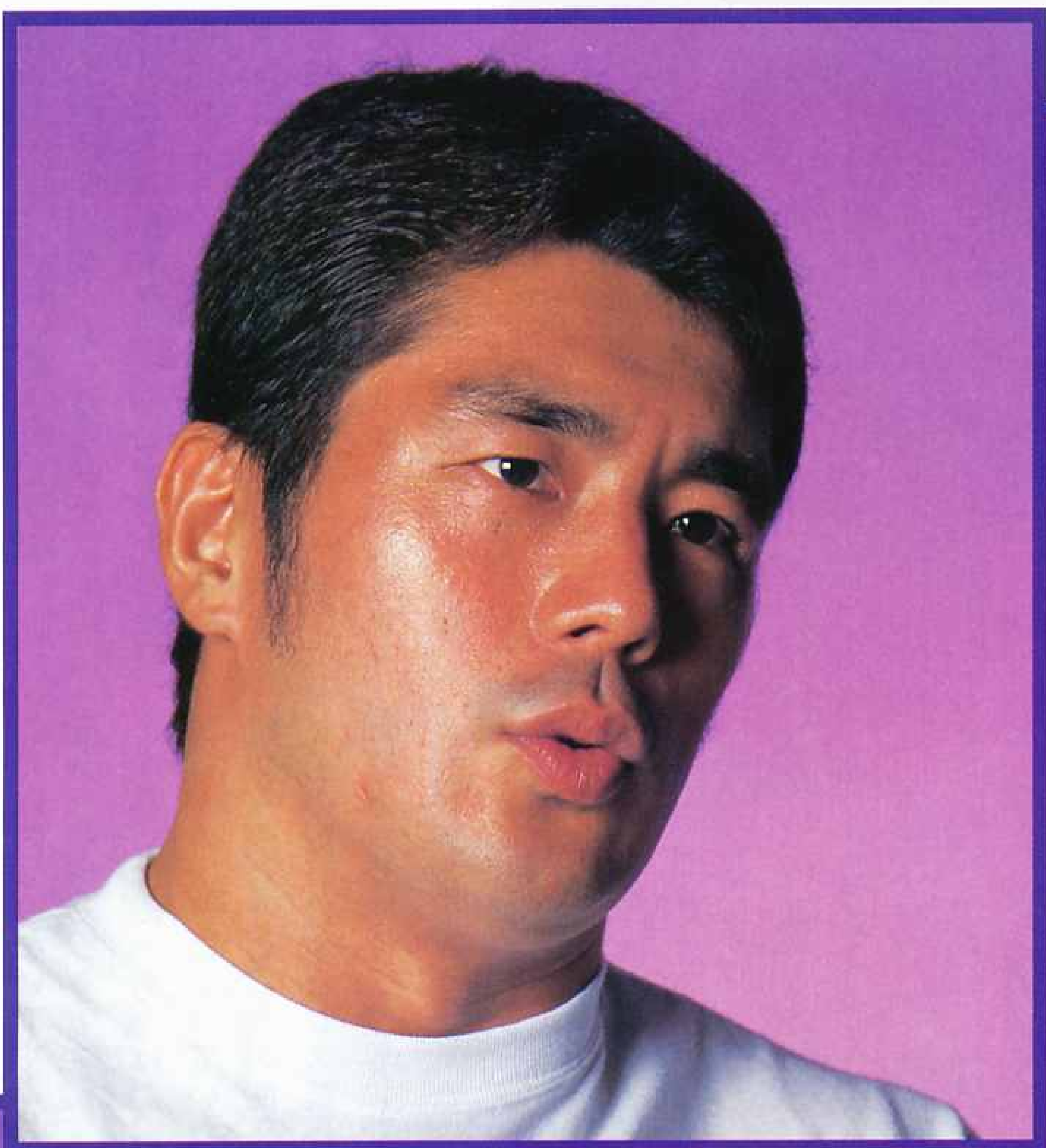
高田　それが普通なんだと思うけど、やっぱりこの世界は普通じゃない世界なんだよね。**レスラーがこの試合に関しては触れないもんね。それは気持ち悪いよね。興味ないわけないんだから！**　もう、こんなに（両手をいっぱいに広げて）興味あると思うよ。それに対して、敢えてかどうか知らないけど、「ほっとこうよ」っていう雰囲気があるでしょ？　それをもって、自分の中では**「異常な世界なんだ」**って再認識させられたね。

——うん、でも本当に10・11にリングに立つなら、そのへんの雑音もシャットアウトして、気にしないようにしてもらうしかないですね。自分から話振っといてなんですけど（笑）。ところでね、高田さんがやりたいものっていうのは、UWFスタイルの先にあるものなんですか？　それとも、あくまでもUWFスタイルが根幹にあるわけですか？

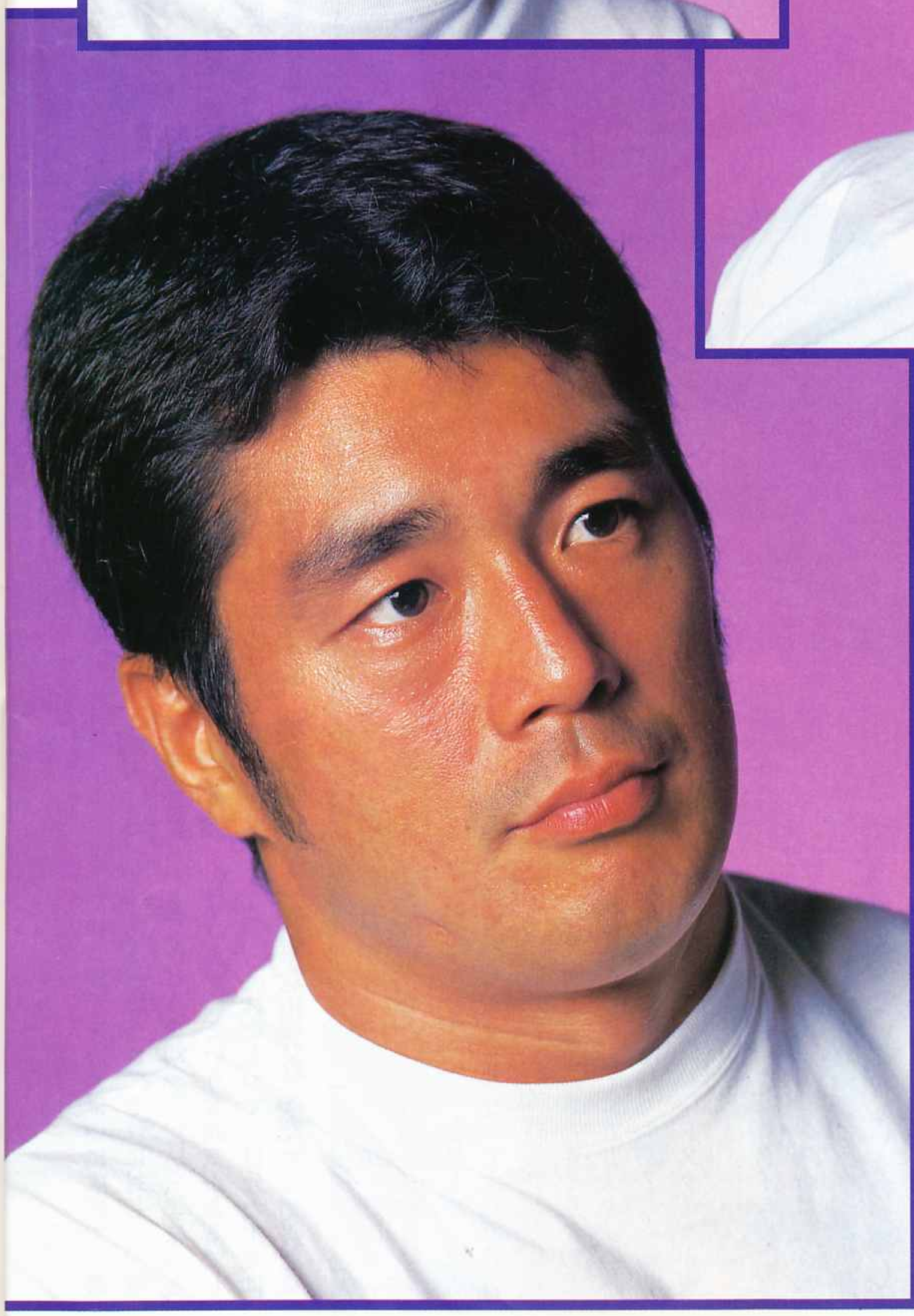
高田　よくみんなはスタイルにこだわるでしょ？　自分の場合は闘う相手によって、自分がどういう高田延彦になれるのかっていうのが**楽しみ**なんですよ。だから、自分は天龍さん、新日本とも試合したりとか。

——去年はブッチャーとまでやりましたね。

高田　あれは、やらざるをえなかった。だから、そういう意味で、自分のスタイルというのは、欲した相手と自分が思った通りの試合が出来たとき、それが自分の**ファイトスタイル**だと思うんですよ。だから、今回はたまたまヒクソン・グレイシーであったわけで、そのとき欲した相手と自分が満足のいくファイトスタイルが出来れば、それが**高田延彦のファイトスタイル**だと思ってますね。







——じゃあ、例えばUWFスタイルであっても、ルチャ・リブレであっても、そういうカテゴライズされたものは、あんまり関係ないということ？

高田　うーん、いまの話からいくと、ボクが**ルチャ・リブレ**の人間と試合をしたいと欲すことは、いままでもこれからもないんでね。表現的にはいま山口さんがいったようになると思うんだけど。

——でも、ルチャ・リブレの選手と闘いたいと思わないということは、何かしらの志向はあるわけですよね？

高田　まあ、自分は飛んだり跳ねたりするのは得意じゃないんで（笑）。

——そうですかね？　運動神経いいじゃないですか（笑）。

高田　すごい苦手なんですよ（笑）。でもハッキリ言えば、その中にやりたい人がいないというね。ボクは**「何と」**じゃなくて、**「誰と」**なんですよ。**興味ある人間とやりたいだけ**だから。そういう意味では、ルチャ・リブレの中にそういう人はいないし。いれば多分やってると思いますよ。

——はっはー。いまフッと思ったんだけど、高田さんは現在のプロレス界全体のことを把握してるんですか？　各

団体の情報は掴んでる？
高田　ある程度はね。（佐々木）**健介がG1優勝**したとか、その程度はね。

——**最新情報！**うん、それ結構新しいですよ（笑）。

高田　でしょ？（笑）。ウチにいる人間が全日本に出るとかね。大まかなところは入ってきてるね。

——いや、それは掴んでなきゃマズイでしょう（笑）。じゃあ、格闘技各方面の流れもある程度把握してるんですか？　例えばアルティメット大会で誰が優勝したとか。

高田　**あんまり。**

——じゃあ、その業界の流れがどうこうというより、あくまでも興味の対象は個人だと。

高田　個人ですね。

——グレイシー柔術という競技に対しての興味は？

高田　関係ない（キッパリ）。要するにパッケージですね。グレイシーが持ってる闘いのスタイル、あと彼に対して引かれたというね。**彼はただのケンカ屋じゃなくて、技術を身にまとって、スピリットを身にまとって相手を倒していく。**そのバックグラウンドがたまたま柔術であったと。グレイシー柔術そのものに引かれたんじゃなくて、彼を支えてるバックグラウンドにある**精神**とか、リング上で**武器**として発散されてるものとか、すべてが自分の中で合致したから興味を抱いたということです。

——最初にもいいましたけど、意外なほど肩の力が抜けてるなという気がするんですよね（笑）。それはキャリアですかね？　バービック戦の前って、もっとピリピリしてたような気がするんですけど。

高田　何でなんでしょうね？　周りの人からもいわれるんですけどね。別にこれは作ってやってるわけじゃないし、かといって、いまから肩に力を入れてガチガチになっていたらそれも疲れちゃうしね（笑）。やっぱり緊張する暇があったら、恐怖を感じる暇があったら、そのパワーを自分の肉体にぶつければいいわけだから。何も2ヶ月も前に**ソワソワする必要もない**わけで。



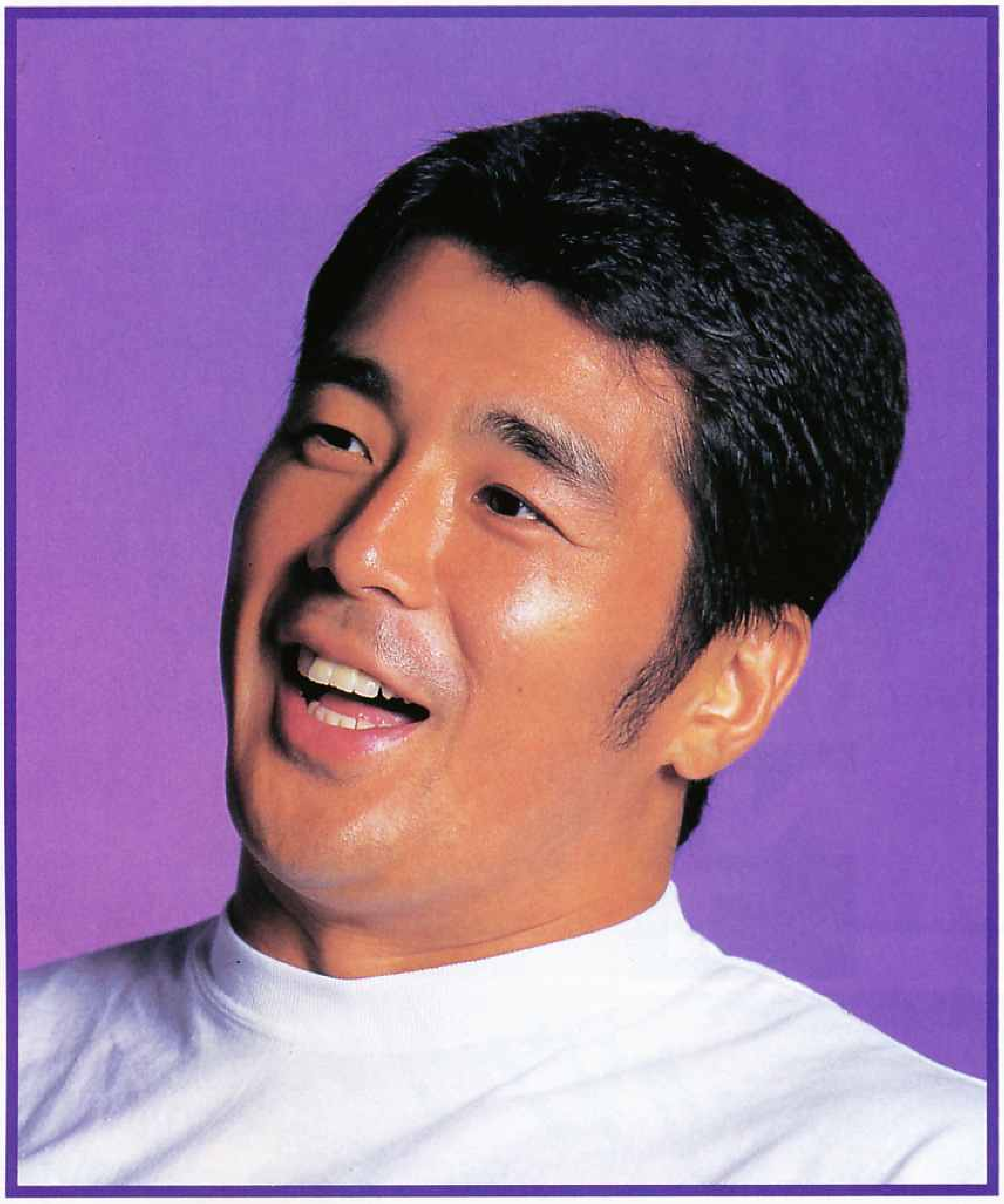
7月22日に記者会見が行われ、遂に両雄が公の場で顔を合わせた。この後の8月15日にも主催するKRSが記者会見を開いたが、それでも業界内には「開催中止」の声も根強い。5〜6月開催、8月開催、開催者側の変動など超難産な世紀の一戦である。しかし、ここまできたら応援せなしゃーないな、と。プロレスの底力を"現実"として見てみたい！

NT 最後の刺客 NOBUHIKO TAKADA

なぜかわからないけど異常に楽しみでしょうがない。樹海に入るのが（微笑）



それは自然に出来てる周期なんじゃないかな。
―異種格闘技戦やUWFで揉まれてきた場数っていうのは今度の闘いでは活きてきそうですか？
高田　うーん、**キャリアだけじゃ試合に勝てないから。**技術と気持ちのぶつかり合いだから。そうなってくると、今度のルールの中でやってきたキャリアであれば随所に活きてくると思うんですけど、そうじゃないから。さっきも山口さんが言ったように、ボクのやってきた技術的なものも染みついてるし。だから一概に「キャリアが10年、20年あるから」というのが当てはまる闘いじゃないという部分はありますよ。**だけど自分は、なぜかわからないですけど異常に楽しみでしょうがなくてね。樹海に入るのが**（微笑）。
―いや、そういうことといわれるとこっちまで異常にドキドキしてきますよ！　ボクは高田さんの懐にある「ドス」を見たい派ですから。
高田　**早く試合の日が来ないか**なという思いなんだよね。それが楽しみでもあるからこそ、**変な緊張感もアセリもないね。**
―Uインターの頃は「今度は試合組まれてるけど、試合なんてやりたくねえな」と思ったことってありました？
高田　**ありましたよ**（爽やか＆キッパリ）。



―「つまんねえな、あんな試合」とか（笑）。
高田　ありましたよ（さらに爽やか＆非常にキッパリ）。それはあるでしょ。
―これ、せっかくだからカットしないでください（笑）。
高田　うん（笑）。
―で、この超個人的な闘いを終えた後に高田さんはどうするんですか？
高田　それは**終わりのゴング**がなるまでわからない！
―例えば、ヒクソン戦が終わった後にはこの選手と闘いたいとか。そういうことは考えないようにしてるのか、考えはあるけども発表できないということなのか。
高田　……いまの段階では、その試合以外のことを考えるべきじゃないと思ってます。考える余裕もない。だから、**いい意味でその試合一色にしなきゃいけない**と思ってますから。それがせっぱ詰まったものじゃなくて、その試合を想像しながら、これから毎日ドンドンいい方向に転がしていくというね。そしてその結果を出さなきゃいけない。いま、ちょうど肝心な時期なんでね。**脳味噌動いてるし、人間の気持ちは常に変化してる**わけだから、そういう欲望とか夢って必ず生まれてくるじゃない。
―実に意味シンですね。
高田　だから、それを実現出来るか出来ないかっていうのは試合にかかってくると思うんで。まあ、何はともあれ、10・11の試合をいい形で結果を出すということじゃないと、それから先の自分の思いも、ただの**ママゴト**にならないように。
―ガキの使いやあらへんで、と。
高田　ダウンタウンじゃないけどね（爽やかに）。
―この一戦に賭けると取っていいわけですね。
高田　**進退問題**とかいわれてるけど、自分は進退問題の結論を出しにリングに行くわけじゃないから！　それは、最後は自分が決めることですし。**ただ、リングに上がる人間は、勝ちにリングに上がるだけ！**　その結果として自分がどういう採決を下すかというのは、試合が終わったら自ずと間違いなく出てくることだから。ただ、そこに焦点が集まっちゃうと、自分は納得がいかないし、相手に対しても失礼だと思うし。
―それはそうですね。ただね、高田延彦はこの一戦を最後に格闘技界から足を洗ってしまうんじゃないか？　もっとズバリ言えば芸能界に行っちゃうんじゃないかという噂も出てるんですよ。出処はわからないですけど。それに関していまの時点でキッパリ否定するなりなんなりということは……。
高田　**それは絶対ないです！**（キッパリ）。この一戦で方向転換をするということは、まずないです！
―この一戦が決して打ち上げ花火ではないと？

プロレスラー！　自分はどんなときでも肩書きはプロレスラーだから!!

高田　打ち上げロケットです!!
――打ち上げロケットですか!!　じゃあ最後に。ヒクソンが「柔術は私にとって情熱そのものだ」っていう、また実にいい言葉を吐いてるんですよ。いま、高田さんにとって「プロレスとは○○である」っていうのはありますか？　突然、こんなこと言われても難しいとは思いますけど。
高田　そうですね……。
――「柔術とは情熱そのものだ」って、普段から柔術のことをずっと考えてないと言えないセリフですよ（笑）。ポッと聞かれてパッと言えるような言葉じゃないなと思って。そこで高田さんにとってプロレスとは何かということを聞いてみたいですね。
高田　そうですね、プロレスとはボクにとって何かということですね？……**プロレスラー！**　いままでいってきたことと矛盾するところはあるかもしれないけど、**自分はどんなときでも、肩書きはプロレスラーですから!!**
――どんなときでも肩書きはプロレスラー！　素敵です！
高田　ボクの肩書きは、どこまでいってもプロレスラーですよ！
――それから最後にもうひとつ。この決戦に向けて、好きなお酒も飲んでないそうですね。
高田　飲んでないです。
――どれぐらい飲んでないんですか？
高田　去年の11月から！　でも、あいだあいだでね。**UWFインター最後の日**とかは、少しいっちゃってるけどネ（笑）。
――でもバカ飲みはしてないと？
高田　バカ飲みしてるけどね（爽やかに）。
――ガハハハハ！　してますか！
高田　その日は**特別な日**だから、しゃーないんですよ（笑）。だから、この試合が終わったら……。
――ゼヒ勝利の美酒といきたいところですね！
高田　ええ。また、赤井さんと約束してますんで（微笑）。是非、ご一緒しましょう！　赤井さん、試合も見に来ますから。
――いや、それだったらボクは試合見に行きません（笑）。赤井さんと高田さんと飲むのはもういいですよ！　でも、とにかくやる以上は頑張ってください！　心の底から応援してますよ。
高田　ありがとうございましたっ！
【97年8月6日、六本木アートセンターにて収録】

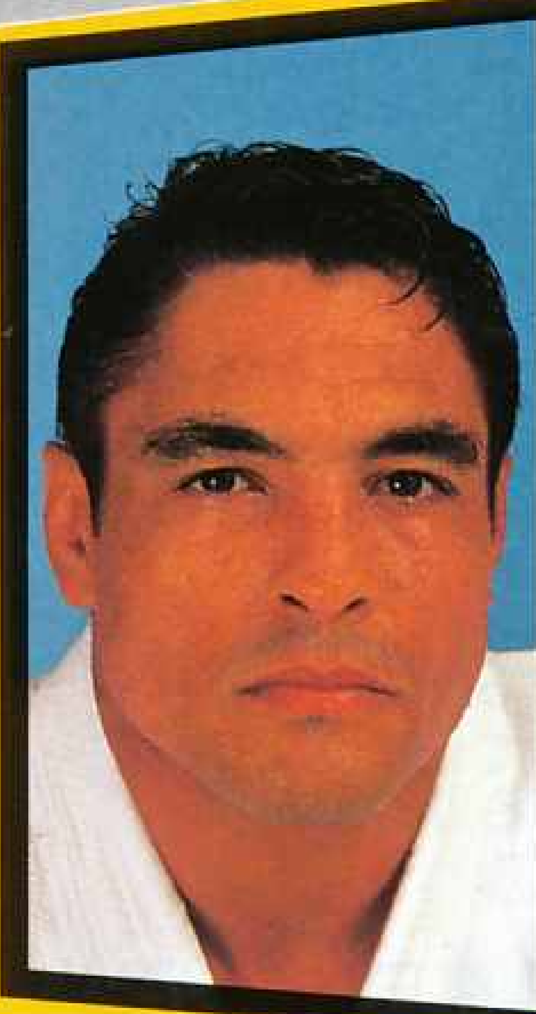
NT
最後の刺客
NOBUHIKO TAKADA



想

大一番を各界有名人33人が好き勝手に大予想！

ズバリ当てまSHOW!



ルコ　人……これはさまざまなジャンルの有名人33人の予想アンケートを
る！　周囲の期待とは裏腹に、試合をする当人たちはいたって寡黙。
企画　『紙のプロレスRADICAL』では、
しま　す！キミにこの熾烈な予想合戦に参加する勇気はあるか!?（順不同）



元気が売り物

アントニオ猪木

（世界格闘技連盟総帥）

Q1 本当に実現するんだったら、興味はある！

Q2 どっちもガンバレ！

Q3 まあ、高田はどうしても、プロレスラーの代表という目で見られるだろうし、ヒクソンは格闘家として私に対して非常に敬意を払ってくれてるというかね。そういう意味でも、どちらも応援したいというのが偽らざる気持ちというか。

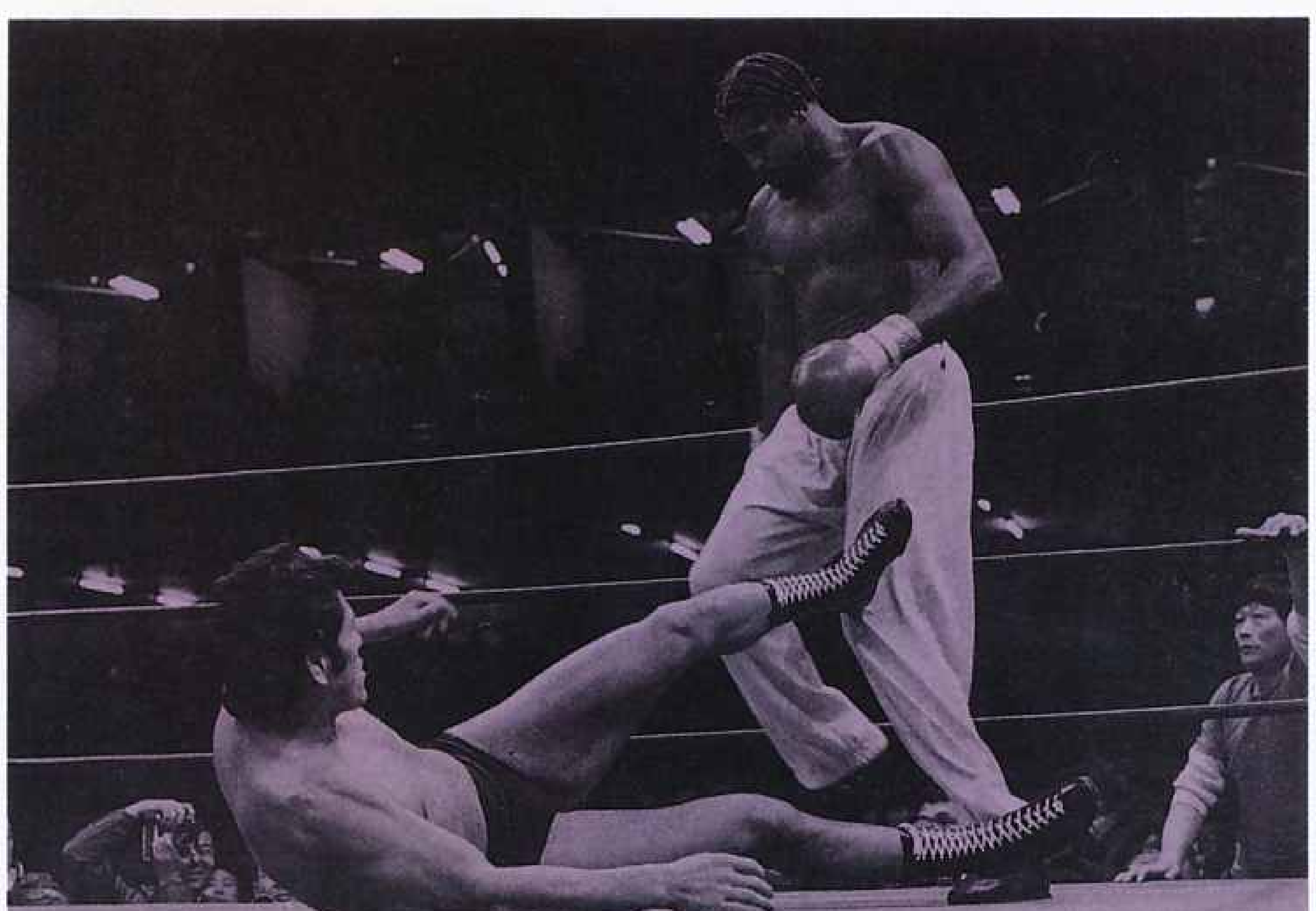
Q4 うーん、こればっかりは始まらないとわかんねえ部分っていうのがあるから。だけど、ズバリいわせてもらうなら、闘う以前の「心」の問題というかね。

Q5 そうであると願いたい。まあでも、敢えていわせてもらうなら、私はいまでもグラウンドでは誰にも負けないというのがあるんでね。

Q6 したいんだったらすればいい。

Q7 その前に（賞金は）ホントに出るの？

Q8 批判するつもりはないんだけど、どっか場当たり的で必然性が感じられないというか。もっというなら夢が感じられない！　いままでも、やるっつってやらなかったりあったわけでしょ？　時代は動いてるわけだし、いまだったら柔道vs柔術の方が面白いというか必然性と夢を感じる部分があるんじゃない？　まあ、でも2人は私と接点がないわけではないから、試合が終わったら、いつか3人で酒でも飲みにいってゆっくり語り合いたいね。こんなところでいいですかーッ！（と脱兎の如く去っていく）〈談〉



Puffyから人間バズーカまで！ 90年代最高の

平成の格闘王

400戦無敗

高田VSヒクソン大予想



プロレスラー、格闘家、アーティスト、芸人、タレント、トルコ
叩き込んだ史上最大！前代未聞！空前絶後！の予想合戦である！
そこで見る側が勝手に盛り上がってしまえ！と始まったこの企画
プロレス専門誌では絶対読めないゴージャスな人選でお届けしま

人・
周
『紙
す



Puffy 吉村由美

Q1 ある
Q2 ヒクソン・グレイシー
Q3 女のかんです
Q4 格闘技を知らない人が見てもオーッと思う技を望みます。
Q5 いいえ
Q6 私としては引退してほしくありません。
Q7 多い
Q8 手に汗にぎるとはこのことです。



Puffy 大貫亜美



Q1 ある
Q2 1・ヒクソン・グレイシー
2・高田延彦
Q3 グレイシーが勝つと思うけど、高田選手が好き。
Q4 わかりません。
Q5 ？
Q6 いやん
Q7 だとう
Q8 ハラハラしながら見ています。

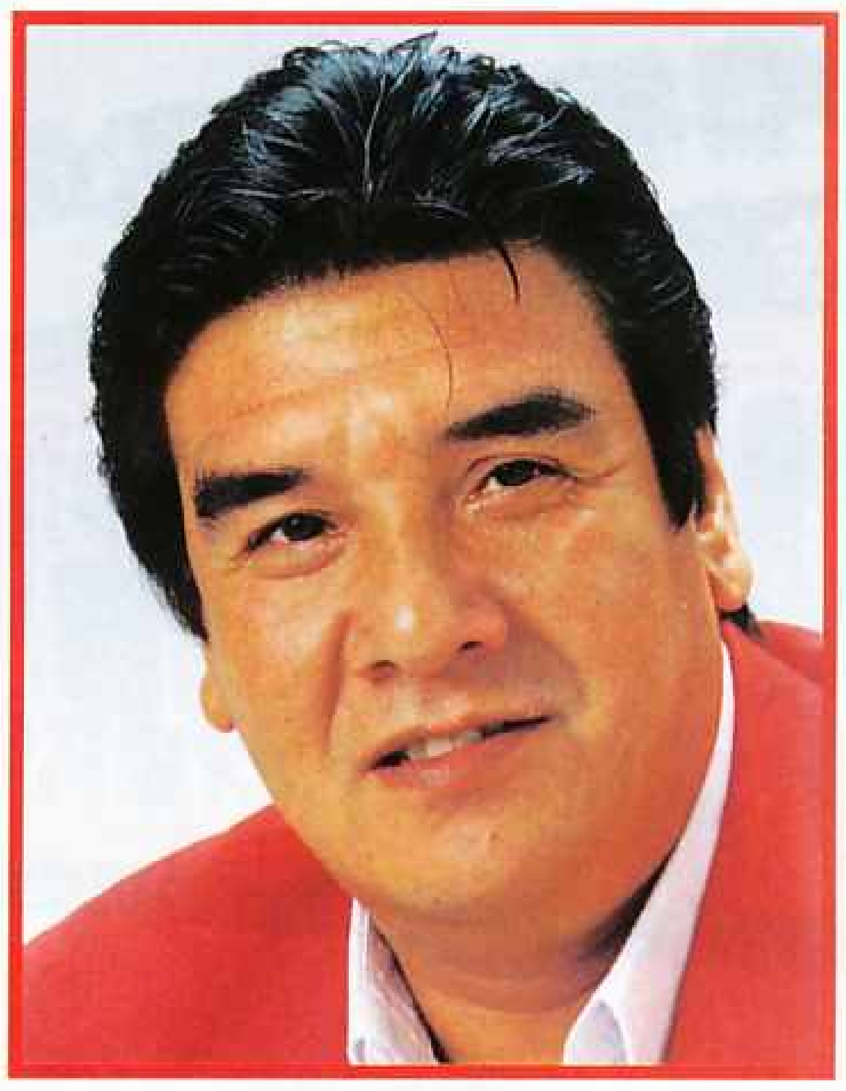
[アンケート内容] ●Q1 プロレス＆格闘技界には大きな意味のあるこの一戦、興味はありますか？ ●Q2 高田選手とヒクソン選手、どちらが勝つと思いますか？ またはどちらを応援しますか？ ●Q3 Q2の選手を選んだ理由はなんですか？ ●Q4 何分で、どんな技で決着がつくと思いますか？ ●Q5 この試合の勝者を史上最強の男と言えるでしょうか？ ●Q6 高田選手は「この一戦に進退を賭ける」という噂もありますが、負けたら引退してしまうと思いますか？ ●Q7 この試合の賞金は2000万円です。これは多いでしょうか？ 少ないでしょうか？ ●Q8 最後にこの両選手へのメッセージ、あるいはこの一戦に対する期待を書いてください。

ご協力ありがとうございました。押忍！

ここ一番の高田の強さに懸けるんだ！

高田延彦が勝つ！

と予想したみなさん



高田延彦のソウルメイト

赤井英和



Q1ムチャムチャある。絶対見に行くで！ Q2高田さん、世界最強だと思います。 Q3ヒクソンはグラウンドは強いけど蹴りはフェイントばっかりでしょ？ 高田さんは蹴りもグランドも強いからね。 Q4高田さんの蹴りのダメージが4、5Rに出てくるはず。そこをローかミドルでKO勝ち。 Q5はい Q6格闘家は常にそういう気持ちでリングに上がるもんやから。ボクもボクサー時代にそうやったから共感します。引退は試合が終わってから考えればええんと違いますか。 Q7少ない！ 猪木vsアリみたいに世界中に試合を配給して注目を集めればええのに。 Q8ボクは高田さんのファンやから。とにかく勝ちにいってほしい。自分の距離、自分の闘い方をすれば勝てると思います。ところでレフェリーは誰なの？ スキンヘッドの人？ あっ、和田良覚さんや（笑）！ あの人やったらええのに。〈談〉



芸能界最強の男

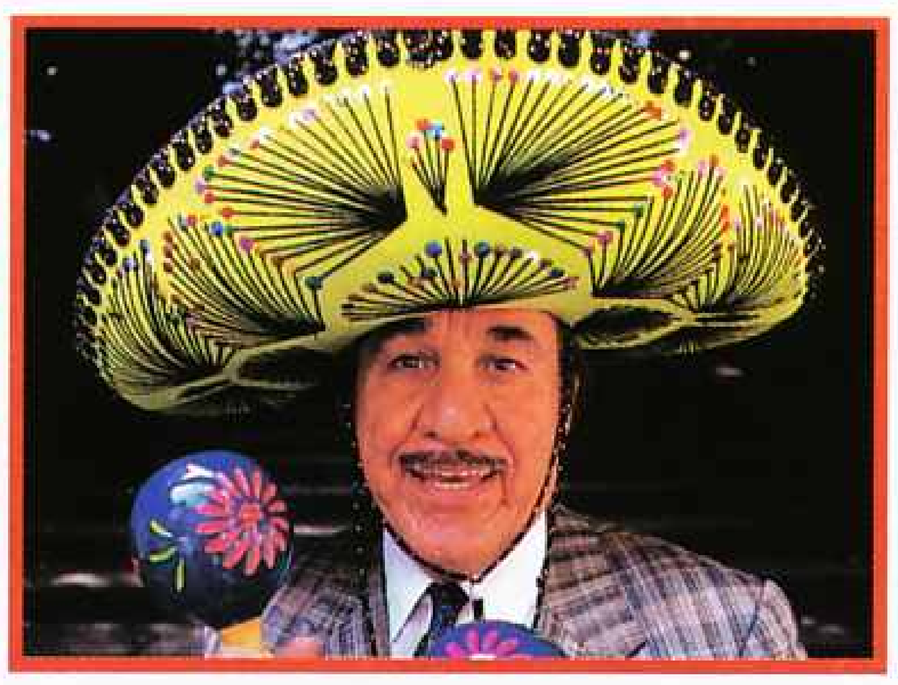
安岡力也

Q1興味しんしんだよ。知り合いの格闘家はみんな興味あるって言ってたよ。 Q2高田延彦 Q3この試合はケンカだよ、ケンカ！ リングサイドに行って応援したいよ。以前、六本木の店で偶然一緒になったときも、礼儀正しかったし、気持ちいいヤツだよ。まあ、オレが応援するということは、勝てるということだな（笑）。 Q41、2Rは様子見て、3Rにグレイシーが仕掛けてくるだろう。でも、挑発には乗っちゃだめだ。4、5Rからは技の応酬になって、7Rあたりで決まるだろう。10Rまでいかないよ。抑え込んで、完全にウエイトを乗せたスリーパーで決まるんじゃねえかな？ Q5まあいいんじゃねえの。世界最強という自信を持って闘ってほしいよな。 Q6オレは別に引退してほしくねえな。やることがまだまだあるでしょ？ そんな覚悟があるんだったら死にもの狂いで試合してほしいよな。 Q7それより、この金をどう使うかに興味があるな。まあ、勝ち取った金は好きに使えばいいんだよ。オレに会ったらビールでもおごってくれ（笑）。 Q8オレは高田を表立って応援するから。陰ながら応援するなんてセコイ真似はしねえから（笑）。高田は気合いの流れを掴んで、スリーパーで落として大和魂を見せつけろ！ 両者とも素晴らしい試合を見せてほしいな。〈談〉

猪木vsウィリー戦のレフェリー

ユセフ・トルコ

（世界格闘技連盟の反則技コーチ）

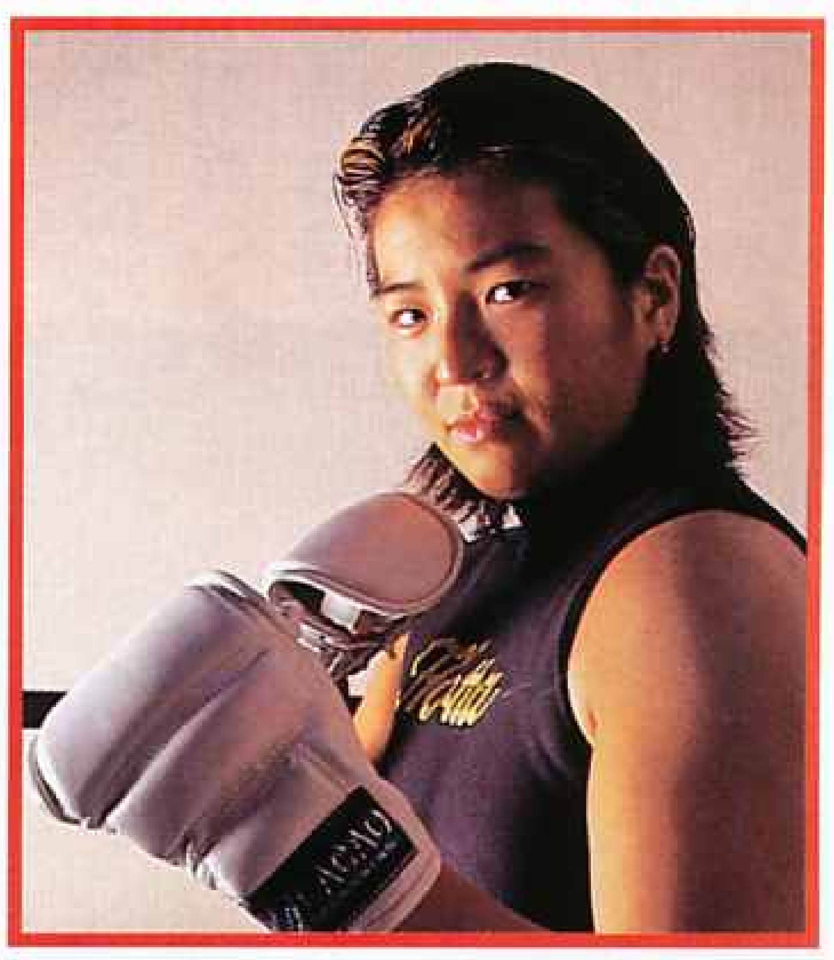


Q1ないと思う。 Q2高田に決まってる。 Q3プロレスラーだから。猪木のところにいた人間だから。 Q44Rぐらいまで高田がもたせてあげる。 Q5ムリだ！ Q6ない！ これからは小川の時代だ！ 負けたら小川の子分になるんだよ。 Q7多い Q8小川もムタとやるっていうから、この間、ビョ〜ンと反則技のコーチをやってやったんだよ。それはともかく、プロレスOBの我々のためにも、日本プロレス界の将来のためにも、頑張ってくれ。勝ったらオレをいいところに連れてってくれよ。高田クンはそういう人間だと思ってます。〈談〉

格闘技軍団U★TOPSリーダー

堀田祐美子

（全日本女子プロレス）



Q1ある Q2高田延彦 Q3何が何でも高田選手に勝ってもらいたい。応援してます。 Q42〜3分でキックorパンチのコンビネーションでKO。 Q5はい Q6負ける事は考えたくない。 Q7多い Q8自分の力を信じてがんばって下さい。

元・大道塾

コンタキンテ

（男同志）

Q1ある Q2高田延彦 Q3高田選手は、あらゆる期待を背負って、いつも期待に応えてきた男だから。 Q410分で、かつて北尾選手をKOした足を使ってのローキックからチョーク。 Q5はい Q6はい Q7少ない Q8正々堂々と死力をつくして戦ってください。

にしきのあきらに相撲で負けた

江頭2:50

（男同志）



Q1ある Q2高田延彦 Q3長期の休養でたいさく万全。 Q410分ハイキック Q5いいえ Q6引退しない。（する必要なし） Q7少ない Q8（見終わった後に）うまい酒が飲みたい。

関節技の鬼
藤原喜明（藤原組）



Q1ある　Q2高田延彦　Q3一緒にトレーニングした仲だから。　Q4 5分、スリーパーホールド。　Q5いいえ　Q6本人が決めること。　Q7少ない　Q8両方共、くいのない試合をして下さい。

伝説の道場王
ドン荒川（フリー）

Q1ある　Q2高田延彦　Q3同じ仲間として　Q4 15分位高田選手のアキレス腱固め。　Q5いいえ　Q6引退しません。　Q7少ない　Q8両選手ともベストの状態で頑張って下さい。



強くなりたい君
大槻ケンヂ（筋肉少女帯）



Q1ある　Q2高田延彦　Q3飲み屋で会ったときにこわいので。　Q4 23分16秒、腕ひしぎを逃れたヒクソンのチョークスリーパーがガッチリ！　高田失神……って、アレ？　Q5いいえ　Q6ダイナマイト・キッドの復帰で私はこりてます。レスラーの引退は絶対信じない。　Q7少ない　Q8かぶりつきのチケット一枚ごっつあんしてーです、KRSさん。（でしたっけ？）

元・WBC世界ライト級チャンピオン
ガッツ石松



Q1ある　Q2高田延彦　Q3プロレス技・キックは最強　Q4関節技で決まる　Q5いいえ　Q6思わない　Q7多い　Q8いい試合を見せて欲しい。

魅惑の煙草シャンソン第一人者
梅垣義明（ワハハ本舗）

Q1ある　Q2高田延彦　Q3最強!!　でも試合してないしな……、体力が心配……。　Q4う～ん、これはむずかしい。まさに未知なる試合になるのでは……。　Q5いいえ　Q6引退したとしても、もう選挙に出馬したりするのかな……。　Q7少ない　Q8"熱い"試合、素晴らしいぶつかり合いを期待したい!!



人間バズーカ
高野拳磁（PWC）



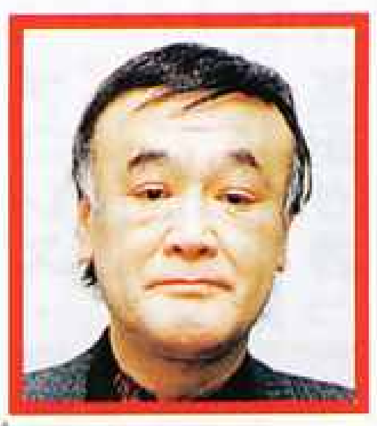
Q1知らなかったよ（笑）。でも試合が流れるかもしれないんだろ？　Q2そりゃ高田さんに勝ってもらわないと。　Q3日本人がトップ対決でやるんだから、勝たなきゃ！　柔術は日本が本家なわけだしさ。　Q4キックで足にダメージがたまったところで10Rにヒール・ホールドが決まるね。　Q5いいんじゃない？　誰も文句言わないよ。でも、5分12Rでヒクソンのギャラが1億円だっけ？　プロレス界じゃあ史上最高の時給だよ！　それだけクオリティが高いってことだよ。　Q6引退は考えなくていいんじゃない？　オレの同期はいま、高田さんだけだからやめたら淋しいよ。周囲もやめさせてくれないだろ。　Q7少ないよ！　でも、ギャラ以外でこんなに出るのは大きいよ。　Q8高田さんって爽やかな人じゃない？　でもオレは知ってるんだ、ホントはワイルドな人だから。ワイルドになってブッ倒してほしいよ。ヒクソンは1億もギャラもらって、ミリオンダラーマンだよな。〈談〉

『プロレス・スターウォーズ』作画家
みのもけんじ



Q1ある　Q2高田延彦　Q3今回のルールではキャリア的にヒクソン有利だけど、船木戦以前のビシッとした高田が見たい。最近、新日本とやってた頃はヒネてたからね。　Q4 1、2Rでヒールホールドで勝つ。希望としてはハイキックでヒクソンをKOしてほしい。　Q5いいえ。　Q6いいえ。新聞、雑誌で「しない」って言ってたね。たった一戦で何が分かるの？　この試合の勝者は船木、そして前田に挑戦してほしいですね。バス・ルッテンとやっても面白いだろうし。　Q7妥当でしょう。　Q8完全決着を望みます。試合中にルールでのトラブルはやめてほしい。何より高田がハイキックでKOするところを見たいね。〈談〉

激辛プロレス評論家
菊池孝（フリーライター）



Q1ある　Q2高田延彦　Q3バーリ・トゥードに向けて約1年間、精神・肉体を改造したこと。　Q4 15分前後、TKO。　Q5いいえ　Q6試合の内容次第でしょう。　Q7妥当　Q8バーリ・トゥード戦は結果がすべてだから、納得の出来る内容で結果を出して欲しい。

『紙のプロレス』本誌でおなじみ
金閣寺ひろし（『紙プロ』公認・覆面会計士）



Q1ある　Q2高田延彦　Q3あれだけ悪口を書かれた『紙プロ』に最近よく出てくれるので心情的に一票。　Q4技術的なことは良くわかりませんので……（申し訳ありません）　Q5いいえ　Q6思わない。最近の政治家、格闘家でこの言葉の後で本当に引退した人はいないから。　Q7少ない　Q8お怪我のないよう、気をつけてください。

［アンケート内容］●Q1　プロレス＆格闘技界には大きな意味のあるこの一戦、興味はありますか？　●Q2　高田選手とヒクソン選手、どちらが勝つと思いますか？　またはどちらを応援しますか？　●Q3　Q2の選手を選んだ理由はなんですか？　●Q4　何分で、どんな技で決着がつくと思いますか？　●Q5　この試合の勝者を史上最強の男と言えるでしょうか？　●Q6　高田選手は「この一戦に進退を賭ける」という噂もありますが、負けたら引退してしまうと思いますか？　●Q7　この試合の賞金は2000万円です　これは多いでしょうか？　少ないでしょうか？　●Q8　最後にこの両選手へのメッセージ、あるいはこの一戦に対する期待を書いてください

ご協力ありがとうございました。押忍！

プロレスはグレイシー柔術に勝てないのか!?

ヒクソン・グレイシーが勝つ!

と予想したみなさん

『闘龍伝』作画家

谷村ひとし



Q1ある　Q2ヒクソン・グレイシー　Q3練習量・経験・ハートが別格。レベルが違いすぎる。Q4 5分以内でチョークスリーパー。（関節を取るより、山本の時のようにトドメを刺す）Q5いいえ（ヒクソンは別格です）Q6引退しない!!　借金返済の1つにすぎない。Q7少ない。生命をかけて戦い、ボクシング以上のステイタスを持たせるためにも最低1億ぐらいは……。Q8最近にはない緊迫した試合になるはず。

『プロレス鬼』作者

コンタロウ



Q1一応はある。Q2ヒクソン・グレイシー　Q3ホイスは見たことあるんだけど強いね。あれの10倍強いんでしょ？　じゃあヒクソンだね。ハングリーさが違うよ。高田は命懸けになれるのかな？　Q4ヒクソンがスリーパーで落とすだろう。高田が勝つならキックだね。Q5それはブルーザー・ブロディーを入れないと何とも言えないね。身長2ｍであんなにタフだからね。Q6引退する必要はない。Q7妥当でしょう。Q8高田は体を絞って、やる気ありそうだから、スリーパーで絞められても簡単にギブアップするな。精神力が勝負を決める。〈談〉



95年バーリ・トゥードでヒクソンに敗れた

中井祐樹（ワールド修斗）



Q1ある　Q2ヒクソン・グレイシーが勝つと思います。Q3レベルが違うと思います。Q4 3分ぐらいでチョークか十字が極まると思います。Q5いいえ　Q6よく分かりません。Q7多い　Q8技術を競い合う、真の意味でのいい試合になって欲しいと思います。

グレイシー柔術を2年間学んだ

エンセン井上（ワールド修斗）



Q1ある　Q2ヒクソン・グレイシー　Q3ヒクソンの寝技は大変上手であるから。また、打撃を受ける確率は低い。Q4 4分以内、チョークスリーパー。Q5いいえ　Q6しません　Q7多い　Q8がんばってください。May the Best Man Win.

実力NO.1漫才コンビ

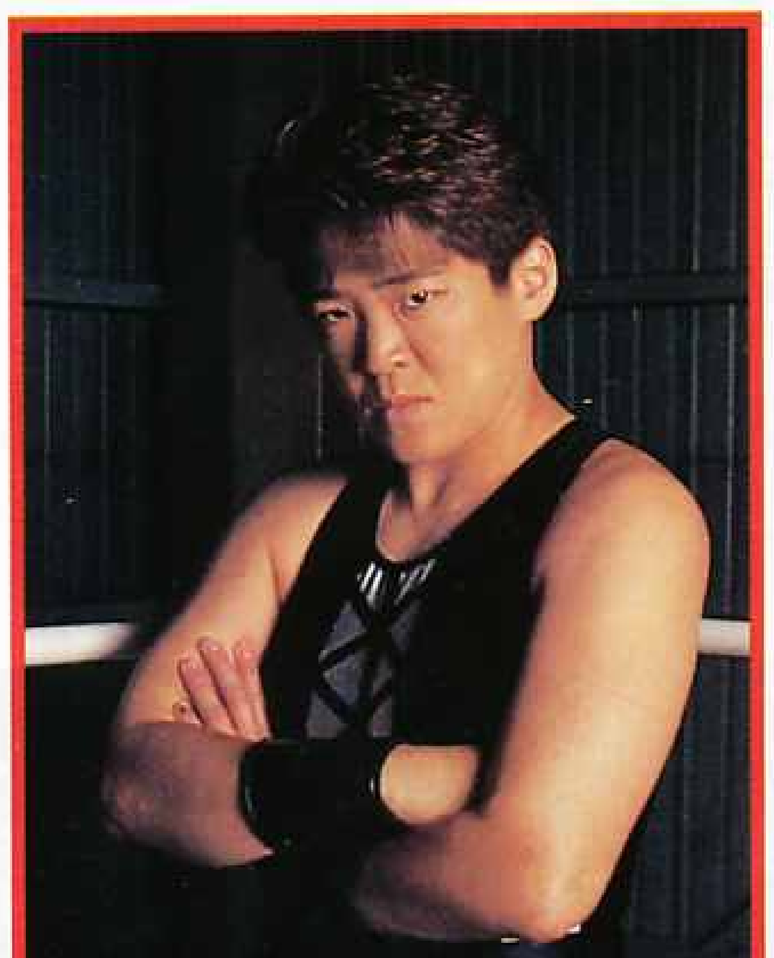
浅草キッド（水道橋博士&玉袋筋太郎）



Q1あるに決まっているが、当日、小朝in武道館のビッグ・マッチがあるので、プロレス・演芸ファンはベト・ドクちゃんの心境。Q2ヒクソンが勝つと思うが高田を応援する。Q3高田が勝ったとき、100倍喜べる。しらけたファンにはなりたくないのだ。Q4 10秒で決着がついても納得できる。Q5いいえ。猪木が探している2ｍ90㎝、350キロの北京原人がいるから。Q6大仁田厚でいいんです。（高田は嫌ってるけど……）Q7少ない。高田が勝ったら、国民栄誉賞と無選挙で永久国会議員、フジテレビアナウンス部所属位の栄誉を与えて欲しい。Q8高田選手への悪口は聞きあきた。素直に祝杯をあげたい。実現させてくれただけでも、ありがたい。生きてて良かった。もし、この期に及んで宙に浮いたら、音頭とって一口10万でプロレス献金でもやりましょう。久々に死ぬ気で応援するゾ。絶対しらけないからな～。

女子初のアルティメット戦経験者

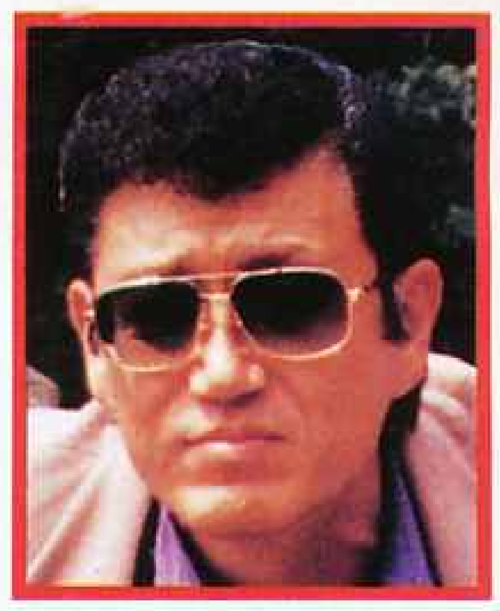
ライオネス飛鳥（フリー）



Q1ある　Q2ヒクソン・グレイシーが勝つと思うけど、高田さんにも頑張って欲しい複雑な気持ち。Q3今までのグレイシー柔術の勝負の歴史を見て。Q4 3R始まってすぐに、スリーパーホールドで。Q5はい　Q6高田さんに限って、男に二言はないと思いますが、引退してほしくない。Q7少ない　Q8両選手とも、自分のプライド以外に背負っているものがあるにも関わらず、この世紀の一戦に挑むことだけでも尊敬に値すると思う。この世紀の一戦を観戦した生き証人全員が納得する試合になることを信じています。

予想不可能！　五分と五分！

どっちが勝つとは断言できないみなさん



武人
真樹日佐夫（真樹道場）
Q1ある　Q2ヒクソン・グレイシー　Q3集中力　Q4 3R4分、三角絞め　Q5いいえ　Q6引退はしないのでは　Q7少ない　Q8どちらが勝つにしろ、歴史に残る名勝負となるように頑張って欲しい。



邪道姫
工藤めぐみ（『SAMURAI！ニュース』キャスター）
Q1ある　Q2ヒクソン・グレイシー　Q3ヒクソンの有利なルールだから。　Q4メチャクチャ短いか、メチャクチャ長いか。　Q5いいえ　Q6それは本人が決めることです。　Q7多い　Q8ヒクソン選手が勝つと予想したけど、高田選手、頑張ってください。



本誌で『リングの汁RADICAL』連載中
花くまゆうさく
Q1ある　Q2ヒクソン・グレイシー　Q3まともに考えれば、やっぱヒクソンでしょ。　Q4まともにやれば1R。ただし、高田がロープにしがみついたら長引くかも。それだけはかんべんしてね。　Q5ヒクソンなら「はい」だが、高田なら「いいえ」。　Q6する。スッキリしてさわやかに芸能界へ。　Q7わからない　Q8公平なレフィリングを求めます。



高田&ヒクソンとお知り合い
タイガーキング（佐山聡）（世界格闘技連盟）
Q1ある　Q2わかりませ〜ん　Q3両者ともすばらしい格闘センスなんで、リング上では何が起こるかわからないと思いま〜す。　Q4わからないで〜す　Q5わからないで〜す　Q6わからないで〜す　Q7少ない　Q8いい試合、玄人受けする試合をやってほしい。恥ずかしい試合はやらないだろうけど、恥ずかしくない試合をやってほしいで〜す。（談）



ポーカーフェイス・ソルジャー
臼田勝美（格闘探偵団バトラーツ）
Q1ある　Q2応援するのは高田さん、勝敗はわかりません。　Q3日本人だからさ！　Q4ゲームじゃないんだから、わかんねぇーよ！　でも、短い時間じゃない？　Q5いいえ。世界は広い！　上には上がいるのでは？　Q6そんなの本人の勝手でしょ？　まわりが言うことじゃないよ。　Q7少ない。でも、別にファイト・マネーも出るし…。オレから見たら大金だけど。　Q8まわりの人は好き勝手に言いたいこと言うけど、大変なのは本人ですから、別に言うことは何もありません。頑張ってください！



先生
夢枕獏
Q1ある　Q2ふたつの問いに、ひとつの答えは出ません。　Q3同上　Q4チョークスリーパーでヒクソン。　Q5いいえ。　Q6しません。　Q7ちょうどよい。　Q8強い者が勝つ試合を。7月28日発売の東スポを見よ。

佐藤ルミナからタップを奪った男
松本キック（松本ハウス）
Q1ある　Q2高田延彦　Q3最近、人生で負けが込んでいるので、ソロソロ……。　Q4 7分53秒、ドラゴンスクリューでヒザ関節破壊。TKO勝ち。　Q5いいえ。　Q6しない。でも、しばらく消息不明になって、チョモランマとかで目撃されてほしい。　Q7少ない　Q8細かい技術の攻防を素直に勉強させてもらいます。

柔道は中野区第3位
ハウス加賀谷（松本ハウス）
Q1ある　Q2ヒクソン・グレイシー　Q3僕が現実を見てしまうお年頃だから。　Q4ずっとヒクソン氏の有利なたいせいで試合がすすみ、がまんができない位いたい技で、1Rで決まると思います。　Q5いいえ　Q6お金がこの世を動かしているので、僕のようなコッパ芸人にはわかりません。　Q7少ない。　Q8このすさんだ世界を生きる若者に、勝者も敗者もシンパシィを感じさせてください。




ボン・ジョヴィ愛唱家
島田裕二（格闘探偵団バトラーツ）
Q1ある　Q2どちらも　Q3どっちでもいい！頑張れ！　決着つかず!!　Q4両者痛み分け。両者ともメンツを背負っているので、猪木vsウィリー戦になる!!（高田選手が場外でヒール・ホールドをかける）　Q5はい　Q6いいえ。頑張れ高田、最強ッ！　Q7少ない　Q8どっちも最強ッ！

［アンケート内容］●Q1　プロレス＆格闘技界には大きな意味のあるこの一戦、興味はありますか？　●Q2　高田選手とヒクソン選手、どちらが勝つと思いますか？　またはどちらを応援しますか？　●Q3　Q2の選手を選んだ理由はなんですか？　●Q4　何分で、どんな技で決着がつくと思いますか？　●Q5　この試合の勝者を史上最強の男と言えるでしょうか？　●Q6　高田選手は「この一戦に進退を賭ける」という噂もありますが、負けたら引退してしまうと思いますか？　●Q7　この試合の賞金は2000万円です。これは多いでしょうか？　少ないでしょうか？　●Q8　最後にこの両選手へのメッセージ、あるいはこの一戦に対する期待を書いてください。

ご協力ありがとうございました。押忍！



俺はいま38歳だけど、来年引退した後はまた“セイシュン”を
楽しもうと思ってる。俺の場合、凄い春という意味の”凄春“やね。
ああ、”凄春“が俺を呼んでいる。
俺と一緒に”凄春“したい人は、この指止ま……らせてやってもええで。

開始前から話題騒然の新連載!

来年から“凄春”を送る

前田日明のメガバトル人生相談「人生は語らず」

第1回

構成／山口昇
撮影／斉藤ユーリ

【まずは日明先生の朝礼から】

まず最初に。相談にのってほしいというから答えてやるんであって、何もキミたちをこれによって幸せにしてやろうとか問題を解決してやろうとか、そういうことは全然思ってないのであしからず！

俺の意見は俺にとって正しい。よって、俺にとって一番正しい意見を聞きたいと言うのであれば、聞かせてやろう。だから恭しく拝聴するように。以上。敬礼！

Q **私は、日明兄さんと同い年の中間管理職です。人生を振り返りつつ考えてみると、充実した人生を生きるためには、あと1サイクル（つまり12年）しか残されていないことに気づき、ガク然としています。このアセリを払拭するにはどーしたらいいでしょうか？**

（東京都・会社員・38歳）

A なんかえらいボケた浮き草みたいなこと言うとるやんけ。

でもアセらなくていいのはね、25年後には日本の全人口の五分の三とか五分の二だとかが60歳以上になっちゃうんだよ。だからこの人も何も心配することはない！

なぜかというと、若い人間が少なくなってくるから、当然年寄りもこき使われて働かせられるでしょ。だから歳とったら、「どういう風にこき使われるのかなぁ」と、いまからときめきながら待つことだね。こき使われるのが嫌だったら、こき使う方に回ってみるのもよしやね。それを励みにしたらええんや。

この人に言いたいのは、まず過去を振り返って、いままでと違った目で見てみることだね。周りを見たら反面教師がウヨウヨいるでしょ。それに自分の興味や好奇心の中に本当の自分がいる。可能性も含めてね（隠してもムダだ。俺にはわかっている。なぜならば、俺は天才だから！）あと、いままで会ってないような人たちとドンドン会う！ 俺が、猪木さんとか長州さんと会ったようにね。

気をつけないといけないのは、こうやって心にぽっかり穴が空いてる状態の時に、悪い人間に付け入られないようにしないといかんね。悪い人間の見分け方？ 例えば、心がピカソの絵みたいにグチャグチャな人はピカソの絵みたいな顔しとる。マット界にもそういう似たケースがあったけどね。この人がこれから標語にしないといかんのは「気を付けよう、心の穴と顔面ピカソ！」やね。



Q **どうしても日明兄さんと結婚したいんです。どうしたらいいですか？ 教えて下さい。**

（博多のOLの鏡・24歳）

A こんなの簡単じゃ！ まず写真と履歴書、スリーサイズ明記の上、事務所まで送るように。あと水着写真も絶対忘れないようにね。その後、審査をして前向きに考えましょう。

Q **前田さんに質問です。最近の真ん中から分ける髪型は、一体何が理由でそうしたんですか？ 引退前には、ぜひまたあのりりしいパンチパーマ頭を復活させて下さい。**

（札幌市・学生・18歳）

A これは元々俺のオリジナルでございます。学生の頃からこういう頭やっててん。でも別に意味はないんだよ。（パンチパーマ復活については？）イヤだ！ すべての決定権は俺にある。自然な姿にその人の真実のオリジナルがある！

ワタクシは誰にも命令はさせません！でしょ？ まあ、藤原紀香に言われたら考えるけどね。

Q **出勤途中、いつも必ず便意に襲われて困っています。途中下車を繰り返しては、あちこちの駅でウンコをしております。すっかりトイレの落書きも暗唱できるようになりました。こんな生活が10年も続いています。さらに昔は、彼女と一緒にバスツアーでスキーに行ったとき、便意が原因でツアーバスを5回も止めてしまいました。こんなボクの便意はどうすれば抑えられるのでしょうか？**

（東京都・あだ名がそば屋・26歳）

A 全然そんな恥ずかしくないわ。猫とか犬はマーキングするやろ。それがこいつの場合ウンコだっちゅーだけや。人間にはそういう原始の本能が残ってるんや。ホンノウちょっとね。

俺だって、緊張するとウンコしたくなるよ。女といても「ちょっとオシッコしてくるわ」って30分くらい帰らんでウンコしてくること、いっぱいあったよ。でもそんな俺を「かわいい」なんてぬかすからね。人間ナチュラルが一番よ。個性的とか言うけど、言葉に騙されちゃいけない。言葉はペテン師だから。いまは悪い言霊が溢れてる。自然の姿こそが一番個性的なんだよ。だから、この人もウンコしたければウンコすればええんや！ それが個性なんだから。

そんでね、もし俺がそんなキミと駅で会ったなら、こう言ってあげましょう。愛情を込めて「この、ウンコたれ！」。

Q **私は女であるのに、女の裸がものすごく好きなんです。男の裸を見ても何にも感じないのに、女の裸を見ると、ものすごくジュンとしちゃいます。私はレズなんでしょうか？（でもレズの経験は一度もありません。けど、興味はあります。好みのタイプは吉田里深ちゃんです。）**

（大阪市・派遣社員・29歳）

A ああ～、吉田里深ちゃん、俺も好きやわ～。彼女、最近の若いコの中で一番べっぴんやんけ。それはいいとして、そいうのはあるよ、女の子はとくに。女子校生って上級生にラブレターとか出したりしてるじゃない。誰でもこういう時期はあるよ。それもやっぱり、一つの本能なんだよね。人間には原始の頃の本能が残ってるんだよ。ホンノウちょっとね。

で、同性の裸にどうのこうのっていうのは、コンプレックスの裏返しかもしれんね。自分の体はちょっとマズイから、いい体見て「ウフッ」となるとかね。野郎だってそういうヤツいるやんけ。ボディービルのビデオとか見て、鏡の前でポージングしてみたり。昔、ジョージ高野という人がそうだったのをワタクシは知っています。バーベル1セットやる度に「どう？ どう？ 筋肉張ってる？ すごい？ すごい？ どう？」ってやってたね。俺はそれを、子守唄代わりに聞かされて育ったから。

ま、この子はレズじゃないと思うけど、どうしてもレズになるんだったら、レズになる前に1回は男も経験しといた方がいいから、1回俺のとこに来なさい。以上！

Q 男の人の指とアレの大きさは比例するんでしょうか？ ついこないだ、ウドン職人の極太の指を見て、つい、あの時を想像してしまいました。よく、鼻が大きい人はアソコも大きいと言いますが、指はどうなんでしょうか？ 教えてください。



来年から“凄春”を送る

前田日明の メガバトル人生相談 「人生は語らず」

(名古屋市・コンパニオン・23歳)

A こんな相談じゃなくて質問やんけ！ 『こども電話相談室』にでも電話して聞いとけ！ 女の子なんやから、このウドン職人をたらしこんで、自分で確かめたらええやんけ！

相手のモノを太いとか細いとか言う前に、自分の締まりをよくしなさい！ ああいう満足感は相対的なものだから、ケツの穴に力を込めてオシッコを途中で止めたり、いろいろ練習しなさい！ このコに必要な標語は「人のフリ見て我が膣しめろ！」やね。

Q 結婚願望が強いんです。そして、出会った女性には運命の赤い糸が見えてしまいます。いままでに20人くらいぶっとい荒縄のような赤い糸を持った女性が見えたのですが、すべて相手に切断されてしまいました。独身仲間の日明兄さんには運命の赤い糸は見えますか？

(横浜市・浜田清照・26歳)

A 赤い糸とか青い糸とか黒い糸とかピンクの糸とか、ドドメ色の糸とか俺にもいろいろ見えます！ でも、26歳にもなって何寝ぼけたこと言ってるんや。何か見えたと思ったらすぐ「赤い糸だ！」って？ それはちょっとアホの子ですよ。だから、この人も見えたら見えたで、見えたものが何なのかっていうのを、よく吟味して対処することだろうね。

ピンクの糸だったら乗っかっちゃえばいいし、ドドメ色の糸だったら足蹴にすればいいし、金色の糸だったら貢いでもらえばええんや！

とにかく、自分に見えてるものとは何か？ それを見る目を養うことだね。そしてその糸の性質を見極めて有効に利用するこっちゃね。これを難しい言葉で資源の有効利用という！ よく勉強するように。

Q 将来プロレスラーになりたいんですが、デスマッチをやるのがイヤです。でもU系のようにバチンバチン殴り合うのもイヤです。僕は覆面レスラーになりたいんです。一体、どこに入門したらいいでしょうか？

(東京都・黄金仮面・17歳)

A 学生プロレス研究会に入りなさい！ それしかない！ それがイヤなら睡眠薬をドンブリ1杯分くらい飲んで、醒めない夢の中で底抜け脱線ゲームでもしていなさい！ バカは死ななきゃ治らない!!

Q 私は理想がメチャ高いです。藤原紀香他、巨乳系のスレンダー系が大好きで、好み的には前田さんと一緒だと思います。だから街を歩いている女の子や学校の女の子たちと会話してても、どーしても外見的に高望みしてしまい、結局嫌われてしまいます。前田さんがいまだに結婚しないのも同じ理由からですか？ 外見的に高望みしないようにするにはどうしたらいい

ですか？

（愛媛県・望む学生・18歳）

A いちいちいちいちしょーもないことで悩む暇があったらセンズリでもかいて寝なさい！ キミはただの欲求不満！ まぁセンズリを千回でもやれば、そんなこと考えないで済むんじゃない。朝夕鍛錬！ 道己ずと極意に通ず！ センズリこいてから、それから悩みなさい。以上！

Q **前田さんは日本刀や飛行機など実に趣味が多いですが、僕は趣味というものが持てません。そういえば、僕は仕事に必要な手帳さえも持てないので、14歳も年下の男に怒られます。僕は趣味も手帳も持てない男なのです。周りからは「好奇心がなさすぎる」と叱られてばかりです。好奇心を持つには一体どうしたらいいのでしょうか？**

（千葉県・中村隆治・34歳）

A 寝ぼけてるんだね、この人。たぶん疲れているから、ひたすら寝て休みなさい。

それで、とにかくいろんなことに関わることだね。いろんなことを疑問に思って、例えば、シマウマは白地に黒か？ 黒地に白か？ そういう素朴な疑問から始めて、相手にムキになって聞きましょう。ムキになることと好奇心は同じ！ まず人と関わることです。それからキミは疲れているから体を大事にしなさい。そして人にバカにされないうちに、また寝なさい。





【先生の総括】
なんか今回は眠い話が多かったね。あくびが出るやんけ。悩むのは悪いことばっかりじゃないけど、みんなもっと大きなことで悩んでほしいね。いまの日本は"コトナ・ウィルス"に感染したヤツが多すぎる！（※コトナ＝子供の無責任な幼さ、残酷さと、大人のズルイ部分を持つ人種のこと。発見者・前田日明）。
一億総子供化！ もしくは一億総キンダーブック化！
み～んな童話の世界にいるような感じやね。
目覚めよ、諸君！
立ち上がれプロレタリアート労働者階級諸君！
（立つだけよ。余計なことはしないでね。責任持てないし、経営者も不景気で大変だから）
打倒日教組！
♪みよ と～かいの～ 空あけて～
敬礼！

——自宅の窓の外より聞こえてくる、右翼の街宣車の音を聞きながら……

目覚めたい諸君！ 相談、待つ！

8月13日、鹿児島では髙阪剛を下し健在ぶりを示した日明兄さん。次回も素敵なダジャレと下ネタを聞かせてくれるのか？
それとも激怒し、ゴンタ顔に豹変するのか？ 編集部もいつもたいへん危険な目にあってる日明兄さんに相談する勇気があるキミ、悩みがあるならまずは相談してみよう。ちなみに回答に寸止めはナシ！ でしょ？

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3—11—3—702
(株)ダブルクロス RADICAL編集部『ホンノウちょっと相談したい』係まで。



聞き手／山口昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

ケーフェイ

佐山聡
（タイガーキング）

タイガーキングが語る世界格闘技連盟よもやま話

RADICALは断固として世界格闘技連盟を応援するゼ!

TIGER KING

【ケーキクエイ】とは
プロレスに復帰する前に、「そんな体じゃダメだ！」と総帥・猪木に一喝された佐山聡。しかし、総帥・猪木は必死に減量に取り組む佐山の前でとてつもなく過酷な要求をしてくるのだった。「ケーキ食えぃ！」

——グァテマラ生まれのエミコさんは元気ですか？（笑）。

キング　え!? ガテマラ・エミコ？

——この前、メチャクチャ古いプロレス雑誌見てたら、「佐山聡婚約発表」って記事見つけちゃって（笑）。

キング　あ、あ、あ、あぶなァい！ あぶないですよ、それは。非常にあぶな〜い（笑）。あれ、婚約じゃないんだもん。あの女が勝手に言ってさぁ。アハハハハァ。

——日系二世のエミコさん（笑）。

キング　う〜。こわいよぉ。

——メキシコの新聞に発表されちゃったらしいじゃないですか（笑）。

キング　こわい、こわい、こわい。

——なんでああいうことになるんですかね（笑）。

キング　あの頃ってもの凄いモテましたもんねえ。メキシコ人は日本人が大好きですから。で、ボクはベビーフェースでしょ。もお〜、ホホホホホ、凄いモテましたよ（笑）。

——でも、まさか日本で報道されるとは思ってなかったでしょ？

キング　ええ、ボクは思ってなかったですねえ。でも、身に覚えのあることがいっぱいあるから（笑）。アハハハァ。あの子だけを責められないですよねぇ。もう、こんなの書かないでよお！ ホント、あぶないから『紙のプロレス』は（笑）。ウソを100倍にして書いてるんだもん。あっ、6倍にして書いてるんだもん。

——なんでいきなり100倍が6倍になるんですか！（笑）。

キング　まいっちゃうよぉ。減量中にケーキを食べたって話見たよ、ひっくり返ったよォ。猪木さんに見られたらどうすんの！ 半分食べただけなのに6個食べたとかさぁ。

——じゃあ、何個食べたんですか？

キング　ちょっと、味見だけ、チラッと。半分だけ。

——半分ってことは3個はしっかり食べたんですね（笑）。

キング　いやいや、そんなぁ（笑）。ウフウフウフ。

——いや、まあ今日はグァテマラ生まれのエミコさんやケーキの話じゃなくてですね。

キング　ああ、よかったぁ（笑）。

——いや、なんか俺ね、佐山さんに謝まんなきゃいけないなって思って。佐山さんはタイガーマスクをやめて、シューティングを始めた。で、今度またプロレスに戻ってきてと、ホントにつじつまが合わない人だってイメージで見られてる部分あるでしょう。俺も正直な話、そう思ってたところあるし。

キング　はぁ、そうですかぁ。

——でもね、佐山さんが実は一番つじつまが合ってるってことが、最近、実感できるようになったんですよ。

キング　あっ、そうですかぁ。本人は何にも考えてないですけどね（笑）。

——ガハハハハ。それを言ったらホメられないじゃないですか（笑）。



次々に新しいトレーニングを開発していった格闘技連盟。一躍有名になった闘魂棒もそのひとつ。トレーニング学的にも、この棒一本で、様々な筋力を鍛えることができることがわかっている

キング　ウフフフフゥ。

――でも、佐山さんは大きな団体を作ろうとか、団体のトップに立ちたいとか、興行やりたいとかっていう世俗的欲求に固執しない人でしょう。その実、総合格闘技の根底部分を50年、100年かかってもいいから作ろうと、あちこちに種をまいているんだなってことがわかってきたんですよ。

キング　ありがとうございますぅ。何にも考えてないですけどぉ（笑）。

――だから、そう言ったらホメられないでしょう（笑）。プロレス界の中には、「なんで佐山が戻ってくるんだ」とか、シューティングの何にも知らない選手の中には「何でプロレスやるんだ」って思ってる人もたくさんいるでしょう。でも、佐山さんは、こんなに世間に誤解を与え続けながらもホントに格闘技に愛着があるんだってことが僕なりにわかってね。

キング　あ、あ、そういうことは、も～関係ないですから～（笑）。どうぞぉ、なんとでも。どうぞ～！　誤解してくださ～い！　よろしくお願いしま～す。

――ガハハハ。そのことは読者への謎かけということでとっときましょう。で、この号が出る頃には終わってますけど、8・10のムタ対小川戦に向けて、栃木での合宿を終えたばかりですよね。

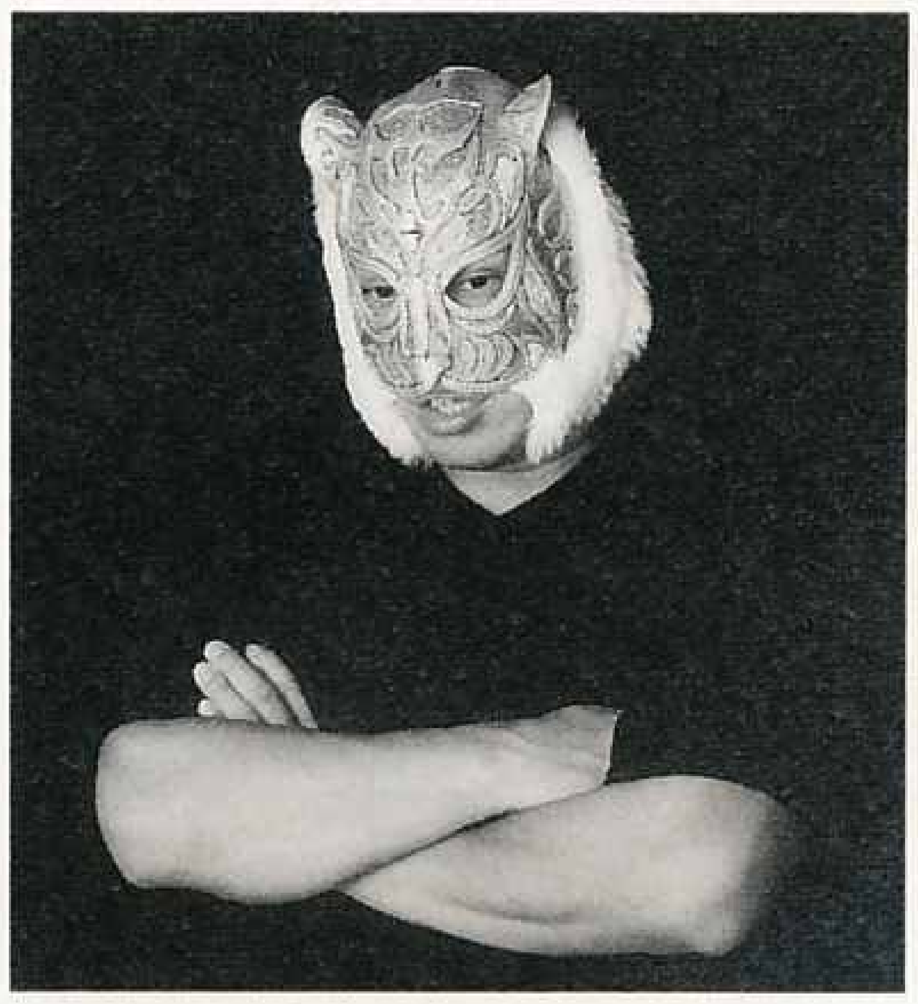
キング　今日東京に帰ってきたんですよ。ちょっと食いすぎてですねぇ（笑）。カモ食ったあとにモチが出てきちゃって（笑）。

――食わせたのは誰ですか？（笑）。

キング　（ユセフ・）トルコさんですからねえ、大先輩だから食わざるを得

ちょっと食いすぎてですねぇ カモのあとにモチが出てきて







なかったですけど（笑）。（※P52参照）

――トルコさんは食わせるらしいですからねえ（笑）。

キング　もう、断れないから後で戻そうと思って食ってたんですけど、モチだからつっかえて戻んないんですよ～。

――ガハハハ。結局食いっ放しと。で、小川選手なんですけど、「プロレスが好きだからプロレスラーにもなりたい」みたいな発言をするじゃないですか。その辺はいつも一緒にいる佐山さんから見てどうなんでしょう。

キング　ああ、それはあのぉー、本人は自分が置かれてる立場っていうのをわかってるんですよ。頭が凄くいいんですよ。

――佐山さんとどっちがいいですか？

キング　いや、あちらの方が数倍いいですよ。頭脳的な明晰度っていうか、スマートさはボクの方が20倍いいですけども（笑）。

――ガハハハハ。じゃあ、小川選手はどう頭がいいんですか？

キング　もうオタクでさ、ナイキの靴を200足ぐらい持ってるんだよ～。ジープも好きだし、なんでも知ってる、いろんなこと。

――新しモノ好き？

キング　好き。もう「ボクはオタクです」って顔に書いてあるような。オーちゃんの場合はオタク的にしゃべりまくりますから。

――え？　オーちゃんって呼んでるんですか!?

キング　いや、適当になんでも。"オトーサン"とか言ってたら「女の子の前では言わないでくれ」って言われちゃってね。アハハハァ。

――"オトーサン"！　それは小川の"オ"だけかかってると（笑）。

キング　ほんとにもう（笑）。

――そういえば、この間のドン・フライvs藤田和之戦（8・2両国）は面白かったですね。（P44参照）

キング　いい試合でしたね。藤田が頑張ったなと思いますよね。技術的にはまだちょっとってのがありますけど。だけどそれは藤田がまだ未完成ですから。未完成であんだけやっちゃうんですから、凄いですよね。

――藤田選手は強いですね。

キング　強いですね。ドン・フライも、もの凄く強いですよ。スタミナもあるし、ドン・フライはアルティメットの選手の中でも総合的にいいですね。ボクシング的にはそうでもないですけど、パンチ力は凄いですよ～。

――やっぱあの試合はG1の三日間の中で異質でしたよねぇ。

キング　たまにはいいですけどね、ああいうプロレスも。

――たまにはっていうよりも、アレをしょっちゅうやってほしいですね。

キング　あ、そうですか。面白いですよねぇ。

――あれがボクが考える新日本プロレスですから。

キング　なるほど。

――こういうこと言うから俺は誤解されるんですよ（笑）。

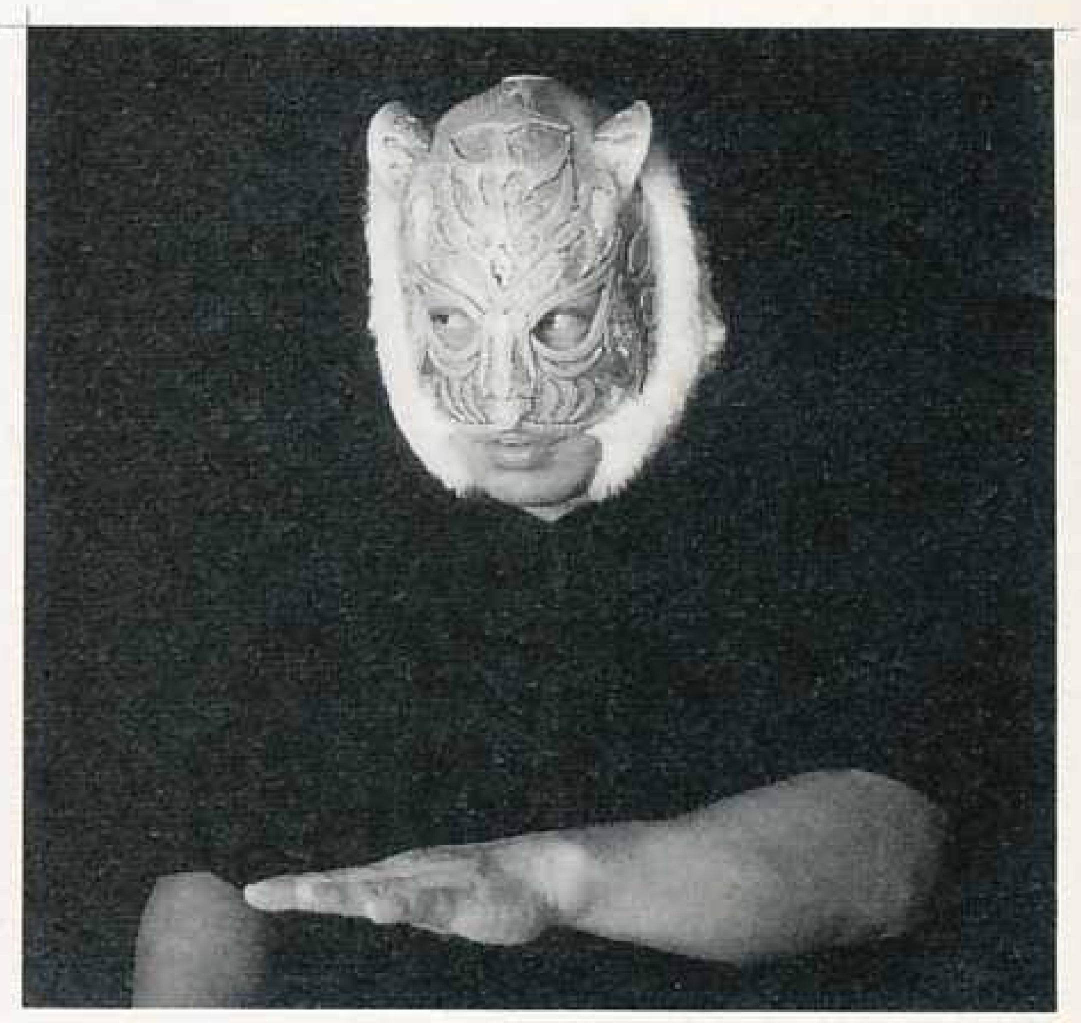
キング　どうぞぉ！　誤解してくださ～い（笑）。

――ガハハハ。あと、面白かったのはフライVS藤田の試合後ですよ。小川選手がリングに乱入して、ドン・フライに向かっていきましたよね。それを止

めましたね、佐山さんが。
キング　あ、はいはい。
――佐山さん、振りまわされて（笑）。
キング　やっぱり興奮してますからね、みんな。オレ途中で振りとばされて、誰かが小川選手を止めてるんですよ。オレ、やることなくなっちゃって、しょうがないから、ドン・フライの方を止めちゃいましたからぁ（笑）。
――ガハハハハ。いやあ、あれは興奮しましたね。
キング　そうですか？
――プロレスって興奮しないと面白くないじゃないですか。猪木イズムが絡んでくると、いまのプロレスとは違う種類の興奮が得られるんですよ。やっぱ興奮を引きずり起こされるような感じがあるんですよね。挙げ句の果てには花道の奥から猪木さんがバァーッと走り出してきてね。
キング　ええ、ええ。
――で、止めてる佐山さんに「佐山ァ、なんで止めるんだ」って（笑）。
キング　あ、怒られちゃいました～。アハハハァ。猪木さん、写真集撮ってるから、写真集のために出てきたって話もありますけど（笑）。
――ガハハハ。まさか。
キング　いや、あれは興奮したんですよ、自分で。あれは猪木さんが勝手に自分で興奮したんです。でも、あれがアントニオ猪木の一つでしょうね。何かを訴えかけるというか。ああいうものを持ち合わせている人間は強いでしょうね。エンターテイメント的にもね。
――エンターテイメントってことを意識してやってるわけじゃないんでしょうけど、なんか場面を切り取って「ここを見ろ！」と伝える術というか。それはやっぱ天才ですよ。
キング　天才ですよ！　ほんといろんな場面を見てますけど、凄いですよ、それは。オーちゃんもそうだけど、凄い頭いいですからね、バカなフリしてますけど。
――猪木さんが？
キング　猪木さんのことを見る時に「バカじゃないか」とか、どうのこうの言うじゃないですか、みんな。
――そんなこと言ってるのは佐山さんだけですよ（笑）。
キング　あ、あ、あ、ズルーイ！　ズルイこの人ぉぉぉ。だけど、猪木さんは凄い緻密でね、凄く頭いい。
――そこが「計算だけしてる」って逆に誤解される部分でもあるかもしれないけど、計算だけじゃないんですよね。
キング　計算してるところもありますけど、でも計算してないんですよ。アントニオ猪木をわかるにはかなり苦労すると思いますよ。
――猪木さんも誤解を与えまくるタイ

TIGER KING

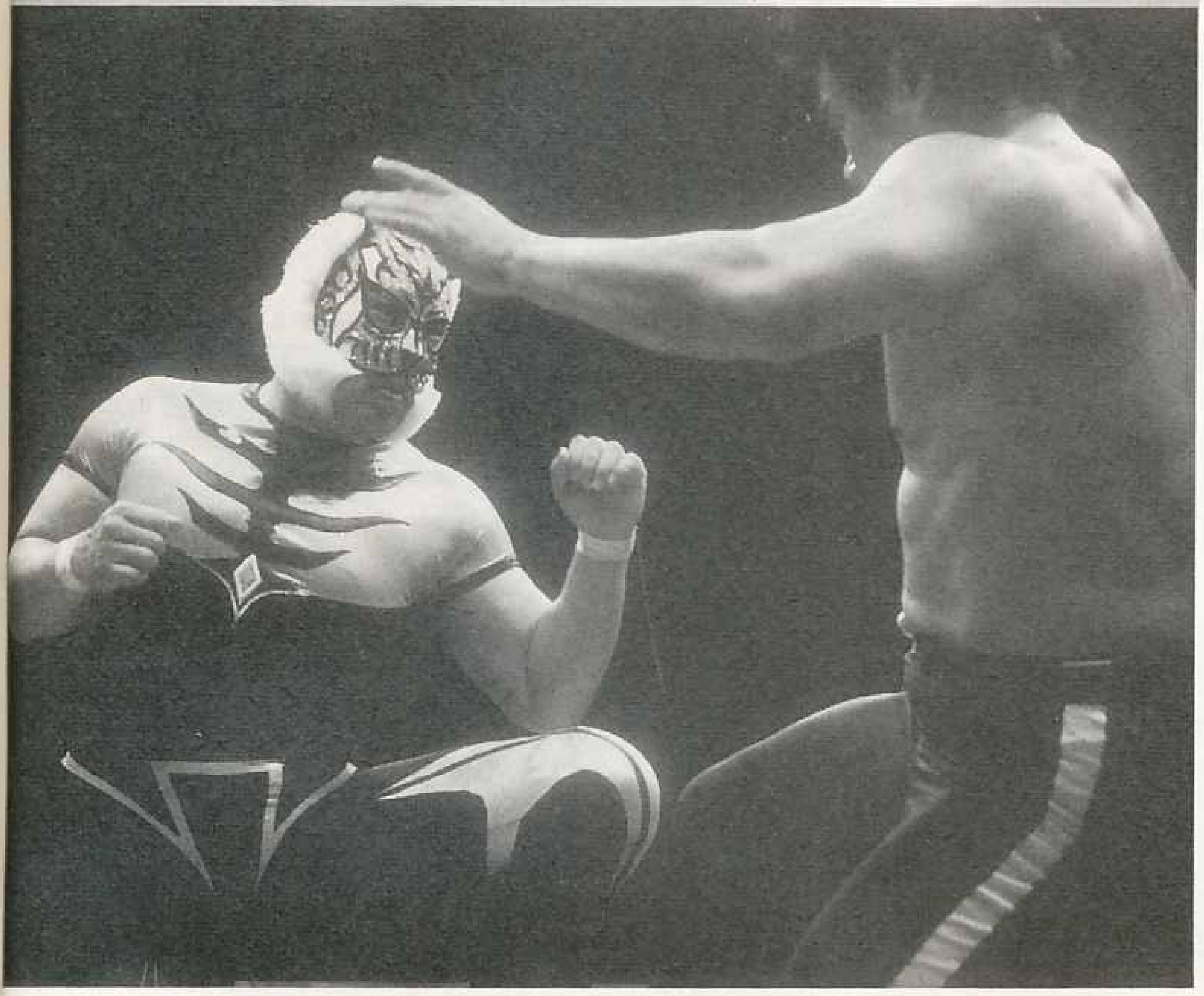






8月5日～7日まで、10日のムタ戦に備えてキャンプに入った佐山＆小川。毒霧殺法に備えてか、セメントがひっくり返ったような雨の中特訓するも、残念ながらムタ戦には破れてしまった





6月13日の武道館では、盟友の小林邦昭とシングルで対戦したキング。カウント2・99の応酬といった「新・新日本プロレス」の闘いはついぞ見られず、あっさりとジャーマンでケリをつけた

プの人ですからねぇ。

キング 凄い誤解されると思いますよ。

——佐山さんもそうだし（笑）。で、小川選手は誤解されるタイプじゃないんですか？

キング いまんところ誤解されてないですからね。強いていえば、ヌボーッとした性格で、ボケーッとした人間だと思われてるみたいですけども、全然違いますよ。クレバー。

——その小川選手よりも佐山さんは20倍ぐらい頭脳が明晰だと。

キング うん。クレバーはどうでもいいけど、カッコイイ（笑）。

——ガハハハハ。何を言ってるんだか（笑）。でも、小川選手は猪木イズムというものをかなり吸収してきてますね。

キング そうそう、オーちゃんはそれを持ち合わせていますから。そういうのを猪木さんから学びとってますから。猪木さんと普段接してることが一番大切なんですよ。お茶飲んだりした時に話してることがオーちゃんの身になってるんですよ。練習の時間に「ああだから、こうだから」っていうのは全然身に付かないんですよね。こうやって話し合ってるのが、一番大切。

——まさに肌で感じてるわけですね。

キング そういうことで〜す。ボクなんかもプロレスやめてて全然忘れてましたから、そんなこと。で、猪木さんに言われて、「あっ、昔はそうだったな」って思って。「やっぱり新日本はこういう形でやってきたんだな」ってのがわかりますよね。

——でも、正直な話、G13連戦の中で、フライvs藤田戦は一番ラディカルな新日本を見せてくれた試合でしたね。

キング いや、他にもいい試合もありましたけどね、いっぱいね。と言っておかないと（笑）。

——他の試合は「新・新日本プロレス」らしい試合ではありましたけどね。そういえば猪木さんの初日の挨拶って見ました？（※P46参照）。小川選手も「小川出てこーいッ」と呼ばれて挨拶してましたけど。

キング あれははずした、オーちゃんが。あれは本人悔やんでましたから。アハハハァ。あ〜面白い（笑）。

——はずしたって？

キング あれね、「(今度のムタ戦は)レフェリーの猪木さんの力は借りない」って言おうとしたのに、「猪木さんの力は借りない」って言っちゃって。アハハハァ。本人悔やんで、悔やんで（笑）。

——ガハハハハ。「レフェリーの」がすっ飛んじゃったわけですね。

キング それでお客さん誤解して、本人もガクッときちゃって。シーンとなっちゃって。一日中悔やんでたんですから（笑）。

——一日中（笑）。で、猪木プロレスは、入場シーンでドーン、試合でもドーン、最後にもドーンとカタルシスがあるんですよね。

キング あ〜、なるほどねぇ。あの、カタルシスってなんですか？

——なんかいろいろ難しい意味はあるんでしょうけど、見ている方が興奮を引きずり起こされるって感じですかね。いまのプロレスは入場シーンだけ。派手な音楽が鳴ってスモークがたかれて、それでカタルシスは終わっちゃうんですよ。あとはファンが期待した通りの興奮があればそれでいいと。

キング ほう。

——初日の挨拶にしても、ドン・フライvs藤田戦後の乱闘にしても、試合ではないんだけど、猪木イズムが絡んでくるとカタルシスがいたるところにあって、それが予測できないんですよ。

キング はぁ。

——いや、佐山さん、「ほう」とか「はぁ」じゃわかりませんよ（笑）。

キング なんでもどうぞぉ（笑）。

——ガハハハハ。インタビューにならないじゃないですか。

キング わかんないもん、そんなこと言われても、全〜然（笑）。

——だって頭脳明晰なんでしょう、佐山さん。

キング もうね、いまのプロレスがどうのこうの言われても全然わかんないですよ、ボク。ホントはわかってるんですけどね。

——ダハハ。

キング なにが悪いかとか、全部わかってるんですけど。でもカッコよく言えないから、もうなんでもいい！ ヒヤハハ。

——ガハハハハ。佐山さんは凄いなあ、ホントに。でも、猪木さんも佐山さんも“命懸けのスーダラ”みたいなところありますよね。

キング スーダラって“スーダラ節”のスーダラ？ アハハァ、面白〜い。それはやっぱね、猪木イズムですよ。最近、猪木さんの話をよく聞いててわかったことは、新日本時代とか、若手時代に自分が教わったことがやっぱり猪

TIGER KING

ボクが若手時代に教わったことが、"猪木イズム"なんですよ

木イズムなんですよ。で、その当時は忠実にバアーッとやって、タイガーマスクもそれで成功したと思う。で、その猪木イズムがどっから来たかっていうと力道山からですけども。そういうのがあって、編集長が言ってることが、昔、猪木さんが全部言ってたこと、興奮だとか、なんとかシスとか、カナルシスだか、なんかそれを全部呼び起こしてるものなんですよね。それは猪木さん自身も凄い自信持ってますよ。

――なんでボクらが興奮するかというと、やっぱりリング上から感じるエネルギーですよね。

キング　それがなんであるかは、もうボクはわかりましたけど。前は、教わってる時は無我夢中でわかんないですよね。ただ「やれ、やれ」って言われるだけで。ただ、いまこうして話を改めて聞いてみると、「ああ、そうか！そういうことを言っていたのか」と、いうのがわかって。それがいま、新日本に反映されてないなってのもわかってますけどね。でもオレ、新日本のこと言えないからなぁ。アハハァ。

――非常にズバリと言ってるじゃないですか（笑）。

キング　アハハハハァ。でもみんないい選手ですよぉ。

――G―1には出れなかったけど、石沢選手はどうでした。ライガー選手とやりましたけど。

キング　ああ、見た見た。あれはわざわざ会場まで見に行きましたよ。あれ、いい、いい。凄くいい。もうちょっと石沢君ね、この間から色々言ってるんだけどね、ちょっとコツがあるんだよね。格闘技的なね、それを覚えてもらえればもっと凄くなるんじゃない。もっとうまくなりますよ、多分。

――なるほどね。ライガーvsカ・シンもG―1の3日間の中では浮いてましたからね。ファンもどうやって入りこんでいいのかわからない部分があるからシーンとしてたけど、石沢、藤田はやっぱりいいですよ。

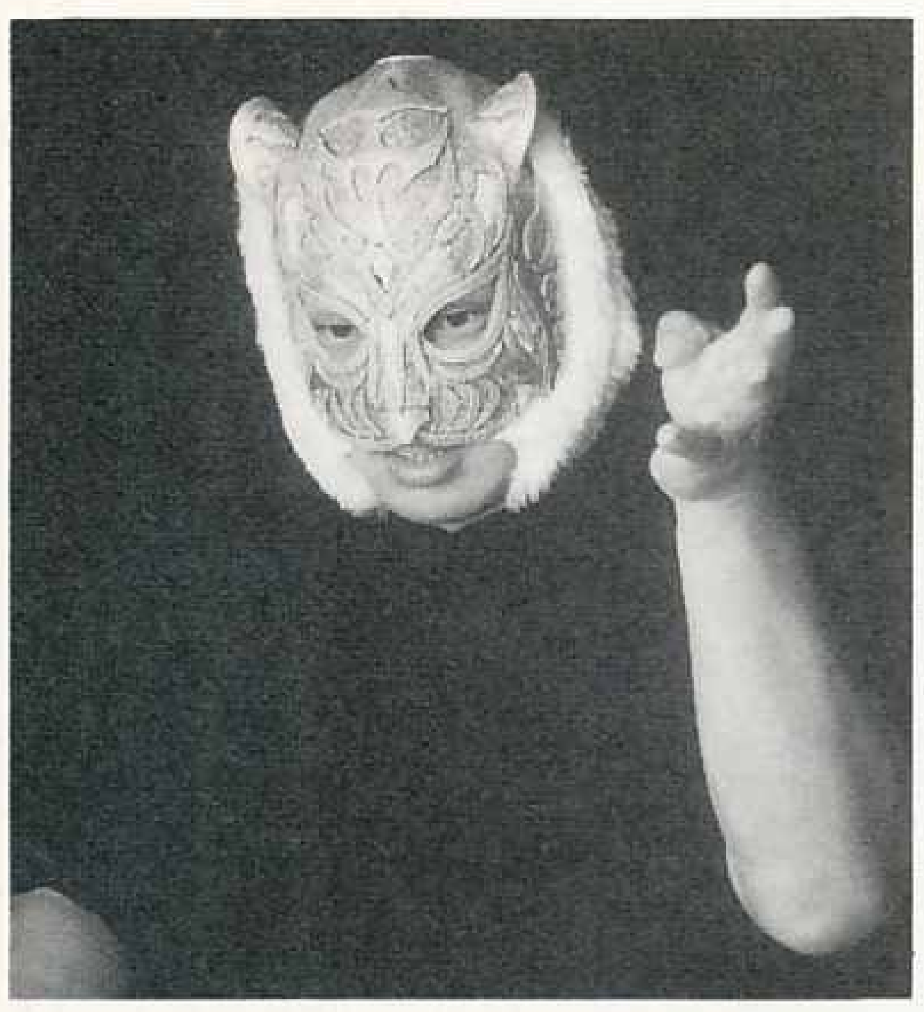
キング　いいですねえ。だから、そういうのがいいなって思うこと自体が猪木イズムなんですよ、もう。猪木イズムを追求してるみたいな。ええ。

――優勝した佐々木健介選手なんかはどうですか。7・6に佐山さんはタッグで当たってますけど。

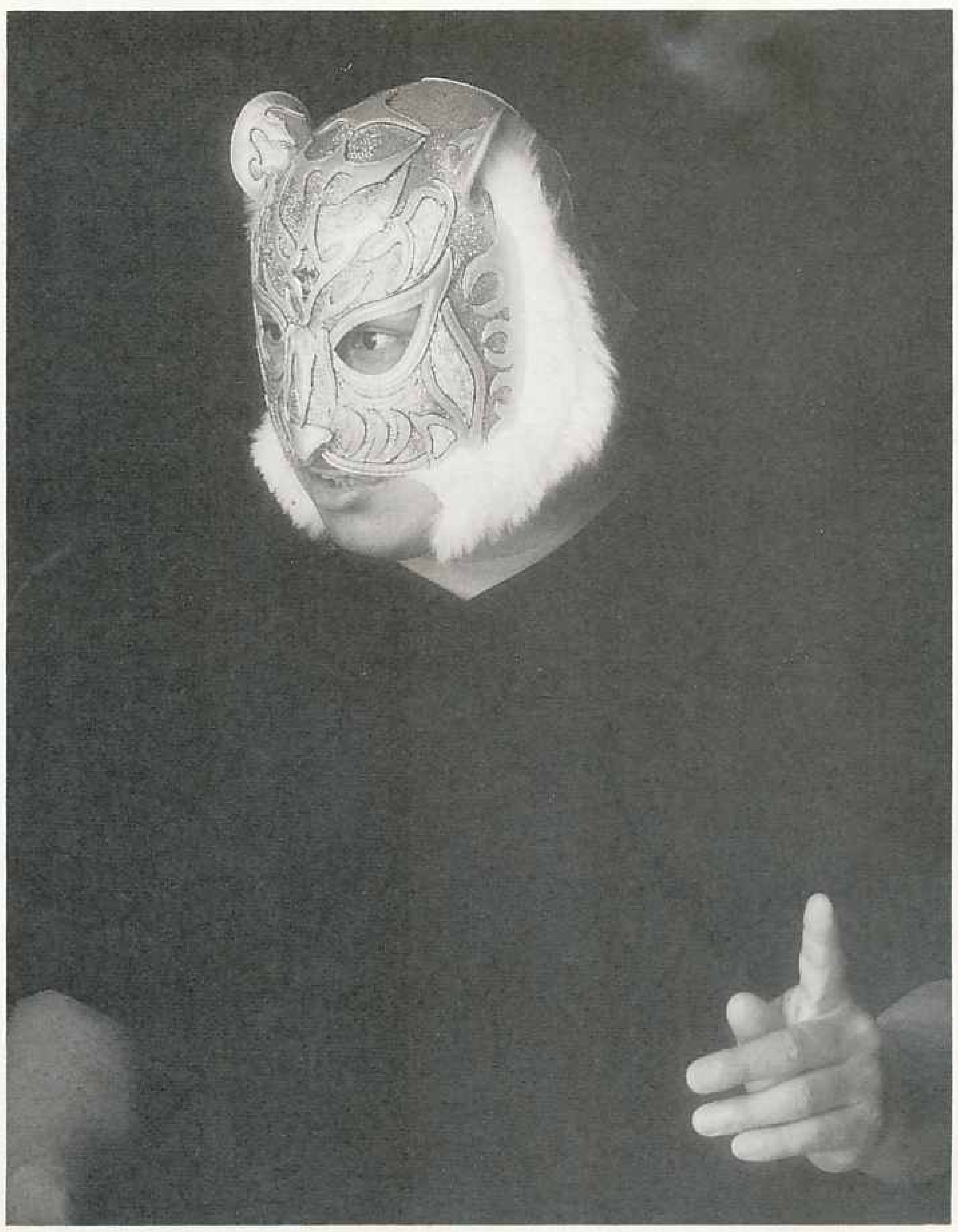
キング　健介君も凄いよ。頑張ってる頑張ってる。うん。素質は持ってる、彼は。悪くはないと思いますよぉ。いいじゃないですか、どんなプロレスがあっても。でも、いまのプロレス見てると、オレはいい時期に育ったなって思いますね。あの頃はみ～んなガチガチにやってましたからね。

――でも、スタイル云々じゃなくて、佐山さんが新人の頃にやってきたプロレスじゃないとね、見てるほうも、引









きずり起こされないですよ、魂を。
キング　そうでしょう。そういうことですよ！“魂を引きずり起こす”。いい言葉じゃないですか。魂を引きずり起こすのが猪木イズムですよ！

——だけどいまのプロレス界の流れはああいう流れになっちゃってる。

キング　でも新日本の選手、これお世辞じゃないけど、いい選手はいっぱいいる。凄いよ。化け物ばっかりだもん。

——例えば誰ですか？

キング　み〜んな。あんまり知らないの、名前なんて。

——名前知らないのに「み〜んな」ときますか（笑）。

キング　あんな体もってでね、スピードもってでね。

——で、小川選手ですけど、合宿中は小川選手とどんな話してるんですか？

キング　コンピューターの話。

——猪木さんがいない時は？

キング　猪木さんいない時は、猪木さんの悪口とかぁ。アハハハァ。

——小川選手も猪木遺伝子でダジャレ好きですか？

キング　ギャグとかダジャレはあまり好きじゃないけど、面白い。冗談わかるという。うん。オリンピックのヌボーッとしたイメージとか全然ない。

——確かにオリンピックの時のイメージはヌボーッとしてましたよね。勝ちきれないというか。

キング　なんかボケーッとして、知らないうちに負けちゃったよね。いまはあのイメージ全然ないですよ〜。本人は猪木イズムを全然継承できてますしね。接してるから。

——今回の合宿は猪木さんがいなかったんだけど、小川選手は何を佐山さんから学んだんでしょう？

キング　それはモチでしょ！（笑）。

——ガハハハハ。モチですか、やっぱり（笑）。

キング　今回はもうなにもないですよ、普段やってる通りのこと。パンチだとか、受けだとか、キックだとか。最近結構蹴りが強くなってきましたね。

——キックはどうなんですか、向き不向きでいうと。

キング　本人、器用なんですよ。130キロでしょ。素質としては一級品ですよ。130キロであんなに動ける人間なんていないですよ。ええ。

——例えばボクシングのナジーム・ハメッドっていう選手って「見切る力」が凄いんですよ。ノーガードでヒョイヒョイと相手のパンチを見切っていくんです。で、それを見てて感じたんだけど、「見切る力」っていうのも猪木イズムの一つじゃないですか？

キング　なんで？

——なんか猪木さんってリング上で瞬時にいろんな部分を見切るじゃないですか。プロ的な部分、格闘技的な部分、相手の持ってるエネルギーの部分とか。

キング　それはね、すべてをわかってるんですよ。コンピューターでもそうでしょ。早いコンピューターっていうのはすべてをバンッて処理できるんだけど、その人に能力なければ、いつまでも考えてて、いつまでもエラー出してるじゃないですか。これと一緒で、リング上のものっていうのは猪木さんが全部そのまま、その場で答えが出ちゃうんですよ。勘ということでも言えるし、それが猪木さんの凄いところ。

TIGER KING

「練習やってるか？」って猪木さんから恐怖のTELが…

7月6日真駒内では、ドン・フライのスパーリング・パートナーもつとめた佐山。この日、オーちゃんは、ヤマちゃんと対戦。受け身の進歩、打撃のディフェンスの進歩の跡をみせた



――だから当然プロレスとボクシング、シューティング、全部違うもんだけど、その「見切る力」っていう部分でいうとね、やっぱり一流の選手ってみんな持ってる気がするんですよね。

キング　一流の選手ほどね、頭がいいですよ。ハードディスクとソフトのプログラムがちゃんとしっかり回ってますよね。

――ということは、小川選手よりも20倍頭脳明晰な佐山さんも超一流だっていう証明がいまなされたと。

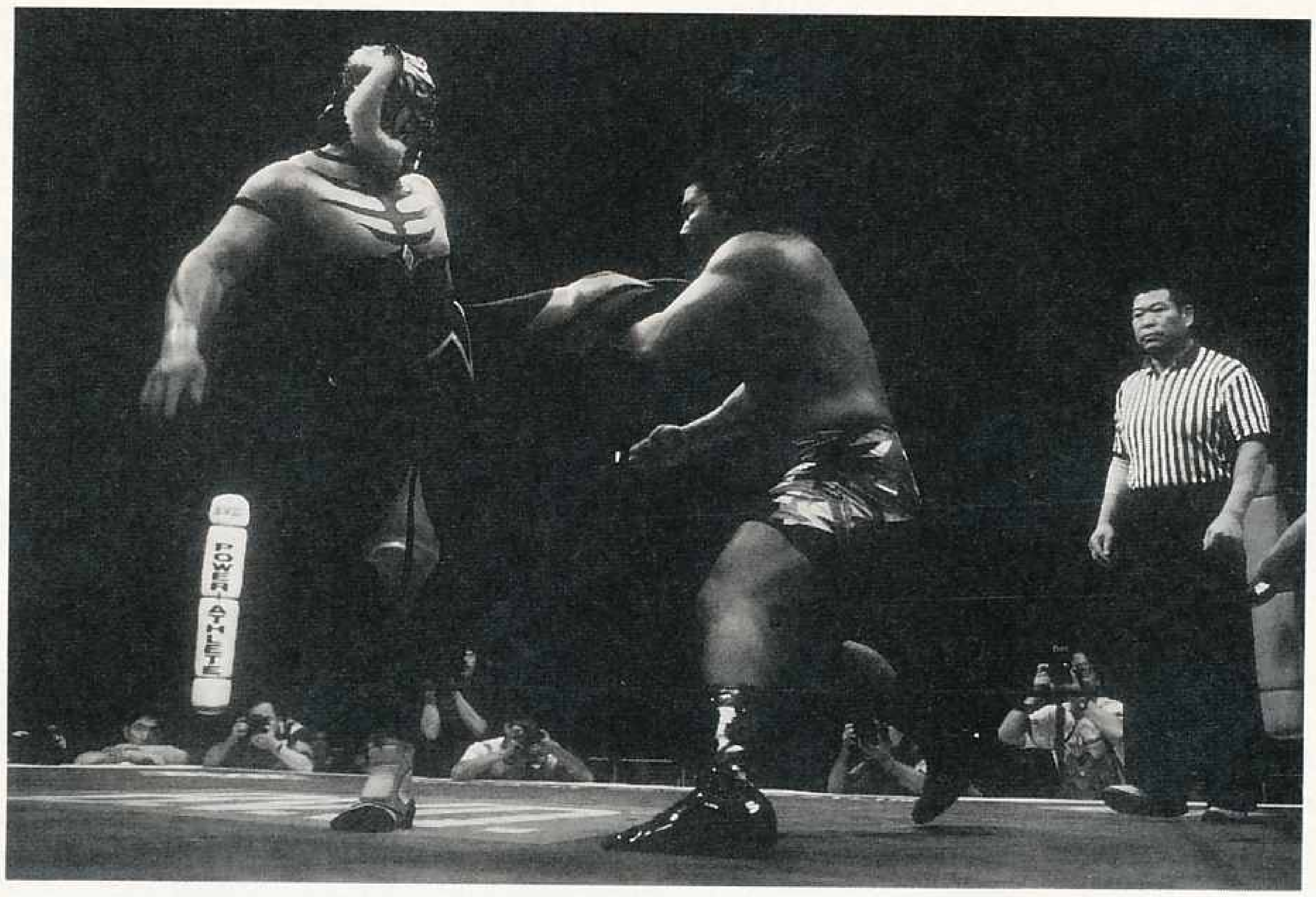
キング　は～い、そうで～す（笑）。

――小川選手は練習してない時は何をやってるんですか？

キング　コンピューター。コンピューターか、ナイキの本読んでるか。ナイキ・フリークですから。あと、全部のフリークだから。あとね、ショッピング。

――ショッピング！

キング　今回の合宿の帰りも、「ちょっといいですか」ってバス大周りさせて、そこまで連れてかれちゃうんだから。それでどっさり買っちゃって。そしたら社長（猪木）から電話があって「練習やってるか？」って（笑）。



7月6日真駒内では、総帥・猪木と組み、健介＆藤田組と対戦したキング。いろんな意味で注目された健介と佐山の絡みだったが、健介にリフトアップされた佐山の気持ちはいかなるものなのだろうか

――ガハハハ。ズバリのタイミング！

キング　「もう順調に行ってます」って電気屋さんの中で。「いまちょっと休憩中ですけど、はい！」って（笑）。

――「順調に絞れてま～す」（笑）。

キング　「今回はいいですよ～」とか言って（笑）。本人は電気製品、必死になって見てたのに（笑）。アハハハァ。

――しかし、格闘技連盟は底が見えませんよねぇ（笑）。もう、何回くらい合宿やりました？

キング　わかんないですねぇ。でも合宿ってのはボクらにとっては凄くいいですよ。ええ。

――棒のトレーニングから始まって新しいトレーニング方法もいくつか開発してきましたけど、いま流行ってる練習ってなんですか？　やっぱり猪木さんがいないと突拍子もない練習方法とかは出てこないもんなんですか？

キング　うん。そうですね。この間ね、ちょうど雨降ってたんですよ、土砂降りの雨。セメントをひっくり返したような凄い雨。

――セメントひっくり返したら固まっちゃいますよ（笑）。

キング　あ、あ、洗面器ね、洗面器。セメントひっくり返したら痛いもんね（笑）。その雨の中でキックミット蹴ってましたよ。

――新聞に載ってましたね。

キング　そうでしょ。絵のためにやってるだけですから（笑）。

――ガハハハ。また、そういうことを言う！（笑）

キング　でもホント結構やってましたよ、バシバシ、バシバシ。「雨の中でもこんなに練習やるのか、こいつら」って思ったでしょ？　凄いんだから！

――だって絵のためなんでしょ（笑）。

キング　あ、あ、ホントは違いま～す。

――7月に行ったパラオでは何をやってたんですか？

キング　パラオは泳いでましたね。サンドバッグは持ってったんですよ。で、朝はできるんですけど、昼間とか暑いでしょ。だから、あとは泳ぎで。ボクは泳げないんですけど。

――運動神経抜群の佐山さんが？

キング　ボクはダメなんですよ。でも、シュノーケルつけたら、泳げたんですよ！　海の下がスッゴイきれいで。でも、足が立たないところには行かないようにしてたんですよ。そしたら猪木さんが「来い」って言うから「イヤだ、イヤだ」って言って。それでも「来い」っていうから「しょうがないあ」って思って。凄い怖かったけど、バーッといったら、じきに2時間ぐらいで泳いでましたね。海の下、スッゴイきれい。

――猪木さんって引きずり込む力が凄いですね。

キング　自分と猪木さんとの関係は、やっぱり自分のボスですから。ボクは昔の付き人でしょ。ああいう関係があると一生逆らえないですよね。

――断れない（笑）。

キング　「来い」って言われたら、「はい」っていう（笑）。オレとトシちゃんもそうなんですよ。

――トシちゃんって誰ですか？

キング　藤原敏男さん！　昔、ボクが十代の頃、キックのチャンピオンだったでしょ。偉大な先輩でしょ。いまだにボスですから。

――それなのにトシちゃんって呼んでるんですか（笑）。なんか、よくわかんねえな、もう（笑）。藤原さんは、小川選手のことなんて言ってます？

キング　体の割には凄いって言ってますね。打撃的な素質はまだ開花してないですけど、でも格闘家だからわかると思いますよ。何が凄いかってことは。なにしろ、130キロの体重で蹴ってきますから。他にはいないでしょ、あの体重で蹴れるの。あっ、北尾がいたか！　でも北尾とは違って鋭いんですよ。それに、ボクシングもできるようになってきましたよ。まだ、試合では出さないですけどね。ボクが「まだ出さないように」って注意してありますからね。トシちゃんのジムでスパーリングとか練習やってますから、見に来るといいですよ。トシちゃんは凄いんですよ。この間、タイで表彰されて。ムエタイの殿堂入りしたんですよ。一人だけですよ、外国人で。で、カオサイ・ギャラクシーとかそういうのと一緒に表彰されてるんですよ。野茂以上ですよ、タイでは。やっぱり、トシち

ゃんの話だったらいくらでも出ますよ。

※この後、藤原敏男氏の武勇伝の話に。その一例。ある朝、藤原氏から佐山に電話があった。「佐山、今日何か新聞に出てない？」「何があったんですか？」「あのさあ、昨日、同窓会があってさ。朝、気が付いたらホテルの前で、俺は上半身裸で三カ所刺された跡があるんだよ」。

——ウソォー!! スゲエ！ 藤原さん、じゃあ刃物を持った相手とやっちゃったんですね。

キング 新宿ですよ。ヤクザですよね、絶対。ウフフフゥ。

——いや、ウフフフゥって（笑）。凄いなやっぱり、佐山さんのまわりは。不思議と猪木さんのそういう話を最近聞かないですよね。

キング 結構平和主義者ですからね。プッツン切れたら怖いですけどね。

——見たことあります？

キング 何回もありますよォ。

——うっわ〜。だけど酒飲んで暴れたとかの話は聞かないじゃないですか。

キング そういうのはしないですよ。違う方向には暴れますけどね。

——面白い！ 面白いですよ、格闘技連盟は!!

キング だって、オレたち冗談ばっかりやってるもん（笑）。面白い関係ですね。普通、ピシッとしなきゃいけないとか、礼儀を守りなさいっていう縦社会作るじゃないですか。そんなの一つもないですよォ。オーちゃんはそんなの嫌いだし、猪木さんはそんなことに無頓着だし。オレは気を遣いますからね、猪木さんに対しては。でも、ボロクソに冗談言えるのはオレぐらいじゃないですかね、いま、猪木さんに言えるのは。

TIGER KING

——こんだけ縦社会になじまない人たちが集まって、みんな自由にやって、それでも一周グルッとまわるとビシッと統制がとれてるというのが、実に"猪木ワールド"ですよね。



4月の小川vs橋本戦の前にはプレイ・ステーションの『闘魂列伝2』で、シミュレーション特訓をした格闘技連盟。何が飛び出すかわからないところに奥の深さが感じられる。こんなところに杓子定規なカタブツ人間が飛び込んだら、はたしてどうなるのだろうか

キング まあ、そうですねえ。でも、なんでもいいで〜す。そんなこと関係ないことですよ、人生で。

——面白ければいい（笑）。

キング 面白ければいいですよ（笑）。

——猪木ワールドの面白いところって、「正しいか正しくないか」っていう、価値基準じゃないですよね。基準は「面白いか面白くないか」だから（笑）。

キング それをいうなら、「心地いいか心地よくないか」。これじゃないですか。

——なるほど。じゃ、話を聞くところによると、小川選手は猪木イズムを継承する素質があるんですね。

キング そうそうそう、カタブツ人間じゃないですから。

——ガハハハ。カタブツはダメ、と。

キング ホント、ホント。

——やっぱ、そういう素質をもった人たちの集まりっていうのは見てるだけでも楽しいですよ。石沢選手なんかもそういう素質あるでしょう。

キング 藤田もカタブツかっていうとカタブツじゃないですからね。人間でいえば、もの凄い面白いですからね。原人みたいなやつですけどね。

——原人（笑）。

キング 今度、原人って書いて、「はらひと」って読ませようかと思ってるんですよ。藤田原人（ふじた・はらひと）って名前にしてやろうって。アハハァ。それはボクの提案。リングネームを原人（はらひと）にして、本人はわかんなくて、リング上でケロちゃんが「藤田げんじ〜ん」って叫んで、そん時に初めてわかるみたいなのをやってやろうって話してたんですけどねぇ（笑）。

——どっからどこまでが本気で、どこまでが冗談なのか。いやホント、底が知れないですよ、格闘技連盟は（笑）。

キング カタブツは去れ。カタブツも凄くいいことだけどさ、カタブツだろうとカタブツじゃなかろうと、所詮実力は一緒なんだもん。ストイックすぎるのもダメだし。心地よくなりゃいいんですよ。それだけみたいですよ、猪木さんが考えていることは。



——で、今日は載せちゃいけないところはどこですか？

キング う〜ん、全部（笑）。よろしくお願いしま〜す。

【8月8日、六本木・RYUスタジオにて収録】

VIVA!
格闘技連盟

紙のプロレス RADICAL

1997 NO.5

活字プロレスを通じて
終生大衆に尽くす!
Puffyに負けずに
渚でエトセトラもします!

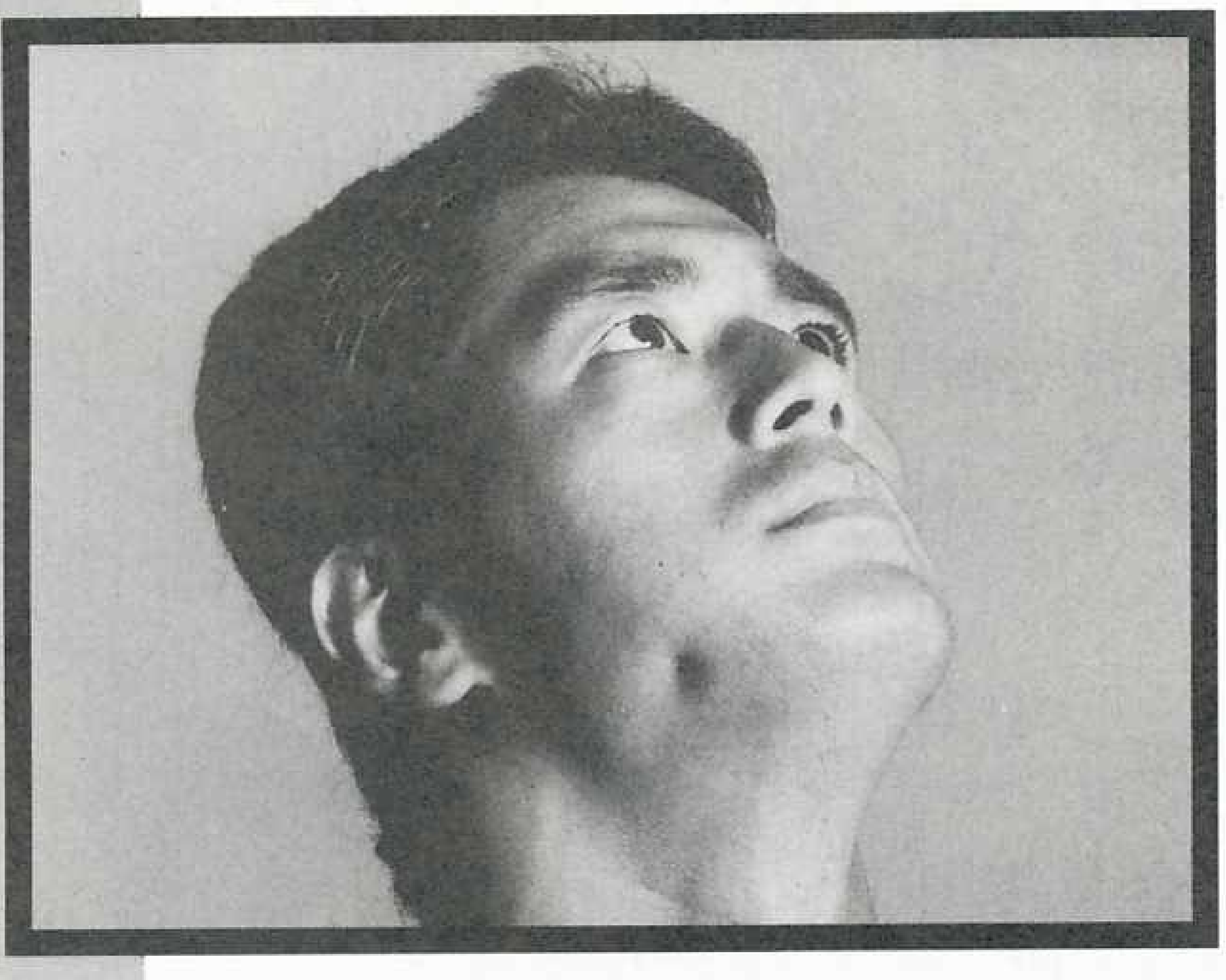
紙のプロレス・ラディカル

CONTENTS

● NO.5 MAIN-EVENT

RADICALは応援するぜ! 97

酒豪、酒も控えて出陣態勢OK!
打倒ヒクソン!「最後の刺客」 1
高田延彦 NOBUHIKO TAKADA



RINGS
待望の新連載! でしょ?
前田日明の人生相談『人生は語らず』 20
AKIRA MAEDA JINSEIWA KATARAZU

SEKAI KAKUTOUGI RENMEI
タイガーキング 24
TIGER KING

RINGS
長井満也 65
MITSUYA NAGAI

PANCRASE
柳澤龍志 73
RYUSHI YANAGISAWA

MICHINOKU PRO-WRES
緊急ミニ特集:みちのく『危機一髪』 121
ディック東郷/愚乱・浪花/ザ・グレート・サスケ

BATTLARTS
ビクター・クルーガー 136
VICTOR KRUGER

GAEA JAPAN
長与千種 57
CHIGUSA NAGAYO

FREE
ライオネス飛鳥 61
LIONESS ASUKA

● SCANDAL&SCOOP

猪木、Puffy他各界著名人33人に聞く!
高田×ヒクソン勝敗予想!「ズバリあてまSHOW」 14

"活字プロレスの悪魔"ターザン山本が性懲りもなくまたまた語る
「高田vsヒクソンとは何か?」 36

大好評! 新日本プロレス25周年記念対談
藤原喜明vsドン荒川 89

RADICAL期待の新弟子(以下)中村カタブツ君(34歳)の道場破りシリーズ第2弾!
ヨネ原人vsカタブツ君・能無(のうなし)革命対決! 132

RADICAL MYSTERY TOUR
ジャンボ鶴田園に行こう 54

パンクラス道場二分割記念!
パンクラス旧合宿所誌上大公開!! 79

● RADICAL FIGHT

パンクラス「9·6決戦直前リポート」"スキャンダル男3人衆"に注目! 82
バトラーツ「ヤングジェネレーションバトル97」盛り上がってるか〜い? リポート 86
ワット·イズ·キングダム? なるか! 『最強』から『挑戦』への華麗なる転身 84
猪木がみせたG1プロレスに乾杯! 44
秋も元気でいるために「猪木の嘆き'97」超再録 46

● SPECIAL NOVELS

格闘プロレス小説第5回『無比人』 98
真樹日佐夫

● COLUMNS

新連載! 椎名基樹&せきしろの『ザ·検証コブラ'97』 116
話題騒然!『プロレスマスコミ観察雑記』/吉田豪 49
コラム·サロン『ふぞろいのリングたち』花くまゆうさく/小坪弘良/西野健一(MANZAI-C) 118
必読連載第4回! 石川雄規の『闘いの美術館』 134
元気! 日佐夫クン人生劇場『書評の星座PART2』 114
紙プロのもののけ姫! のものもの『ガールズはガールズ』 113

● ANOTHER

読者ページ! ウイー·アー『ハガキングダム』 106
着手から丸々1カ月! カタブツ君の読者プレゼント 142

※今回、ターザン山本の超ブーイング連載2本『ザ·ドマイナー·パワー』と『ザッツ·レスラー』は本人(51歳)のとるにたらないようなわがままのため休載いたします。嬉しいですね。

Art Director
出田さん●San Ideta

Design / two-three
村松さん●San Muramatsu
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
古川ふるーる●Furuuru Furukawa

表紙モデル/高田延彦
撮影/斉藤ユーリ
スタイリング/Nobuhiko Takada
ヘア&メイク/Nobuhiko Takada

※えー、「RADICAL」は「根源的」「根本的」という意味でとらえてくれると非常に嬉しい……小川ァ、出てこーいッ!

LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE LOVE

「プロレスに対して愛がない」
どうしてか、本誌に対しての一部のプロレスファン、
及びマスコミの目は冷たい。
「愛がない」
――その愛とは一体何なのか？
恋なのか？　はたまた情なのか？
アントニオ猪木氏が
一晩中語り明かしたという
"LOVE"
やはり、猪木さんのように、
一晩中語り明かしても、
その謎は永久に
解けないのであろう。
本誌は



「プロレスに対して愛がない」
と、一部のファン及びマスコミに言われている。

悲しいかな、
本誌の愛は、
その一部の人間には
伝わらなかったようだ。

愛してもらいたいと
望むのであれば、
まず自分が
愛すことから
始めなくてはいけない。

だから……

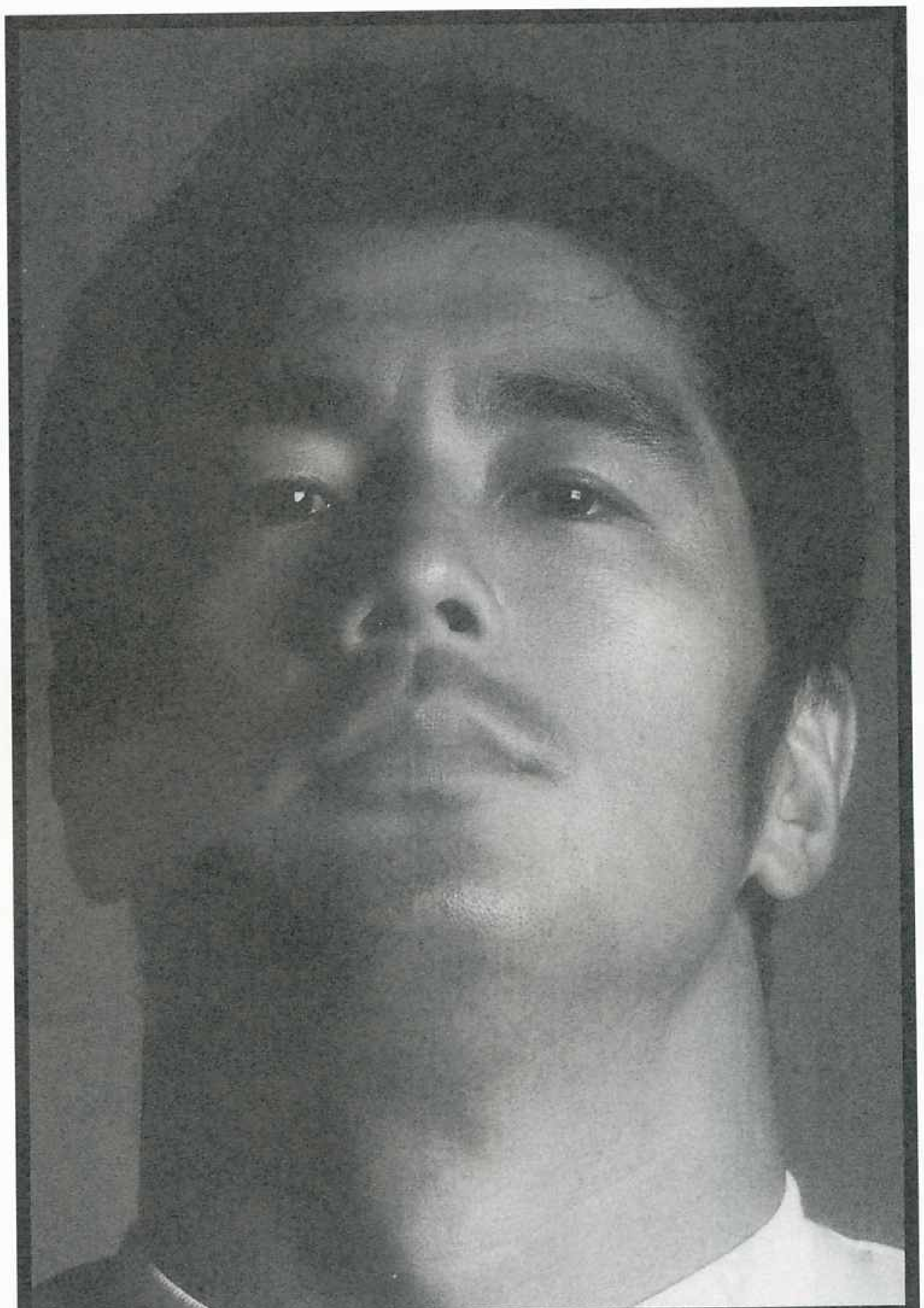
宣言!

今回、
『紙のプロレス RADICAL』は、
すべてのレスラー&団体を（一部を除く）
心の底から応援しちゃいまーす!
たまには素直になってみるのも
いいでしょ?

初めての告白♥BYのものも

の悪魔"が語る

ソンの意味！



待ったなし！　いよいよ正式決定をみた“世紀の一戦”！　プロレスラーからの“最後の刺客”高田延彦が、ヒクソン・グレイシーに挑む意味とは何だ！

語り手／ターザン山本
聞き手／山口昇

山口　極端なこと言っちゃえば、高田×ヒクソンって業界中そっぽ向いてたようなもんでしょ。これだけのビッグマッチなのに。知ってるでしょ？　7月22日の記者会見の時、KRSの連中に、デイリースポーツの宮本さんとか、他の記者たちが詰め寄った話。「お前ら、一体誰なんだよ⁉」って（笑）。これは業界では結構珍しいことですよ。

山本　あり得ないことだねぇ。

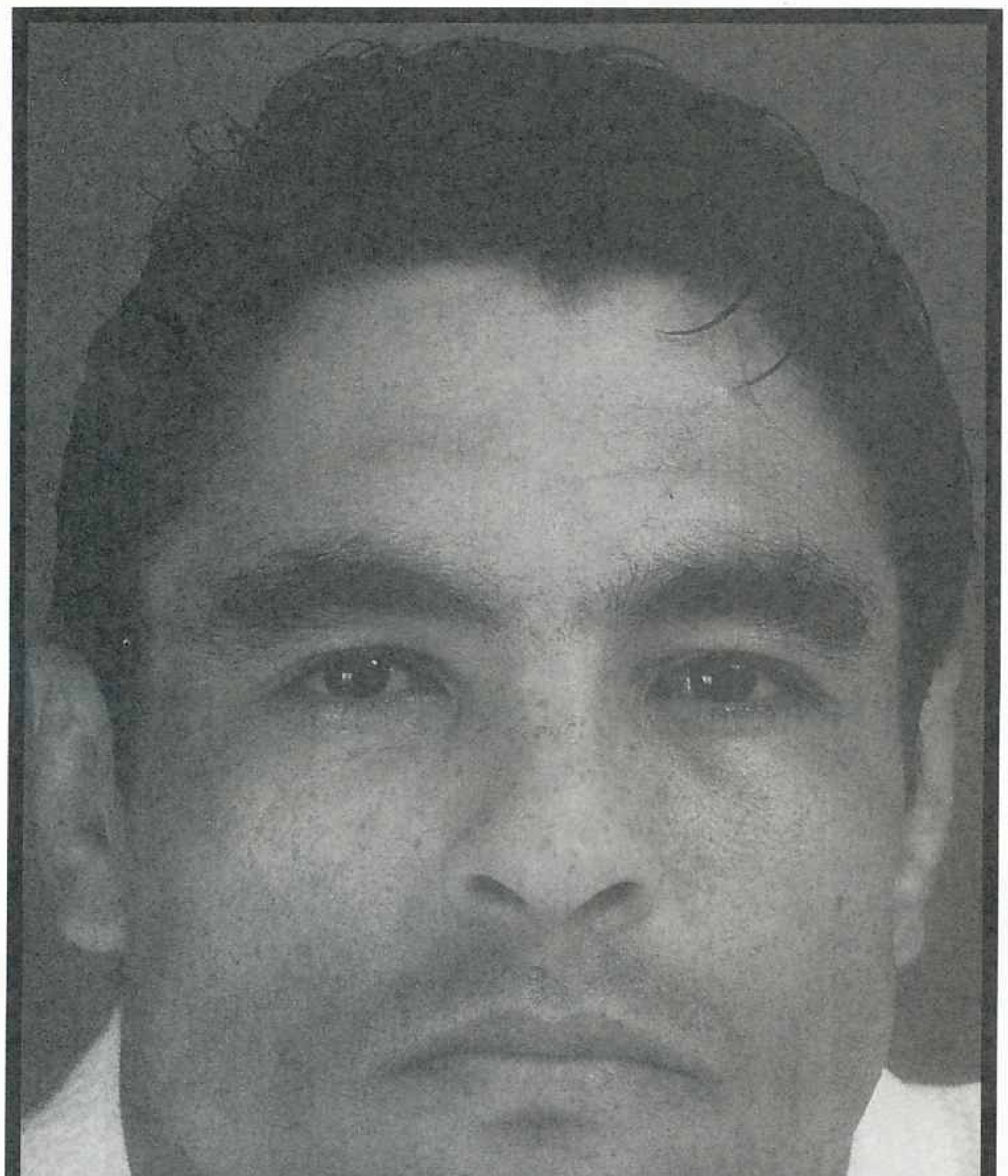
山口　あり得ないことですよ（笑）。で、現段階では、まだ開催までは予断を許さない部分もあるということを踏まえた上で、どうして実現までにこんなにゴタゴタしたのか、業界がソッポを向いちゃったのか。まずハードの部分からそれを考えましょう。

山本　はっきり言うと、高田×ヒクソン戦

発案当初に“ドーム病”にハマった世紀の一戦！！

“活字プロレス

高田vsヒク



のキーワードは1個なんだよ。平成プロレスの一番の特徴なんだけど、これは〝ドーム病〟なんですよ！

山口　ドーム病ときましたか！

山本　つまり、高田×ヒクソン戦の闘いの意味よりも、ドームでやるっていうことが先にきているわけよ。だから初めにドームありきで、その後に高田×ヒクソン戦となるわけ。だから頭の中にあるのは、そのスタッフの人たちも詰め寄ったマスコミの人たちも、ぜ〜んぶドーム病に冒されてるから。で、そのドーム病というものに我々がなぜ冒されているかと言ったら、ドームで興行をやることは凄いこと、スペシャル、特別なことだと思ってるわけよ。

山口　じゃあ、山本さんも4・2（95年）をやったときは巨大なドーム病に冒されてたと（笑）。

山本　そうそう。俺も冒されてた。それ自体がコンプレックスで、もの凄く古くさい。新日本を見てみろっ！　終わりなき日常的ドームをやってるわけよ。いまや日常的な、ごく自然な、もうドームが当たり前というシステムを作ったわけでしょ。もう特別だということを越えた所にきているんだから、新日本は。新日本だけはドームの本質を掴んだわけ。あとの人間は全部ドームは凄いこと、ドームは特別だってことでやってるから、もう新日本に比べたら、遥かもう、千キロくらい後ろを走ってるわけよ。

山口　となるとK—1もドーム病？

山本　K—1の価値観も結局、ドームでやることが凄いって思ってるわけでしょ。で、今年やってるわけじゃない。あれもドーム病なんですよ。田舎者なわけよ。ドームを特別に思ってる奴には「ドーム後」がないわけよ。ドームはプロレス界の中で一番のステイタスの高いものであると、見誤ったというか、思い込んでしまったというか。ということは他の価値観が消えてしまったわけよ。つまりそれは、巨大なドーム病！　インフルエンザが蔓延したり、強いスペイン風邪がドーンと広まったようなもんだね。プロレス界、格闘技界、マスコミ業界にぜ〜んぶ蔓延した。

山口　そういえば、地球の裏側のブラジル出身のヒクソンまでが、「東京ドームに上がることは名誉だ」って言ったんですよね。グレイシー柔術までもがドーム病に冒されてる（笑）。

山本　おい、ブラジル人っていうのは田舎者なんだよ（笑）。

山口　ガハハハハハ。田舎者がドームを目指すわけですか？

山本　昔はバーリ・トゥードの闘いというのは、砂浜で「俺とお前どっちが強い？」って金賭けてやってたわけよ、真剣に。あるいは、骨法の堀辺先生が言ってたようにスイカ1個賭けてやってたんだよ。そういう形で、つまり誰もわからない所、観客がいない所で「俺とお前、ホントはどっちが強いんだ、やってやる、このヤロウ来い！」っていう形でやってたわけよ。

山口　それが〝何でもあり〟の原点なわけだ。

山本　そう、つまりバーリ・トゥードの闘いというかアルティメットの闘いというのは、実に〝極小の世界〟なんだよ。

山口　もともとは。

山本　アルティメットの世界が成功したのは、田舎の倉庫みたいな、或いは高校の体育館みたいな世界でやっているわけよ。見ている人間は2、3千人しかいないの。極めて極小なわけよ。誰も見れな

高田vsヒクソンの意味

いわけ。だから、誰も見れないものを見に行く楽しみがあるわけよ。だから密航する意味があって太平洋を越えて俺たちは密航したわけよ。で、極小なものをボーンと皆さんに公開しましょうっていうのが、PPVですよ。なんぼ、あれ？

山口　アルティメットは2千円か3千円かな。

山本　つまり、極小な世界を家に宅急便するわけですよ！　それがPPVの面白さ！　だから高田×ヒクソン戦も本来は、どっかの田舎のものすごく小さな体育館で、千人くらいしか観客がいないような所でやったら、見た人間は千人くらいしかいないから神話が生まれるでしょ。ぜひその神話に関わりたいって人はたくさんいるから、PPVで15万人くらいに見せれると。そしたら2千円とったとしても3億の金になるわけよ。これが一番いいシステムなわけ。でもそれができないから東京ドームでやるわけ。東京ドームで、極小な世界が見えるはずないじゃないの〜。東京ドームなんて、一種の行楽地みたいなもんなんだから。もう遊園地みたいなもんなんだよ〜、空間が。

山口　レジャーですよね。つまりドームが日常化しているいまだからこそ、極小な闘いに凄みが出ると。

山本　そう！　その極小の闘いを東京ドームと結びつける発想が、もうアンバランスで落差がありすぎて、もうどうしようもないわけよ。そんなんで神話が生まれるわけないんだよ。ホントに福島か宮城県の田舎の誰も行けないような所で高田とヒクソンがやって、それを電車で乗り継いで、やっと行った人間、千人くらいの人間だけ見て、それを衛星放送のPPVで流すと。一番いいんだよ、これが。これが一番ベスト！

山口　それは夢がありますよね。

山本　あるでしょ？

山口　めちゃめちゃありますよ。幻想が膨らみますよ。

山本　うん。福島の田舎でやるって言ったらどうなる？　大変なことになるでしょう。

山口　めちゃくちゃ面白いですよ、それは。いや、福島はどうかな（笑）。

山本　福島に限定すると差別になっちゃうな（笑）。どっかの片田舎の小さな体育館か倉庫。

山口　それは忘れられない思い出になりますね（笑）。どんなことがあっても行きたくなりますよ、それは。

山本　3万円でも5万円出しても行くでしょう。

山口　行く！　はっきり言ってそれは。まあ倉庫はともかく、武道館でいいんですよね、キャパ的にも。

山本　本来、武道館でいいわけです。アルティメットは観客少なかったじゃない。見た人が少ないから神話になったわけでしょ。

山口　つまり、プロレスマスコミも、今回のイベントに反発心を抱いたというのは、「やる、やらない」という途中の経緯もデカイけど、まず先に東京ドームがあって、ビッグ・イベントであると。そういった使い古されたスケール感ばっかりを押しつけようとした部分に反発心を抱いたということですね。

山本　それがダメなんですよ〜！　東京ドームと言った時点で、新しい幻想が生まれなかった。実に陳腐な古い発想だよ。だって高田×ヒクソン戦をね、佐渡島でやるとなったらどうなる？　利尻島でやるとか、奥尻島でやるとか、種子島でやるとか。ね？

山口　そこまでいったら、もう"場の論理"になっちゃうじゃないですか。場の論理っていう名のオシャレですよ、それは（笑）。

山本　ウヒャヒャ。それはダメか（笑）。

山口　とにかくいまは、スケール感を打ち出すには東京ドームっていうのが、まずあるわけですよね。だからその東京ドームを打ち消さない限りは高田×ヒクソン戦の闘いの真の意味が見えてこないわけですよね。



第1回の記者会見では、報道陣が主催者に詰め寄る場面もあったが、8・15の第2回会見は無事終わった

山本　ドームで見たいというのは、ドームに遊びに行く、行楽に行くという感じでしょ。だから高田×ヒクソン戦の、世紀の一戦とか世紀の対決とかというのと、お客さんがドームに求めているものと、あまりに落差がありすぎるじゃない。新日本はもうドームを日常化しちゃったでしょ。でも他の人にとっては非日常的なわけ。そこが古いと言うんだよ！

山口　じゃあ興行のフォーマット自体が古いわけですね。

山本　でも、どんな仕掛けをやってるかは、まだわからないよ。ものすごい面白い仕掛けをやってるかもわかんない。

山口　もしかしたら俺らの想像を超えることをやってくれるかもしれない。

山本　でもね、求めているものは闘いの原点、中身なので、僕らが考えるものとは、またイレギュラー起こすかもわからんけどね。

山口　で、ここが問題なんだけど、結局、いまのところ、このイベントは興行に対しての興味しかいってないじゃないですか。闘いの本質、原点の部分が見えにくかったから、いままで盛り上がりにくかったわけですよね。

山本　重要なのは、高田とかヒクソンがお金とかは関係ないと！　とにかく闘えればいいんだと。マスコミだけでいい、人がいなくてもいいんだ、それでもやるんだ！　というものすごい純粋な動機を全面に押し出したら燃えてたんだよ。ところが他の動機がいろいろ出てるわけじゃない。そうするとプロレスファンはシラけちゃうんだよ。純粋な動機が見えてこないんだよ。

山口　今回の闘いは、お金と場所とスケール感と、そういったものがすべて揃ってますよ、という形でビッグイベントを演出しているわけじゃないですか。だか

ら、KRSの人は純粋に高田×ヒクソン戦を大成功させようと思ってやっても、プロレス村の住人がジェラシーを抱いてるというのも大きいでしょう。いろんな妨害があるとかさ。

山本 うん。だからそのうるさい外野に捕らわれないで、もう突っ走るしかないんですよォ！

山口 最初から「あれは失敗するよ」って言われてスタートしてるから。そういう意味でも10・11っていうのは、興味あるんですよ。最初からいらぬハンディを背負ってますからね。でも、正式発表された以上、日にちは残り少ないけど、自然に盛り上がりますよ。見たいんだから、誰もが。でもね、山本さん、この時代に高田×ヒクソン戦が実現するっていうのは、一体どういうことなんですかね？

山本 はっきり言って、これは〝遅すぎた恋〟なんだよ。

山口 は？ 何でそこで恋が出てくるんですか？（笑）

山本 あるじゃない？ 結婚しないで長い間付き合ってるのがさ。

山口 それ、〝長すぎた春〟だよ（笑）。

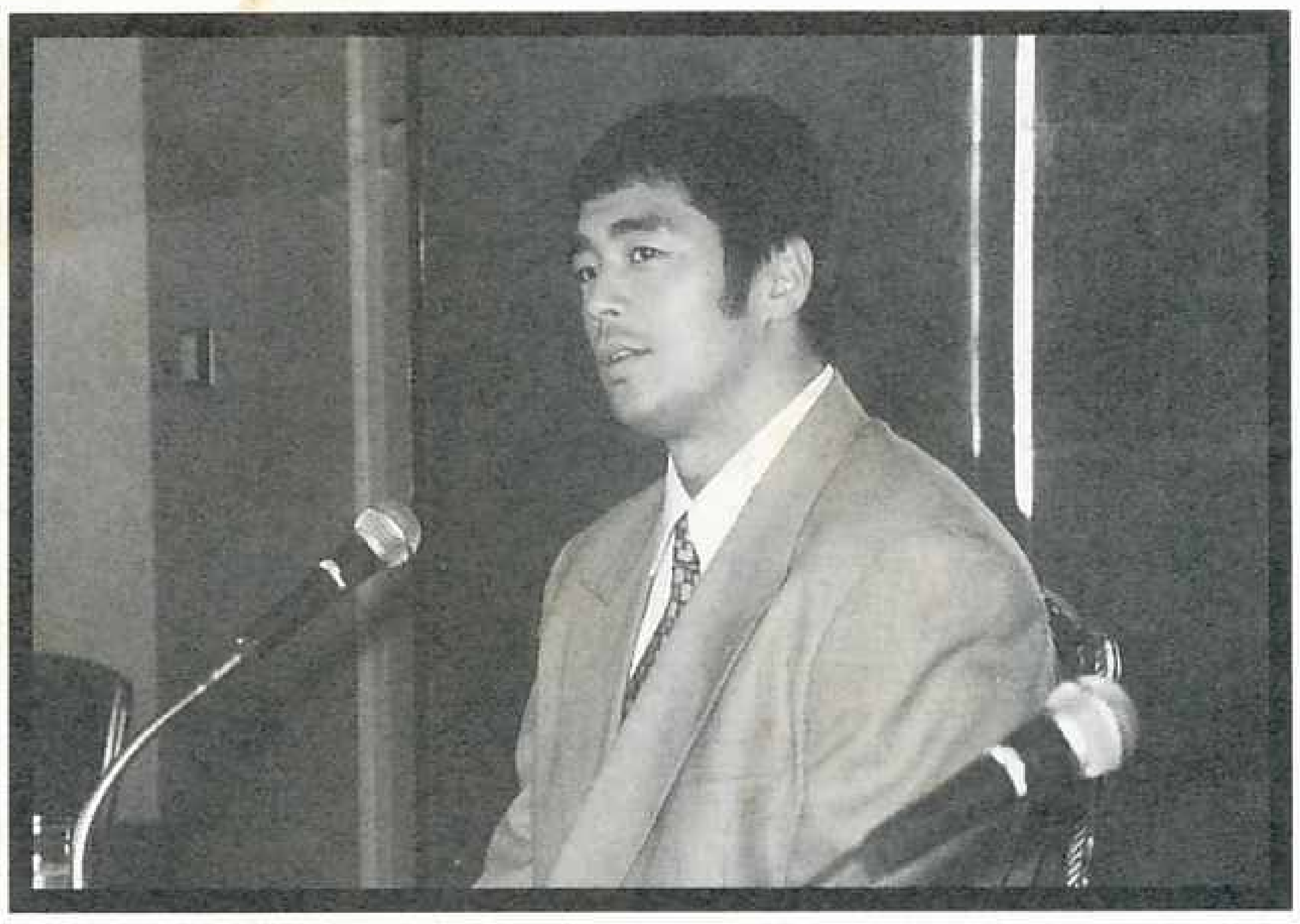
山本 そう〝長すぎた春〟だあ！ いや、〝長すぎた秋〟ですよ〜、これ。

山口 〝長すぎた秋〟！（笑）。でも、その〝長すぎた秋〟に終止符を打つわけじゃないですか。それはどういう意味を持ってるんですかね？

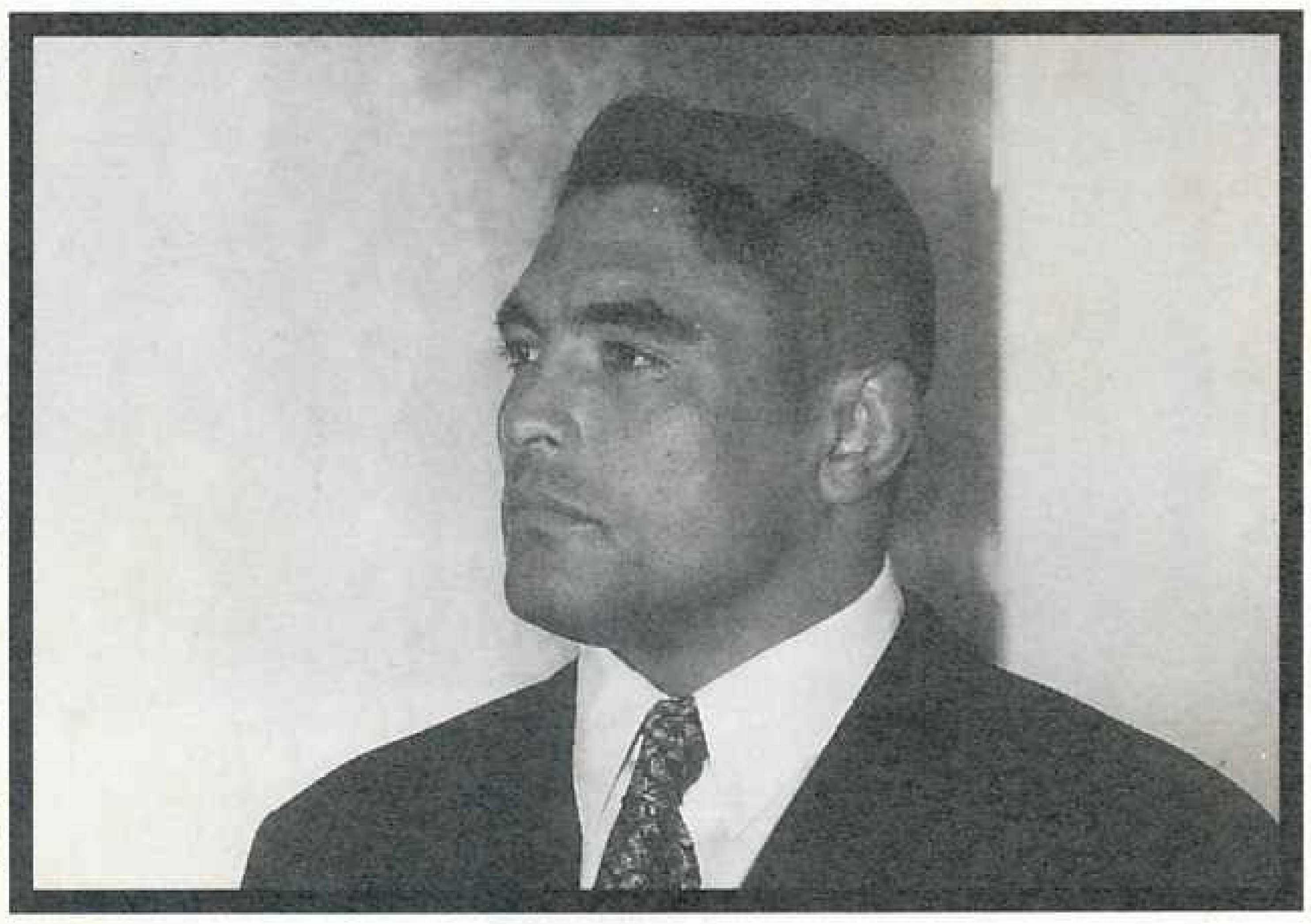
山本 それは不思議だよな。心理がわからないわけ。ヒクソンの心理も高田の心理も。それなのに、それを動かした周りの人たちが高田×ヒクソン戦に過剰な思い入れをしたということ。その過剰な思い入れをしているってとこに面白さがあるわけ。

山口 10・11の場合は、その「過大評価」のポイントというか、「誰が高田を」「誰がヒクソンを」「誰が高田×ヒクソン戦そのもの」を「過大評価」して賭けてるかということを見るもんなんですね。

“腕の立つアウトロー”高田が長すぎた春に終止符を打つ



7・22の記者会見では、意外なほどサバサバとした表情で笑顔もみせた高田。これは精神的余裕なのだろうか？



いつでもどこでも落ちついた表情のヒクソン。自分の首に賞金が賭けられている者とは思えない落ちつきだ

山本 そうそうそう。過大評価しないと誰もそんなことやらないよ。僕だって〝4・2ドーム〟というイメージを過大評価してやったから。みんな、過大評価というか欲望というか野心というか、みんな野心に燃えてこそ、初めて何かできるわけだから。どんなジャンルにも過大評価がなきゃいけないんだよ！

山口 でも、格闘技界の連中は、この闘いを過小に評価してるわけですよ。

山本 そりゃ、やらない人はみんなそうだよ。自分がやるんだったら過大評価しますよ〜。人がやることは過小評価するから。それは全ジャンルの特徴ですよ。自分がその輪の中に入ってない時は、相手のことをコキおろしたり、ケナしたり、過小に評価するもんなの。

山口 プロレス村もこのビッグ・イベントに最初から絡んでいないからヘソを曲げたわけだ。実にチンケな業界だな！ あ〜、やだやだ。それとも主催者の方に人徳がないのかな（笑）。

山本 いや、高田に人徳がないんですよ！

山口 エ！ 高田に人徳がない！

山本 でも、人徳がないとこが高田の魅力なんですよ！ 高田はマット界やプロレス界、組織を背負うとかそういうタイプじゃないじゃない。どちらかというと近藤勇か土方歳三みたいな組織を引っ張って行くリーダーにはなれないけども、その組織の中ではえらく腕だけは立つっていうアウトロー、そういうタイプの男なんだよ。

山口 腕の立つアウトローね。高田がそういうタイプというのをみんな忘れてるでしょう、いま。プロレスファンは、高田の懐に仕舞い込んでる〝ドス〟に期待す

幻想なき極小の闘いが、10・11ビッグバンを起こす!!

高田vsヒクソンの意味

るしかないですよね。

山本 そういう時の高田は、爆発的で圧倒的な力を発揮するんだよ!

山口 バービック戦とか北尾戦ね。

山本 そう! そういう時の高田というのはものすごい面白いわけよ。えげつない闘いは人徳がない方が面白いわけ!

山口 そうそう。えげつない高田が出るかどうかですよね。

山本 高田は極小の闘いであるということを証明するようなことを『東スポ』で言ってた。「リングに上がった時に、ホコリのひとかけらまで、すべてが見えたら、俺は勝てる」というコメントを残してるわけよ。要するに、塵ひとつまで確認できる精神状態であったら俺は勝てるということだよ。だからものすごく極小な闘いであることを自ら証明してるわけ。

山口 じゃあ、原点には果たし合いの思想があるわけじゃないですか!

山本 大アリだよ! 大アリなんだけど、高田は悲しいかなイメージを膨らませるものを体内に持ってないんだよ~。膨らます人間がいたら成功するんだよ。それを膨らませられるのはこの世の中に一人しかいないんだよ!

山口 山本さん、いったいそれは誰ですか?

山本 宮戸優光ですよ!

山口 ガハハハハハ、なるほど!

山本 宮戸は、プロレスに対する愛情、思い入れがものすごいあったわけ。哲学もあったわけ、理論武装もあったわけ。だから実行力がすごいわけ。やろうと思ったら絶対やったし、獲物を狙った時の倒し方もすごかったわけ。リング上の高田以上にその気になる男なんだよ。だからバービックなり、北尾なりを倒したわけよ。最高のコンビだったんだよ、あれは! だから宮戸優光がこの興行をやったら大成功してたんだよ!

山口 確かに宮戸が離れてから高田の光が弱まった部分はありますよね。

山本 つまり宮戸にプロレスに対する愛情と哲学があったから戦術が生まれたんだよ。いまやってる連中に宮戸に匹敵するようなプロレスに対する愛と哲学があるかどうかなんだよ。ある?

山口 いや、わかりません、僕は(笑)。

山本 僕は宮戸&高田コンビが最強だと思う。宮戸は高田の最大のパートナーでありデザイナーだったと思う。それをやりきる力が宮戸にはあった。なぜならプロレスは負けるわけにいかないっていう、プロレスへの愛情がすごかったから。だからマスコミに対しても、プロモートする宣伝戦略にしても、彼はすごいことやった。だから宮戸優光にやらせるべきだったんだ!

山口 いま、考えてみるとすごかったもんね、北尾戦もバービック戦も。

山本 ぜ~んぶ、宮戸の力ですよ。

山口 ぜ~んぶ、宮戸の力! (笑)。

山本 あちゃ~、俺、殺されちゃうな、KRSに(笑)。

山口 いや、ぜひ殺されてほしいけど(笑)、KRSよりまず高田延彦が怒りますよ。

山本 なんで?

山口 高田に、別れた女房の方がよかったっていってるようなもんだもん。

山本 ウヒャヒャヒャ。そうだなぁ。

山口 だから宮戸優光というよりも、宮戸的なものという捉え方ですよね。

山本 いま高田はファイターに専念してるんでしょ。興行は別の人間がやらなきゃいけないんでしょ。お膳立てをする人間がいないとダメなんだから。いま、そのお膳立てが後手後手になってるわけですよ。やるとかやらないとか言ってる時点でしょ。宮戸がやってたら絶対そんなことにならないよ。

山口 でもね、その高田と宮戸のコンビが最強というのは実によくわかるけど、それはもう、さっきのドームの話じゃないけど、いまの時代では古い感覚かもしれないでしょ。

山本 だからフタあけて見ないとわかんないよな。そういう未知な部分は大いにあるよ。僕がしゃべってるのは、いままでの経験に基づいたものだから。経験というのは覆されるから。主催者側にアッと驚く戦術があるかもしれんしね。

山口 さて、また思いきりフライングしたところで、肝心の高田×ヒクソン戦というソフトの部分に移りましょう。

山本 うん。だからさっき言ったように、高田は腕の立つアウトローという、その手応えだけは自分の中にあるわけよ。だから他者は必要ないわけ。あの人には技術だけが必要なの。

山口 そういった意味では、トップレスラーとして珍しいタイプですよね。

山本 だからいま、高田は最高のアスリートですよ。余計な幻想がないという意味では。だから最もヒクソンとの闘いにふさわしいドライな男。極めてドライだからいいんですよォ!

山口 ドライとドライの闘いだ。

山本 村松(友視)さんが書いてたけど、ヒクソンは賞金稼ぎの男だから。ゴッチさんが言ったように「グレイシーはビジネスマン」だとかに値してるんだよ。でも、ヒクソンが面白いのは本来、賞金稼ぎの男なのに、自分に「賞金首」が賭けられたわけよ。狙って行って、狙われる男になってるわけ。だからそういった意味ではヒクソンって、ものすごい男なん

■開催名称：PRIDE—1
■日程：1997年10月11日(土) 開場15：00　開演17：00
■会場：東京ドーム

◆主催：KRS
KRS代表幹事：黒澤浩樹
KRSスーパーバイザー：喜多村豊
◆後援：PerfecTV!
◆協力：メディアファクトリー／DBSエンタテイメント
◆プロモーション：電通
◆出場決定選手：ヒクソン・グレイシー（ブラジル／ヒクソン・グレイシー柔術）
高田延彦（日本）
黒澤浩樹（日本／極真会館）
北尾光覇（日本／武輝道場）
キモ（アメリカ／ブラジリアン柔術）
タンク・アボット（アメリカ／ピットファイティング）

高田延彦×ヒクソン・グレイシー 特別ルール

①全ラウンド数：12ラウンド
②各ラウンド時間：1ラウンド×5分
③各ラウンドのインターバル：2分
④ロープブレイク：禁止
⑤グローブ：定められたものを着用（オープンフィンガー・グローブ）
⑥勝負の判断：A）TKO／B）ドクターストップ／C）選手本人の意思による棄権・試合放棄
＊ABC以外の勝敗判断については、別途協議中（7月22日の時点で）
⑦キック：相手がダウンしている状態では禁止
⑧脊椎への攻撃：禁止
⑨目つぶし：禁止
⑩急所攻撃：禁止
⑪頭突き：禁止
⑫髪を掴む：禁止
⑬リングアウト：なし
⑭オイル又はワセリンの使用：禁止
⑮体重制限：なし
⑯シューズ：着用時はキックの使用禁止
⑰膝パット：着用・未着用どちらでも可
⑱肘パット：着用・未着用どちらでも可。但し肘での攻撃は不可
⑲ロープを掴んだ状態での対処：相手の攻撃を回避する目的で、故意にロープを掴んだり抱え込むことは禁止とし、レフェリーより注意・警告・罰則が与えられる。（レフェリーは、他の試合とは別に、特別レフェリーを予定）
⑳リング：4本ロープのスクエア。本大会オリジナル・リングを予定

【チケット情報】

◆入場料金（税込）

RRS（ロイヤルリングサイド）	100.000円
SRS（スペシャルリングサイド）	35.000円
RS（ロイヤルシート）	20.000円
SS（スペシャルシート）	15.000円
スタンドS	10.000円
スタンドA	7.000円
スタンドB	4.000円

●RRS（ロイヤルリングサイド）はビッグな特典付！
◆リングサイド3列以内を必ず確保
◆公式パンフレット・オリジナルグッズ付
◆専用入場口有り
◆記念入場パス進呈
◆フェアウェルパーティー参加券付

●チケット発売スケジュール
8月31日（日）　一般先行特別電話予約（受付　9：00～18：00）
プライド・ワン特電　0422・29・7121
9月13日（土）　ぴあ、セゾン会員先行予約
9月14日（日）　一斉発売

※問い合わせ　KRS　03・5464・7900

PerfecTV！ 完全独占生放送決定！

『PRIDE—1　高田延彦×ヒクソン・グレイシー』
◆放送時間　10月11日（土）　午後5：00から
◆チャンネル　PerfecTV!　Ch.110
◆視聴料金　2.000円

—問い合わせ先—
PerfecTV!　カスタマーセンター
03—5802—5550

だよ。それと腕っ節がものすごい立つ男。このドライな男たちが闘うっていうところに最高のロマンがあるわけよ。だから幻想は何もないわけ。これに俺たち、幻想を持っちゃいけないわけ。

山口　ちょっと待った！　面白いな、それ。ロマンはあるけど幻想はない？

山本　幻想はないんだよ。ドライとドライの人間がどういう決着をつけるか、その一点だけに興味があるわけ、俺は。「賞金首」と「腕の立つ男」の。だから余計な幻想を持たないで下さいよと、二人はメッセージしてるんだよ。

山口　リング上だけに注目して下さいよと。ヒクソンは高田に対してどういうことを感じてるんですかね？

山本　何も感じてない。「俺が勝つ！」と思ってますよ。勝つと思ってるから出てくるんであって、勝たないと思ったら出てこないからね。賞金稼ぎの男ってそうでしょ。高田の方は勝つか負けるかわからないのに出てくるわけよ。ここが面白いわけ！　これは最大なロマンですよ。

山口　それ、新しい構図ですよね。はっきり言ってプロレス界では初めてかもしれない。

山本　これはものすごいロマンありますよ！　彼らふたりに余計な幻想持っちゃいけないんだから。それを彼ら二人が拒否してるんだから。二人共すごい現実主義なんだよ、そういった意味では、格闘家そのものだよな。だから二人は「早く、俺たちの闘いをお膳立てして下さいよ」と間接的なメッセージを送ってるはずなんだよ。

山口　とっととやらせろ！　と。

高田vsヒクソンの意味

山本　そう、そういうことを言ってるわけよ、二人は。

山口　業界の中で高田をそういう形で評価しているのは山本さんだけですね。それが今日は一番新鮮だったな。

山本　高田という人を見たらわかるじゃない。高田は、ある一方から見るとノンポリだとか言われたりね、いろいろ言われる。でも魅力というのは、その価値観とは別の所にあったとしたら、それはすごく楽しいわけよ。それを高田は持ってるわけですよ。

山口　幻想がない闘い、つまり〝ムキ出しの闘いそのもの〟を直視するっていうのは近代稀に見るものですよね。

山本　あの二人は幻想を否定してるわけだよ。「でも見ろ！」と言ってるわけですよ。見るだけでいいんだよ、と。

山口　となると、なおさら東京ドームは必要ないですね。当日は東京ドームという器を忘れなきゃ。

山本　いや、彼ら二人の中には興行的にはドームがあるけども、いざ闘いとなったらドームも観客もまったく眼中にないから。それを消し去らないことには勝てないから。だから今度の闘いをファンはじっくりと考えなきゃダメなんだよ。考えなければ気付かないし、面白さも発見できないわけ。「高田×ヒクソン戦を考えることは喜びである」って思わなきゃダメなわけ。

山口　あいかわらず「喜び好き」だな（笑）。高田がそういうタイプのレスラーだというのは、みんな忘れちゃってたもんなぁ。藤原喜明が「イザとなったら相手の腕を笑って折れるのは高田」と言ってた幻想が、幻想なき闘いで光ってくるわけだ。

山本　だから高田の場合は、発する言葉と存在がスウィングしてないわけよ。言葉と肉体が別個なわけ。要するに言葉じゃ高田自身を表せないの。言語化できないからある意味、肉体の方が充実してるわけ。その〝潜在性〟がすごいんだよ。

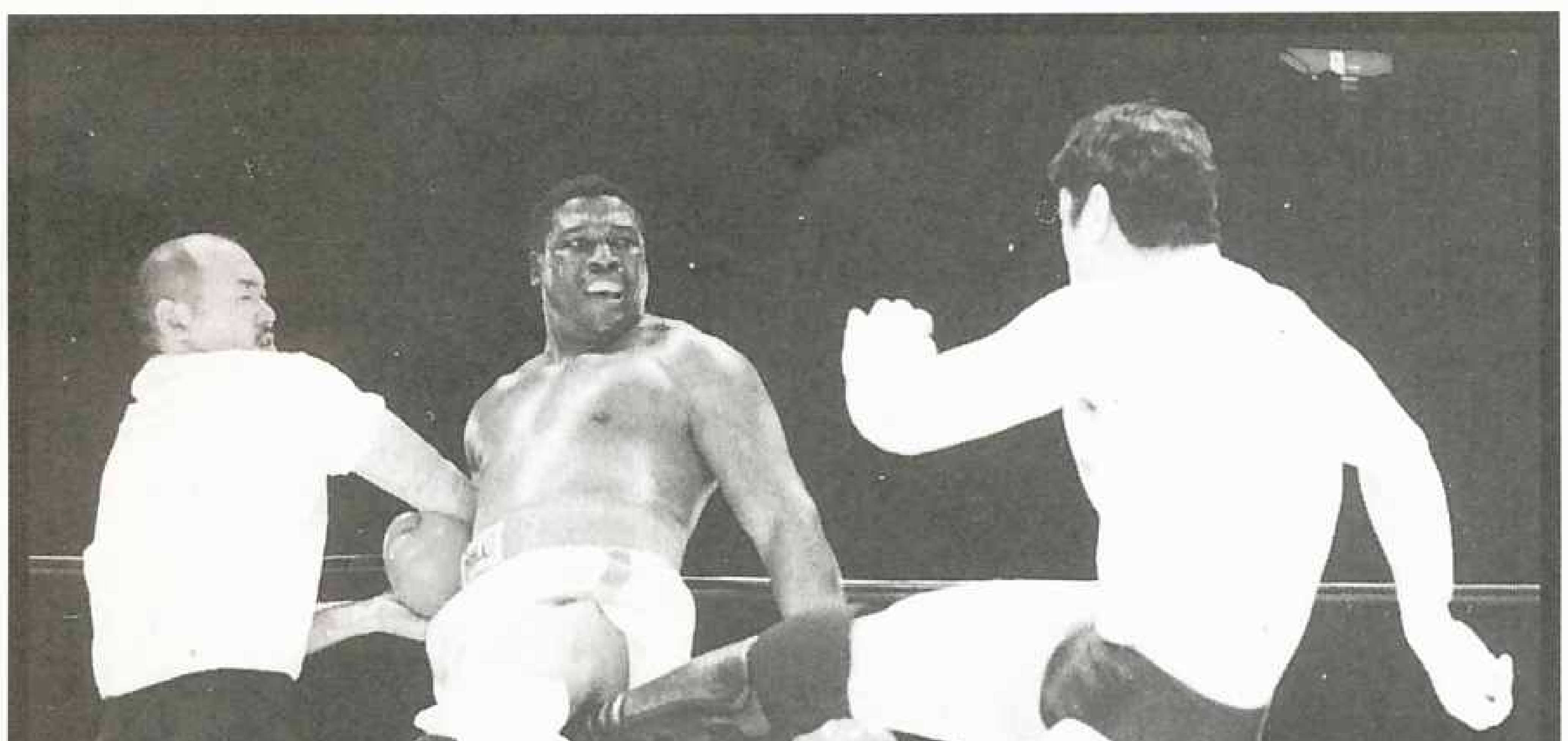
山口　はっは―。今回の闘いで高田を見るテーマは潜在性ですね。

山本　彼自身が言葉で表せないものを俺たちが読み取る所に面白さがあるわけよ。それは要するに、他のレスラーと比べて潜在性の埋蔵量がすごいよってことなんですよォ！　そこに高田を見る面白さがあるわけよ。

山口　そうですね。でも、どうしてもインタビューとかではおとなしめで優等生的に映っちゃうから、つまんないと思われるとこも出てきちゃう。本人も言葉でしゃべれるレスラーにはコンプレックスのようなものもある、って言ってたしね。

山本　むしろ前田というのは、言葉の方が饒舌できらびやかであって、肉体の方は空虚化してるんだよな。肉体の潜在性がなくなっちゃったわけですよ。

山口　ホントはその潜在性が顕在化してるのが前田日明だったんですけどね。



かつてT・バービック、空拳道在籍時の北尾との対戦ではキックで突破口を見いだした高田。ヒクソン戦の作戦は何か？

山本　ホントはね。それがものすごいリアリティを持ってた。猪木批判やった時やUWFへ移る時は、自分の潜在的にある欲求不満とかイライラとかが顕在化して、肉体から発する言語がシビアでものすごい緊張感持ってたから俺たちは興奮したわけ。

山口　長州の顔面蹴っ飛ばしたりね（笑）。

山本　言葉でも肉体でも勝負してたから。車の両輪みたいな形で。いまはもう前輪と後輪がガタガタになってるわけよ。

山口　だから引退が見えてるんでしょ。

山本　いまは、高田延彦の方が前田より遥かに魅力的だよ！　100倍魅力的ですよォ！

山口　出たァ！　衝撃発言！

山本　潜在性の埋蔵量が多かったから、北尾とバービックに勝ったんじゃないの。プロレスラーの魅力ってそこじゃない！　言語化できないパワーとエネルギーをどれだけ持ってるかですよ。言語化できないことは恥でも何でもないんだよ！　バンバン！（興奮して机を叩く）。だから高田をインタビューしちゃいけないんだよ、オマエ！　高田に聞こうとすること自体が愚問なんだよ！　バンバン！　愚かなことなんですよォォ！　バンバンバン！　彼の持ってる潜在性に俺たちは夢を懸けるんだよ。あの潜在性は、はっきり一言で言える！　問答無用の潜在性なんだ！　バンバンバンバン！

山口　それしかないですね、見たいのは。それしかない！

山本　問答無用の潜在的パワーだね。思い出した！　藤原喜明が新日本を辞める日に道場で「俺はUWFへ行く」って下の人間に言ったわけ。「付いてこい」とは言わないよ「俺は行く」って言ったの。で、「藤原さんが行くなら俺も行く」っていう奴が3～4人はいると思ってたわけよね。

高田の持つ潜在的パワーに俺たちは夢を懸ける！！

でも誰も来ないんだよ（笑）。

山口　寂しいもんだな（笑）。

山本　普通誰も行かないよね。それが高田は行ったんだよ！　なぜ行ったか聞いたら、「藤原さんが僕にとって唯一技術を教えてくれる人だ」って。「教えてくれる人がいなくなった所にいても意味はありませんから」って、こう言ったよ。ものすごい現実主義だよ！　だから高田はUWFの幻想で行ったんじゃないんだよ、自分の腕を磨いてくれる、教えてくれる人に私は付いていくと。だから藤原さんじゃなくても誰でもいいんだよ。藤原さんという個人にも幻想はなかったし、UWFにも幻想はなかった。ここがアイツの素晴らしいとこなんだよォォ！　バンバン！

山口　ガハハハハハ。机が壊れますって。

山本　俺はそこに惚れきってるんだよ！　バンバンバンバンバン！

山口　実話ですか、それ？

山本　実話ですよ～。行ったんだよ、高田は！　自分の腕を磨く、それだけが唯一自分の行動ですよ！　自分のアイデンティティだってわかってたから藤原さんに付いて行ったの。だからそういった意味で俺は高田をものすごく好きなんだよ。そうあるべきなんだよ、格闘家というのは！

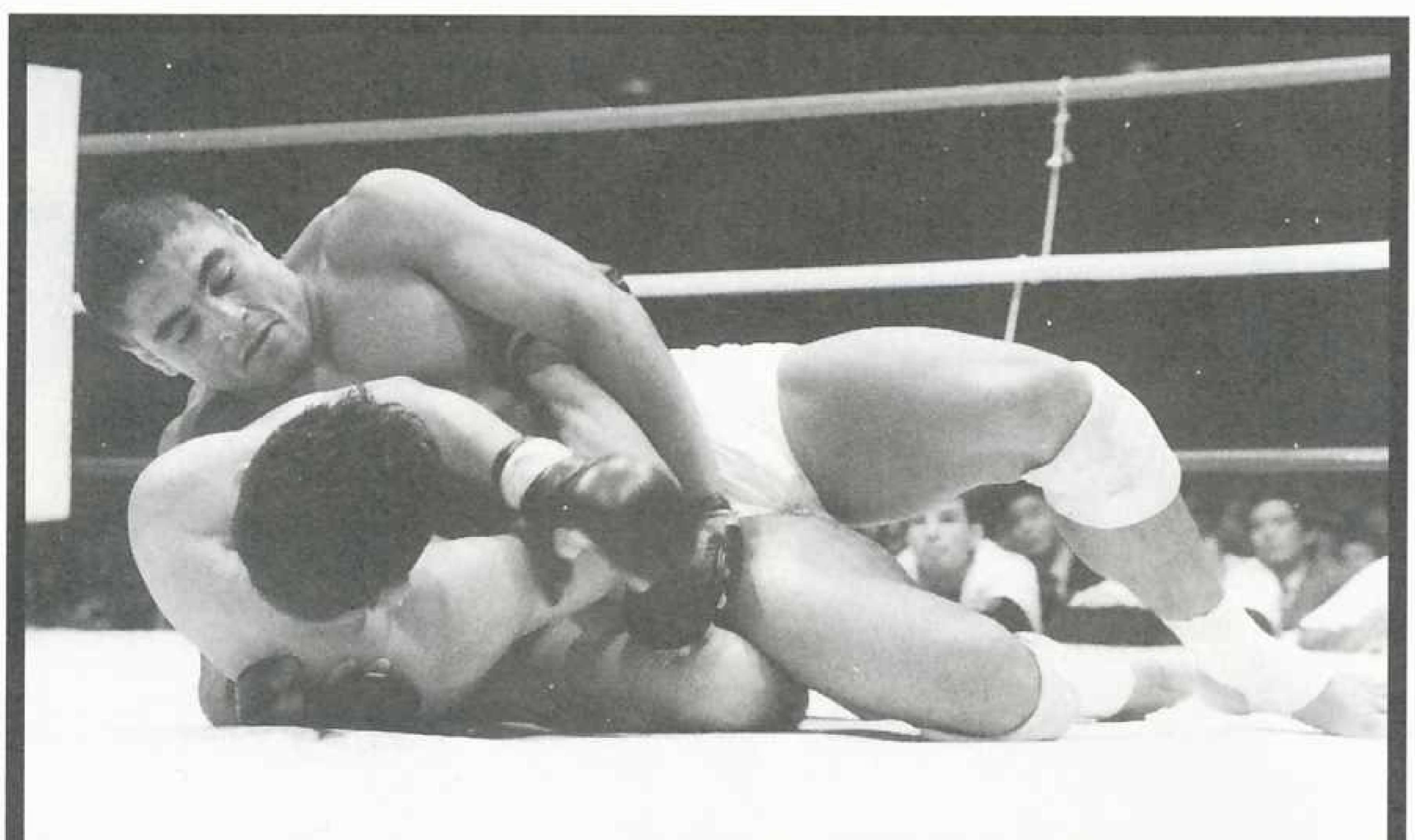
山口　となると、バーリ・トゥードにプロレスラーが負けたとか、新日本と対抗戦やって高田の価値が下がったとかそういうことはもう一切関係ないわけですね。

山本　この闘いは個人のものですよ。それこそ余計な言いがかりじゃない。迷惑な話だよ。極小な闘いの極小の真実。それにいらぬ幻想を当てはめちゃいけない。

山口　いま、この瞬間、高田がよく言う「個人の闘い」という意味が初めてクローズアップされましたね。

山本「リングの上でホコリが見えるかどうかが俺の闘いの勝敗の全てだ」と言った男だよ。それ言った時点でもう抱きしめるくらい好きにならないとダメですよ～。あの言葉には惚れたね～、うん。

【8月15日、六本木・中国飯店別館にて収録・一部敬称略】



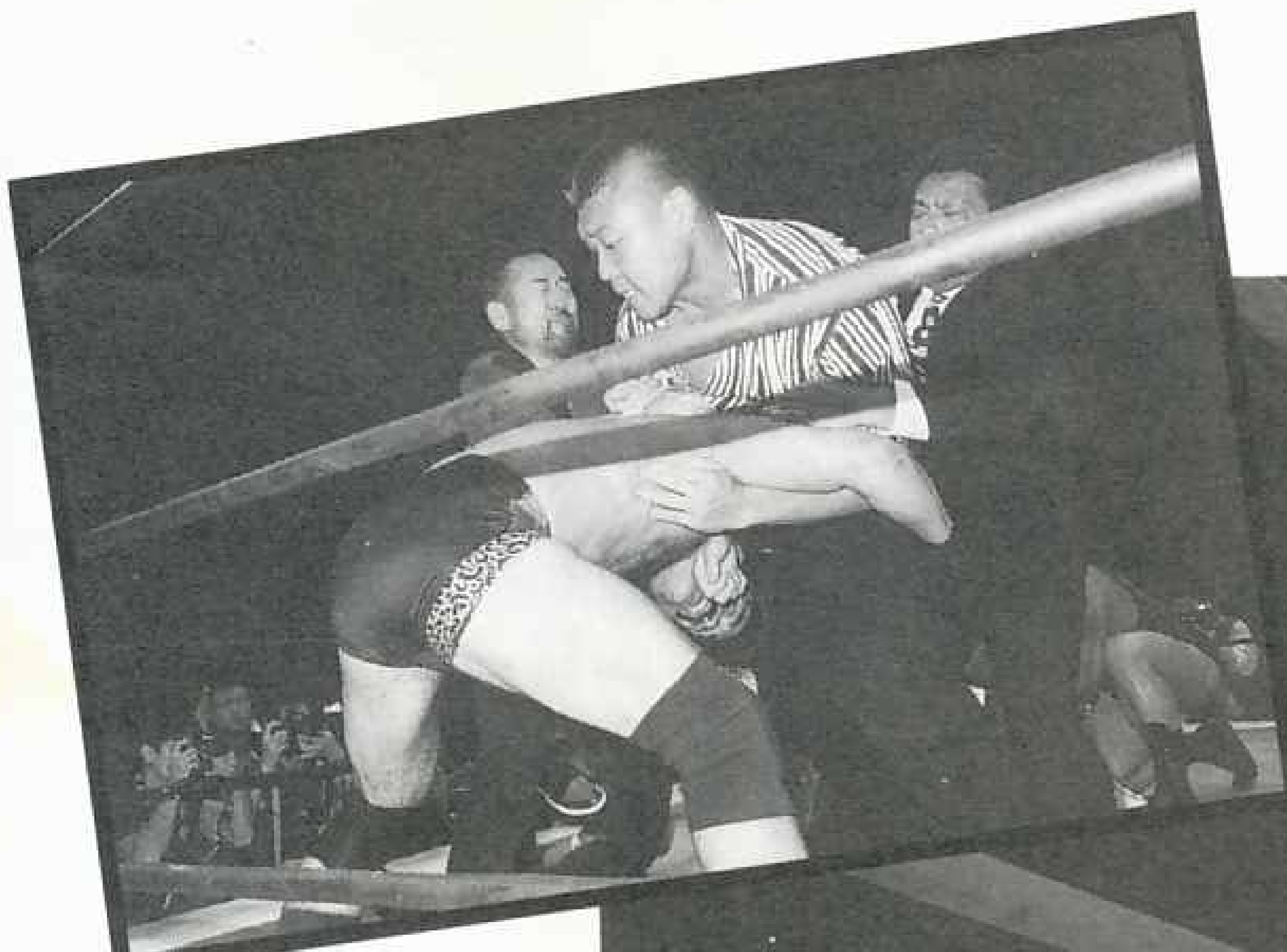
専門家の予想ではヒクソン有利が圧倒的だ。たしかにこのルールでは高田が不利だが、どこかに突破口はあるはずである。

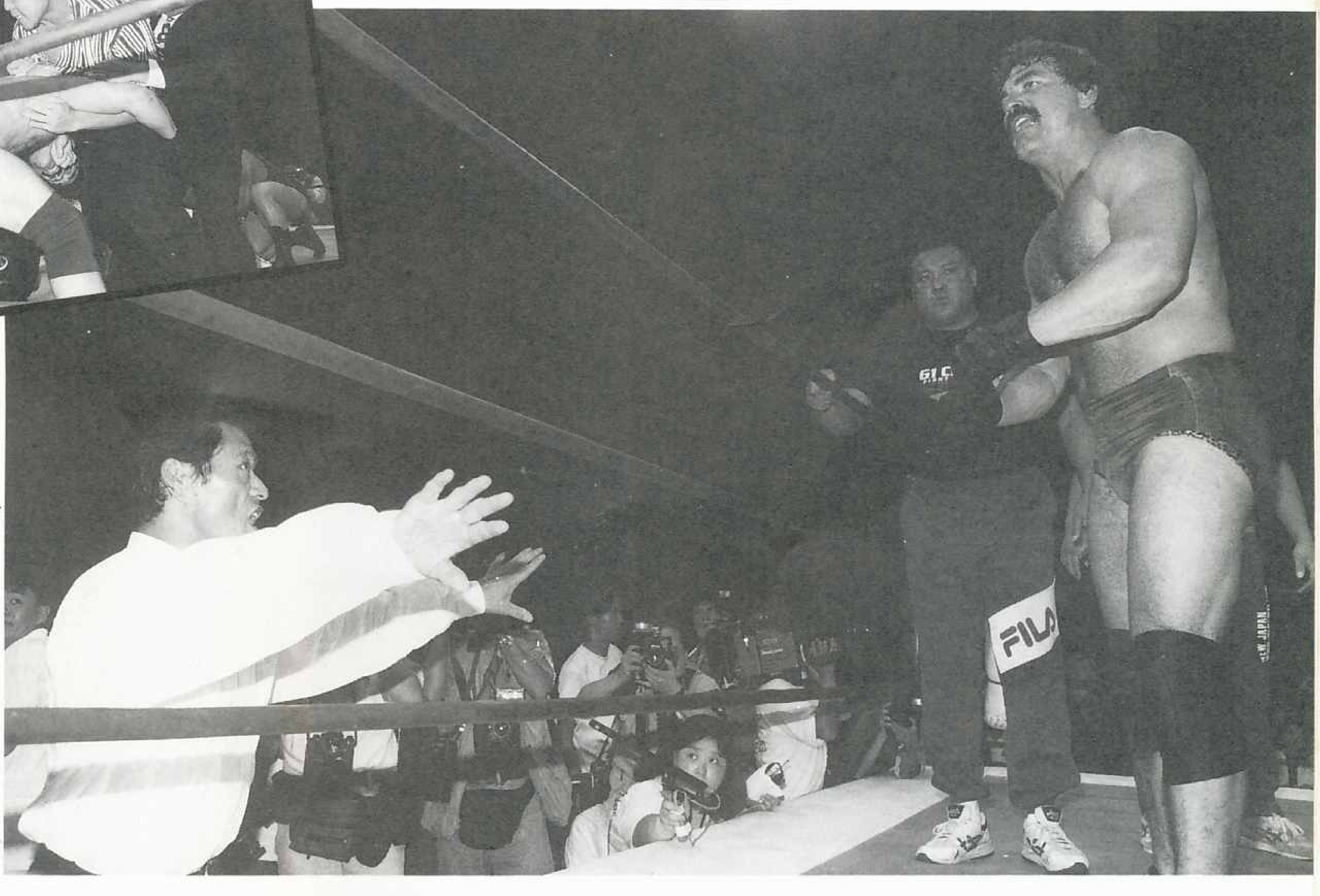
みせた

RADICAL REPORT

8月2日　両国国技館
新日本プロレス『G1クライマックス』　2日目

●異種格闘技戦＝時間無制限1本勝負
ドン・フライ（6分40秒、レッグ・ネックロック）藤田和之
※試合後にワクワクドキドキの乱闘あり





8月1～3日の3日間に渡って行われた今年のG1は、トーナメント出場者以外にも金本、大谷、高岩などの「新・新日本戦士」の元気のよさが目に付いた。「元気」が売り物なのは我らがアントンだが、彼らは「元気が売り物」が売り物なのだ

に乾杯！

猪木が

グレード・ワン G1プロレス

猪木がきた！

リング上では、ヤング・ライオンの砦・藤田和之に勝ったドン・フライと、試合後に乱入した小川直也がただごとではない雰囲気で小競り合いを展開していた。

その小川の腰にしがみつき、佐山聡が乱闘を必死に止めようとしている。

まさにその時である！　花道の奥から猪木がダーッと駆け出してきたのだ。

この瞬間、97年の夏を疾走する猪木のリアリティが息づいた。

ノスタルジーでもなんでもない。

その証拠に、非常に〝イノキな匂い〟が瞬時にして、館内に充満したのだ。

〝匂い〟というのは強く感覚に訴えるものである。

〝匂い〟を言葉で表現するときには、甘いジャスミンのような――、焦げた肉のような――など、〝ような〟を付けると伝えやすくなる。

しかし、〝ような〟はどこまでいっても〝ような〟であって、〝匂い〟を的確かつ厳密に言葉として伝えるのは非常に難しいのだ。

ところで今夏のG1は佐々木健介が待望の初優勝を果たした。

そのトーナメントでは、俗にいう手に汗握る熱闘や、実にG1らしい正しい闘いは数多くあったが、その闘いにはどこか〝匂い〟が薄いように思えた。こちらの細胞に刻み込まれるまでに至らない、流行りの〝匂い消し〟を振りかけたような、匂いのしない匂いなのだ。

しいていうなら、「ストロングスタイルの匂いのような匂い」しかなかったという感じである。

そんなG1 3連戦の2日目、異種格闘技戦として組まれたドン・フライvs藤田和之戦は、試合後の乱闘劇も含めて明らかに異質な匂いを放っていた。

ドラマ――。

リアリティ――。

ハプニング――。

この三つが絡み合ったときに、匂い消しを振りかける前の、強烈な素の匂いがまき散らされたのである。

つまり、これが〝イノキな匂い〟である。

〝イノキな匂い〟は、みている人間の細胞という細胞を叩き起こすような刺激的な匂いだ。この匂いによって、細胞が何度も叩き起こされたのを我々はカラダで覚えている。

この日、猪木がドン・フライと一戦交えるかのような勢いで噛みついたのをきっかけに、フライと藤田が大観衆の前で闘う意味、両者の過去・現在・未来の「物語」がリング上から見事に引きずり起こされた。

それが1万人の細胞を叩き起こした。

計算なき計算！

演出なき演出！

バーリ・トゥードなきバーリ・トゥード！

こうなると、細胞を叩き起こされた人間は、リング上で引きずり起こされた「物語」を凝視するしかない。

プロレスのリングで自分の持っている技術を、場面として切り取るかのように「拡大」してみせたフライ。そのフライに勇猛果敢に向かっていった藤田。次なる闘いの物語へ向かってリングに飛び込んだ小川。小川を止めながらも振り回される佐山。そして疾風の如き、猪木！

これが瞬間的に絡み合い、今夏一番、文字どおりグレード・ワンのプロレスが展開されたのだ。

時代の波とともに、

新・新日本プロレスは開花した！

nWOもやってきた！

バーリ・トゥードは邪道なもの！

しかし、97年8月2日、

もはや匂い消しは完遂されているのだ。

花道の奥から猪木が駆けてきた！

佐山も小川もリングにいる！

〝イノキな匂い〟がプンプンする！

無菌・無臭の時代を掻き回せ！

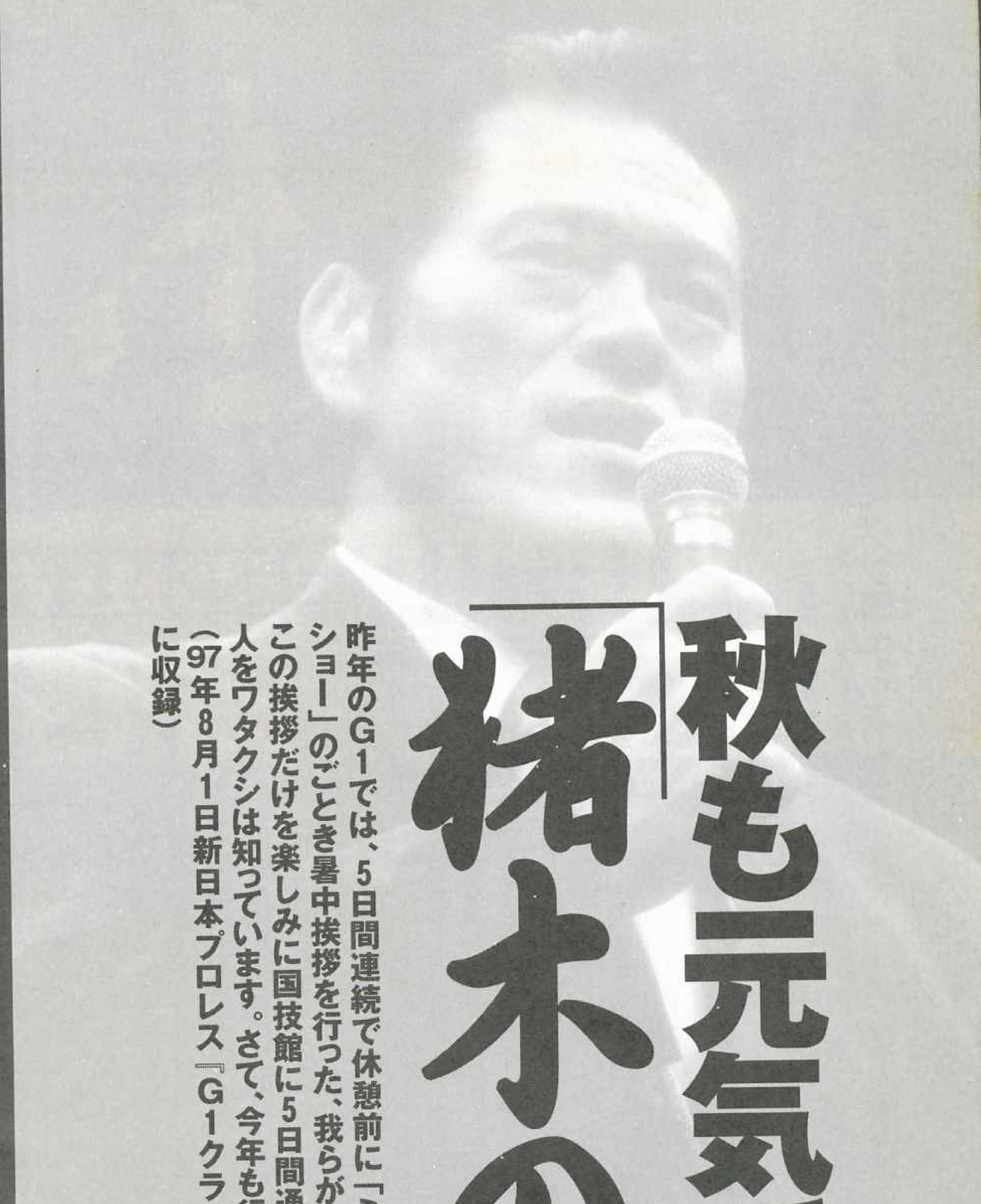
〝匂い消し〟など捨ててしまえ！

それゆけ、格闘技連盟！

GOGO！　格闘技連盟！

つまるところ、新日本のプロレスは正しいか正しくないかではなく、おもしろいかおもしろくないかなのだ！

（N・Y）



秋も元気でいるための「猪木の嘆き'97」全再録

ファンのリアクション付き

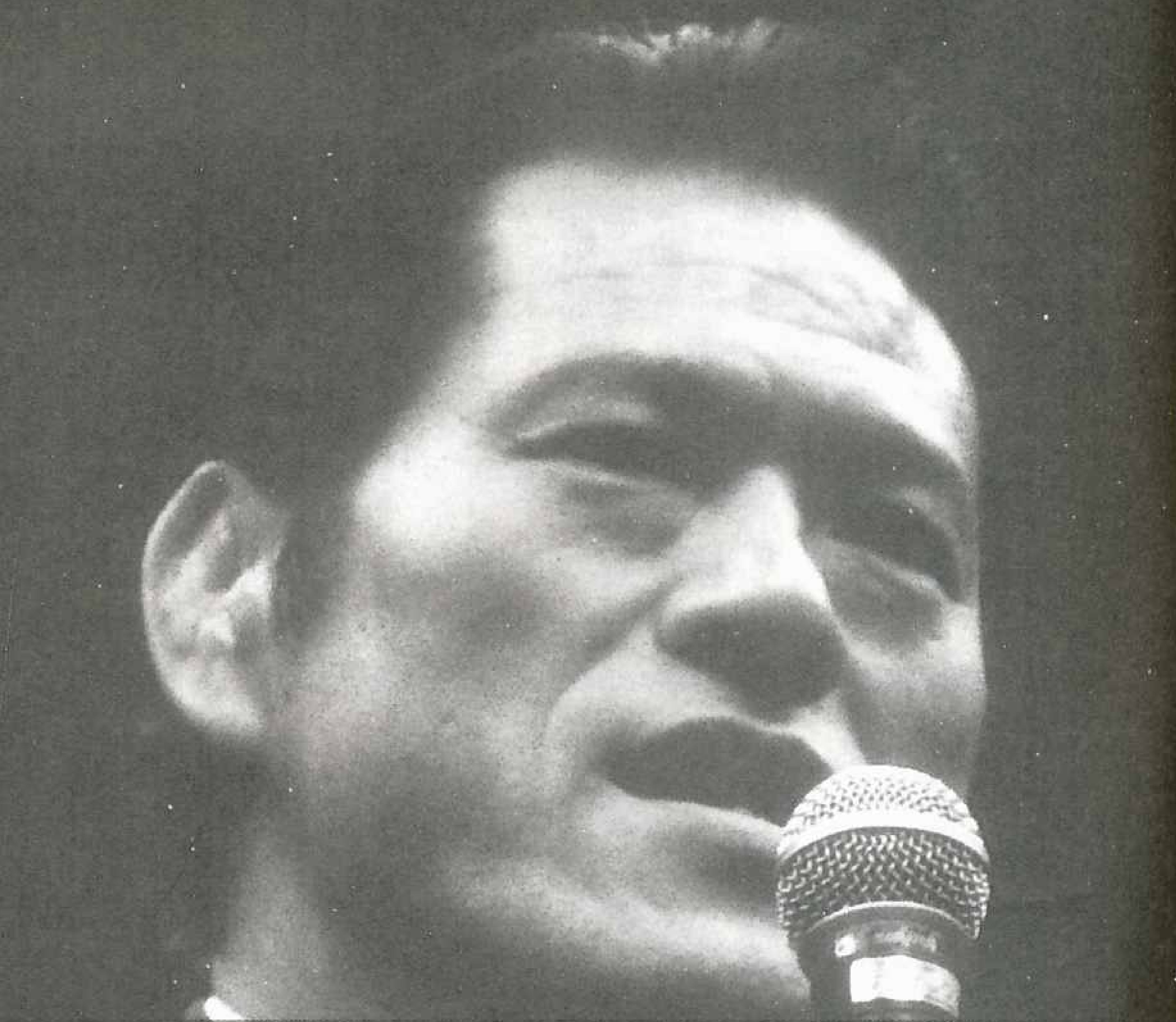
昨年のG1では、5日間連続で休憩前に「ミニ・猪木トークショー」のごとき暑中挨拶を行った、我らがアントニオ猪木。この挨拶だけを楽しみに国技館に5日間通い続けたという人をワタクシは知っています。さて、今年も行きますかーッ！（97年8月1日新日本プロレス『G1クライマックス』初日に収録）

※「休憩前といえば、この人」というケロちゃんの口上。『イノキ・ボンバイエ』が鳴ると会場は割れんばかりの大イノキ・コール。そして猪木登場！

元気ですかーッ！（※1）

えー、今日は暑い中、大変ありがとうございます

今年は挨拶は**初日のみ**（※2）ということらしいんで……





先日、7月の13日から23日までの10日間、久しぶりに**パラオのイノキ島**(じま)(※3)に行って来ました。**小川、タイガーキング**と共にトレーニングを積んで**非常にコンディションは上々です**(※4)

えー、去年はたしか、**「猪木のひとり言」**ということで聞いていただきましたが、今日は**「猪木の嘆き」ということで**(※5)

長州も引退しますが、先日、**前田とある雑誌で対談しまして、**彼も本当に引退してしまうということでしたが……**私のカウントダウンは一体どこにいってしまうんでしょうか⁉**(※6)

このまま行ったら**100歳までやる**という話もありますが……**まぁとにかく元気でやっていきます！**(※7)

今度のナゴヤドームは、**ムタからの要請でレフェリーを**引き受けることになりましたが、一体どんなレフェリーが出来るのか非常に不安で……**小川ーッ、出てこーいッ!!**(※8)

※1「ウオー」という言葉にならない大歓声

※2「毎日やってくれぇ」の声

※3 ざわめき

※4「誰とでもいいから試合やってくれー」

※5 大爆笑

※6 大爆笑

※7 意味不明かつ強引な話の繋げ方にファンもツッコミを入れることすら忘れて、ついクスクスと笑ってしまう

※8 唐突な小川呼び込みにファンも受け身を取れずにあっけにとられるが、小川が登場すると大歓声！ この後、小川の挨拶に。小川も言いたいことをはしょって言ってしまい、その後、一日中恥ずかしそうにしていたらしい。VーVA！ 格闘技連盟！

あなたが選ぶ 紙のプロレス RADICAL 表紙コンクール!!

さあ、今までのRADICALの表紙の中から一番好きなものを選んで Back Numberをもらっちゃおう!

創刊号



【表紙寸評】
業界も世間も騒然!
こんな人が表紙の雑誌は
二度と見れません!!

【驚愕の中身】

■特集:プロレスラーとは何か!
5大ロングインタビュー
高田延彦/船木誠勝/初代タイガーマスク
橋本真也/タイガー・ジェット・シン

■巻末超ロング・インタビュー
前田日明

■本誌だから実現できた危険騒然対談
ターザン山本VS鈴木健

■売れ行き無視のバトラーツ大特集
石川雄規/小野武志/田中稔
他B勢総出演

NO.2



【表紙寸評】
高田ーヒクソン戦6月に決定
と打った大フライングな表紙!
これは貴重だ!!

【騒然の中身】

■特集:プライドとは何か!
過激で素敵な脳髄直撃師弟対談
アントニオ猪木VS初代タイガーマスク
高田延彦スペシャルショット
田村潔司・高山善廣・TAKAみちのく
ロングインタビュー

■パンクラスとは何だ!
近藤有己・長谷川悟史・渋谷修身他
ヒストリー/パンクラスを解剖する炎上対談!

■特別寄稿
井上義啓「熊殺しの墓標」
新連載・石川雄規の「闘いの美術館」

NO.3



【表紙寸評】
仰天! 発売3日後に船木が
王座転落! RADICALの表紙には
魔物が棲むのか!!

【衝撃の中身】

■とうとうRADICALに神様降臨!
カール・ゴッチインタビューinUSA

■特集:針の穴にラクダを通せ!
船木誠勝19ページブチ抜きインタビュー
/山本宜久・安生洋二・池田大輔・
臼田勝美インタビュー

■過激で素敵な師弟対談パート2
アントニオ猪木VS初代タイガーマスク

■賛否両論! 業界騒然のタブー特集!!
八百長論議と闘え!!
「プロレスの敵は世間だ!」

NO.4



【表紙寸評】
引退激白! こんな凛々しい
日明兄さんに会えるのは
RADICALだけです!!

【圧倒の中身】

■特集:「落とし前」と「世界征服」'97
前田日明衝撃ロングインタビュー
髙阪剛・近藤有己・山本健一・
アレクサンダー大塚インタビュー

■神様降臨! 騒然インタビュー・パート2
カール・ゴッチ

■昭和世代の凄み! 酒、女、ケンカ超過激対談
藤原喜明VSドン荒川

■世界格闘技連盟プラス1・
最強カルテット座談会
アントニオ猪木・小川直也・佐山聡・
村松友視

◎表紙コンクールの申し込み方法

えー、上記の表紙4点の中から、好きな表紙1点を選んでください。謝礼として選んでくれた表紙のバックナンバーを差し上げます……ってもうみえみえなので、あとは普通にバックナンバーの申し込み方法を書かせていただきます(最初から普通にやれっちゅーの)⬇

◎バックナンバーのお申し込みは現金書留か郵便振替の2種類があります

●現金書留の場合は、代金と送料、希望号数を書いた紙を同封し、下記宛てまでお送りください。
〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3—11—3—702 (株)ダブルクロス・RADICAL通販係まで
●郵便振替の場合は、用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
00130—3—769154 (株)ダブルクロス まで。
*代金は創刊号610円 2号=660円 3号〜4号=680円。
送料1冊=310円 2冊=340円 3冊〜4冊=450円。

RADICALバックナンバーは通販でしか買えません(本屋さんではお取り寄せできませんのです)
以上、バックナンバーのお知らせでした!



プロレスマスコミ観察雑記



文／吉田豪
え／マツくん

これはスポーツ新聞、
プロレス専門誌、
一般雑誌、パソコン通信、
インターネットなどに
掲載されたプロレスネタの
数々をひたすら客観的に
観察して報告する、
プロレス愛に溢れた
雑記帳である！

あなたが選ぶ

前田・猪木対談を読む

（『週刊プレイボーイ』8/19・26合併号・担当/佐々木徹）



すっかり好評の前田日明異種対談シリーズ第2弾・裸の王様ことアントニオ猪木に挑戦編は、相変わらずの面白さ。

「（ユニバーサルの）周りのスタッフは『猪木さんも後から参加しますから』と言っていたけれども、俺は正直に言って猪木さんは来ないだろうと思ってましたよ」

こんな、さんざん「猪木に裏切られた」と言い続けてきた日明兄さんらしくもない物わかりのいい発言をしたかと思えば、**「（新日に戻ってから）猪木さんは俺と1回もシングルで闘わなかったですよね。どうしてだったんですか！」**と10年越しの疑問を明らかにすべくズバリ追求し始めるから、思わず走る緊張感。

ところが猪木は、さすがである。

「逃げてたから（笑）」「嫌だったからさ、前田と闘うのが。だから、ウフフ……逃げた。ウフフ」と、あっさり笑い飛ばしてしまうから、とんでもない。

結局、「猪木なら何を言っても許せるのか？」と聞かれても断じて「許せる！」としか答えようがないのが猪木という男なのである。

さらに**「俺は前田も高田も弟子という目で見たことがない。弟子ではなく友達感覚に近いかな」**と、いつの間にやらすっかりUWF勢をも佐山や小川ら格闘多摩川カルテットと同じ扱いにしているのも衝撃的だったが、これは猪木が力道山先生を反面教師にした結果だと思われる。

師匠・力道山に「アゴ」と呼ばれ、「ブラジルに帰すぞ！」と怒鳴られながら人前で靴ベラで叩かれたりもしていた猪木は、その反動ですっかり弟子とも友達関係になれる男になってしまったのだろう。

「猪木さんは付け人に怒らない人でしたね。控室のドアを開けるときに『失礼します』と言うと『別にお前は俺に何も失礼なことしてないのだから、失礼しますなんて言うな』と言われてました」

日明兄さんもそう証言しているが、そんな日明兄さんがなぜか今度は付け人に徹底して厳しいリキさんばりの鉄拳制裁男になってしまうのだから因果は巡る。

「ウチは鉄拳主義でね！　でね、山本はしょっちゅうやられるもんだから、アイツ緊張して一時ね、『お前、昨日何しとってん？』って聞いたら『は、はい、僕がチャンコを食べられてましたら、外に猫さんが来られまして、で、チャンコの食べ残りましたやつを猫さんにあげられましたら、猫さんが食われまして』って、おいおい、お前そこまで、猫にまで敬語使うことないぞって（笑）」（三井ゆりとのトークショーより、前田日明・談）

そして「猪木さんに新人時代、さんざん殴られた」とボヤく船木は、それを反面教師として完全自由主義のパンクラスを作り上げるのであった。

つくづく因果は巡るものなのである。

衝撃！クラッシュ・ギャルズが

プロレス マスコミ 観察雑記

前田の因縁雪解け対談シリーズのように、できれば馬場＆猪木の壮大な雪解け対談もいつかは読んでみたいもの。

ところがビックリ。Ｂ・Ｉ砲最後の試合となった「８・26夢のオールスター戦」直前の『月刊プロレス』誌上に、なぜかこの対談がひっそりと掲載されていたのである！

これがいきなり素晴らしかった。長年、不仲が伝えられてきた二人のコンビネーションを不安視する記者に、猪木がまた堂々とズバリ言い放つのである。

「私も馬場さんも顔は長いし、息はピッタリですよ。我々は本来、仲がいいんですよ、ダハハハ！（馬場も思わず苦笑）」

そして話がオールスター戦以降に及ぶと、ここでも猪木がサービス精神を発揮してフライングしてしまう。まるで８・26当日、リング上でいきなり対戦を呼びかけたように、だ。

「どうです。馬場―猪木戦を両団体でやろうじゃないですか。二人とも、いつまでも現役ではいられないし、ファンの望むうちにやったらどうですか？」

ところが、馬場はリング上で思わず「よし、やろう！」とファンの手前もあって即答してしまった８・26のごとく、こう答えたのである。

「二人で決めることだからな、オールスター戦が終わったら話し合おうか。さっき、寛ちゃんがウチのシリーズに上がろうかと言ったが、私は『どうぞ』と言おう。私だって、お宅のリングに上がったっていい」

そう、この頃はまだまだ馬場も乗り気だったのである。その後、何があったのかは当然、知る由もないんだが。

なお、最後に猪木が**「馬場さん、良い試合をしましょう」**とエールを送ると、馬場は思わず**「よし、やろう」**と答えているんだが、これってもしかして口癖なのか？

馬場vs猪木 仁義なき25年抗争の真実

（『月刊プロレス』79年9月号より）


ついに実現した馬場・猪木"共闘"対談

夢のオールスター戦 観戦特集 PART I

やはり"最強タッグだ"と いわれる試合を見せます

世界最強の"凶悪コンビ"だろうと必ず勝つ——馬場

お互いにライバルの手の内を教え合おう——猪木

「いいチームワークだ」とみんなに言わせたい



あなたが選ぶ

新・世界格闘技連盟とは何か？

（『日刊スポーツ』『東京スポーツ』他より）

いまさら言うまでもないことだが、世界格闘技連盟の面白さはもはや尋常ではない。それどころか、デビュー以降37年間に渡って張り続けてきた数々の伏線が、いまになって結末に向けて一気に集約してきたかのごとき異常なテンションの高さなのだから、これはもうたまらないのだ。

ウィリー・ウィリアムスや海賊男との因縁にケリを付けた頃は賛否両論分かれていたものだが、すっかり誰もが忘れかけていた「パラオの猪木アイランド」という伏線を持ち出してきて、特訓観戦ツアーまで企画してしまったときは、思わず山口昇ともども本気で参加しようかと考えたほどである。

なにしろツアーのビラに「空港で解散（1・2・3ダー）」などと当たり前のように書いてあるだけでも大金を払う価値ありだと思えるのに、突然そこで猪木が小川と火炎ヤリ特訓まで始めてしまうのだから、もう最高。

これは明らかに、かつて猪木がこの島でジョージ高野にヤリを突かせてパンチを見切る特訓をした、映画『四角いジャングル』で知られる名場面をパワフルに再現してみせたというわけなのに違いない。

さらに猪木はパラオの猪木島でくつろぎつつ、すっかりリラックスしてこんなことまで言い出したのだ。

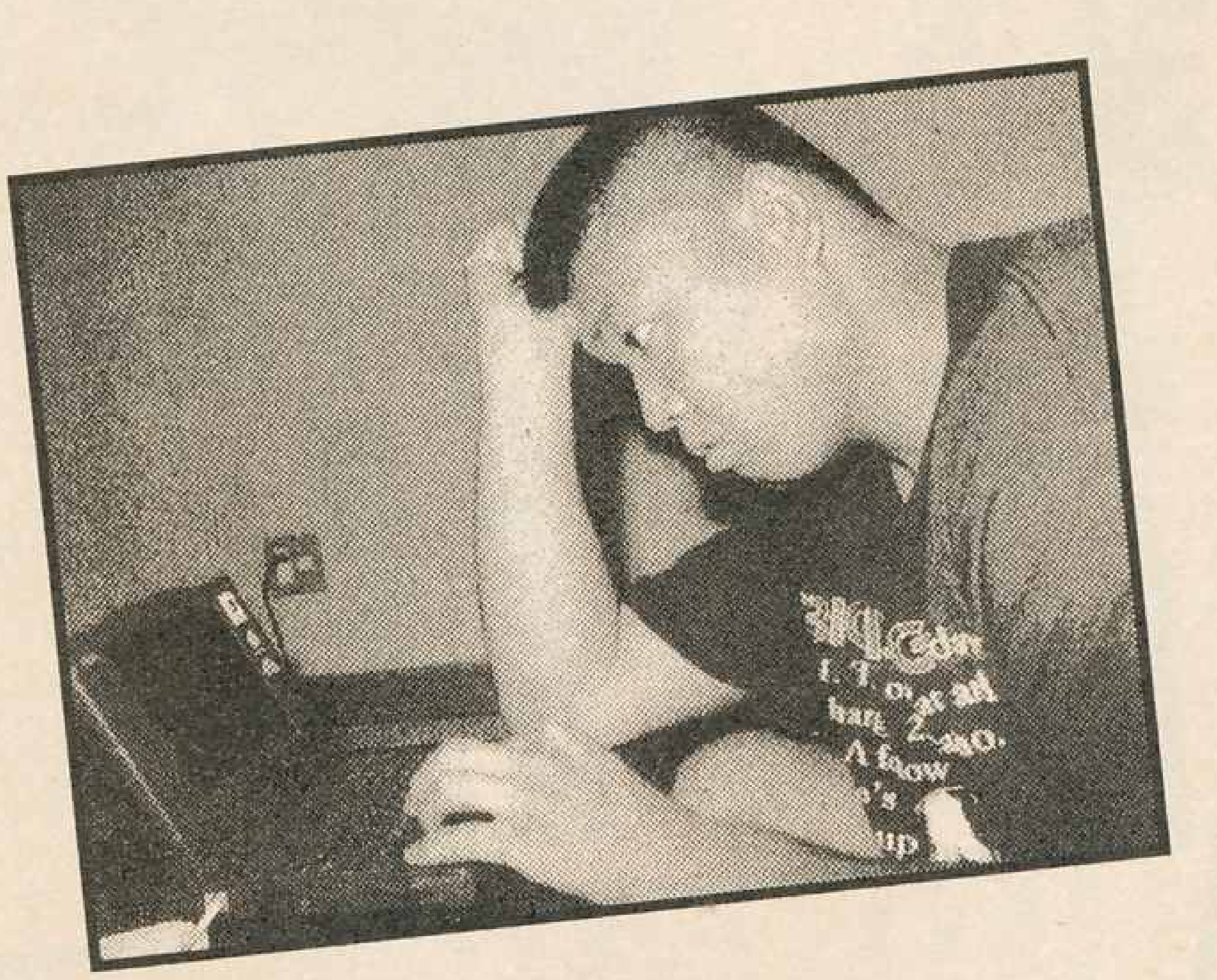
「オーストラリアは寛水流の支部が向こうにあって、そこから情報があって、格闘が好きで大きい人が多いらしい」（『週刊プロレス』8月5日号より）

マット界に衝撃走る！　なんと突然、かつて猪木に鎖鎌片手に1億円を賭けての真剣勝負を挑んできた東海の殺人拳・寛水流という意外な伏線まで、世界格闘技連盟構想の中に飛び込んできたのである（寛水流についての詳細は『紙プロ』の21号参照のこと。ちなみに寛水流オーストラリア支部の設立情報は本誌のスクープでもあった）。

こうなった以上、新日批判をした挙げ句、蝶野戦よりもダン・スバーンとのアルティメット決戦を選んだ元・寛水流のミスター・デンジャーとスバーンとの再戦までも、我らが世界格闘技連盟のマットで実現するのか？

期待は膨らむばかりなのだが、驚くべきなのはそれだけではない。

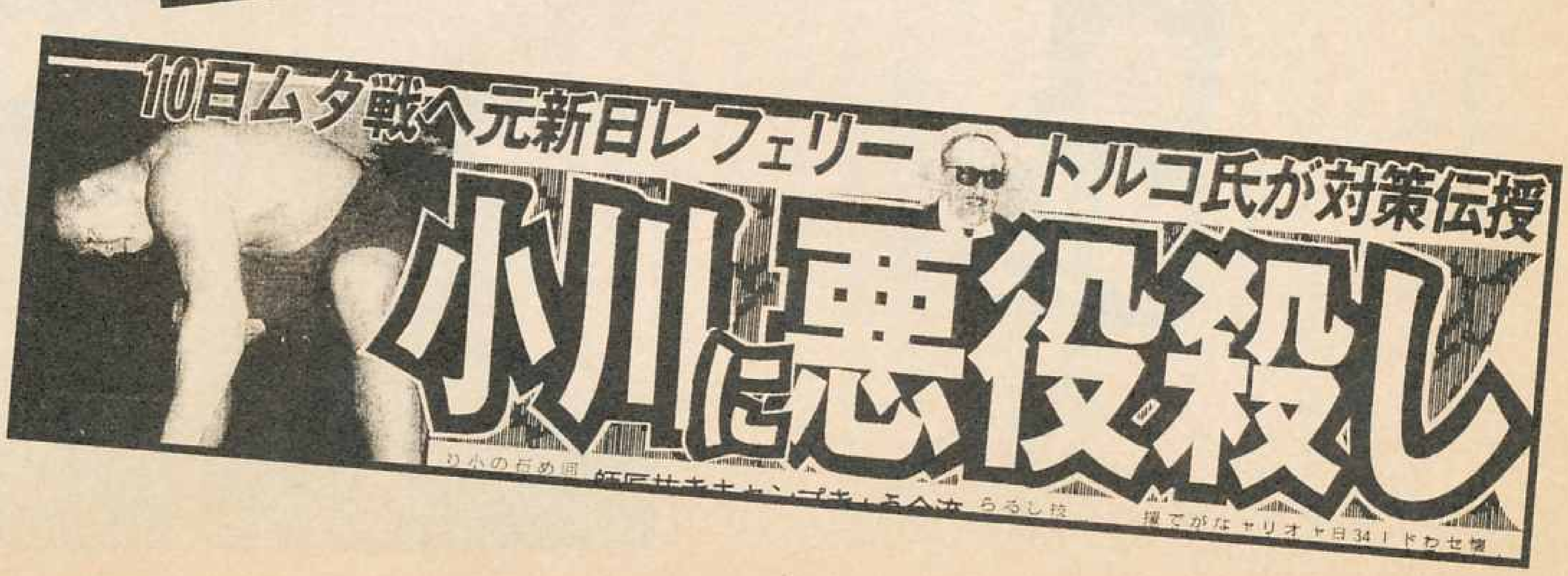
昭和の鬼軍曹コンビ、ヤマハ・ブラザースや藤原敏男に続き、8月6日付『日刊スポーツ』情報によると栃木・大田原での強化キャンプから『紙プロ』ではお馴染みのユセフ・トルコ（東京シュガーベイブ所属）までもがなぜか参謀に加わったというのである。



かつて猪木対ウィリー戦を裁き、「猪木はペリカン野郎だ！　俺は鶴田を第二の力道山にする！」などと言い放っておきながらも、**「君は第二の力道山になれる。日本のプロレスを一つにできるのは小川君しかいない！」**（8月8日付『東京スポーツ』）と言い出して格闘技連盟入りを果たしたトルちゃん（元・梶原プロ所属）。

梶原一騎没後十年にして、なぜか世界格闘技連盟の周辺では梶原イズムが爆発寸前になっているわけなのだ。

これからもアリや極真、アクラム・ペールワン一族、マサイ族、倍賞美津子、小野田さん（元日本兵）などの伏線（なのか？）まで梶原イズムに則って一気に集約されていくんじゃないかと、つくづく楽しみでしょうがない今日この頃なのである。



衝撃！クラッシュ・ギャルズが

プロレスマスコミ観察雑記

近頃、プロレスマスコミにおいて、パソ通批判はすっかりタブーになっている。

なぜって、誰もがこれまで下手な噛み付き方をした挙げ句、散々パソ通側にツッコまれたりしてきたためでもあるのだが、それでも「あんなのは無視した方がいい！」という風潮になりつつあるのは正直、問題だとしか思えない。

そんな理由で、このページではパソ通ネタも同じプロレスマスコミとして扱い、あくまでも同様に観察しているわけなのだが、やっぱりボクも噛みつかれてしまったのだ。

世に蔓延する宍倉次長批判に対し、「キミたちが批判しているのはすべてシッシーのチャームポイントなのだ。彼こそリトル梶原一騎なのである」というボクのポイントは熱い思いを前号で訴えたためである。

「『プロレス・マスコミ、観雑記』とのタイトルで僕のコラムを丸まるパクった吉田剛」だの「ワニ・マガジン社というバックを得てから、どうにも『毒気』の薄れた感のある『紙のプロレスRADICAL』」などの事実誤認丸出しの批判（ワニマガと組んだのは本誌の9号から）に対し、ボクは「本誌で反論しては？」とメールを送ったのだが、「三流商業誌上で吉田クンと論争する気も毛頭ない」との、つれない返事が返ってくる始末。やっぱりパソ通は無視するしかないメディアなのだろうか？

さて、そんな殺伐とした世の中でも、我らがリトル梶原一騎シッシーの魅力だけは変わらない。

「はっきり言って『恥知らず』。四文字熟語で言うところの『厚顔無恥』」などとボクを批判してきた男子に糾弾されていたシッシーだが、『パンクラス公式読本』における『感動させてよ!! 出張版』に書かれていたことときたら、本当に「感動」ものだったのである。

いや、マジで。

「サダハルンバこと谷川貞治氏が『ゴン格』に出てしまった。理由はお金ではないと思うが、『ハートはどこに行ったんだ？』と思わずにいられない」

「俺はいくらお金を積まれようとも『週刊ゴング』に行くことはないし、ひとつでも仕事をすることはない」

これらの発言だけでも十分に素晴らしいのだが、FAX送付用紙に書かれていたメッセージがこれまたあまりにも男らしすぎたので、非公開にしておくのはファンに不親切だと勝手に判断し、ここに公開してみるとしよう。

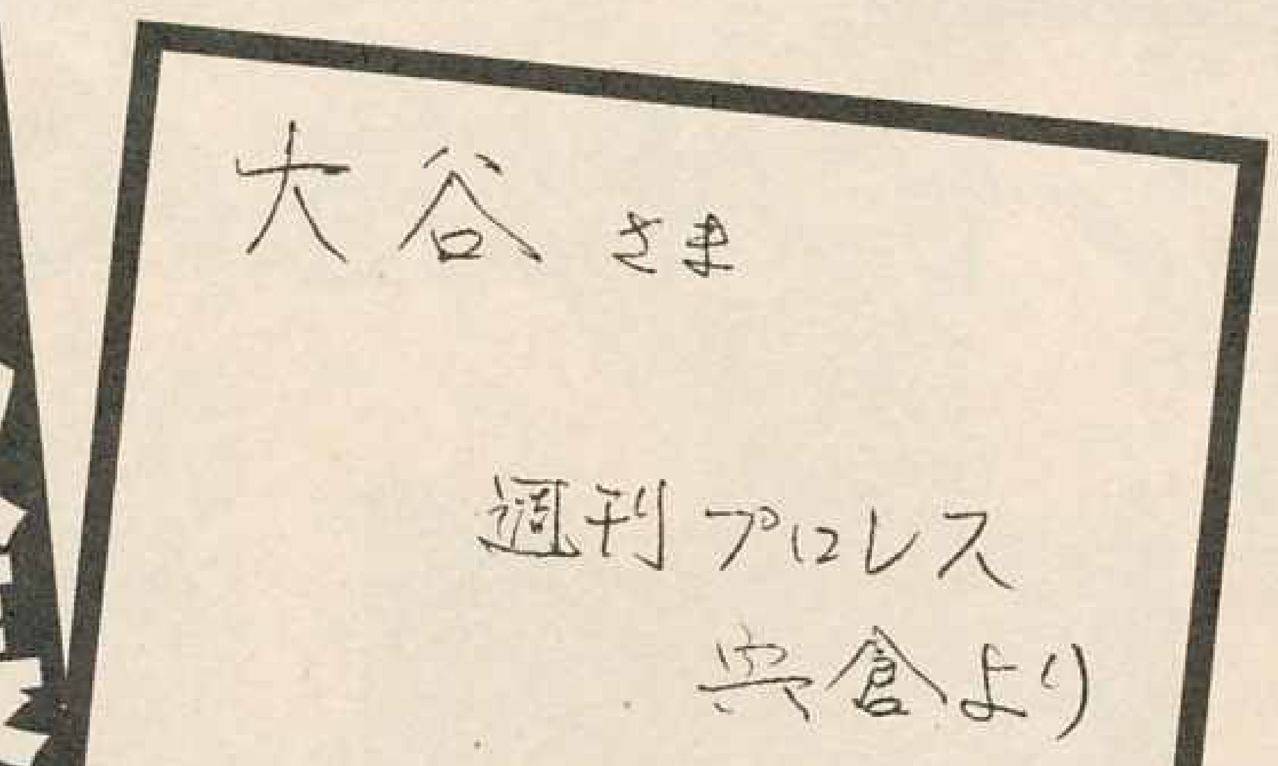
「これはノーギャラでいい！ 文中にもあるように、ハートの問題だから……。絶対に金は受け取らないから！」

男である。ステキである。ナイスガイである。そして感動的である。

そんなシッシーを見習い、ボクもこの原稿をあくまでもハートの問題でノーギャラ扱いとすることに、たったいま決定した。なお、金を渡されれば喜んで受け取る準備があることも念のため付け加えておく。

宍倉次長のピュア・ハートに、思わず感動!!

（『パンクラス公式読本・盾』他より）



大谷さま

週刊プロレス
宍倉より

これはノーギャラでいいッ！
文中にもあるように、
ハートの問題だから…
絶対に金は受けとらないから！
ただし、校正だけは見せてね

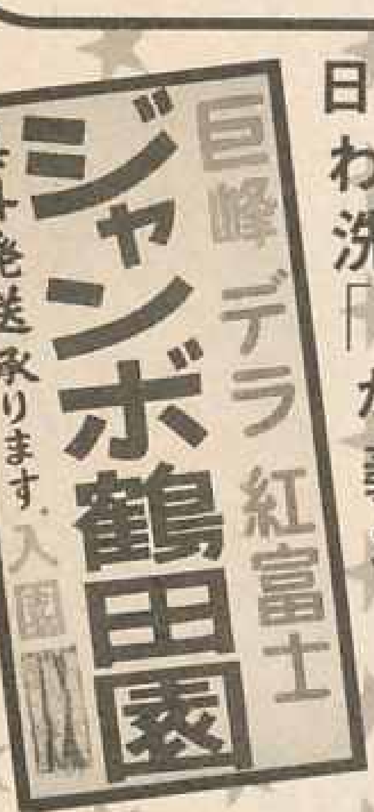
●キミも一緒に観察しないか？　時事ネタから発掘ネタまで読者投稿も広く募集中。ただし、愛のない敵意剥き出しの原稿はくれぐれもお断りです。「だけど、どっかで本物じゃねえんじゃねえかな、愛というのは」（猪木・談）

あなたが選ぶ

新連載！　プロレス名所巡りの不思議な旅に出かけよう！



vol.1 ジャンボ鶴田園に行こう！



日本全国にあるプロレスにまつわる秘宝、名所、ゆかりの人を洗いざらい探検する新連載！「プロレスについて考えることがプロレスである」という定義にのっとれば、プロレスを根源から考え、謎の答えを探すという行為は、これもまたプロレス。リングの上だけがプロレスじゃない！

別角度から。ちなみに兄さんは「ブッチャーが好き」なんだそうだ。





ジャンボ鶴田園はお兄さんが経営している。「開園期間しか出していない」という看板の前で小粋にポーズを取ってくれた。

ジャンボ鶴田園はジャンボ幻想の源流である！



果てしなく続くぶどう畑。どこまでが畑ですか？　と聞いたところ「ずっと向こうまで」とのこと。スケールが違う！



大自然をバックにオー！　山に囲まれた静かないい場所である。ちなみに近所の９割は「鶴田」姓なんだそうだ。



ぶどう畑にて。ファイティング・ポーズも大らかになってしまうから不思議。

佐々木健介が『二代目・長州力』に、西村修が『大猷修』にモデル・チェンジしたのが、最近の大きなモデル・チェンジであろうか。えっ、そうでもない？　本誌はそんな時流をいち早く取り入れ、『売店日記』が今回からは『ＲＡＤＩＣＡＬ　ＭＹＳＴＥＲＹ　ＴＯＵＲ』にモデル・チェンジ！　プロレス・ファンなら、ちょっと（ほんとにちょっとだけ）気になる（でも、すごく気になる）不思議スポットを毎回、探索してきます！

さて、第１回ツアーは、専門誌でも大きく紹介されたことのない伝説の『ジャンボ鶴田のぶどう園』（正式にはジャンボ鶴田園）である。ジャンボ直撃世代（平成２年〜）のボクは、ジャンボがいなかったらこの仕事には就いていなかったと断言できる。そのジャンボを育んだ環境に、ひとこと「ありがとう」を言いに山梨県まで行ってきました！

東京から車で約２時間、豊かな自然に囲まれた目的地にたどり着き、まず驚かされたのは屋敷がとにかくデカいこと！　我々を迎えてくれた気さくな奥様に広い応接室に通される途中、ふと横を見ると並のレスラーよりもデカい人が扇風機の前で豪快に寝転がっている。目まいのするような光景に多少うろたえながらも、天井の高い応接室で寿司をいただいていると、ヌ〜っと１９０センチ、１００キロ以上はあろうかという素晴らしい肉体の持ち主が入ってくるではないか!!　そう。寝転がってたデカい人こそ、誰あ

衝撃！クラッシュ・ギャルズが


石灯ろうまである風流なお庭


ただの段ボールに「ジャンボ鶴田」の文字が入ると、風格が漂ってくるから不思議なもの。





これが年間１００本程度しか生産しない『おらんちのわいん（英語だとOh! Lunch eno Wineとなるから不思議＆素敵！）』これはホントにうまい！




（上）ジャン鶴の大好物『ジャンボ鶴田園のぶどう』を守るかかし。（下）家の敷地内には川が流れている。ワイルドな環境がナチュラル・パワーの源流だ。

兄さんも閉じ込められたというお蔵。ジャンボの秘蔵品もあるのか!?




来園者がくつろげるスペースには、ジャンボ鶴田の栄光の軌跡がズラリ。ファンから送られた絵も飾ってあった。







「ありがとう」の気持ちを込めて、抱きついての記念撮影。並んでみると改めてデカい！

アクセス

巨峰とジャンボ鶴田のふるさとジャンボ鶴田園

[入園料] ５００円（ぶどうとおでんの試食付き）

[交通] 中央線塩山駅で下車。山梨交通バスを利用して塩平行きまたは洞雲寺行きに乗って、中牧入口で下車。そこから徒歩10分。駐車場あり。

[ジャンボな３大特典]

●オーッ！　花木、ワイン、ブドー液の展示即売もあります！

●オーッ！　ジャンボ鶴田園に行けば、巨峰が２割引で買えます！

●オーッ！　注文があれば全国各地にぶどうを発送してくれます！

お問い合わせ、ご予約はジャンボ鶴田園まで

〒４０４　山梨県東山梨郡牧丘町倉科１８２３

TEL　0553-35-2188　FAX　0553-35-3558

ろう2歳違いのジャンボの実兄・鶴田恒良氏（自称「25歳」）だったのだ！　「いや～、今日は朝から農作業してたから、眠くてねえ」と語ってくれるその目元はジャンボそっくり！　早速、我々がどれだけジャンボに心酔しているかを話すと、兄さんはいろいろジャンボにまつわる話を聞かせてくれた。「兄弟ゲンカ？　そりゃ兄だから負けませんでしたよ」「実家では歌の練習なんかしてなかったねえ」と昔をふりかえりつつ、合間合間には「オレの身長？　１６５センチ」「俺たち兄弟が大きいのは、米粒を縦に食べてたから（笑）」「プロレス？　ボクみたいにか弱い人間にはとても……（笑）」と、鶴田家伝統のフランクなジョークもかましてくれた。極めつけはジャンボ鶴田園特製ワイン（かなりレアな一品。ホントにうまい！）を兄さんと酌み交わすという夢のような体験をしてしまった！　最後は心の底から「ありがとうございました」とお礼を言って、我々はジャンボ鶴田園を後にした。

このジャンボ鶴田園は、ぶどうの季節の8月25日から10月15日まで開園しているそうだ。ちなみに兄さんの話だと「平日の昼間が狙い目。暇だからいろいろサービスしちゃうかもしれないねえ」とのこと。暇なヤツは、今すぐジャンボ鶴田園へ行くべし！

こんな面白スポットが今まで紹介されなかったのは、まさに謎！　これからもプロレスにまつわるミステリーな名所を探検するつもりです！

あなたが選ぶ

大槻ケンヂ＆紙のプロレス監修

トンパチ

パンチ田原も**大絶賛!!**
万引きしてでも
手に入れるべし!!

●お求めは、
最寄りの書店で

インタビュアー：大槻ケンヂ、浅草キッド、吉田豪

神の啓示か！　サタンの復活か！
世の中を不安に叩き込む!!
ザ・インテリジェント・センセーショナル・インタビュー集



表紙イラスト・佐山聡画伯
（現・タイガーキング）

かつてＧ・馬場さんが、
「シューティング？　それを含めたものをプロレスっていうんだよ！」
という実に見事な名言を残されたように
「トンパチ？　それを含めたものをプロレスっていうんだよ！」
ということをご理解の上お読み下さい

◎登場レスラー陣◎

- ●折原昌夫
- ●将軍ＫＹワカマツ
- ●矢口壹琅
- ●ターザン山本
- ●ザ・グレート・サスケ
- ●松永光弘
- ●セッド・ジニアス
- ●ジョージ高野
- ●邪道・外道
- ●レッドマン



定価は 紙ずもう付きで
これでも買わねぇかの **1500円**（税別）

企画・編集・ダブルクロス
発売・芸文社　TEL（03）5992-2051



衝撃！クラッシュ・ギャルズが誌上で突然そろい踏み！

ケンカ売られたときのために技術を身に付けておくんですよ

RADICALは「女子プロが下火だ」と言われている今こそ、女子プロレスを応援するゼ!!

長与千種

GAEA JAPAN

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

私はプロレスラーであることに大きなプライドを持ってます

長与千種



—今日は長与選手のプロレス観と格闘技観をうかがいたいと思います。

長与　自分のですか？

—いま目の前にいるのに、聞かないでどうするんですか（笑）。そもそも、プロレスを始めたきっかけって何だったんですか？

長与　「新人募集。月給10万円」って『月刊平凡』に書いてあったんです（笑）。もともとお医者さんになりたかったんで、自立してお金貯めれば、なれるかなと思って。あとは、「東京行くと飛行機にも乗れるし」とか（笑）。

—またぁ、天下の長与千種が（笑）。

長与　ホントですよ（笑）！　ホントに安易でしたね。

—目先のことしか考えてなかった？

長与　そういう部分はいまの子と変わらないかもしれないです。



—プロレスに入門する前には格闘技やってたんですか？

長与　もともと身体が弱かったんで、母親が町の空手道場に通わせてくれたんです。でも、そんなに強さを求めるって感じではなかったですね。でも、組手やってくうちに「チクショー！」って思うようになりました。

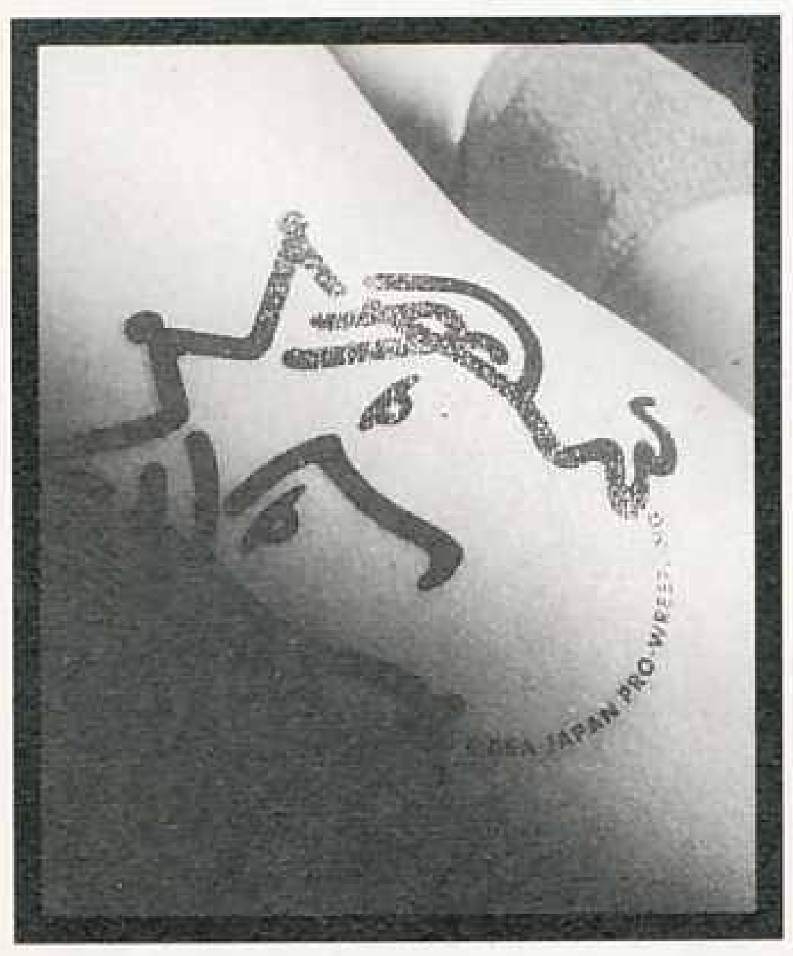
—闘争心は培われたと。それでプロレス入門して、最初のコーチは誰だったんですか？

長与　トミー青山さんという、天才レスラーと言われてた人がいるんです。弱視の方だったんですけど、ロープ・マジシャンって彼女のことですよ。ロープを自由に扱って、あの時代にトップロープを超えて、ひっくりがえって飛んでくこともやってた人ですから。その人がいちばん最初に教えてくれたのは回転エビ固めでしたね。

—また、いきなりですねえ（笑）。

長与　トミーさんには「使わないで後悔するんだったら、使え！」と言われましたね。使ってやろうと思ってたんですけど、全女のしきたりには勝てなかったですね。でも、彼女は最先端でしたよ。新人のあり方を改革しようとした人ですからね。

—なるほど。全女の前座って、抑え込みで決まっちゃったりしますね。



長与　私はそれを4年間やりました。

—それは、ある程度のキャリアを積めば抜けられるんじゃないですか？

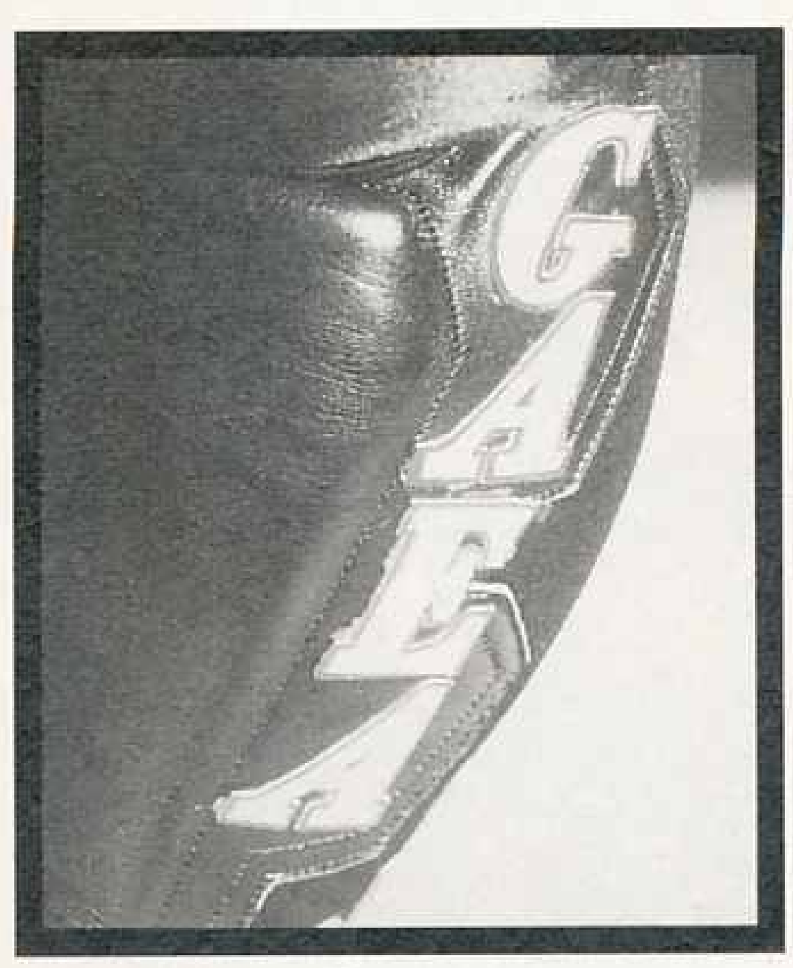
長与　プロレスのイロハを修得していく4年間だから、ホントは貴重なはずなんですよね。でも、「いろんなプロレスがあるのに、なぜ抑え込みでやらなきゃいけないんだ！」っていつも思ってましたね。

—そういう世界から抜け出すきっかけがクラッシュ・ギャルズだったんですか？

長与　そうですね。実を言うと、あれは即席で組まされたんですよね。「チャンピオン・チームに当たっていく選手がいないんだ。勝てないだろうけど、お前ら組め！」って言われて、今でも忘れられないですね（笑）。また、それが「辞めさせてください」って会社に言った矢先だったんで。

—何で辞めようと思ったんですか？

長与　つまらくて。でも、見返してやろうと思ってね。試合は負けたんですけど、突っ込んで行けたのがよかったみたいですね。まあ、ほとんどケンカでしたから。



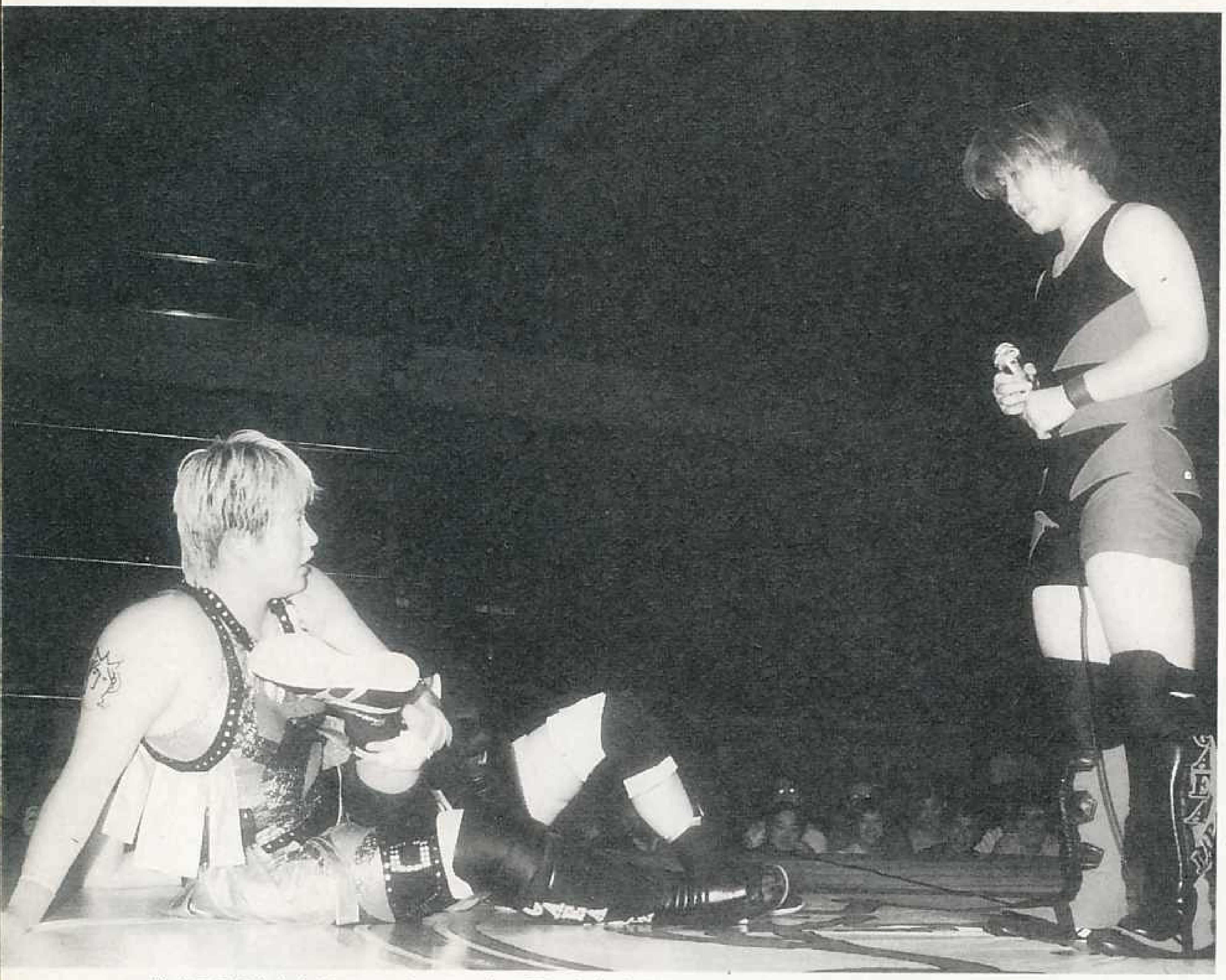
—ケンカ！　殴り合いの？

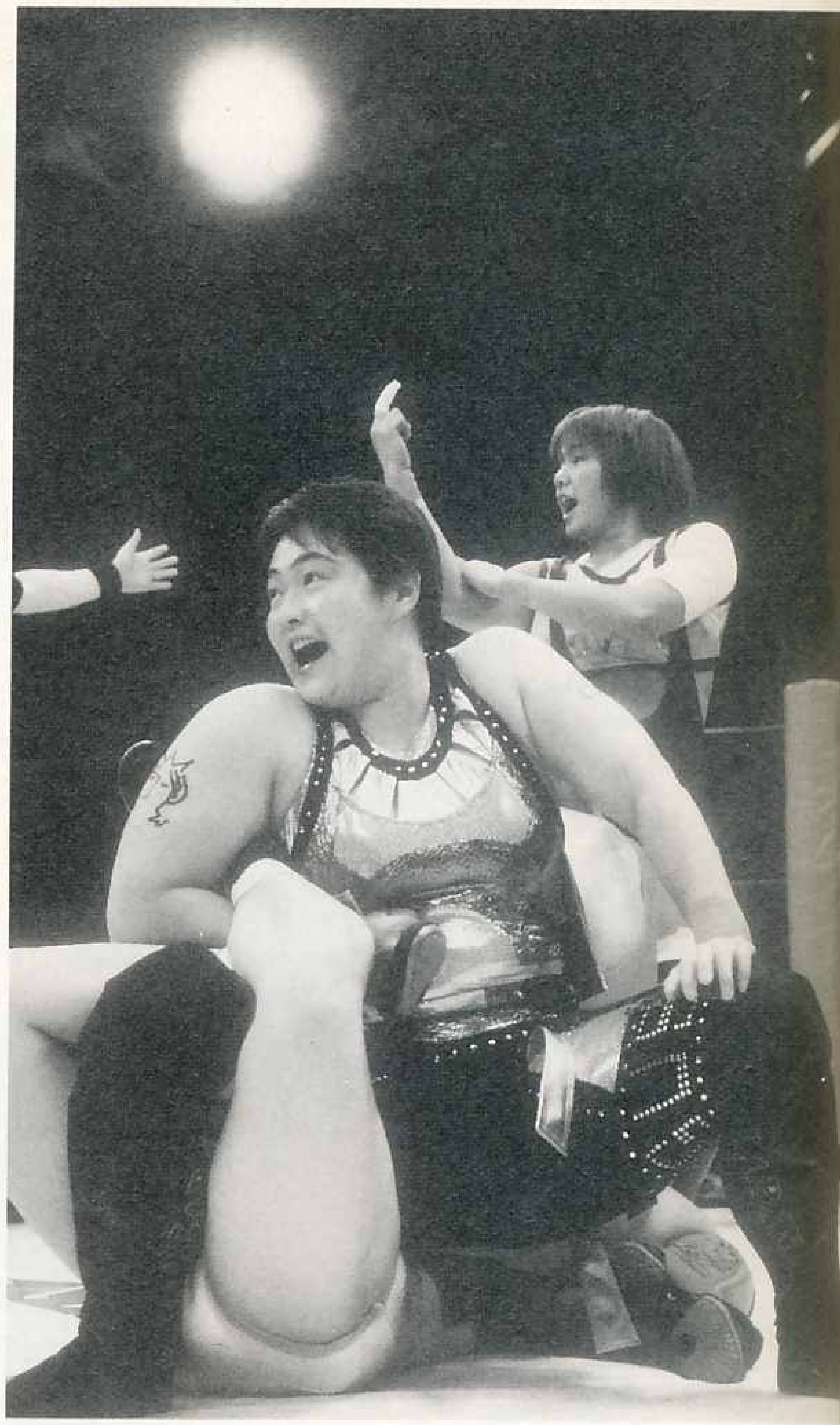
長与　勝ちゃあいいんだから！　強けりゃいいんだから！　抑え込みの強さなんかナンボでもないわけだから。

—ケンカの強さで勝ち上がるって、カッコいいけど厳しい世界ですよね。

長与　それにはキックは一発必中ということで、シーザー武志さんにはいろんな蹴りの方法、旧UWFでは前田選手とかに関節技を教えてもらったし、空手の山崎照朝先生にもお世話になりました。ホントに打撃一発で倒すこと

衝撃！クラッシュ・ギャルズが誌上で突然そろい踏み！





ガイアの新人たちはファンやマスコミの間でも高く評価されている。ときにはのびのびと、ときにはリング上で技術指導をしてしまうほど厳しく、新人を教育する長与千種。その独自の教育方法の裏には、自身の体験に基づく信念があった。

しか考えてなかったですね。だから、毎日稽古でした。地獄でしたけど、たまらなく面白かったです。

――その頃、飛鳥さんと一緒にトレーニングしてたんですか？

長与　やってましたよ。お互いキックミット持って蹴り合ったりして。

――全女でやってきた4年間への反発から、俗に言う『GAEAの驚異の新人たち』が生まれたんですか？

長与　抑え込みのレスリングを否定はしません。ただやっぱり、その中で駆け出しの頃がいちばん貴重なんですよ。私はただ先輩のお世話してただけで、試合の思い出がないんです。あの状況はつくりたくないんです。新しいことだし、賛否両論だと思いますよ。でもね、勝負なんだから勝ち負けがハッキリしてて当たり前だし、そこに嬉しかったり、チクショーという気持ちが出なければ勝負じゃないんですよ。

――どういうことですか？

長与　それって日本人の気質でしょ？日本人は御輿や祭りが好きだし。感情のぶつかり合いが勝敗に繋がってくるんだったら、ドンドン感情を出させます。それで白黒ハッキリさせる、これすなわち闘いだと思うんです。

――その闘いの内容そのものにも変化がありましたね。『GAEA・改』を始めたきっかけは何ですか？

長与　女子でもああいうことが出来るっていうのを見せたかったですね。いま、スタンド技とグランド技だけで勝負できる女子はほとんど皆無でしょ？ケンカふっかけられたりしたときのために、ちゃんと技術を身に付けておくんですよ。それってレスリングの原点なんですよね。『警視庁24時』とか見てても腕取って、抑え込んだりしてるじゃないですか（笑）？

――ガハハ、『GAEA・改』の原点は『警視庁24時』だった（笑）。アルティメットに触発されたということはないんですか？

長与　これは14年前から構想してたことなんです。だから、まったく関係ないですね。ああいうことやりたいわけじゃないし。

――ところで長与選手は街ではケンカしてないんですか？

長与　チンピラとはケンカしたことはありますね。う～んと若い頃ですよ、10代前半の頃。テレビで見たセリフ叫んだりして「どこの組だ～！」とかテレビで見たセリフ叫んだりして（笑）。それより大きな組の名前を言ってやろうと思ってたから（笑）。

――ハハハ！　でも、クラッシュで名前が売れたことで、「女だから勝てるだろう」って、絡んでくるバカが多かったんじゃないですか？

長与　いましたよ。でも、私が熱くなったら飛鳥が止めてくれましたんで。自分の方が気は短いんです。

――地方の会場で「八百長！」とか「オメエら、レズだろう！」とか汚いヤジが飛んだらどうしてました？

長与　突っかかっていきますね。でも、飛鳥が止めてくれますから。飛鳥は強いから。男でもやっつけちゃいますからね。スパーリングやっても、私は一回も飛鳥から取れなかったですから。

衝撃！ クラッシュ・ギャルズが誌上で突然そろい踏み！

飛鳥が怒ったら、もうおしまいです。

—その飛鳥さんはアルティメットに出場してましたけど、アルティメットには興味ありますか？

長与　あ〜、怖いです！　もう、自分がアルティメットをやる時代は終わってますよ。みんな騒ぐけど興味が湧かないんですよ。要するにホントの殺し合いでしょ？　好きじゃないです。

—でも言ってみれば、あれも感情のぶつかり合いですよね？

長与　違う次元のものだと思ってますね。こっちはルールがありますから。（キッパリと）長与はルールにのっとってしか出来ないレスラーですから。

—あえてルールを破ろうは思わないですか？

長与　それには年を取りすぎました。

—若い頃ならやったでしょ？

長与　若くてもやらなかったでしょうね。

—神取選手と対戦する話が持ち上がった頃は、どうですか？

長与　彼女とはプロレスラーとして、やりたかったですね。プロレスラーの彼女に魅力を感じたわけで。

—アルティメットに出ないことで、自分の中で強さを求める部分のプライドって傷つかないんですか？

長与　……私、プロレスラーだから。そっちの方に、よっぽど大きいプライドを持ってますから。

—じゃあ、アルティメットを避けるよりも、プロレスをナメられる方が問題だ、と？

長与　みんなレスラーはそっちの方が嫌なはずですよ。

—長与選手は世間にしっかり目を向けてるんですね。前号のウチの雑誌で『世間のプロレスファンじゃない人500人アンケート』をやったんですけど、世間は依然としてプロレスを蔑視してますからね。

長与　ああっ！　読みましたよ！

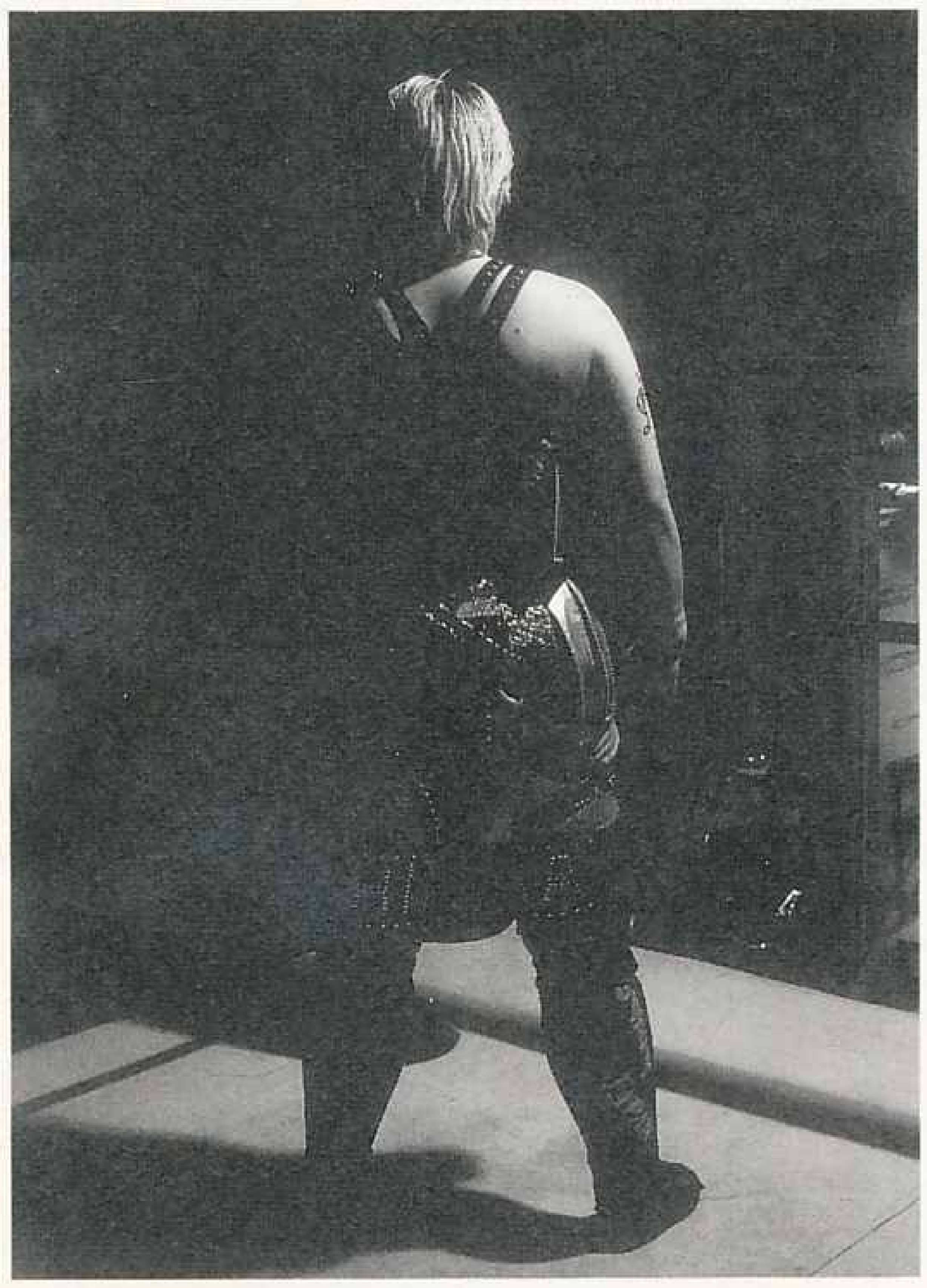
—また、読んでるとホント腹立つんですよ。「八百長のくせに」とか「情操教育に悪い」とか！

長与　最近だと、酒鬼薔薇が余計なこと言ったんで腹立っちゃいましたね。余計なこと言いやがって（怒）！

—ああ、プロレス技で淳君を…っていう。長与選手はプロレス蔑視発言には、思いっきり牙を剥いてくれそうですよね。

長与　プロレスを食わず嫌いしてる人がいっぱいいると思います。それじゃダメですよ。見ないと何なのかわからないでしょ？

酒鬼薔薇に腹立っちゃいました 余計なこと言いやがって（怒）！



長与千種

—じゃあ、そんな世間に落とし前をつけないといけませんね。

長与　世間のプロレスファンじゃない人に「見てろよ、このヤロー！」って感じですね。見返しますよ！　私じゃなくて、誰かが（笑）。

—長与選手が見返してくださいよ（笑）。じゃあ、この中（この日、北斗を除く全選手が集結していた）の誰かが見返すということですか？

長与　そうです。

—じゃあ、現在の長与選手は世間にナメられないような選手を育てるのがいちばんの課題ですね？

長与　そうですね。「世間を見返してやるぞ！」ってホント思いますよ。

—そういう選手を是非、僕らの前に送り出してください。ところで、長与選手は仕事がない限りは練習を見てるんですか？

長与　はい。車で通ってます。

—車と言えば、ボク昨日、車にはねられたんですよ。

長与　ええっ！　治療費は請求したんですか？　何だったら、ここ（道場）でスパーリングやって、骨でも折って余分に治療費をもらえるようにしましょうか（笑）？

—それだけは勘弁して下さい（笑）。

【97年7月31日、GAEA JAPAN道場にて収録】


8月30日（土）後楽園ホール
（18：30開始）
後楽園でワンナイト・タッグ・トーナメントが開催されるんです！　また、メインはガイアのTOP4が激突する60分1本勝負。
長与千種&北斗晶 VS KAORU&山田敏代

里村&沼尾
植松&佐藤
広田&石井
園子&永島
松本&天美
→ 優勝

9月20日（土）川崎市体育館
（18：00開始）
『川崎　DOUBLE　DESTINY』
注目のメインイベントは60分1本勝負
AAAWヘビー級選手権試合
王者・**長与千種 VS**
挑戦者・**アジャ・コング**

衝撃！クラッシュ・ギャルズが誌上で突然そろい踏み！

相手を活かす強さを持った人間、それがプロレスラーなんです！



ライオネス飛鳥

FREE

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai

撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

衝撃！クラッシュ・ギャルズが誌上で突然そろい踏み！

プロレスと格闘技の狭間で「屋上から飛び降りよう」と思った

――今日は飛鳥さんのプロレス観や格闘技観を聞こうと思ったんですけど、ここまで来る途中で車にはねられちゃいました（笑）。6ｍ吹っ飛んで頭からおちて、すげえ頭痛がするんですけど、よろしくお願いします。

飛鳥　不運な出来事ですね（笑）。

――たしか飛鳥さんも復帰直前に事故ったんですよね？　これも何かの因縁かなと思ったんですけど

飛鳥　そう、「復帰します」って記者会見やった翌朝に救急車で運ばれました（笑）。もうあれ以来、バイクは乗ってないですよ。

――その復帰戦は全女の東京ドーム大会（94・11・20）でしたね。

飛鳥　その試合自体はメモリアル・マッチだったんですけどね。最初に引退したときには「やり残したことはない」という気持ちで辞めたんだけど、芸能の仕事も女子プロレスがついて回る仕事ばっかりだったし……。「東京ドームという大舞台でメモリアル・マッチをしてみないか？」って話もあったんで……。決断の時かな、と。

――ちょうどチャンスだったんですね。で、復帰した当初って格闘技路線だったじゃないですか？　飛鳥さんって堀田選手と女子初のアルティメット戦を見て以来、ボクの中ですごく気になってたんですよ。「何だ、このいびつな試合は!?」って思って。

飛鳥　あれをアルティメットと呼ぶのはとっても恥ずかしいですね。

――あの試合は会場に見に行ってたんですけど、寝ちゃいましたね。

飛鳥　でしょ？

――ボクがプロレス会場で初めて寝た記念碑的試合ですよ。

飛鳥　それはやっぱりダメなんですよ。だってさ、なぜみんなアルティメットを食い入るように見るかといったら、寝る隙間もないほどの激しい闘いだからじゃない？　あんなの緊迫感も、何もない試合でしたよ。あれは超恥ずかしいですよ！　超頭に来ましたよ!!

――超来ましたか（笑）。

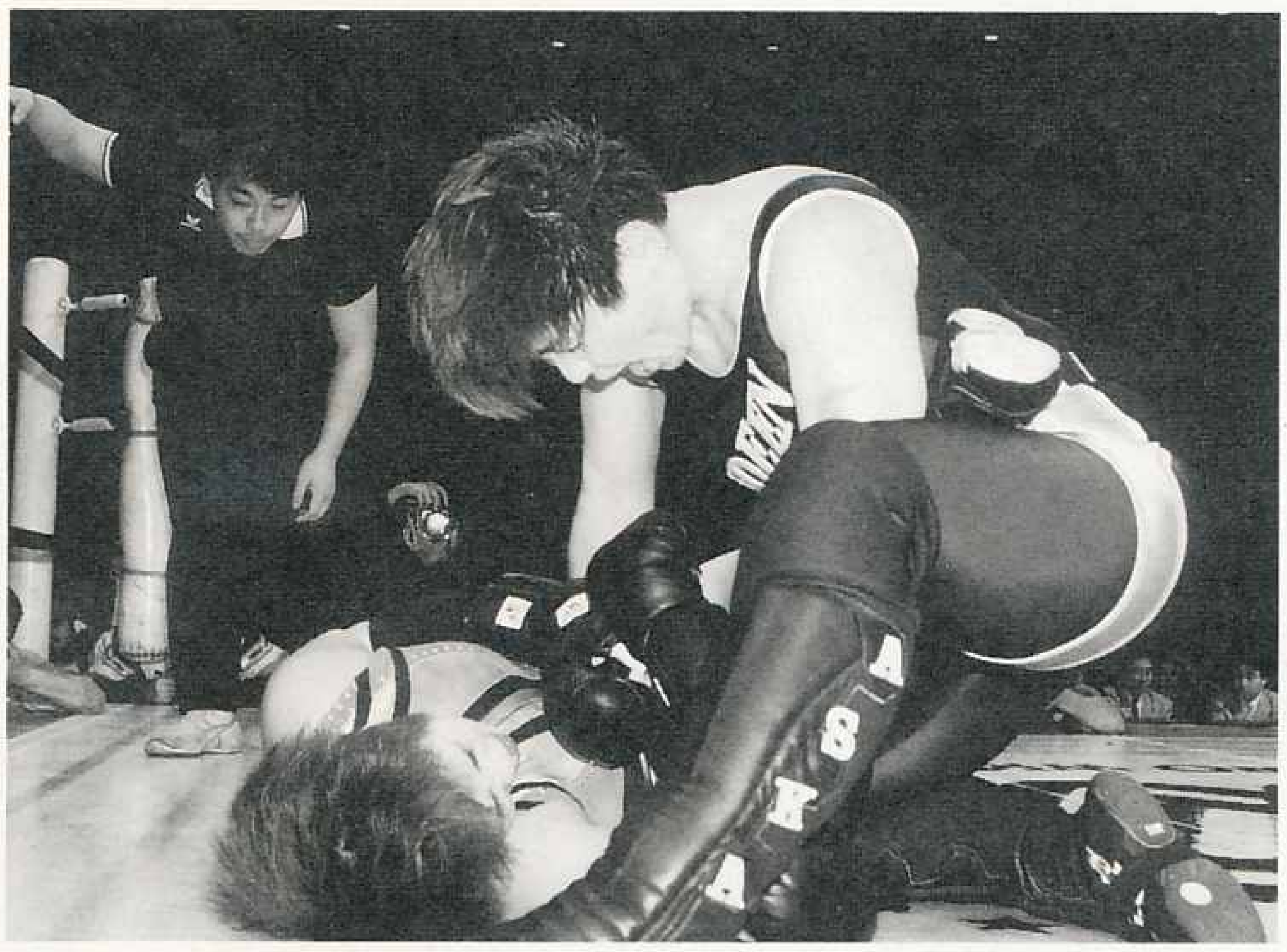
飛鳥　アタシが復帰して続いてるのは「ああいうスタイルだったら、アタシのほうが強い」と思ったのがきっかけですよ。

――あっ、そこで火が付いちゃったんですね？

飛鳥　付きましたね!!

――じゃあ、現在のライオネス飛鳥を語る上でのターニングポイントじゃないですか！

飛鳥　いや～、あれはホンットにアタシも辛かったよ。2人ともアルティメットを把握してなかったね。



「同期にはスパーリングで1回しか負けたことがない」という飛鳥。復帰後の95・3・26、横浜アリーナで行われた女子初のアルティメット戦では納得のいかない試合内容に、試合後の控室で大荒れしたという。

――うわ～、歴史的な試合をボクは寝ながら観戦してたんですね（笑）。

飛鳥　あの一戦はプロレスにも格闘技にもなってない、アタシの格闘技＆プロレス人生の中で消し去りたい！

――ある意味、それで火が付いたんだから、いい起爆剤じゃないですか。

飛鳥　逆の発想をすればね。

――でも、堀田さんも飛鳥さんと同じ悩み方をしてるんじゃないかな、と思うんですよ。プロレスと格闘技を両立しなきゃいけないという状況でね。

飛鳥　どうでしょう？　でも、自分にとってはプロレスの強さと格闘技の強さってまったく別なんですよ。

――プロレスの強さと格闘技の強さは別！　同時に両立はしませんか？

飛鳥　そう、最初のスタートの時点で、スタイルが全然違うんですよ。アルティメットの試合に出るときは全然プロレスは意識してないですもん。

――見せるという部分を意識してないということですか？

飛鳥　意識してないですよね。で、私がU★TOPに出るんで骨法の道場に通ったとき身に付けた技術は、ホントにプロレスとはまったくかけ離れた技術なんですよ。強さというひとつの言葉に乱暴にまとめてしまうなら一緒ですけどね。ただ、格闘技の強い人がプロレスのルールでやって強いかっていったら、やっぱり違うと思うんですよ。

――じゃあ、それぞれ違うものを見せてかなきゃいけませんよね。

飛鳥　そう、そう。そういう意味では強さを追求する道筋が違いますね。だから、格闘技戦は私の中ではまったく別物。プロレスって結局、相手あってのものじゃないですか？

――そうですね。

飛鳥　相手も活きて自分も活きるのがプロレスじゃないですか？　でも、格闘技って相手が死んだとしても自分が勝てばいいんですよ。ハッキリ言っちゃえば！　そこの強さの違いですよ。

——プロレスは相手を活かす強さ！
飛鳥　そうですね。相手を活かせる強さは大事ですよ。だから、プロレスと格闘技は違うんですよ。プロレスはプロレスラーとしての強さをお客さんに理解してもらうんですよ。一緒にしちゃうから、プロレスラーがナメられるんですよ！　だから、プロレスラーが



7・22の長崎・NCCスタジオでの冬木軍の興行で、冬木と対決してしまった飛鳥。アルティメットからミックスド・マッチまでこなしてしまうフットワークの軽さは、飛鳥にしかないものだ。

ライオネス飛鳥

格闘技の試合に出るんだったら、素の人間で出ないとダメなんですよ。U★TOPのときも「アタシはライオネス飛鳥という名前で出るけど、本名の北村智子のつもりで出る」ってマスコミに言ったんですよ。でも、プロレスには試合で勝った選手よりも、負けた選手が光っちゃうことってあるじゃないですか？　だから、強いだけじゃダメなんですよ。強くて、その試合の花にならなければいけないんですよ！

——試合の花！　いい言葉ですね。

飛鳥　そこで相手も潰し切っちゃいけないんですよ。相手がいなけりゃ出来ないことなんだから。

——今はプロレスの強さと格闘技の強さを分けて考えてるんですね。プロレスやる以前から漠然と強さに対するこだわりはあったんですか？

飛鳥　プロレスに入る以前は格闘技は全然やってなかったんですよ。プロレスの始まりはビューティー・ペアに憧れてっていう、みんなと同じ動機なんですよ。ただ、やっていくうちにまず強さに惹かれたんです。

——入門してすぐに？

飛鳥　そう。強くなければ……。

——輝けない？

飛鳥　というか、強さで新人王とかジュニアとか全日本のベルトまでは行けたんですよ。でも、全日本取ったときに、会社から「お前は強いし、技も出来るけど、つまんない」って言われたんですよ。そこで初めて、「プロレスって強さだけじゃダメなんだな」って思ったんですよ。テクニックとか、お客さんを意識しないといけない。極端な話、強さだけならアマレスとか実戦空手をやってればいいわけだし。3年目で壁にブチ当たったときに長与千種っていう、アタシとはまったく正反対のタイプのレスラーと遭遇して開眼しましたね。だからクラッシュ・ギャルズのときは強さを追求しながら見せることも考えてました。

——両立できましたか？

飛鳥　そうですね。うまい具合にアタシが見せられない能力を千種が持ってたりとか、千種が見せる方に専念するんだったら、私は強さでお客さんに満足してもらったりして。すごくいいバランスだったと思いますよ。

——プロレスラーな自分と強さを求める格闘技者な自分とのせめぎあいはなかったですか？

飛鳥　う～ん……。ジャガーさんが辞める前かな……アタシ、ノイローゼになっちゃったんですよ。

——ええっ!!!!

飛鳥　ちょうどその時期、芸能の仕事をバンッと辞めちゃったんですよ。超ノイローゼでね、そこで強さを求める狭間にはまっちゃったんですけど。いま思えば、普通の人間があまり経験できないレコーディングとかTV出演とか雑誌の表紙になったりとか、憧れのビューティー・ペアとまったく同じような状況だったわけじゃないですか？

骨法を習い始めたのは、根底では強さを求めていたから

ライオネス飛鳥

衝撃！クラッシュ・ギャルズが誌上で突然そろい踏み！

嬉しい反面、練習する時間がまったくなくなったんですよ。「え～、アタシはレスラーなのに何でこんなことしなきゃいけないんだろう?」って、思っちゃったんですよ。いまだから言えるけどアタシは当時、歌うのはあんまり好きじゃなかったし（笑）。

—何でですか、カッコいいじゃないですか！

飛鳥　ヘタだったし、あんまり好きじゃなかったんで。いまはカラオケ大好きですけど（笑）。

—因果なもんですね（笑）。

飛鳥　当時は苦痛でしょうがなかったですね。一日が芸能の仕事と試合と取材で……。練習なんて全然してないですよ。それで崩れ去るのが怖かったですね。試合するのが怖くて、試合前に帰っちゃったりもしたし。

—すっぽかしちゃったんですか?

飛鳥　2回くらいすっぽかしました（笑）。ホンッットに超ドン詰まりで、屋上で飛び降りようと何回も思ったし。

—えぇっ！

飛鳥　それぐらいひどくて。ちょうどその当時、アイドルの岡田有希子ちゃんが自殺したときですよ。で、ジャガーさんに、「アンタさ、（自殺は）やめときなよね！」って言われたときに、アタシは「フッ」って笑って「わかんないね」とか言ったらしいんですよ（笑）。

—ガハハハハハ！　でも笑いごとじゃないですね。

飛鳥　いまじゃ笑い話ですけどね（笑）。それでジャガーさんはゾーッとしたらしいんですけど（笑）。

—そりゃたまんないですね（笑）。気が気じゃないだろうなぁ。

飛鳥　屋上から下を覗いたことも何回かあるんですけど、理性が残ってるんですよ。「クラッシュ・ギャルズの飛鳥、自殺！」とか見出しが頭に浮かんで来たりして（笑）。



[Jd'興行日程]
9/5（金）大阪府立第2体育会館
9/7（日）後楽園ホール

—「こんな見出しじゃ格好悪いな」とか想像しちゃって（笑）？

飛鳥　まだ理性あったんで、やめといたんですけど。そんなときにハッと気が付いたらジャガーさんのところに電話してました。そのときの状況から抜け出すためにジャガーさんにはお世話になりましたね。その時に自分の中にたまってたものを全部ジャガーさんに吐き出したんですよ。千種と私が正反対なんで「なんで彼女に出来ることがアタシに出来ないんだ！」って思っちゃった部分もあって、「あのパフォーマンスが、なんで出来ないんだろう？　アタシは一体どうすればいいんだろう？」って、もがいてたんですよ。そしたらジャガーさんが「自分のやりたいことやればいいじゃん」って。単純な言葉なんですけど、「あっ、そうなんだ！」って思ったら周りがパーっと開けてきて。それで自分の中でケジメをつけるために、自分のプロレスにライオネス飛鳥としての色をつけたいと思って、骨法を習ったんですよ。

—じゃあ、強さへのこだわりじゃなく、色としての骨法だったんですか!?

飛鳥　色としてって言ったら骨法の先生に失礼ですけど、その時代には骨法で身に付けた技術はプロレスでしか活かせなかったんですよ。それでもやっぱり、根底には強さに対する欲求がありましたよ。

—なるほど。ところで、格闘技路線には、もう戻らないんですか？

飛鳥　いろんなところから「異種格闘技戦やりませんか?」って、お話はいただくんですよ。でも、いまの状況だと、平成裁恐猛毒ＧＵＲＥＮ隊のリーダーとしてのライオネス飛鳥は……格闘技戦には出れないな（キッパリ）。格闘技戦って一か八かの勝負ですから。

—一か八かで芸能界には戻らないんですか？

飛鳥　もう、やりませんよ（笑）。

—残念だなぁ。ボクらの世代（20歳前後）は飛鳥さんの出演してた『ファミっ子大集合』を見て育ちましたから。

飛鳥　そうなんですかぁ（笑）。でも、もうやりません！

—そうですか。今日はいろいろいい話をありがとうございました。車に気を付けてお帰りください（笑）。あ～、吐き気がしてきた。病院で検査受けに行こう……。

【97年7月30日、飛鳥の秘密特訓場近くの喫茶店『PRIMO』にて収録】

八方美人と笑わば笑え！本誌はリングスとパンクラスどっちも応援します!!

パンクラス

柳澤龍志



リングス

長井満也

時間差 二元インタビュー

リングスvsパンクラスの局地戦勃発！　キックボクサーとしてもプロとなった元シュートボクサーの長井満也（リングス）、トーワ杯経験者の柳澤龍志（パンクラス）。この両者はいずれどこかのリングで相まみえる運命なのか!!　まずは誌面上で宣戦布告か!?　刮目して見よ!!

MITSUYA NAGAI

長井満也

いい人の仮面を被った腹黒師



聞き手／原タコヤキ君
interview by Takorin
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

―長井さん、今日はよろしくお願いします！　高阪のインタビュー読ませていただきました。

―ありがとうございます（笑）。

長井　おてやわらかにお願いします（笑）。

―こちらこそ（笑）。あのー、今日のテーマはズバリ、長井さんの全日本キック本格参戦ということなんですけど。いつぐらいからそんなことを考えていたんですか？

長井　それ自体はけっこう前の話になるんですよ。93年にタンワさんっていうタイ人のコーチの方がいらっしゃったんですけど、その方に最初、キックの技術を教えてもらってて、その時からグローブの世界に本格的にチャレンジしてみたいと思ってたんです。だからタンワさんにも「ゆくゆくはグローブにチャレンジしてみたい」っていうことは言ってたんですよ。その時にはすでに前田さんにもそういう話はしてたんですけどね。

―前田さんは何て言ってたんですか？

長井　いや、基本的にはそういう方向で考えてくださって、リングスのリングでグローブの試合をしようかみたいなところまで話は行ってたんですけど、でも、まあいろんな問題があって、うやむやになっちゃったんですよ。でも、自分の年齢とかキャリアを考えてみると、いまが一番いい時期だと思って。

―キックのプロテストを正式に受け

ようと思ったのはいつなんですか？

長井　今年の一月に前田さんにもう一度自分の気持ちを伝えて、その後、シアトルのモーリス・スミスのジムに行って練習してたんですよ。そこでスミスのマネージャーが僕を見て、全日本キックの方に「長井っていうのは使える」っていうことを言ってくれたらしくて。

――長井さんから売り込んだわけではないんですね。

長井　そのマネージャーには「本格的にキックをやってみたい」っていうことは言ってたんですけど。でも、実際に全日本キックさんに話が行ってたとはホント知らなくて。

――でもいいタイミングですよね。

長井　そうですね。それでキックをやるんだったらスペシャルマッチ的にポンッと出るんじゃなくて、ある程度長い期間やりたいって思ってたんで、それならちゃんとライセンスを取った方がいいっていうことになったんですよ。

――それで実際にプロテストを受けたわけですよね。それはどんな内容やったんですか？

長井　まず、視力の検査があって。それは裸眼で0・3以上ないとダメなんですよ。その後筆記試験で25問中20問正解しなきゃいけなくて。で、その後スパーリングなんですけど、ただスパーリングするだけじゃないんですよ。3分1ラウンドなんですけど、最初の1分はパンチだけ、次の1分はキックだけ、それで最後の1分はトータルでやるんですよ。

――その前の筆記試験はどうやったんですか？（笑）

長井　全問正解です！（笑）。

――そこは強調しておきましょう（笑）。スパーリングは問題なかったんですか？

長井　特になかったんですけど、僕の相手をしてくれた人があんまりキャリアのない人だったんですよ。それで僕がダウンでもしちゃうと、その人に「俺はリングスの長井からダウンを奪ったんだ！」って一生言われちゃうから、それだけはちょっと気になりましたけど。

――なるほどねえ（笑）。さすがに不合格になることは考えられなかったでしょ？

長井　ただ、あえてプロレスラーって言っちゃいますけど、僕らプロレスラーがキックのプロテストを受けるというと、なんか体が大きくて力任せにパンチを打ってるっていうふうに思われるのはイヤだったんですよ。基本から練習して、ちゃんとできるんだっていうところを見せたかったんで。

――無事合格してよかったですね。

長井　でも、逆に「長井プロテスト不合格！」っていうものインパクトあったかなって（笑）。

――しかも筆記で落ちるとなおオイシイですね（笑）。

長井　いいですねえ（笑）。

――やってほしかったなあ（笑）。そういえば、パンクラスの柳澤選手も同じ日にテストを受けてるんですよね。

長井　柳澤選手がプロテストを受けるって聞いたのは、テストの3日くらい前かな。

――あ、そうなんですか。

長井　びっくりしましたね。柳澤選手とはあんまり面識ないんですけど。

――キックデビューは柳澤選手が一足お先って感じでしたけど。

長井　そうですね。でもこれは興行的な問題で、けっこうリングスも全日本キックも興行が月末にあることが多くて、ぶつかっちゃうんですよね。だから、もしキックの出場が決まると、今後リングスの試合を欠場することもあるでしょうね。

――柳澤選手なんかは、パンクラス所属という形をとりながらも、どちらかというとキックにも比重を置くみたいですけど、長井さんのスタンスはキックもリングスもどっちもやっていくっていう形なんですか？

長井　キックをアルバイト的にとらえられるのがイヤなんですよね。だからといって、やっぱりこうやってプロテストに合格しただけで取材に来てもらえるのも、それはリングスのおかげだし。キックのプロテストに合格しました、じゃあ辞めますじゃないんですよね。だから、体が二つあったらいいんですけど。欲張りなんです（笑）。

リングスで限界を感じたからキックへ行くわけじゃないんです

腹黒師

MITSUYA NAGAI

――強力な二足のワラジですね。

長井　別にキックボクシングの練習したからって、リングスでの闘いにマイナスになるわけじゃないし、どっちにも重点置いてやりたいですね。

――ただですね、ズバリお聞きしたいんですけど、リングスの古株である長井選手が、いまキックをやるっていうのは、ある意味でリングスでの闘いに限界を感じてしまったのかなって思ったんですけど。

長井　いや、ただ自分がやってみたいだけです（笑）。

――それだけ？（笑）

長井　本当はもっと早い時期にやりたかったんですけど、でも、一時、山本（宜久）がバーリ・トゥードやったりとか、髙阪がジャケットやったりとかあったじゃないですか。そうやって他の選手が外に出ていってる時は、自分がリングスを守らなきゃいけないと思ってましたから。ただ、いまは状況が変わったから好きなキックをやってみたいなと思っただけで。リングスで限界を感じたとしたらとっくに辞めてますよ。だから、「なぜキックをやるんですか？」って聞かれたら「好きだから」って言うだけですよ。前からボクシングとかキックは好きで、試合があればできるだけ観に行ってたんですよ。格闘技の最初のアプローチがシュートボクシングだったっていうのが大きいんだと思いますけど。

――長井さんがシュートボクシングを始めたのはいくつからなんですか？

長井　18歳ですね。でも、その前にシューティングをやってたんですよ。

—あ、そうなんですか。またなんでシューティングやったんですか？

長井　僕、もともとプロレスファンだったんですよ。それで将来プロレスラーになりたかったんです。

—ちなみに誰のファンやったんですか？

長井　初代タイガーマスクですね。とにかくハマっちゃって、「ああいうふうにはなれないだろうけど、でもプロレスラーにはなりたいな」って思って。でも、いきなり道場に行ってもダメだろうから、何か格闘技をやった方がいいなって思ってシューティングに行ったんですよ。憧れてた佐山さんがやってるわけだし。だからホント、ただのプロレスファンだったんですよ。

—当時、佐山さんってメチャクチャ怖かったでしょう（笑）。

長井　竹刀でボコボコ殴ってましたね。でも、ボコボコ殴った後に隅っこでおにぎり食べてましたけど（笑）。

—カカカカカ。

長井　でも怖かったですねえ。自分も殴られましたよ。

—いやホンマに昔は怖かったらしいですもんねえ。そうかあ、長井さんはシュートボクシングやなくてシューティングが格闘技のスタートやったんですね。

長井　で、シューティングって打撃も関節技もあるじゃないですか。その両方をやってみて、自分は打撃の方が好きだったんですよ。もちろんグラウンドも大切なんですけど、その当時は二つのことをいっぺんにはできなかったんで、打撃を専門にやろうと思ったんです。

—打撃もグラウンドも同時にやって、それで打撃が好きだっていうのは何なんでしょう？

長井　わかんないですねえ。それは、なんで自分は右利きなのかっていうことと同じくらいわからないですねえ（笑）。

—まさか、実は長井さんがすぐに人を殴るような性格だったってことはないですよね（笑）。だってケンカなんかしないでしょ、長井さんは。

長井　いや、人並みにはやったんじゃないですか。

—ええっ!?　人並みってケンカしたことあるんですか？

長井　みんなするでしょ、ちっちゃい頃は。

—まあそりゃそうですけど、そんな長井さんのようないい人がケンカなんかしたらダメですよ！（笑）

長井　でも、実はこう見えてけっこうしたたかなんですよ。

—ホンマかなあ（笑）。

長井　けっこうネチネチした性格なんで（笑）。

—ええっ!?　それは私生活ですか、それともリング上ですか？

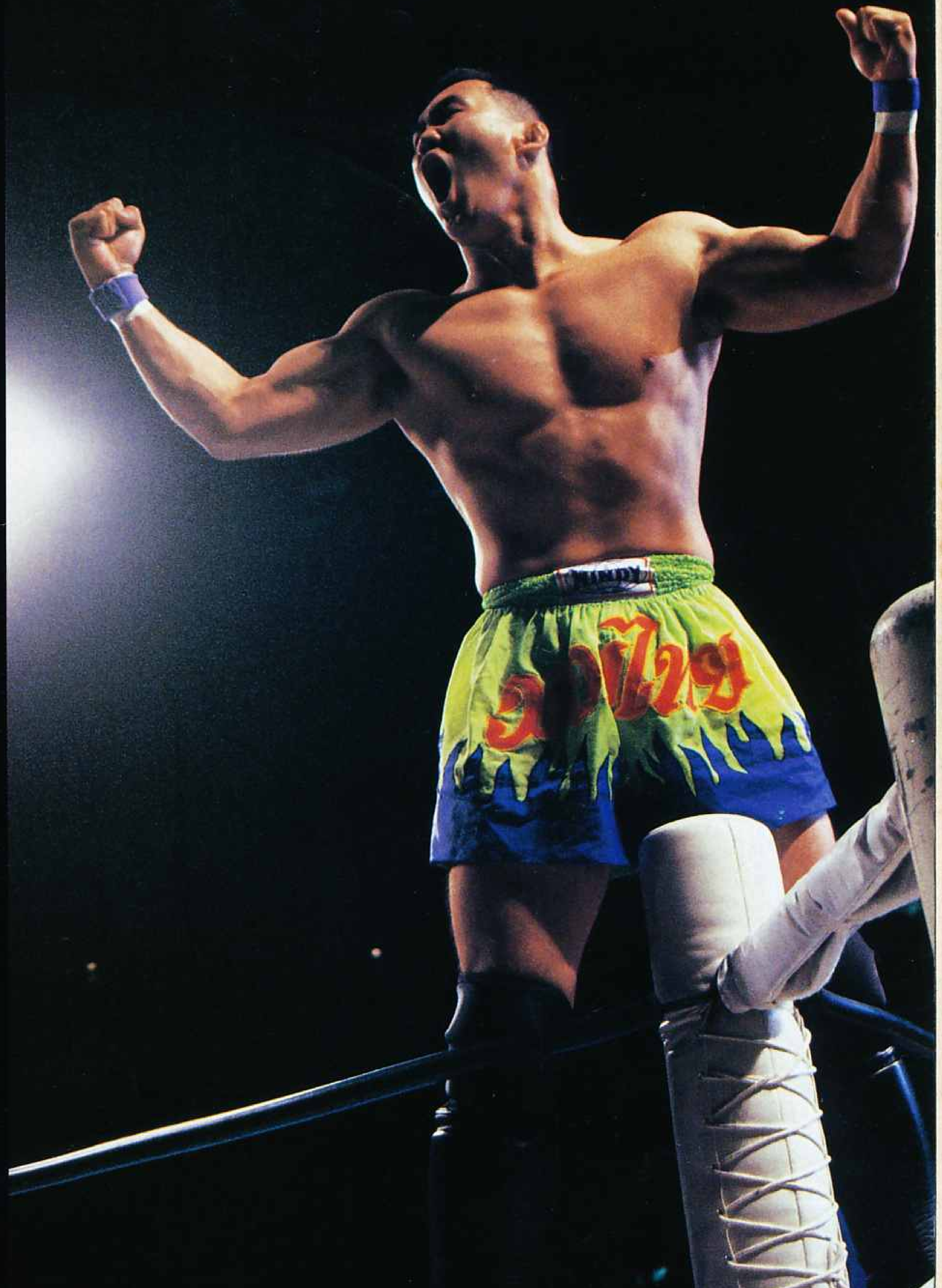
長井　全部！

—全部（笑）。

長井　いつもこうやってニコニコしてますけど、腹の中では「こいつ、いつか殺してやる！」って思っちゃうタイプなんですよ（笑）。

—また悪い男やなあ！

長井　でも、そういうところがないと



腹黒師

MITSUYA NAGAI

この仕事やってられないでしょ。「次やったら倍にして返してやる！」っていう部分が。
―長井さんのそういう部分がもっとリング上で見えるといいんですけどねえ。なかなか見えにくいですけど。
長井　まあ、キャラクターがありますから（笑）。でも、そういう気持ちはありますよ。やっぱりこういう仕事って「負けちゃった、アハハ～」じゃあできないですから（笑）。
―そらそうや（笑）。で、シュートボクシングの話に戻りますけど、何年くらいやってたんですか？
長井　2年くらいですね。最初にアマチュア大会に出たんですけど、それが格闘技の初めてのデビューだったんですよ。それでねえ、自分の番が回ってくるのが怖いんですよ！　ホントに怖くて怖くて、「なんで俺、こんな怖いことしなきゃならないんだろう……」って思って涙出てくるんですよ。
―へえー。
長井　マジで。
―その恐怖感っていうのは何なんでしょう？　人と殴り合うのが怖いとか、あるいは人前に立つのが怖いとか。
長井　何なんでしょう。とにかく「どうしようどうしよう」と思って、負けることしか頭に浮かばないんですよ。
―はあ。やる前から負けることを考えていたんですね。
長井　でもリングに立ったら相手に飛びかかってましたけどね（笑）。
―カカカカカ。で、その後プロとして2年間シュートボクシングをやって、なぜ辞めたんですか？
長井　ちょうどその頃、第二次UWFが出てきたんですよ。それで有明大会を観たんですけど、自分にとってはホントにインパクトあって！　で、しかもシュートボクシングでやってきたことを生かせるじゃないですか。それでやりたいなと思って。その頃ちょうどハタチだし、チャレンジするなら今しかないと思ったんで。
―あの当時のUWFって、確かにそうやって観てる者をやりたいなって思わせるだけの勢いはありましたね。
長井　あの頃はUWFに入れるだけでも、選ばれし者じゃないけど、特別だって思ってましたから。
―そこでUWFに入ったっていうのは、やっぱり長井さんがもともとプロレスファンだったっていうのが大きかったんですかね。
長井　どうなんですかねえ。まあそれもあるかもしれないですね。
―それでシュートボクシング辞めて、UWFに入門したんですね。入ったのはいつ頃ですか？
長井　解散の前の年ですね。
―入ってみてどうでした？
長井　いやあ、キツかったですねえ。いま、もう一回やれって言われてもできないですね。練習もキツイし、いま思えば、前田さん、高田さん、藤原さん、船木さん、鈴木さんと……。
―またキッツイ人ばっかりですもんね（笑）。
長井　そうですね（笑）。毎日練習して雑用して、生活に余裕なかったですよ。でも、自分の中ではいい経験したなと思いますけど。
―その後ですか、ケガをしたっていうのは。
長井　解散した年の4月に、スパーリング中に首の骨を折ったんですよ。
―ええっ!?　首ですか？
長井　首です。3ヶ月くらい入院しました。もう一般生活もできないんじゃないかと思いましたね。完全に首の骨がズレちゃったんですよ。だから本格的に手術する前に頭蓋骨に穴空けて、ボルトで固定して、それで牽引してましたね。

こうやってニコニコしてるけど、腹の中では「こいつ殺してやる！」


長井満也／S43年11月10日生まれ。H3年8月1日、大阪府立体育館にて、対ヘルマン・レンティング戦でデビュー

―頭蓋骨に穴空けたんですか！　こわぁ～。
長井　だって穴を空ける時なんか、大工みたいな親父が横でドリル回してるんですもん。キュイーンって。
―カカカカカ。やっぱメチャメチャ痛いんですか？
長井　麻酔をかけてるんで痛くはないんですけど、とにかく血がダラダラ流れるんですよ。もう、怖くて怖くて！
―そら怖いわなあ！
長井　まあそれも成功して、手術も成功して。退院した後は首にコルセットを1ヶ月くらいしてましたね。でも最初は自分で立ち上がれなかったし、歩けなかったですよ。腕とかもしびれがとれなかったし。
―……もう絶句しますねえ。それで退院したはいいけど、団体は解散寸前ですよね。入院している間もいろんなキナ臭い噂が耳に入ってきたでしょう。
長井　いや、ほとんど入ってこなかったですね。だから、解散って聞いた時も本当に冗談だと思いましたから。
―またまたぁ～みたいな（笑）。
長井　ホントホント、ホントそんな感じですよ。解散するなんて夢にも思わなかったですから。
―しかしそれはメチャメチャヘビーじゃないですか。もう二度と格闘技はできないって思うくらいの大ケガして、それで奇跡的に回復したはいいけど、今度は団体が解散するなんて。



長井 これからどうなるのかなぁって思いましたね。でも、そういう現場にいなかったのは逆によかったのかもしれませんけど。

——ああ、生々しい現場を見なくてすんだからですね。

長井 そうそうそう。

——で、とにかくUWFは解散しました。それからどうしたんですか？

長井 自分はUWFインターの方からお話をいただきまして、「自分でよかったらお願いします」っていう感じで。

——しかし、そんな死ぬような目に遭いながらも、よくもう一度やる気になりましたねえ。

長井 バカなんですよ（笑）。

——いやバカですよ、ハッキリ言って！（笑）その時点で長井さんの体はどのくらいまで戻ってたんですか？

長井 やっと走れるようになったくらいですね。リハビリの間は歩くことから始めましたから。近くの公園に行って「今日はここまで歩いた。明日はもう一歩先まで歩こう」っていう感じで。

——凄い話ですねえ！

長井 左足がダメになってましたから。あと腕にもきてたんですよ。お医者さんがね、リハビリの時に200グラムくらいの鉄アレイを持たせるんですよ。見たことあるでしょ？

——ありますね。ちっちゃいヤツ。

長井 最初は冗談だと思ったんですよ。ナメてんのかと（笑）。それまでは道場で何十キロもあるダンベルを振り回してたわけじゃないですか。

——はいはい。

長井 そしたらねえ、200グラムの鉄アレイが持てないんですよ！（笑）

——カカカカカ。

長井 あれはショックだったなぁ。

——たまらんくらい深刻じゃないですか！（笑）

長井 ねえ。でもそういう意味ではいまでも深刻ですよ。今度もう一回首やったら、僕、一発で死ぬらしいですからね。

——しかし、それでも長井さんをリングに上がらせるのは何なんですか？

長井 だからホントにやれるとこまでやろうっていうだけですね。

——長井さんはシュートボクシングのリングにプロとして上がっていたわけですよね。そこでどうしても辞められないくらいの何かを得たんじゃないんですか？ 相手に勝つ快感とかあるいは観客の声援であるとか。

長井 というか、格闘技がなかったら何にすがっていいのかわからなかったんですよ。

——何にすがっていいのかわからない？

長井 だってUWFではデビューもしてないんですから。だからもう一度、格闘技をやるんだっていう気持ちがないと、普通に生きるにしても何をどうしていいのか、何を支えにしたらいいのかわからなかったんですよ。

——ク～ッ、ええ話や！

長井 泣かせるなあ！（笑）。

——カカカカ。まあそれでインターを選んだけれども、デビューはしなかったんですよね。

もう一回首やったら僕、一発で死ぬらしいです

長井 うん、してないです。結局、旗揚げ前にUWFインターではダブルバウトをやることが決定したんですよ。それを聞いた時、僕の頭に描いていたUWFとは違うなって思って、それで辞めたんです。

——それでなんでリングスなんですか？

長井 僕がそうやってちょっと違うなって思ってる時に、ちょうどリングスに関わっている人に色々話を聞いたんですよ。それで「一回前田さんと話してみないか？」ってことになって。

——前田さんとはどんな話をしたんですか？

長井 なんか難しい話をしてましたね（笑）。細かい内容は忘れちゃいましたけど。

——当初はリングス・ジャパンは前田さんと長井さんだけでしたよね。

長井 いま公式記録員をやってる田代さんが前田さんの練習相手になって、ずっと三人で練習してましたね。

——前田さんともスパーリングしてたんですか？

長井 スパーリングというかその前の段階ですね。

——ああそうか。練習生の時に大ケガしてしまったわけやから、実質的には新弟子レベルなわけですね。

長井 そうそう。あの頃は毎日、昼間から夜の9時10時までやってましたよ。

腹黒師
MITSUYA NAGAI

キツかったけど、入院していた頃を考えれば、ここまでできるようになったんだって思って嬉しかったですね。

——そうでしょうねえ。考えたら前田さんとそれほど密に練習したことがあるのは、長井さんくらいかもしれないですね。

長井 うーん、だから凄くいい経験をさせてもらいましたね。

——でも、そういう長井さんと前田さんの師弟関係っていうのは、リングを見てる限りでは割と希薄に見えますよね。

長井 逆にそういうのはなくていいんじゃないですか。ただ、前田さんが引退するまでにもう一度闘いたいですね。前田さんは僕と闘う義務があるし、僕には前田さんと闘う権利がありますから。

——おお！ 言いますねえ。でも、長井さんにとっては、前田さんへの思い入れも特別でしょうねえ。

長井 だから表現は悪いけど、半分スクラップだった僕を拾ってくれてね、しかもモノになるかどうかもわからないのに、育ててもらって、それでデビューさせてもらったわけですから。

——ねえ。一度大ケガをした選手をリングに上げるっていうのは、前田さんにとっても凄く勇気がいることだったと思いますよ。

長井 だから僕も前田さんに対しては凄く感謝してるし、感謝してるからこそもう一度リングでキッチリ闘ってみたいですね。

——いやあ、いい話持ってるじゃない

デビュー戦で「村上竜司か長井満也とやりたい」とか言ってましたけど、もし実現したらきっと後悔することになると。どっちが強いか試合で見せてあげましょう！

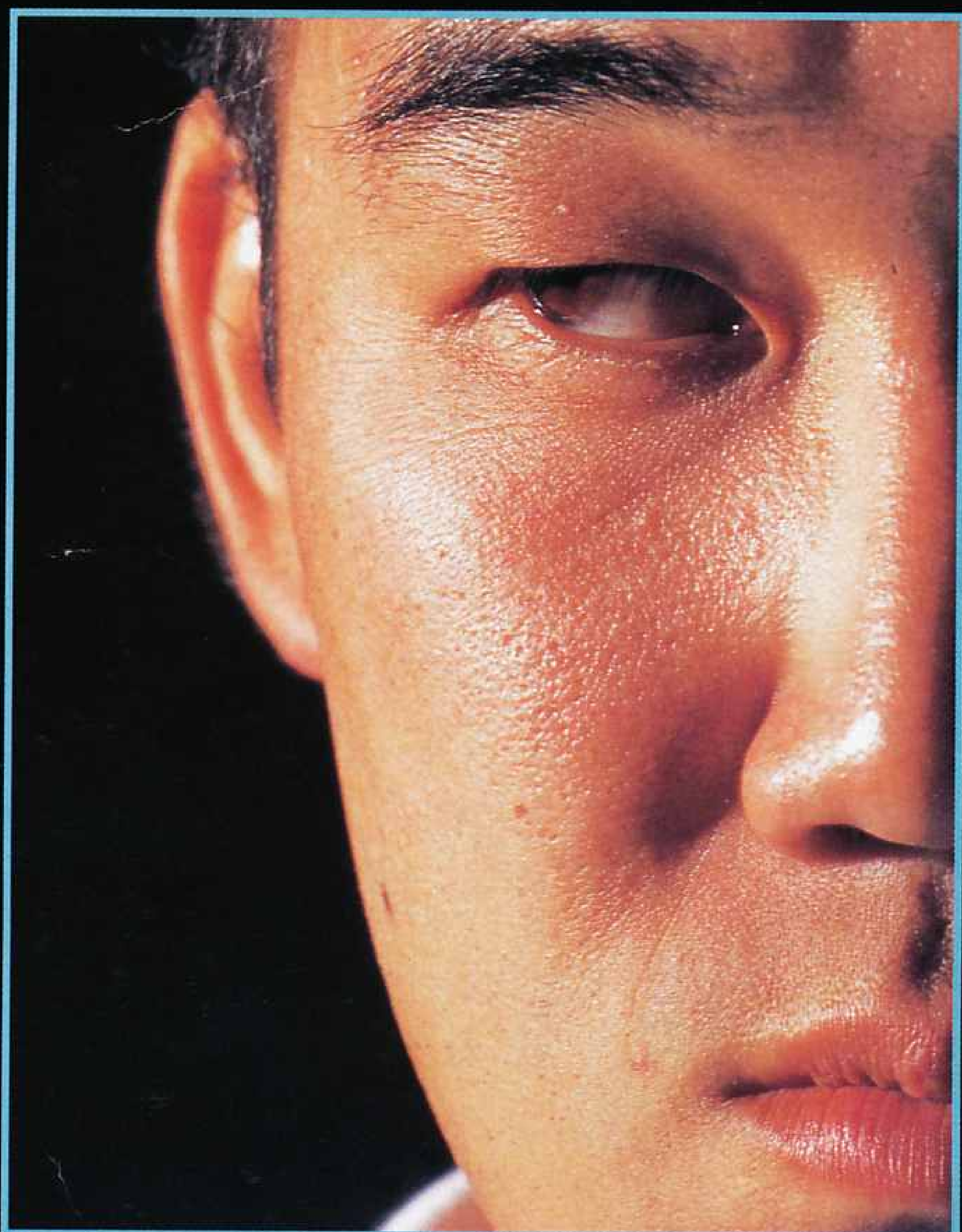
ですか、長井さん！

——もう涙で前が見えないですよ（笑）。そうかあ、でも長井さんって、なんか知らないけど不思議と根強いファンが多いじゃないですか。

長井　何ででしょうねえ。でもホント、ありがたいですねえ。

——正直言って、試合だけを観てて、なぜそんなに根強く支持されるのかがわからなかったんですよ。でも今日でわかりましたよ。長井さんはもともと試合が怖くて泣いてしまうような選手だったわけですよね。それが第二次ＵＷＦを通過して、そして首をケガして一般生活すら危ういっていう状況を克服して、前田さんと二人っきりでリングス・ジャパンを守るほどの選手になった。そういう成長過程をファンは知ってるからこそ入れ込めるわけですよね。応援のしがいがあるというか。まあ僕は知らんかったわけですけど（笑）。

長井　ホントにねえ、いまから考えると、よく辞めなかったなって思いますよ。もう絶対できないですよ、あんなこと。



——だから今回のキック挑戦にしても、きっと長井選手ならへこたれずに闘ってくれるんだろうという期待を持ってしまいますよね。

長井　リングスに行き詰まったとかじゃないんですよね。自分はリングの中だけじゃなくて人生においてもチャレンジしていきたいんですよ。ちょっと話は違うかもしれないですけど、さっきも話したように僕は首をケガして普通の生活もできないんじゃないかと思ったんですよ。でも、いまこうしてリングに上がって闘ってますよね。そういう姿をね、例えば生まれつき体が不自由な人とか事故で大ケガしちゃった人とかに見てもらいたいなっていう気持ちはあります。自分もそうだったんですけど、そういう時って何度も「もう自分はダメなんじゃないか」とか「一生治らないんじゃないか」とか、自分でドンドン悪い方に考えちゃうんですよ。

腹黒師
MITSUYA NAGAI

——うんうん。

長井　僕が有名になることで、そういう人たちが「自分も頑張ればいろんなことができるんじゃないか」って思ってもらえれば凄く嬉しいですね。

——なんて感動的な話や！

長井　（前号の表紙を指して）ホントねえ、こんな「落とし前つけたるで！」なんて書いてる雑誌に載せるのがもったいないくらいだ（笑）。

——まったくですよ（笑）。いやあ、でもホンマにええ話でしたよ。

長井　じゃあここまでは前半ってことで後半は次の号で（笑）。

——いいですねえ。

長井　もう連載にしちゃいましょう！（笑）

——ま、検討しときましょう（笑）。いやあ、ホンマに今日はありがとうございました。あ、そうそう、この後、Ｓｈｏｗ氏がパンクラスの柳澤選手にインタビューするんですけど、なにかメッセージはありますか？

長井　そうですね。デビュー戦で「村上竜司かオレとやりたい」とか言ってましたけど、もし実現したらきっと後悔することになると。どっちが強いか、試合でみせてあげましょう！（笑）

——おお～、柳澤選手への宣戦布告や。わかりました。しかとお伝えしておきます！

〈97年7月29日・リングス事務所にて収録〉



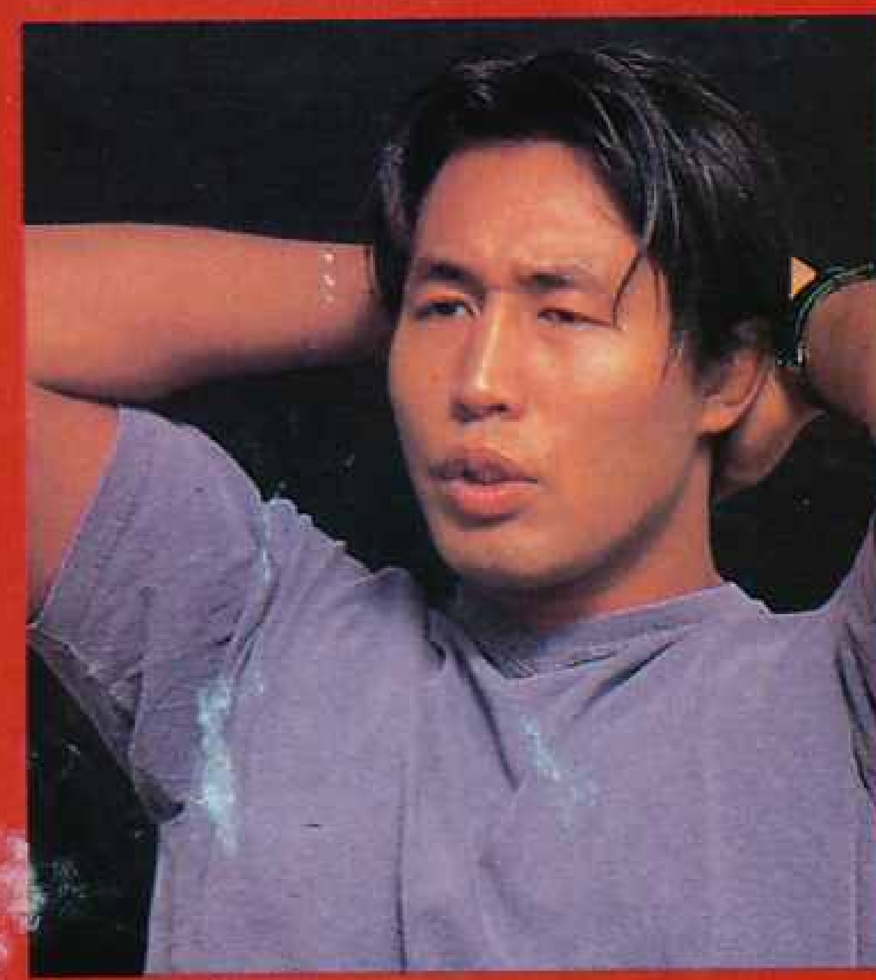
上等だよ!!

RYUSHI YANAGISAWA

キックボクサーとしてもデビューしたパンクラシスト
打撃系レスラー、ナンバー1の自負を聞け！

柳澤龍志 with 尾崎社長!!

聞き手／Show
interview by Show
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito







——今日は、時期の問題も含めて、パンクラスの公式読本で歯がゆい点があった、柳澤龍志インタビューを改めて行いたいと思ってます。

柳澤 そうなんですか（笑）。

尾崎社長 あの本、評判いいですよ。

——いやあ、社長直々に言ってもらえるとは、ありがたい話です。で、本題に入ると、7月25日のデビュー戦（後楽園ホールでエドワード・サーストンに1ラウンドKO勝ち）で、柳澤選手は「プロレスラー」と同時に、「キックボクサー」の肩書きも持ったわけですよね。ただ、試合後に言っていた通り、「遠回りをしてる」意識もあると。

柳澤 ありますね。いまのパンクラスなら、自分の足りない部分を、他の選手といっしょに練習して補えるんですよ。コツコツと実力を伸ばすことはできるんです。でも、少しワープしたくなったんですね。もしかしたら遠回りかもしれないけど、俺にとっては一番プラスになることだと思うんで、そのために会社にワガママを言って、（キック修行で）オランダに行かしてもらってね。

——いや、もっとワガママを言ってほしいですよ。というか、すべてのワガママが通るくらいになってほしい。

柳澤 正直に言って、俺もそんなにワガママだとは思ってないです。でも、社長がいるからそう言わないと（笑）。

尾崎社長 えっ!?

柳澤 いや、ワガママなんですよ。俺が自分勝手というか、違うことをやることでスタッフが動いて、社長が徹夜して海外に電話したりとかって、いろんな動きが生じてくるんですよ。

——はいはいはい。

柳澤 普通にやってる時は、出ない動きが出るわけで、やっぱそれは理解してなきゃダメですよね、人として。俺のためにやってくれるのが当然じゃないかって気持ちを、俺は持つ人間じゃないんで。どちらかというと、感謝の気持ちでいますから、やっぱ悪いなと。

尾崎社長 よかった（笑）。

柳澤 それにこれだけやって結果を出せるのかっていう。ただ、出せるって自信があるんでしょうね、俺の中に。

——そしたら、今度は尾崎さんがプレッシャーをかけると。

尾崎社長 いや、俺からはそれ言えないよ。

柳澤 いや、プレッシャーがなければ男は育たないんですよ。だから、社長からもガンガンとプレッシャーかけられて、それで俺が磨かれていくんであれば、いいことですし、プレッシャーがない人生なんてつまんないですよ。

——確かにそうかもしれないですね。

柳澤 この間、キックのデビュー戦の時に、ものすごくプレッシャーがあって、胃の調子がおかしくなったんですけど、試合が終わったら、酒をバンバン飲んだのに、胃の調子が絶好調ですもんね（笑）。

——ヌハハハハ。

柳澤 ただ、反省点も多いですよ。ガードはメチャメチャ下がりますし、パンチもスムーズに出てないし、蹴りも全然ダメですし、フットワークも使ってないから、直す点はいっぱいあります。それに「負けたら終わり」みたいなところがありますし。ボクシングもそうじゃないですか。だから、自分のレベルにあった選手と徐々に、競い合いながらできたらな、と思ってるんですけど。それが可能なのが全日本キックボクシングだと思いますから。

キックルールだったら どんなレスラーにも負けないですよ

上等だよ!!
RYUSHI YANAGISAWA

——あのー、柳澤選手の最初のキックルールの試合でもあったトーワ杯ですが、あの頃の柳澤龍志の試合を見て思ったのは、要するに「どつきあい」をしてる感じの闘い方だったですよね。

柳澤 下手ですからね。ただ、個性と言えば、個性ですよね。荒々しすぎる。決してキレイじゃない（苦笑）。


——僕は94年の第3回大会は、実際に見てるんです。あの時には、いまK−1で活躍してる選手も何人かは出てましたけど、パンクラスから出た髙橋（義生）&柳澤両選手の闘い方は、そういう人たちとはあきらかに違う。

柳澤 あの時は荒々しさは残ってたんですけど、ちょっとクールになってたんですよ。だから終わった後に、もう泣くのはやめようと思って、負けても泣かないように装ってたら、みんなに「覇気がない」って言われて（苦笑）。

——見る側ってワガママですね（笑）。

柳澤 結構、それ傷つきましたね、ナイーブなんで。

——トーワ杯もそうだし、正直な話、正式なプロのキックボクサーとしての



7月25日　全日本キックボクシングのリングで、柳澤は見事KO勝利を飾る

ってね。

ッシャーをかけると。

——デビュー戦はこの間としても、パンクラス旗揚げの頃に、全日本キックのリングでキックの試合はやってますよね。

柳澤　ビタリー・クリチコ戦ですよね。

——あのクリチコ戦の試合後に「どんなルールでも勝てるのがプロレスラーなんです」って言ってましたよね。「そのために挑戦したんだ」って。

柳澤　でも、いまはそうは思ってないです（笑）。

——えっ!?

柳澤　勝てない！　正直に言うと（笑）。

——ヌハハハ。

柳澤　いや、別にネガティブな意見じゃないですけど、やっぱり本職には勝てないっていうのが、いままでやってきて、ホントにわかりました。だって、本職には本職のプライドがあるし、それ用の練習をしてるんですよ。俺らはその中で、そのすべてのいいところを合わせ持った、しかもみんなが楽しめる格闘技をやっていくじゃないですか。

——ある意味では、相反するふたつのことを同時にやっていくわけですよね。

柳澤　それがだんだん確立されてきて、少しずつ認知もされてきてる。その中で、個性もあると思うんですよ。グラウンドができて、タックルができて、立ち技もできる。そういう3つの要素がある中で、俺は打撃が一番強い選手になりたい。ただ、だからといって、キックボクシングのチャンピオンになれるかって言ったら、これから一生をかけてキックボクシングをやって、やっと、ショボイ、どっかのベルトをとれるかとれないかだと思うんですよ。

——はー、やっぱりそれだけ難しいモノなんですね!?

柳澤　世界のキックボクシングのレベルはそれくらいはあると思いますよ。K—1に出てる選手は、世界のトップレベルじゃないですか。モーリス・スミスの持ってるWKAのベルトだって、モーリス・スミスに勝たないと手に入らないんですよ。

——しかも、キックルールでね。わかりやすいです。で、ここが一番知りたいんですけど、なぜ「プロレスラー」なのに、キックボクシングをやるのかなんですけど。

柳澤　基本的に意味ないんですよね。

——え、意味ない？

柳澤　意味ないっていうか、そんなに目的は持ってないですよ。ただ、自分がやりたいからやるだけ。やりたいことをやって、それがたまたまキックボクシングだったっていう。ただ、俺はキックボクシング自体は尊敬してますし、キックボクサーも大好きですから、キックボクシングっていう競技とは真摯な態度で向き合っていきたいと思いますね。でも、それを目指すことはできないんで、ある程度、自分の中で決着がついたら、パンクラスに戻ってこようとは思ってるんですけど……。

——自分の中で決着、というと？

柳澤　やっぱ満足できたらっていうか。ある程度のレベルに達したら。自分でわかるじゃないですか。いまは、まだデビュー戦のレベルですから。でも、これからオランダに行けば変われると思うんで。自分で「変わった」と思ったら、パンクラスに帰って来ます。

——「変わった」と思ったら、ね。

柳澤　要するに、ハートですよね。自信。ただ単にテクニックがついても、パンクラスでは出せないんですよ。パンクラスでやれる打撃は、いままでの経験でわかってるんで。一発一発の強さを高めることはできるんですけどね。ディフェンスとか大事ですからね。

俺、一晩でスターになれますよ



キックデビュー戦の相手サーストンは、見かけとは違い強力なパンチで、柳澤を一瞬グラつかせた

——でも、特にパンクラスの選手は、柳澤選手みたいにキックルールに挑戦したり、髙橋選手のようにアルティメット大会に出たりっていう、外に出ていくと面白いですよね。それは、決して「パンクラスの中にいる時はつまんない」と言ってるわけじゃないですよ。

柳澤　社長、「中にいる時はつまんない」って言ってますよ（笑）。

尾崎社長　思ってるからいいわけしてるんですよ。

——えっ、言ってないですよぉ（苦笑）。

柳澤　でも、それは誰でもいっしょだと思いますよ。だから「離婚」みたいなもんですよ。

——離婚？

柳澤　芸能人が離婚して話題を集めるとか、狂言自殺といっしょですよ。だから注目されても、決して「王道」は行ってないってことです。

——他流試合って狂言自殺だったんですか（笑）。

柳澤　俺自身は、ホントに修行のためにやってるんで。たまたま試合が付加価値であるだけで、そんなにキック自体は特別なことだとは思ってないです。今度、帰って来た時は「王道」で見せますよ。「nWo柳澤龍志」で（笑）。

——帰国した時にサングラスしてね（笑）。まあ、それはともかく、他流派への挑戦って、結果的に「プロレス」を背負うことになるから、見る側としては興味深いんですよねえ。

柳澤　だって、俺が一番強いですから。

——はー、やっぱりそれだけ難しいモ

——えっ？

柳澤　日本人レスラーの中で、キックルールでやったら。

——「プロレスラー」でありながら、キックをやるわけだから、十分背負ってるということですか？

柳澤　そうですよ。だって俺以外にキックルールで強い選手って誰がいます？

——考えたことがないなあ。もし「プロレスラー」と呼ばれている日本人選手全員でキックルールの試合をやったらどうなるんですかねえ。

柳澤　俺か近藤（有己）か船木（誠勝）さんが優勝しますよ。今度、主催してくださいよ。U系、新日本、全日本、全部合わせて、優勝賞金3000万円くらいで（笑）。

——その際は、橋本真也選手なり、川田利明選手にも、ぜひ参加を呼び掛けましょう。

柳澤　俺、一晩でスターになれますね（笑）。

——ところで、先ほどから言ってる、キックのデビュー戦の試合後に「試合

たら、パンクラスに戻ってこようとは

前に長井満也選手に花束をもらって、ホッとした」と言ってたでしょう。

柳澤　ホッとしましたねえ。「見に来てるんだな。俺の方が先に（デビュー戦を）終わらせますよ」みたいな（笑）。

——「お先に失礼」みたいな？

柳澤　うん、長井さんも今度はこんな場面に出会うんだなと思ったし、（花束をもらうことが）素直に喜べました。

——なぜ、「ホッとした」んですかね。

柳澤　一応、同じ業界だからじゃないですか。

——やっぱりそれですよね。

柳澤　（その気持ちは）ありますよ。

——ただ、パンクラス公式読本の柳澤インタビューの中では「パンクラスと、リングス＆インター（キングダム）とはいっしょにされたくないです」って言ってますよね。要するに「同じ『U系』と呼んでくれるな」と。

柳澤　そうですね、ちょっと言い過ぎたかなあ（笑）。

——ヌハハハ、言い過ぎましたか。

柳澤　だから、モデルにしても役者にしても歌手にしても、テレビとかに出

ンクラスでやれる打撃は、いままでの

てる「業界」としては同じなんですよ。だから、そういう意味では俺らは「仲間」なんですよ。

——だから「ホッとした」んだと。

柳澤　やっぱ礼儀は大事ですよ。長井さんは先に（リングスで）デビューしてるし。先輩だと思いますから。

——ただ、やっぱりファンが期待するのは、その長井選手との試合ですよね。

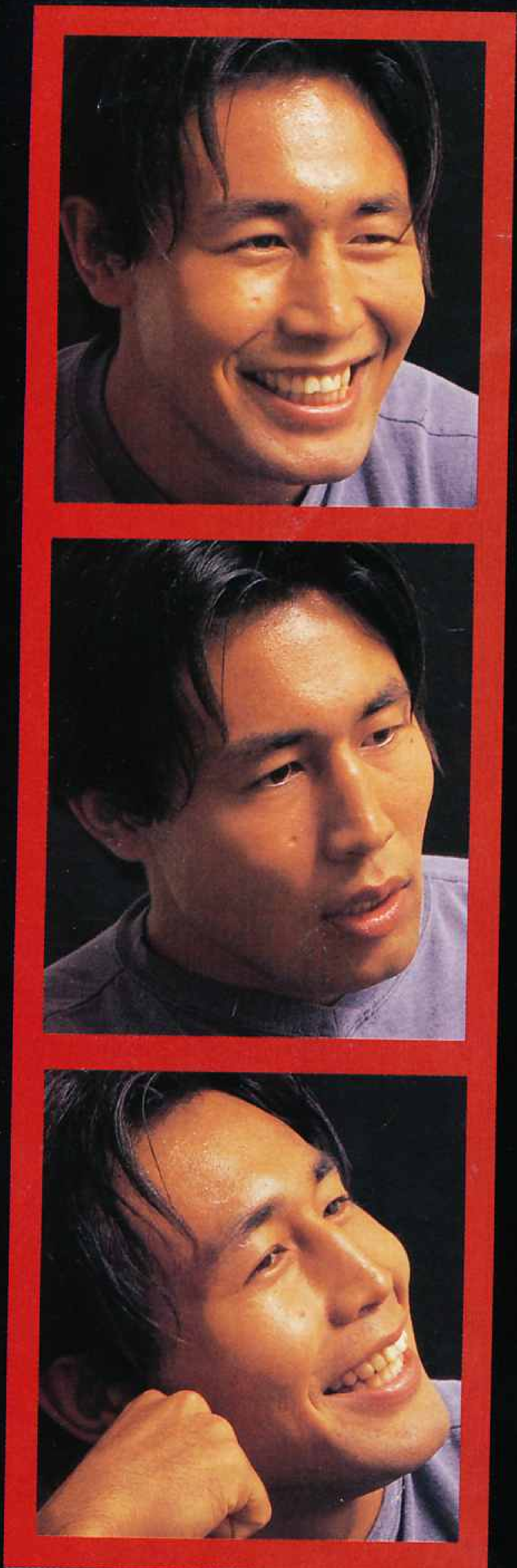
柳澤　そうですね。でもハッキリ言って、実績的には僕の方が上なんで。俺は空手の大会に二回も出て、キックボクシングも、この間の試合が「デビュー戦」とか言ってましたけど、俺のプロフィールには「1敗」って書いてありましたし。

——さっき言ったクリチコ戦ですよね。

柳澤　だから、これから（キックの）デビュー戦をやる相手に負けられないですよね、俺としては。

——それは、キングダムで金原弘光選手が「K−1に出てスタン・ザ・マンとやりたい」っていう発言をしていることにも言えますか？

柳澤　そうですね。いっしょのライン



上等だよ!!

RYUSHI YANAGISAWA

柳澤　だって、俺が一番強いですから。

には並べてほしくはないですよね。

——ただ、長井選手としても、過去にシュートボクシングの経験がありますからね。で、今回、別の聞き手の方が長井選手に「もし、柳澤vs長井戦が決まったら？」って聞いたらしいんですね。そしたら、リップサービスも含めた部分なんでしょうけど、「きっと後悔するということで……」っていうメッセージをもらったんですよ。

柳澤　ああ、俺が「後悔する」ってことですか？

——活字にすると、ドギツイ言い方のように受けとられるかもしれないけど、「どっちが強いか、試合で見せてあげましょう」という言葉なんですよね。

柳澤　ほぉ……上等じゃないですか（笑）。上等ですよ、ホント！

——辛辣に言ってるわけではない、というのは伝えてほしいってことだったんですけどね。

柳澤　そうですね。ものすごく腹が立ちますね（笑）。マジで、そんなに自信があるなら「どうぞ」っていう感じですよ。それに関しては、力の差を見せますよ。ハッキリ言って、長井さんとの試合っていうのはイージーファイトとしか思えないですから。

——これ、活字にすると、キツイ言い方になるでしょうねえ。

尾崎社長　いいんじゃないですか、ただし（お互いに公平に）全日本キックさんのリングでですよね。

——あら、尾崎さんが「いいんじゃないか」って言ってる。珍しい!?（笑）

尾崎社長　いや、ウチは基本的に「やりたい」っていう選手にはやらせます



長井さんとの試合はイージーファイトです

から。

柳澤　売られたケンカは買いますよ。

――キックのキャリアは上なわけだから、自信は当然あると。

柳澤　あります（キッパリ）。自信ないとやってられないですからねえ。

――楽しみですねえ。

柳澤　でも、俺が長井さんに勝って、何かメリットがあるのかっていうのはありますよね。

――じゃあ、どんなメリットがあればいいんですか。例えば？

柳澤　う～ん。前田日明との完全実力主義のリングでの挑戦権。

――おおーッ!?

柳澤　それをやってくれるなら、ホントすぐにやってもいいですよ。あと、長井さんとやる場合には、やっぱそれを目当てに来る観客もいるだろうから、それなりのギャラも欲しいですよね（笑）。

――だったら、公平に船木誠勝への挑戦権も賭けて、なんて言ったら不謹慎かなあ。

尾崎社長　それはともかくとして、いいんじゃないですか、長井選手とはやっても。

柳澤　ホントに長井さんとの試合をファンが望むであれば、やるのは構わないですよ。「いつでもやったるで！」っていう感じですね。

――「負けるつもりはない」と。

柳澤　まったくないですね。でも、完全実力主義の試合ですから、どうなるかわかんないですよ。いくら強気なことを言ってても、リングに上がっちゃうと、五分五分なんですよ。キャリアとか、団体とか全部ふっとんで、単に一人の「柳澤龍志」と「長井満也」っていう男同士の対決になってしまうんで、正直、俺も怖いですよね。でも、もちろん自信はあります。ただ、格闘技はそんなに甘いもんじゃないってことは知ってますから、必死で練習するしかないでしょうね。

――いまは練習が第一だと。

柳澤　ただ、どうなんですかねえ。まだわかんないですからねえ、やるかどうかも（苦笑）。

――確かに、まだ現段階では机上の空論ですけどね。

柳澤　でもまあ、長井さんとなら、ちゃんとしたキックボクシングの試合ができるんじゃないですか、なんとなく



上等だよ!!

RYUSHI YANAGISAWA

ですけど。

――これは見る側の勝手な解釈ですけど、リスクのある闘いはそれだけで興味深いですからね。

柳澤　どうでしょう。ただ、やっぱり長井さんも「プロレスラー」ですから、もし俺とやることになったらリスクを背負うと思いますね。俺だって「パンクラスがリングスに負けた」となったら大変なことになっちゃいますからね。

――いや、見る側からすれば、リスクがある分だけ見たいんですよ!!

柳澤　グローブをつけて闘う以上、どんなことがあるかわかんないです。ただ、俺はメッチャ打たれ強さに自信がありますよ。絶対に倒れないです。俺、まだ日本人にノックアウトされたことはないですからね。トーワ杯でも、村上竜司さんとやった時にボコボコにされたけど倒れなかったし。スパーリングでも、ほっとんどダウンしたことないですし。俺は打たれ強いんですよ、実は（とニヤリ）。

――教訓、柳澤龍志は打たれ強い！

柳澤　まあ、あとはいろんな政治的なことは社長に任せて。俺はファイターですから、闘うことに専念しますよ。

――いやあ、今日は活字にすると、ぶっそうな話が続いて怖いというか……。

柳澤　活字って怖いですね。だから、もうインタビューは嫌です。

――そう言わないでくださいよ（苦笑）。

尾崎社長　やめましょう（笑）。

柳澤　じゃあ、この辺で「終わり」っていうことで（笑）。

（97年7月29日、P'sLABにて収録）

本邦初!!

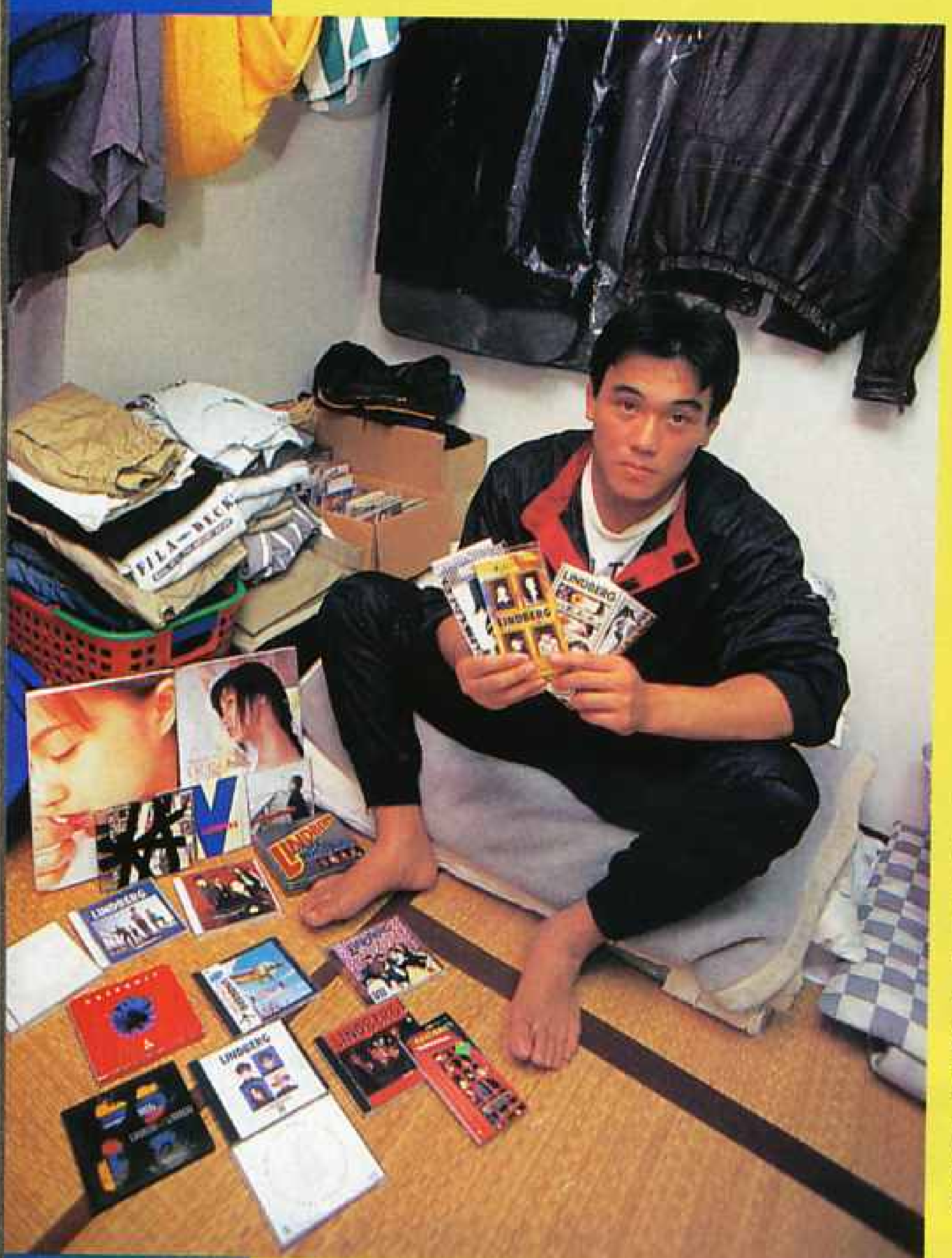
パンクラス道場、二分割記念、最初で最後の旧合宿所堂々公開!!

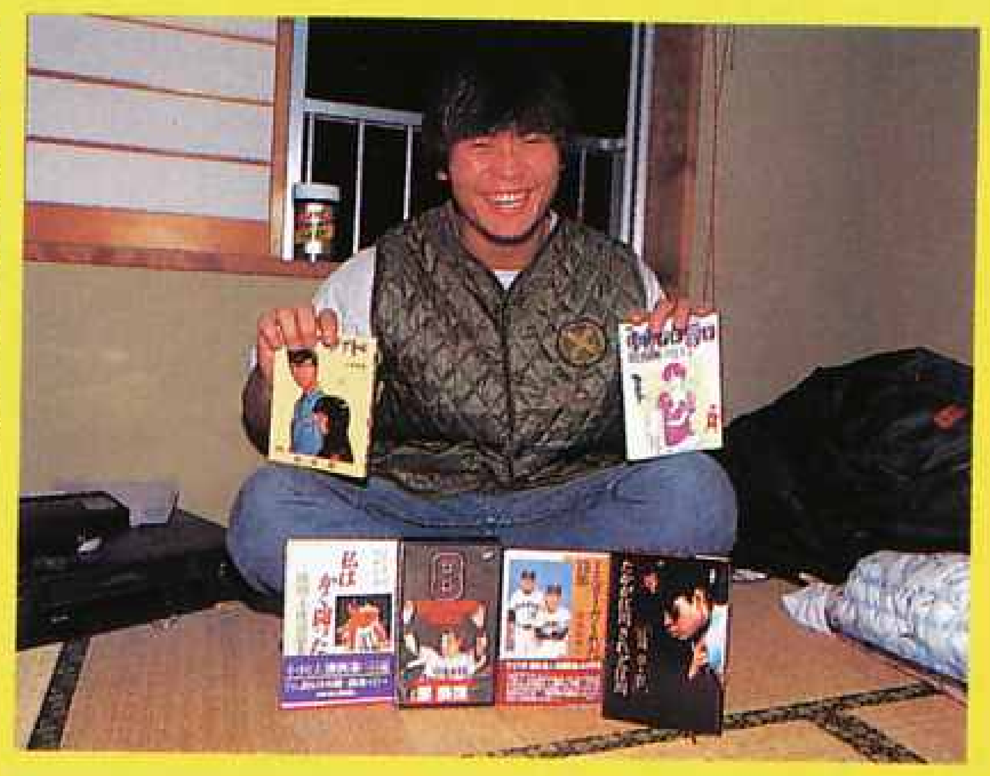
撮影／乾晋也

P's　LABの開設により、それまで使用していた横浜道場とP's LAB（広尾道場）の二つに分かれたパンクラス勢。だが、驚くなかれ、なんと分かれる前に極秘裏に潜入し撮影した、若きパンクラシストたちの部屋（旧横浜合宿所）を、ここに紹介!!

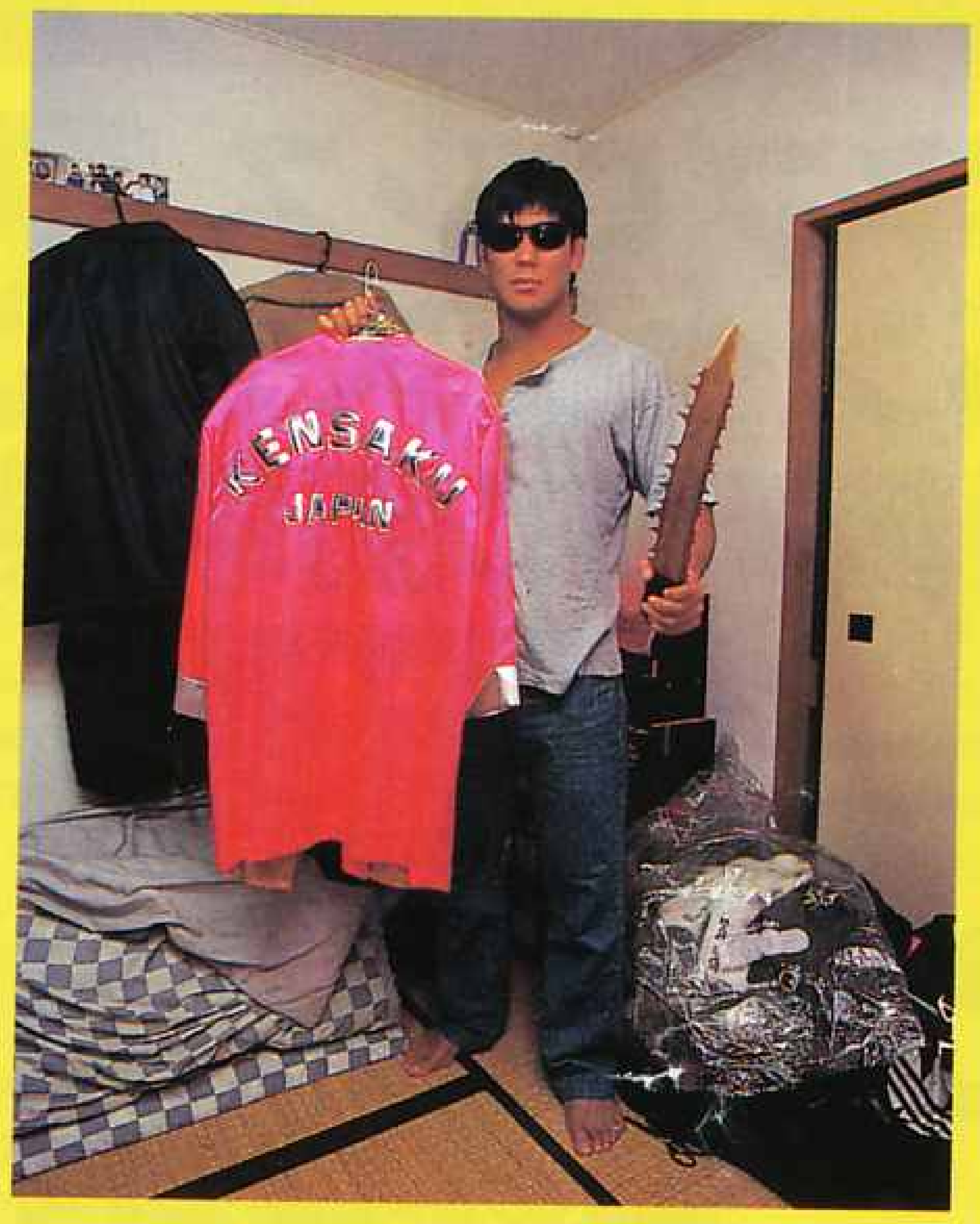
（※ファンの方へ……各選手へのプレゼントの参考になれば幸いです）


▲部屋の撮影はNGだが、自慢のサボテン君を両手にニッコリの柳澤龍志


▶渋谷修身にとって「読売巨人軍」は、なくてはならない球団なのだ

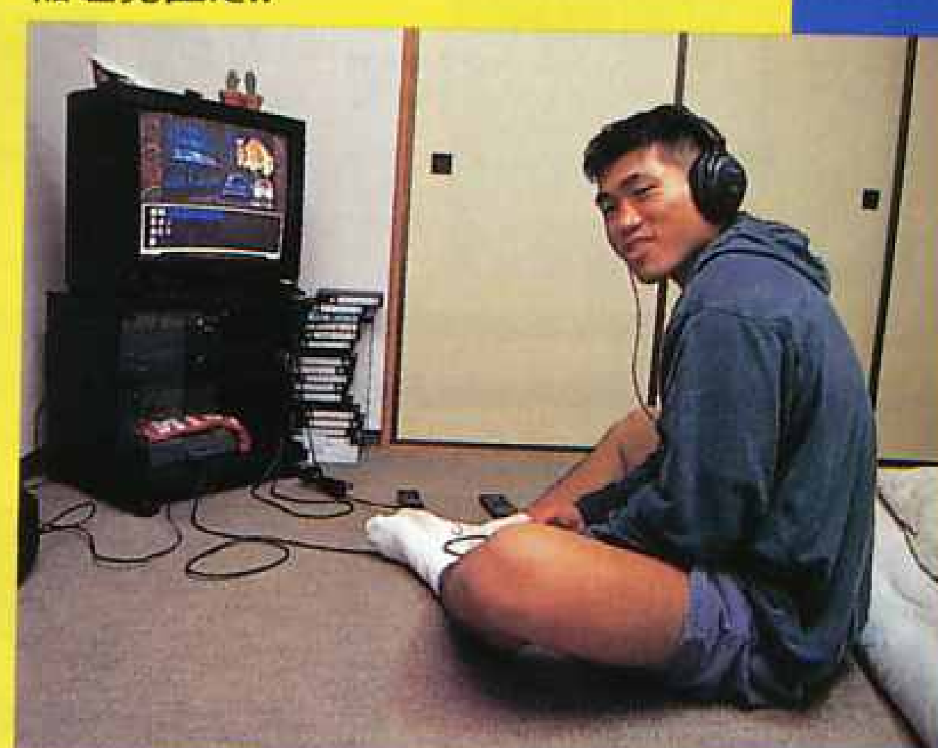

◀王者・近藤有己の青春は、このリンドバーグ（渡瀬マキ）とともにあったといっても過言ではない

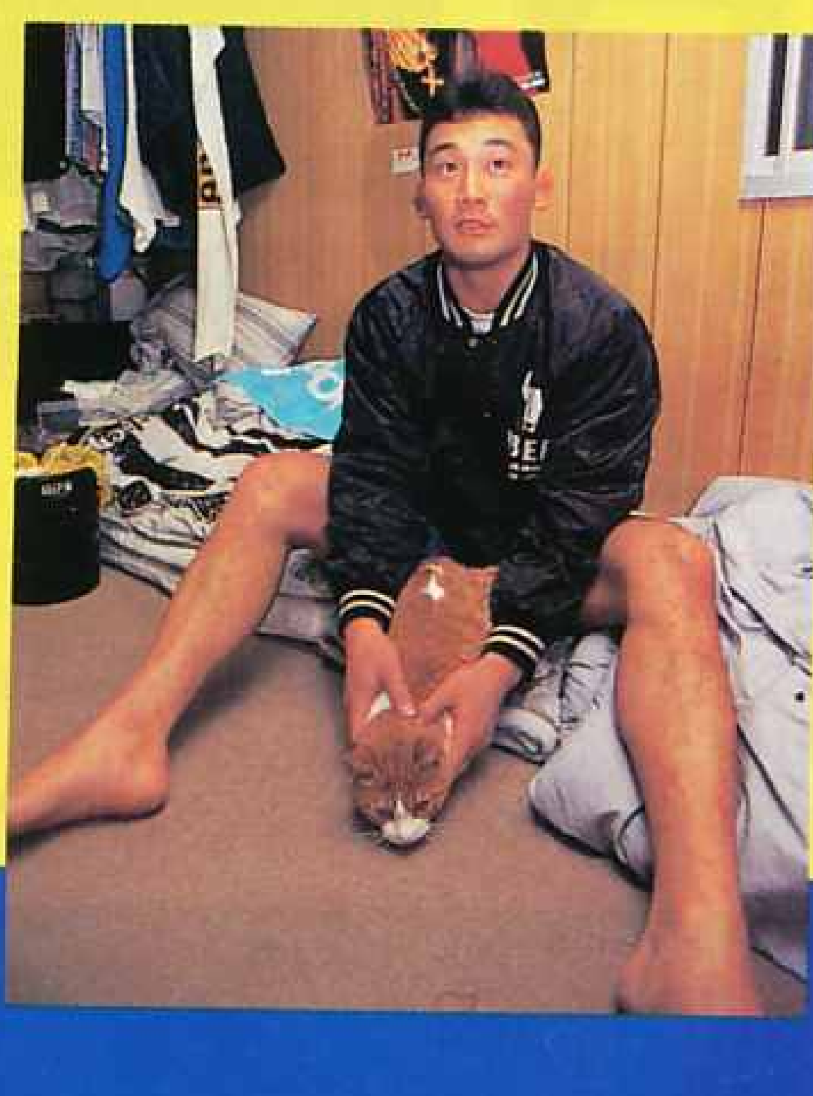

▲大の坂本竜馬フリークの伊藤崇文。もう一方の手には鈴木紗里奈の写真集が



▲前田憲作選手にもらったピンクのガウンと、nWoばりのサングラスではしゃぐ（?）國奥麒樹真

▼パンクラス随一のゲームマニアと言えば、稲垣克臣だ!!




◀山宮恵一郎唯一の友達でもある（?）パンクラス道場の飼い猫チャゲ（or飛鳥）

▼部屋中いっぱい洗濯物の山だが、気分は壮快!?の長谷川悟史




▲オマケ!!　移転前の旧事務所で昼夜を問わず働く（マジ）優秀なフロント（G・サスケ談）の方々



THINK!! 考えろ

～プロレスを語ることはパンクラスを語ることである～

完全実力価格の
各巻1200円（税別）
全国書店
プロレスショップにて
絶賛発売中!

『活字プロレス』の印籠!!
パンクラス公式読本
2巻同時に衝撃発売中!!

大増刷出来!
各方面で
圧倒的に
話題独占!!

●なぜ、鈴木みのるは叫び、船木誠勝は孤高を目指すのか!?
●なぜ、パンクラス公式読本にジャイアント馬場のロングインタビューが載っているのか!?
●なぜ、「神様」カール・ゴッチはアルティメットを嫌うのか!?
●なぜ、この公式読本は2巻に分かれているのか!?
●そして、なぜ、パンクラスはプロレスなのか!?
——以上のことを考えながらお読みいただくと、より面白さが味わえます!



矛
—HOKO—

鈴木みのる／近藤有己／山田学
稲垣克臣／渋谷修身／伊藤崇文
長谷川悟史
【スペシャル・ゲスト】
カール・ゴッチ／佐山聡
●ターザン山本vs佐山聡『ケーフェイ』について語る!
●「総合格闘技の未来」とパンクラスの源流「UWF」を徹底検証!　他



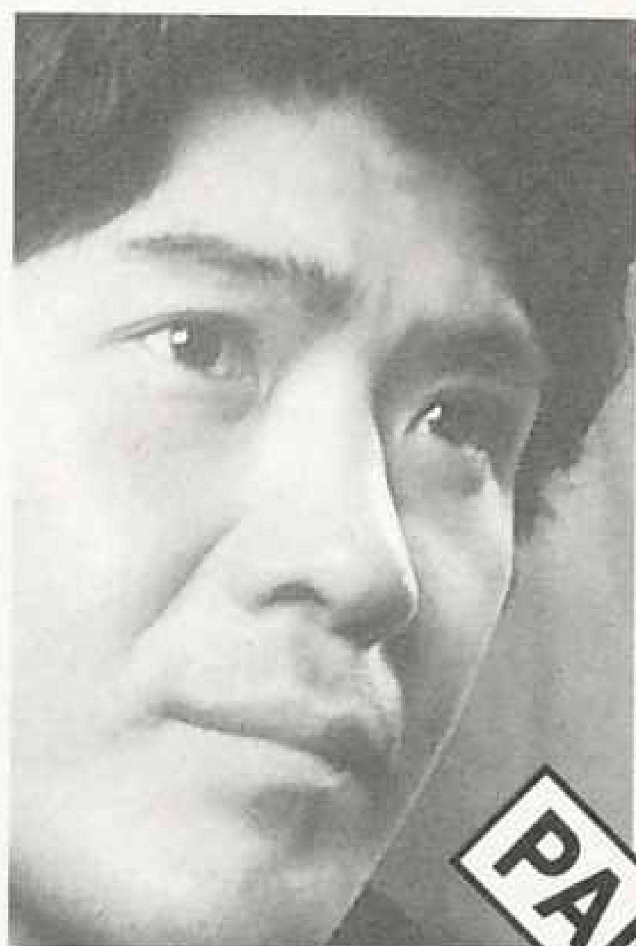
盾
—TATE—

船木誠勝／冨宅飛駈／髙橋義生
柳澤龍志／國奥麒樹真／山宮恵一郎
【スペシャル・ゲスト】
ジャイアント馬場
●公式読本に、活字プロレスの悪魔・ターザン山本出席の非公式座談会堂々掲載!　これでパンクラスの謎が解ける!
●冨宅、初のプロレス海外修行など、スクープ記事連発!!　他

この本を読んだ方々のご感想

「面白くないですね。ただ、いまパンクラスについてどうのこうの語ったら、ああいう感じになると思うんですよ。まだ、パンクラス自体が途中の段階ですから。俺は完結っていうか、チャンチャンっていうノリが好きなんですよ。ただ、現在のパンクラスの入門書としてみるなら、(『矛ーHOKOー』と『盾ーTATEー』は)いいと思いますね。でも、あれがパンクラスのすべてじゃない。だから、あの本をみて、なおさらパンクラスを完成させなきゃいけないなって思ったんですよ。まだ未完成ですから」

――P's LAB・船木誠勝さま





「スゲェ面白かったよ!(怪我で)家にいたからイッキに読んだよ。4時間以上かかったけど、やっぱり1冊じゃ物足りない感じがするから(2冊でよかった)。カットされた箇所もあったらしいけど分量的にはあれでちょうどよかったんじゃない。馬場さんと佐山さんが出てること? 俺ね、なんでこの本に猪木さんが出てないのか考えたんだよ。それでわかったの! ……でも教えない! あ、それからターザン山本って、頭いいねえ。ただ、頭いいっていうのはキ○ガイって意味だけど(笑)」

――横浜道場・鈴木みのるさま



「自分のインタビューのはじまり方に驚きました」

――横浜道場・近藤有己さま



「この本、評判いいですよ(笑)」

――パンクラス・尾崎社長さま



「これは、近年に珍しい"活字プロレス"の復活を思わせる内容ですよ。まだ"活字プロレス"が生きていたと思うとホッとするねぇ。おい! ところでこれは俺の本なんだよ~。おまえ、わかってるのか!」

――葛飾区・山本隆司さま

「まず、年上の人間の意見と俺の意見、それから後輩の意見。みんな違うんですよ。俺はちょうど真ん中だから、フレッシュでもないし、大人でもない。ただ、読んでて、俺ってこんなやつって思いましたね。初めてインタビューで、俺のしゃべり方っぽいなっていうのが出てました。これを読んだらパンクラスのみんなの人間像はわかってくると思いますね。俺が読んでみて『その選手っぽいな』って思うってことは、正解が書かれてるってことじゃないですか?」

――P's LAB・柳澤龍志さま



「夢と本音はいつまでも大事にしたい、と教えてくれました」

――愛知県・戸田和広さま

「正直言って広告を見たときは、ごく普通のオフィシャルマガジン的なものと思っていたが、実際は選手の直筆アンケートあり、どぎつい裏話あり、選手の本音のインタビューあり……これだけ多角的に取材してるとは素晴らしいです。1200円は安すぎます。パンクラスの設立当初、とても独りよがりな団体と思ったが、品と気位があることは認めていた。『盾』を読み、ターザン山本氏の意見や各選手のインタビューを通して、その正体がかなりわかることができました」

――福岡県・藤重隆さま

「馬場さん最高! パンクラス最高!」

――大阪市・佐伯展大さま

「続編をつくってほしい」

――東京都・大塚昇さま

「パンクラスといえば、どこも船木さん鈴木さんだったのに、他の全選手のインタビューが読めて感慨深かった。むふ」

――仙台市・藤森ちさとさま

「こんな失礼な内容(いい意味で)が公式本とはパンクラスは奥が深い! G馬場vs船木の対戦を希望」

――前橋市・中田啓二さま

「よく出来てる。イカス。多少、芸がない気もしたが、2冊で1セットと考えると深いッス」

――京都市・横下鉄也さま

「この本のおかげで、観戦したいという欲がまたたまってしまった」

――東京都・浅野守孝さま

「タイトルが2冊合わせると矛盾になるなんて、これ哲学の本ですか?」

――福岡県・真田槙子さま

「こんなパンクラスの本を俺は待っていた。ハ・ナ・マ・ル」

――北海道・岡部義郎さま

「明日また生きるぞと思い、風になりたいと思いました」

――横浜市・仲野裕二さま

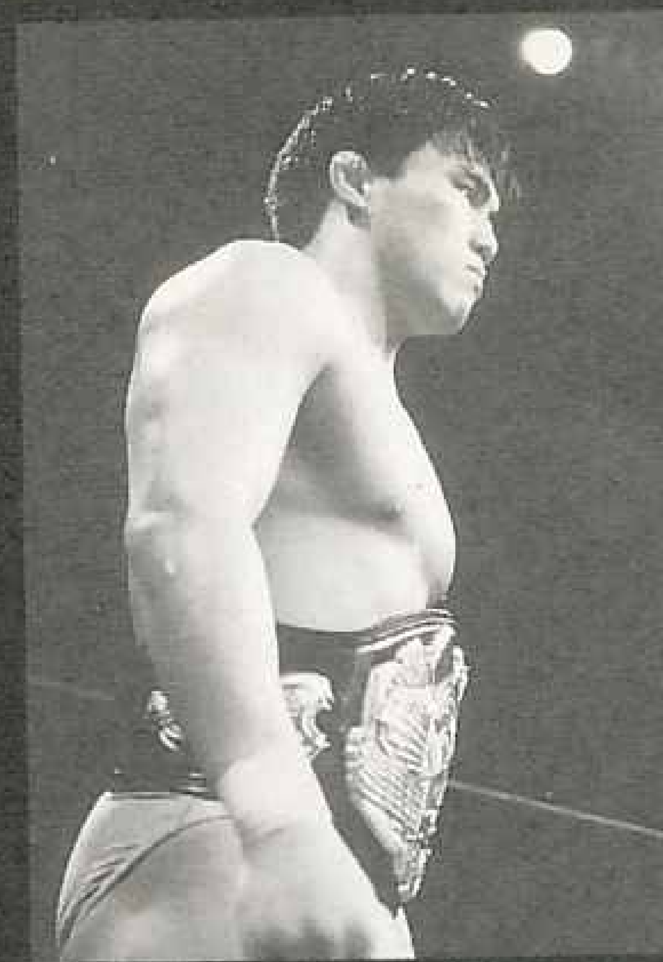
PANCRASE HYBRID WRESTLING

（9・6東京ベイNKホール直前）

船木、鈴木だけじゃない。パンクラスの『スキャンダル男』3人に注目せよ！

パンクラスとスキャンダル――。この両者ほど不釣合なものはない。
なぜなら『パンクラスとはスキャンダルのない世界』と言われているからだ。
パンクラスにだって、スキャンダルが存在する。いや、『活字プロレス最期の砦』と言われるパンクラスにこそ、根源的なスキャンダルが存在するはずだ。
断言しよう。パンクラスとは、決して船木誠勝&鈴木みのるだけではないのだ！

Scandal File No.1 近藤有己



21歳の若き王者・近藤有己

イメージは「勤勉」「努力」。

ありきたりかもしれないが、そんな言葉が当てはまってしまうのが近藤である。

その近藤は、知っての通りデビューしてから破竹の快進撃を続け、1年と4ヶ月で船木誠勝から初勝利を奪うとともに、パンクラスにおける強さの称号であるベルトまで手にいれてしまった。

ハッキリ言って、これだけでもマット界では最大のスキャンダルと言ってもいいくらい。

ここだけの話、某O社長まで頭を抱えちゃったなんていわれるほどの近藤の強さ。

つまりはパンクラスにとっては、近藤自体がスキャンダルの塊なのだ。しかも王者然としていない王者・近藤は、確かに「味気ない」と言われてもしかたがない。

なおかつ、試合後には船木から「試合には負けたが、格闘技的には俺が勝った」という謎かけまでされてしまう始末。これでは果たして近藤が強いのか、弱いのかわからない。

そう思っていたら、"事件"は起こった。

記憶に新しい7・20後楽園ホールでのこと。まったくノーマークのゴツイ体をした「変なオジサン」に見えるジェイソン・ゴトシーに「まさかの敗退」を喫してしまったのだ。

詳しく説明すると、ゴトシーは、今年の5月に、米国ミシガン州で行われた『エクストリーム・チャレンジ』ヘビー級トーナメントでは優勝を果たすほどの本格派で、いまのところ、ノールール系の大会では負けなしを誇っているツワモノ。

そう考えると、近藤vsゴトシー戦は、近藤がパンクラスという「仲間うちでの闘い」の弱さを露呈し、初の「他流試合」とも言える闘いを乗り切れなかった事実を世に示すことになった、と言ってもおかしくはない。

それでも、近藤の「まさかの敗退」は、今後のパンクラスの方向性に、ひとつの大きな問題提起を投げかける、パンクラスにとってはスキャンダル的な「貴重な一敗」だったとも言える。

前号の本誌で、自らを「実力先行型」と評した近藤。だが、いまのままでは「実力の安定していない王者」の烙印を押された状態であることは、近藤自身が一番よくわかっているはず。その意味においても、9・6東京ベイNKホールでの初防衛戦で、いままでの悪夢をすべて払拭しなければならないのは近藤に課せられた使命である。相手は以前、近藤が負けを喫しているジェイソン・デルーシアだが、苦手だ何だと言っている暇はない。



「勤勉」「努力」を絵に書いたような典型的優等生の若き王者・近藤というスキャンダル。この事実を追うことが、パンクラスを見る上での最大のポイントなのである。

◆今年5〜8月のパンクラスの流れ

5・24 神戸ファッションマート・アトリウムプラザ

●この日、メインイベントに登場した鈴木みのるがジョエル・サトウンを試合開始48秒、アームロックで秒殺し、7カ月ぶりに復活。「帰って来たぜ！ 一気にてっぺんまで行くぞ！ 邪魔する者は片っ端から叩き潰す!!」と試合後に強烈なマイクアピールを行なった。

また、4・27東京ベイNKホールで船木誠勝を破り、新王者になった近藤有己はセミファイナルに登場。ベルトを巻いての入場に館内からはどよめきが起こったが、対戦相手であるゲーリー・マイヤーを5分35秒、レッグロックでキッチリと片づけた。

6・18 後楽園ホール

●メインに登場した鈴木がジャグジット・シンを強烈なハイキックにより試合開始21秒で撃破。試合後のインタビュースペースで、「7・20後楽園ホールでジェイソン・デルーシアと王座への挑戦権を賭けて闘いたい」とコメント。復活した鈴木に、周囲の期待はいやがおうにも高まる。

6・30 博多スターレーン

構成／"Show"大谷泰顕
text by "Show" Otani Yasuaki

Scandal File No.2
山宮恵一郎



4・27東京ベイNKホールでTAKAみちのくと異種交配的な一戦を制した山宮恵一郎。

おそらく、nWoやデスマッチに酔いしれる一般的なプロレスファンには、その程度の認識しかないかもしれない。

ただ、最近「強くなったなぁ」と思わずつぶやきたくなっちゃうのが、この山宮なのだ。

それはTAKA戦よりも前に、髙橋義生のセコンドにつくために訪れた、2月の第12回アルティメット大会（以下U大会）での経験と、6月の福岡で、第13回U大会の軽量級部門に優勝したガイ・メッツァーと一騎打ちを行い、惜しくも敗れはしたものの、「ヤマミヤはチャンピオンを狙える」とまで言わしめた点が証明している。

また、7月に行われた、パンクラス版J・cupの『ネオ・ブラッド・トーナメント』では、なんと念願の初優勝！

「若手は個性がないと言われるけど、パンクラスは上の人たちだけじゃなく、僕らも頑張ってるんです」

試合後にリング上から優勝の挨拶をこう語った山宮の言葉には、有無を言わせぬ説得力があった。その余勢をかってか、8月の道場対抗戦では、P's LAB側の大将をつとめ、先輩の渋谷修身から初勝利をあげ、自軍を勝利に導くなど、本当に数多くの分岐点に立ち会っている。で、今年の山宮の次なる相手は？　と言うと、これが鈴木みのるとの一戦。これには、おのずと注目せざるを得なくなってくる理由がある。なぜなら、現王者・近藤有己に注目が集まったのは、昨年6月の福岡での鈴木戦を制した瞬間になるからだ。しかも今回は、勝てばいきなり5位に入れるランキング戦でもある。

考えると、近藤が鈴木から勝利をもぎ取ったのがデビュー5ヶ月。それこそ当時は「事件」だった。ただ、実は山宮でさえデビューしてから、まだ1年1ヶ月しか経っていない。これは、従来のプロレスのシステムからすると、超超超ハイスピードでパンクラスが動いている証拠でもある。



確かに、パンクラスの“驚異”は、蝶野正洋＆グレート・ムタが米国のnWoに進出する“衝撃”や、世界格闘技連盟の持つ“爆発力”と違って見えにくい世界ではある。それでも、目に見えるかたちで着実に一歩ずつ段階を上がっていることは否定できない。

つまり、いまは「誰それ？」と言われていても、来年のいま頃には、王者としての風格を身につけている可能性が十分すぎるほど存在するのが、パンクラスという世界なのだ。

考えると、これ以上「怖い世界」は他にはない。やはりパンクラスとは、スキャンダルに満ち溢れた集団であり、空間なのである。

Scandal File No.3
冨宅飛駈



新生ＵＷＦでデビューを果たした冨宅飛駈も、はやデビュー８年目をむかえ、中堅として組織の要を担うまで成長した。それは、いままで冨宅がプロレス界から学んできた「遊び心」が、パンクラスでもキチンと生かされている証拠でもある。

いやいや、もしかしたらパンクラスにおける最大のスキャンダルは、冨宅の持つ「遊び心」かもしれない。

例えば入場時。ある時はテーマ曲なしで入場し、またある時には一曲全部が流れた時点で入場する独特の戦法。８・９大阪の道場対抗戦では、なんと「ＵＷＦのテーマ曲」で入場し、観客を驚かせ、かつ楽しませてくれた。

観客を楽しませることこそ、すなわち「遊び心」なのである。

他にも試合後にはドロップキックや、ローリングソバットの演舞まで披露してくれる。

それは今夏発売になったパンクラス公式読本でも明かしてくれた通り、「遊び心」の部分では他の追随を許さない。率先してエンターテイメントプロレス（ただし海外）を経験してみたり、「最近は負けることに抵抗はないですね」と、一見しただけでは「完全実力主義」と言われるパンクラスの理念とは「矛盾」するかのような言葉をあえて言ったりもする。

確かにそれは、「ドームプロレス」を日常的に楽しむファンからすれば陳腐に写るかもしれないし、逆にパンクラスに「強さのみ」を求める根幹のファンからしても、煙たがられる可能性だって否定できない。

ただ、プロレスの持つ豪快さはそんなことではビクともしないし、反対にパンクラスの「完全実力主義」とは、冨宅のような、最小限の「遊び心」でさえ疎外するような、それこそ陳腐な空間ではないはずである。

だから、冨宅がパンクラスで実践する「遊び心」は、手放しに賛同してしまいたくなるのだ。今後も冨宅には、決して臆することなく「遊び心」を爆発させてほしいと切に願う。

それでも、近い将来で構わない。冨宅の持つ「遊び心」とは対局に位置する「ドス」を、一度だけでいいから、観客にわかりやすいかたちで提示してほしいのだ。

その時こそが、真の意味での「遊び心」＝「スキャンダル」と成り得るに違いない。それがランキング戦の試合後なのか、タイトルマッチの入場時なのかはわからないが、きっと、いままで冨宅がプロレス界で培ってきた、本当の「遊び心」が爆発するはずである。

6・30 博多スターレーン

●ようやくメインに登場した近藤だったが、セーム・シュルトを相手に苦戦を強いられ、20分フルタイムの末、辛うじて判定で勝利をもぎとる。試合後、マイクを持った近藤は「僕は鈴木さんをチャンピオンと指名します！」と観客に向けて逆アピール。近藤VS鈴木戦に向けて、いっそうの機運は高まった。

7・20 後楽園ホール（昼夜）



●パンクラス夏の恒例イベント、『ネオ・ブラッド・トーナメント』が開催される。このトーナメントには窪田幸生と美濃輪育久がデビューを果たし、ともにデビュー戦は白星で飾ったものの、準決勝でともに敗退。注目の3位決定戦も窪田の負傷で美濃輪が不戦勝となった。（9・6東京ベイNKホールで再戦が決定！）。トーナメントの決勝戦は、美濃輪を破った長谷川悟史と窪田を破った山宮恵一郎の間で争われたが、結局、5分50秒、TKOで山宮がこれを制し、初優勝を果たした。

また、昼の部の注目カード、船木誠勝VS渋谷修身の初対決（ランキング戦）は渋谷が船木を攻めきれぬまま、9分30秒、フロントチョークスリーパーで船木が勝利。夜の部の注目カード、鈴木VSデルーシアのランキング戦は、鈴木が左膝靭帯部分断裂のため、無念の不戦敗。近藤へのタイトル挑戦は先送りとなった。一方の近藤はジェイソン・ゴドシー相手に8分17秒、首固めで「まさかの敗退」を喫し、初防衛戦に向けて不安を残す結果となった。



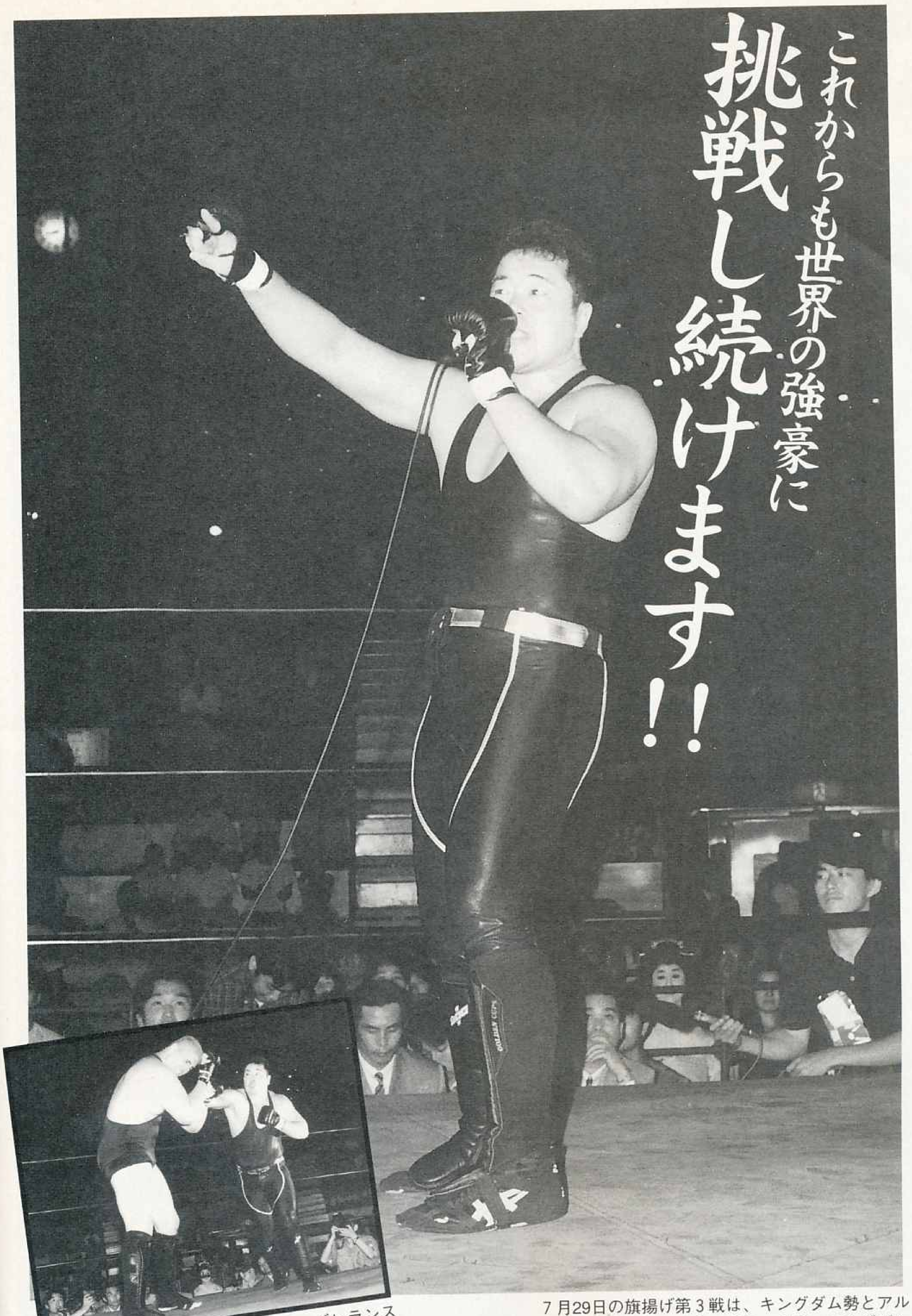
8・9 梅田ステラホール



●対戦カードをリング上で当日発表する新しい試みの中、パンクラス初の道場対抗戦（P，sＬＡＢVS横浜道場　4対4）が開催された。結果は3勝1敗でP，sＬＡＢに凱歌が上がり、試合後、勝者側の道場主である船木が「次は大阪城ホールで」とマイクで挨拶。次いで冨宅飛駈が「同じことを言おうと思ったが船木さんに言われてしまったので、次は大阪ドームで」の言葉でしめくくった。

KINGDOM PROFESSIONAL WRESTLING

『最強』から『挑戦』へ――
縛るか縛られるか、それが問題だ!!



4月にパンクラスにも参戦したP・バレランスを下した安生。試合後のアピールはキングダムの理念として根付くか

7月29日の旗揚げ第3戦は、キングダム勢とアルティメット・ファイターの3vs3で、キングダムは3戦全勝。9月3日の後楽園大会も3vs3だ!

キングダムはマジメになった。

安生、高山、山本健一の3人は「ゴールデン・カップス」を遠い過去のものとしてファイトしている。

キングダムは、プロレス団体としては初めてのグローブ着用、ポジションによってはマウント・パンチが許される――といった"ルール"に最大の特徴がある。「ゴールデン・カップス」でやっていたような自由な闘い方では適応できなくなっているのだ。

たとえ50%の技術しか出せなくても、100%の気迫とパフォーマンスでぶつかっていけば突破できる世界から、100%の技術を出しきらないと勝てないルールになったわけである。

要は、選手たちが、マジメにプロレスと向き合い、アスリートとしての自我に目覚めたということである。

それを徹底していくのか、否か。

UWFが生まれ落ちて以来抱えている問題点をキングダムも抱え込むのか、否か。

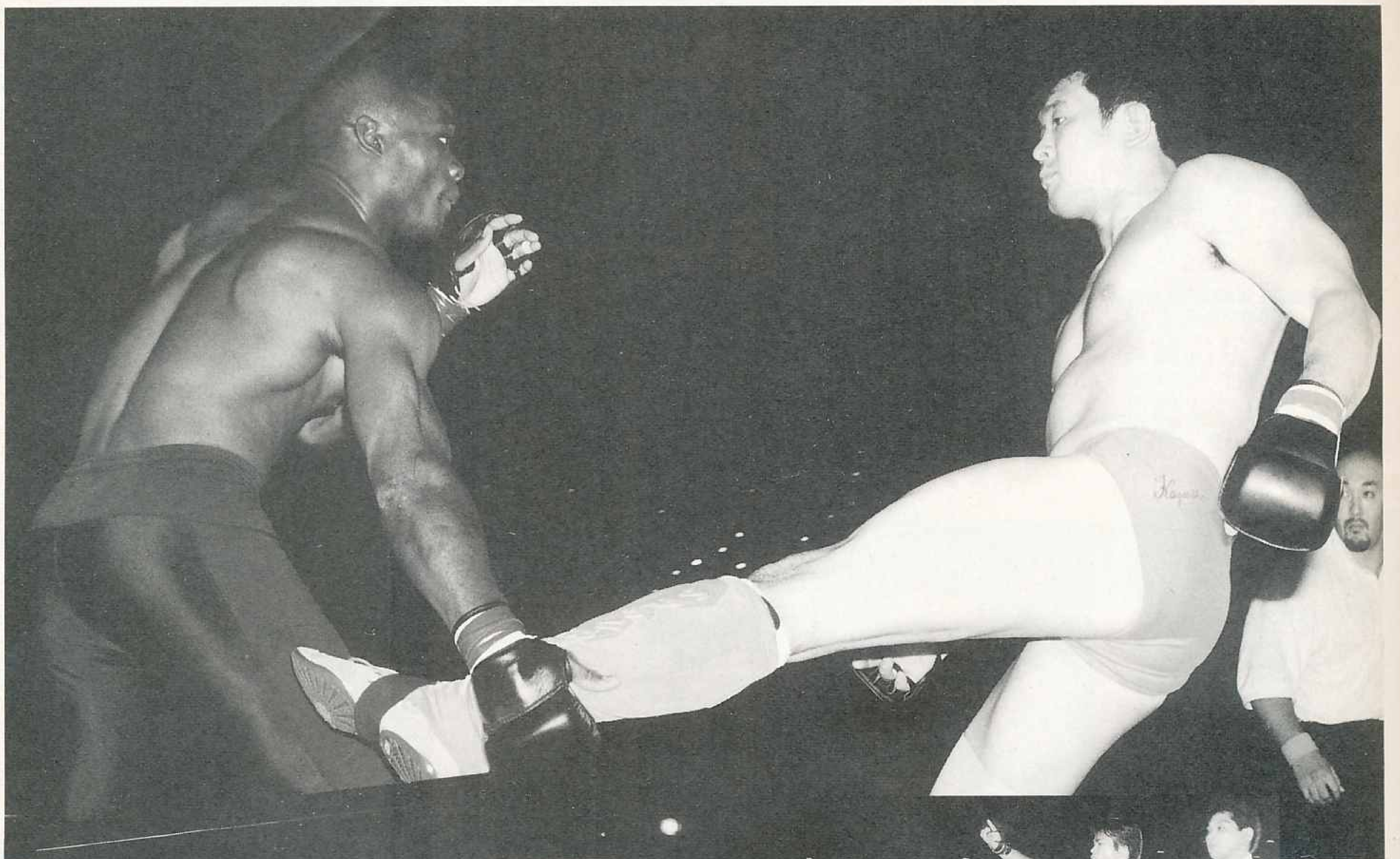
話は変わるが、「旗揚げ」「引退」「コケラ落とし」――、この3つは、現在のプロレス興行の"三種の神器"である。

逆にいえば、現状のプロレス界は、こ

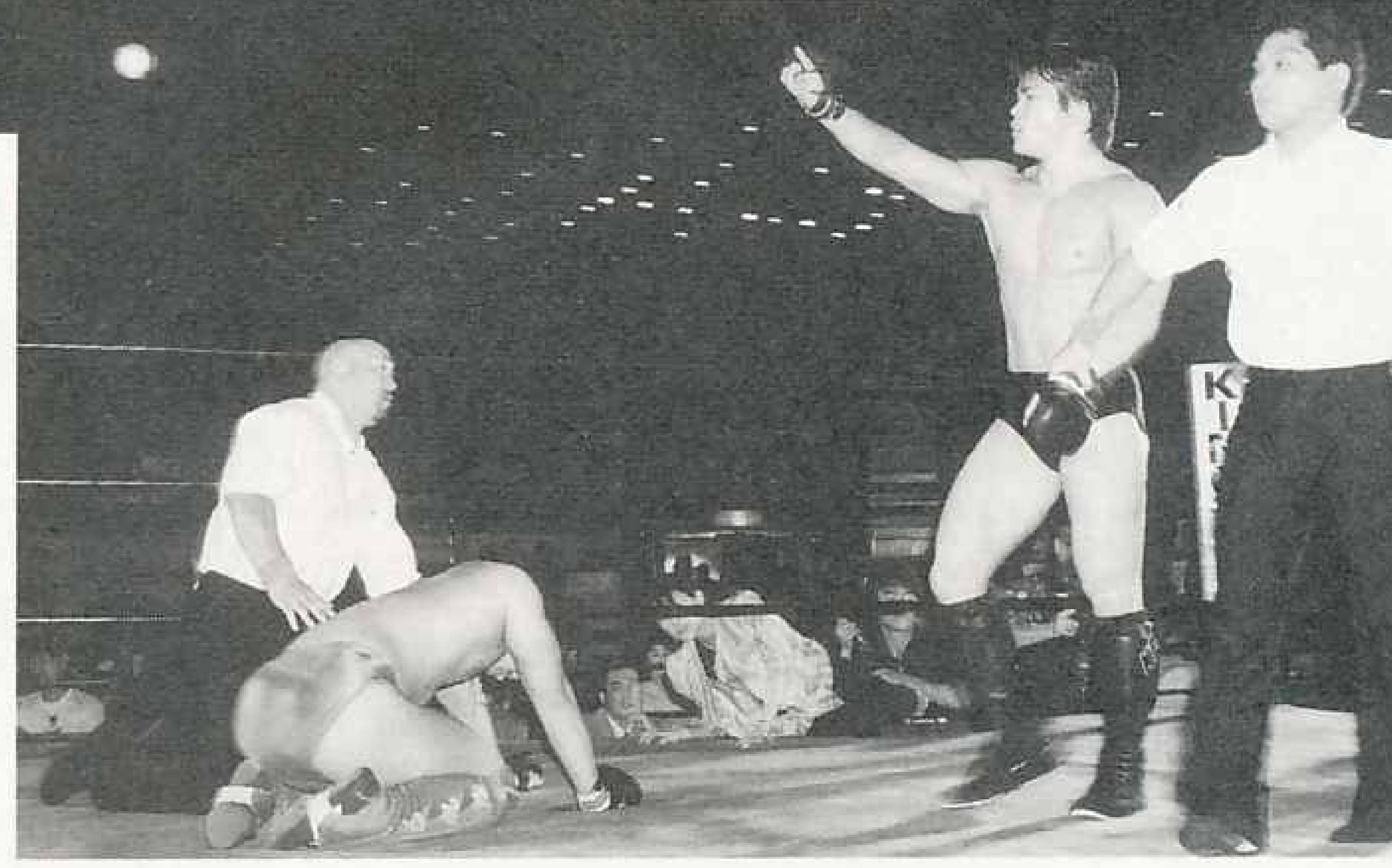
PRELUDE FOR THE WORLD
9・3（水）　後楽園ホール　19:00開始

安生洋二VSパトリック・スミス

桜庭和志vsマーティー・ホレンスタイン　山本健一vsニコラス・スタークス
佐野友飛vs金原弘光　高山善廣vsビリー・ジャック・スコット
垣原賢人vs折原昌夫　松井駿介vsウェイン・ハス
高田延彦公開練習　他　　問い合わせ＝キングダム03・3224・1151



桜庭和志は、第２回アルティメットに出場したキック・ボクサーのＯ・ウィットーに完勝。バランスの良さと勝負度胸をみせつけた（７・29代々木）



ヤマケンこと山本健一は、カッキーこと垣原賢人を18秒で秒殺！ ヤマケンの上昇志向は、ファイトにもあらわれてきている（７・29代々木）



風貌も含めプロらしくなった松井駿介。初来日のブライアン・スミス相手に初勝利を挙げ吠えた（７・29代々木）

の"三種の神器"以外の興行は、一部を除いて全滅状態に近い。
キングダムもご多聞にもれず、５月４日の旗揚げ戦は高田延彦抜きでも超満員となったが、同じ国立代々木競技場第二体育館で開催された６月20日の第２戦、７月29日の第３戦は大苦戦を強いられた。
この大苦戦の原因は、キングダムの"ルール"が目新しさを狙った場当たり的なものなのか、将来を見据えてのものなのか、現段階ではファンもまだ掴み切れていない状態だということだろう。
ただ、この第３戦では、Ｐ・バレランスを破った安生洋二がマイクをとってこう叫んだ。
「これからも世界の強豪に挑戦し続けます!!」
『最強』から『挑戦』へ——。
テーマはハッキリした！
『最強』を掲げながら、異種格闘技戦、ヒクソンへの道場破り、新日本との対抗戦など、様々なものに『挑戦』しダイナミックに動き続けたＵインター——。
それに対してキングダムは、Ｕインター時代になめた苦汁を払拭するために、『挑戦』し続けながら『最強』への道を探っていく団体と考えればわかりやすいだろう。
細部を縛ったルールで"闘いの本質"を追求していくのか、このルールに縛られて、ただイタズラに"プロレス本来の面白さ"から離れていくのか——。
いずれにしても、選手たちが辿ってきた道程に対して「落とし前」をつけることに本気ならば、この先キングダムはより面白くならなければならないはずだ。

逆にいえば、現状のプロレス界は、こ

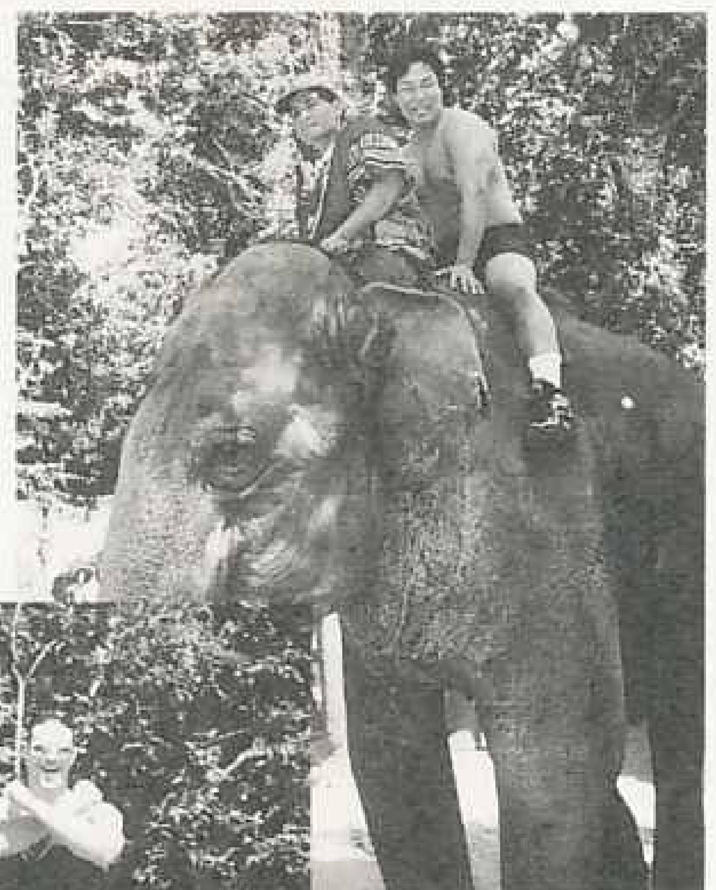
格闘探偵団 BATTLARTS

ヤングジェネレーションバトル'97

盛りあがってますかあぁぁ!!

夏のプロレス風物詩と言えば、新日本プロレスの『G１クライマックス』。そして、天下の新日本と比べると、ミジンコクラスの弱小団体バトラーツが、生意気にも『ヤングジャネレーションバトル』という裏・G１的なシリーズを「夏の恒例！」と言い切り、ずうずうしくも全国各地で熱戦をくり広げているとの噂。夏の風物詩はG１だけで充分だ！　なぜならっ！　両国国技館はクーラーが効いてて涼しいぜ！　しかも、パンフレットは豪華だぜ！　演出も金かかってるぜ！　そして何より、今年は、佐々木健介（二代目・長州）が優勝したぜ!!

ということで、確実に新日本及びG１の方が世間的には優ってるんですが、RADICALは、バトラーツ及びヤンジェネを、バトラーツが潰れない限り、誠心誠意込めてガッチリ応援するぜ!!



7・21　千葉県・市原市湘南動物園ゾウさんショー広場特設リング
パンフレットの『ヤンジェネへの意気込み』というテーマの色紙に「象に乗った」と嬉しそうに、しかもイラスト付きで書いていた石川選手（バトラーツ社長）。ゾウに乗れて良かったね、トーイ！（これでも、バトラーツ社長）そして、普段は怖いビクター（これでも驚異の無敗男）もゾウに乗る。しかもかなりの勢いで嬉しそう。（撮影／遠藤さん）

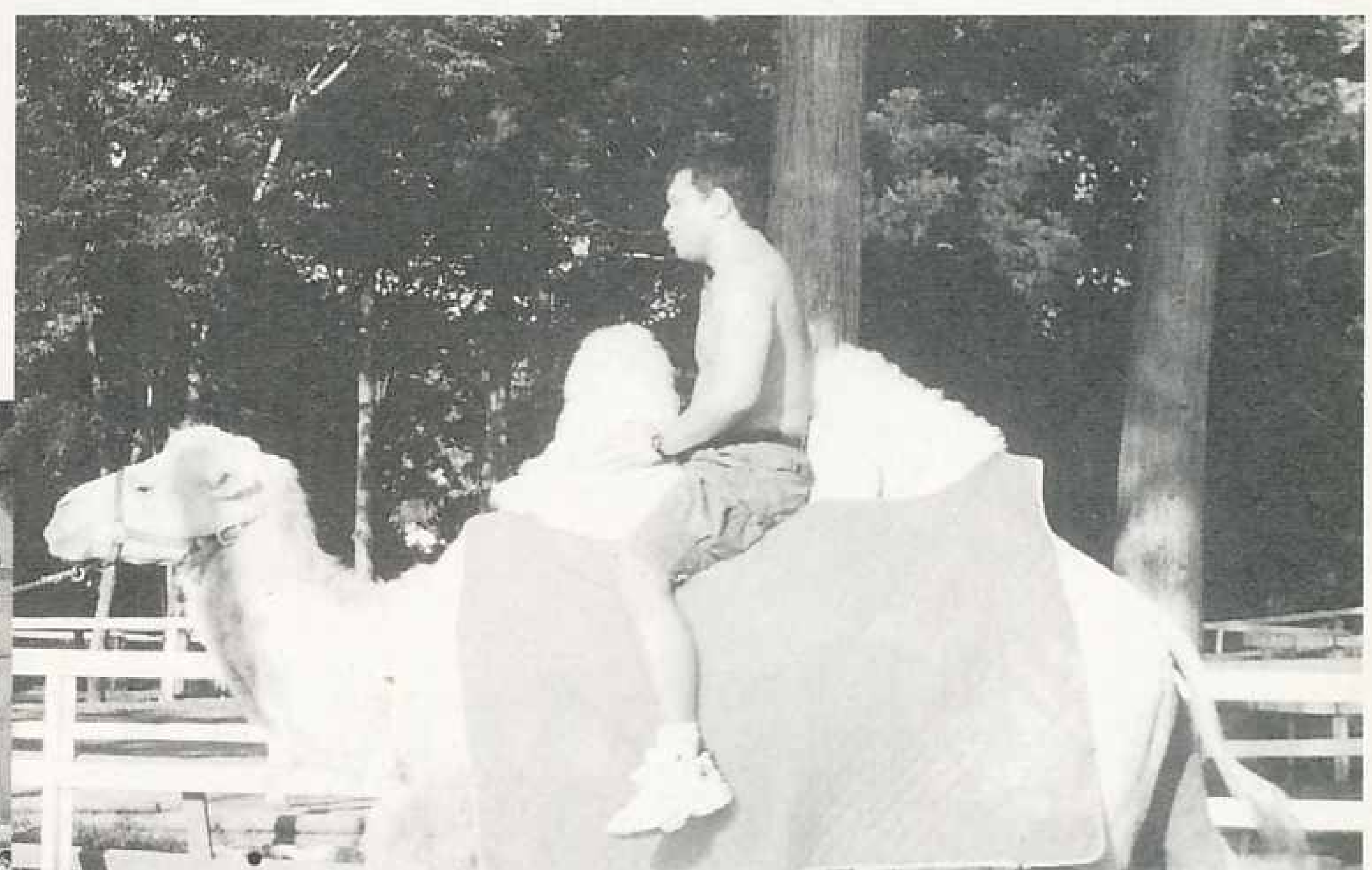




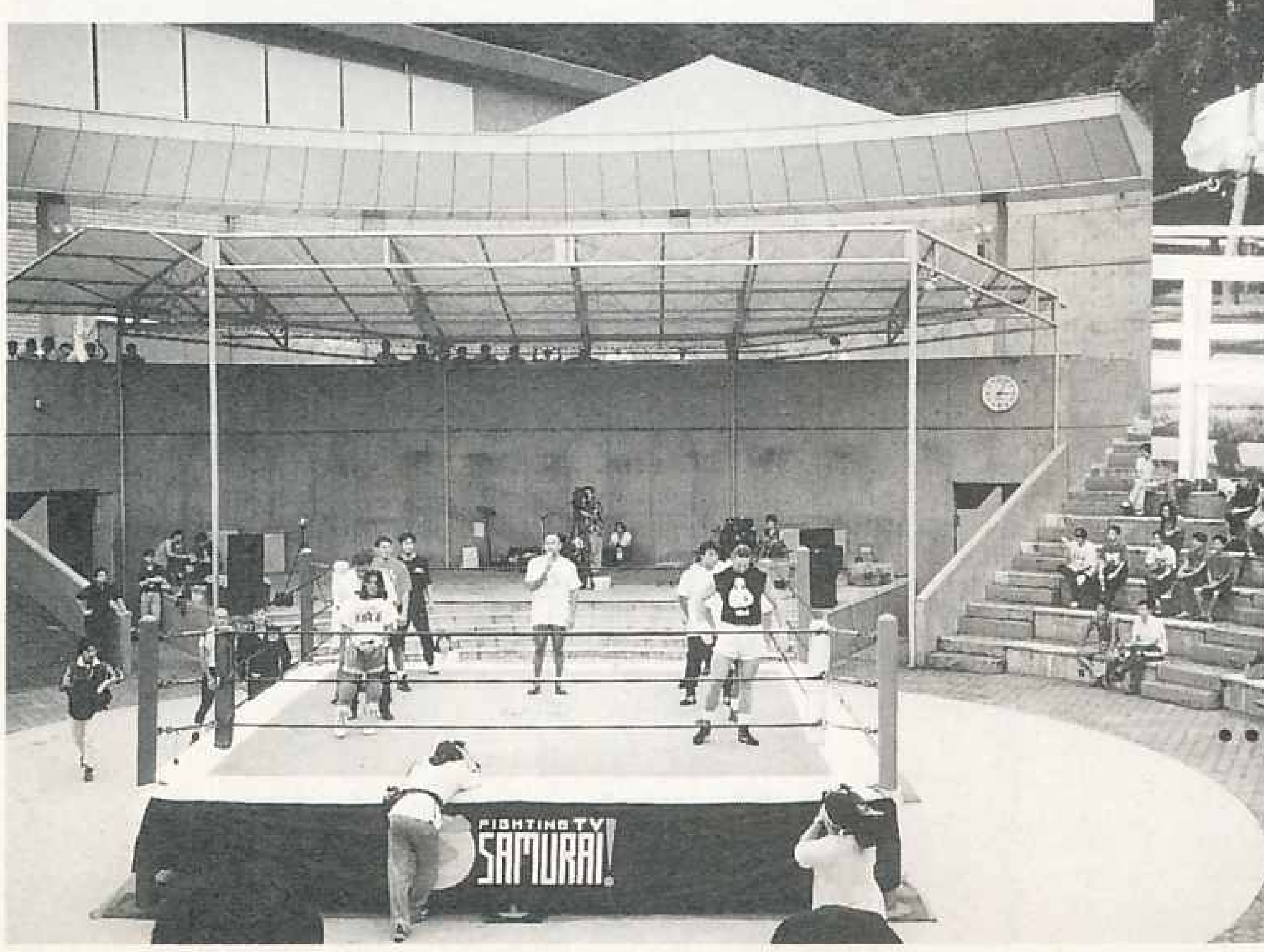
7・21　千葉県・市原市湘南動物園ゾウさんショー広場特設リング
ゾウさんと綱引きをするヨネちんとアレク、そしてその他、純真な子供たちの皆さん。ヨネちん＆アレク＆子供たちの力で引っ張っても力一歩及ばず、勝者はゾウのモモコちゃん（名前、適当）という結果に。モモコちゃん強し！　グレート・アントニオだったら勝てるかな？（撮影／遠藤さん）



7・21　千葉県・市原市湘南動物園ゾウさんショー広場特設リング
何だ、コイツ〜!?　猫以外の動物はみんな檻に入ってたんだけど、コイツだけは外でのうのうと草を食べてたよ。脱走犯？（撮影／「変な動物がいるから写真撮っておいた方がいいよ」と武志に言われ、のものもが激写。しかも、知らないウチにパノラマで撮影）



7・21　千葉県・市原市湘南動物園ゾウさんショー広場特設リング
『東スポ』の取材でラクダに乗る大ちゃん（しかし、その写真は掲載されず）。「コブが……、コブが……」と意味不明の言葉を発しながら、結構楽しんでたよ。大ちゃん、コブがどうしたの？（撮影／これも「シャッターチャンスだ！」と、武志にアドバイスもらって、のものもが激写。これも、パノラマ）



7・27　徳島県・徳島文化の森総合公園
前日まで台風で開催が危ぶまれていた徳島大会。しかし当日はご覧の通り大晴天！　試合も、おやつの『酢昆布』が発酵しちゃうほど大盛況だったよ。さすが、うつくしま徳島！（正しくは「うつくしま福島」）ちなみに駅前で買った『ワカメ飴』は、これっぽっちもワカメの味がしなかったよ。（撮影／のものも）

たまにはマジメに試合を振り返ってみるのもいいかと思うがどうだろう？

7・21（市原）●池田×臼田○
昨年の決勝戦のカードがいきなり開幕戦で実現、しかも動物園でだ！　しかも、しかも昨年優勝者の池田、初っぱなから臼田に撃沈。

7・21（市原）●石川×ビクター○
クラブチッタでビクターに惨敗しているだけに、リベンジが果たせるかと思ったが、ここでも手も足も出ず……。社長オォオォオォ。

7・26（姫路）●小野×大塚○
最近ノリにノっているアレクが小野をKO。スープレックスの連発は圧巻！　ドッカン！　のひと言。

7・26（姫路）○田中×臼田●
初戦で池田から白星を奪った臼田。珍しくヘッドバットを使い善戦したが敢えなく敗退。対する田中は絶好調!!

7・26（姫路）○池田×カール●
「苦手」と称する相手なだけに、序盤はかなりヒヤヒヤする場面が多かったが、池田、会心の勝利。

7・27（徳島）●臼田×カール○
グラウンドテクニシャン&床上手の二人なだけに、グラウンドの攻防は見応え満点。今回の勝者はカール。

7・27（徳島）▲大塚×ビクター▲
無敗の最強2m外人・ビクターと引き分けに漕ぎ着けたアレク。バトラーツ名勝負に残る感動の一戦。いい夢見させてもらったよ!!

ヤンジェネ出場選手



[バトバト今後の日程]

8.29	（金）	北海道・岩見沢市スポーツセンター	19:00試合開始
8.30	（土）	北海道・札幌テイセンホール	18:30試合開始
8.31	（日）	埼玉・八潮夏まつり特設会場	13:00試合開始
9. 1	（月）	石川・石川県産業展示館2号館	19:00試合開始
9. 3	（水）	神奈川・クラブチッタ川崎	19:00試合開始
9. 6	（土）	東京・北沢タウンホール	19:00試合開始
9. 7	（日）	東京・東京FMホール　昼の部	14:00試合開始
9. 7	（日）	東京・東京FMホール　夜の部（決勝戦）	19:00試合開始
9.24	（水）	八王子マルチパーパスプラザドーム（正式名称には、ドームは付きません）	19:00試合開始
10. 5	（日）	越谷まつり	詳細未定
10.18	（日）	茨城県・北茨城市体育館	18:00試合開始
10.19	（土）	埼玉県・児玉町体育館	18:00試合開始


えー、非常に地味ですがココでも優勝者予想！
えー、巻頭で、高田×ヒクソン戦の大々的な優勝者予想を繰り広げているわけですが、ココでもいっちょ、優勝者予想というのをやってみたいと思います。と、いうことでヤンジェネ、優勝するであろう選手の名前を一人選んで、〒151　渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス『紙プロ』編集部「ヤンジェネしみったれた予想」係までハガキでご応募下さい。ズバリ当たった方には、石川雄規（これでも社長）のサイン入りの、超カッコイイ最新パンフレットを差し上げま～す。



ヤングジェネレーションバトル'97公式リーグ戦

対戦表○勝ち（2点）●負け（0点）▲引き分け（1点）

	石川雄規	池田大輔	臼田勝美	田中稔	小野武志	アレクサンダー大塚	カール・グレコ	ビクター・クレーガー	得点
石川雄規		9・1石川	8・29岩見沢	8・30札幌	8・31八潮	9・3川崎	9・7東京FMホール（昼）	●	0
池田大輔	9・1石川		●	9・3川崎	9・6下北沢	9・7東京FMホール（昼）	○	8・30札幌	2
臼田勝美	8・29岩見沢	○		●	9・3川崎	8・30札幌	●	9・1石川	2
田中稔	8・30札幌	9・3川崎	○		9・1石川	8・29岩見沢	8・31八潮	9・7東京ホール（昼）	2
小野武志	8・31八潮	9・6下北沢	9・3川崎	9・1石川		●	8・30札幌	8・29岩見沢	0
アレクサンダー大塚	9・3川崎	9・7東京FMホール（昼）	8・30札幌	8・29岩見沢	○		9・1石川	▲	3
カール・グレコ	9・7東京FMホール（昼）	●	○	8・31八潮	8・30札幌	9・1石川		9・6下北沢	2
ビクター・クレーガー	○	8・30札幌	9・1石川	9・7東京FMホール（昼）	8・29岩見沢	▲	9・6下北沢		3


BIRTHTOUR1997BIRTHTOUR1997
KINGDOM
PROFESSIONAL WRESTLING
birth tour 1997
professional wrestling kingdom
KINGDOM
PROFESSIONAL WRESTLING
KAGOSHIMA LIVE 9/16 (THU) 鹿児島アリー
BEPPU LIVE 9/20 (SAT) 別府ビーコンプラ
HAKODATE LIVE 11/15 (SAT) 函館市民体育
SAPPORO LIVE 11/19 (WED) 札幌中島体育センター
お問い合わせ/お申し込み：PROFESSIONAL WRESTLING KINGDOM 03−3224−1151

新日本プロレス 25周年特別試合 第2弾

ドン荒川 VS 藤原喜明

新日トンパチスピリットの源流

新日ストロングスタイルの源流

超過激対談



前号で予想通りの大評判となったストロング・スタイル対ひょうきんプロレスの頂上対決。酒と喧嘩と女に熱中しようとも、強ければそれでいいんだ！　思わずビバ新日、ビバ猪木、ビバ格闘技連盟と叫びたくなるあまりの素晴らしさゆえ、写真を無理矢理小さくして強引に詰め込んでみました！　なお、しつこいようだがこの対談は荒川さんの発言を怒涛のような早口で、組長の発言をどもり気味に読むと、一層リアリティが増すはず。ではどうぞ。

構成／吉田豪 with T
text by Go Yoshida
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito



あの親分には「殺せ！」って、何回言われたかわかんねえよ。

荒川　あの頃、「ヤクザが来ても逃げるな！」って言われてたんですよ。静岡行ったときにね、丁度ヤクザのドンパチ時代だったから、「何を～、このチンピラが！」って言ったら、チンピラじゃなかったんですよね、その人（笑）。今はお世話になってる人だけど（笑）。

――本物だったわけですね（笑）。

荒川　その人の子分をガーンって殴ったら「試合終わったら表に出ろ！」って言われたの。「おう！　どこにでも行くわ！」って言ったら、「車乗せてけ！」って。そしたら山本（小鉄）さんが飛んできて「荒川、荒川！」って、首を横に振ってるんですよ。でも俺は「山本さんがやれって言うから、やってんじゃないスか！　冗談じゃねえよ！」って（笑）。

――言われた通りやったのに（笑）。

荒川　だから、逆に褒められたらしいよ。「いい弟子持ってる」って（笑）。ホント、半分覚悟したよ。でも向こうも小鉄さんの顔立ててくれたからね。

藤原　大体コレ（ヤクザ関係）は俺たち二人だったよな。大阪でもさぁ、あん時は40人くらい子分従えたヤクザもんの大物と一緒に料亭行ったわけ。で、親分とオシッコ行ったとき、親分のアレ見て「元気いいっスねぇ」って言ったら怒り出してねぇ（笑）。「おい、てめえら！　殺せ～！」って。

――ガハハハハハ！

藤原　親分が酒乱なんだよ。でも子分は俺らのこと知ってたから、何にもしなくて（笑）。あの親分には「殺せ！」って何十回言われたかわかんねえよ。飲まないときは、いい人でな。

――いいっスねぇ、ガチンコできてバカできる人たちって素敵ですよ（笑）。

荒川　いや、逆に僕なんか身体小さいでしょ。足も短いし、気も小さいし、だからできるんですよ。

――気も小さい！（笑）

荒川　いやホントですよ。僕なんか夜中、歩きませんから（笑）。ホントは控え目で無口なんですよ。

――無口！　早口じゃないですか（笑）。

荒川　でも感謝の心だけは忘れないの、ホントに。（ここで「ピンポンパンポ～ン♪　こちらは～」と、町内放送が大音量でガンガン流れる）

藤原　喧嘩したってしょうがないよ。

荒川　だから長州と前田が仲良く鳩ポッポになったけど、あれもいいことですよ。佐山だって今、猪木さんと鳩ポッポでしょ。「この世界は信じられない」って、みんな言うけど、信じられない世界がプロレスなんですよね。

ドン荒川 VS 藤原喜明

藤原　そうだよな。「あの野郎、ブッ殺してやる！」って言ってたのに（笑）。

荒川　だから猪木さんと……、（町内放送が流れてくる方向に向かって大声で）ちょっとボリューム小さくして！

藤原　（同じく、町内放送が流れてくる方向に向かって大声で）俺たちは遊んでんじゃねえんだ、バカ！

荒川　（立ち上がって道路へと飛び出して行き）すいませ～ん！　これ、ボリューム小さくして！

――プロだなあ（笑）。

荒川　（戻って来て）ダメだったぁ。

藤原　ダメに決まってるだろ！　あれは有線放送だよ。こんなのが、長嶋さん（巨人軍監督）の友達なんだもんなぁ。

荒川　ずっとお世話になってます。監督は私のスポンサーですよ（笑）。

――ホントに世渡り上手いですよね。なにしろ佐川急便の社長を助けたっていう伝説まであるじゃないですか。

荒川　それは間違いなく！　もう十年位前。高速道路のトンネルの中で、佐川会長が運転してたロールスロイスが故障したんですよ。僕らはタクシーに乗ってたんだけど、「スト～ップ！」って叫んで。あれ、止まんなかったら、あと5センチで僕らアジャパー。

藤原　何したの？

荒川　衝突事故。大型トラックが突っ込んできたの。玉突事故になって、僕らのタクシーもガーンといかれちゃったんですよ。でも助かったから、そのとき僕の力が活かされましたね（笑）。ビクともしないドアも、僕が力入れたらドアがバーンと吹っ飛んで（笑）。それで佐川会長を出したんです。

藤原　俺は人を助けた事、ないもんな。

荒川　俺は助けたんじゃなくて、運が良かったんだなぁ。自分で言うのもおかしいけど、ホント調子いい（笑）。

――メガネスーパーの田中社長（現・会長）にここまで気に入られるっていうのも、すごい話ですからねえ。

荒川　いやもう会長には頭上がりませんよ。50年間生きてきて、いまが一番頭上がらない（笑）。

藤原　あの社長は素晴らしい方だよな。レスラーは、ああでもないこうでもないって言うけどねぇ、おかしいよな。

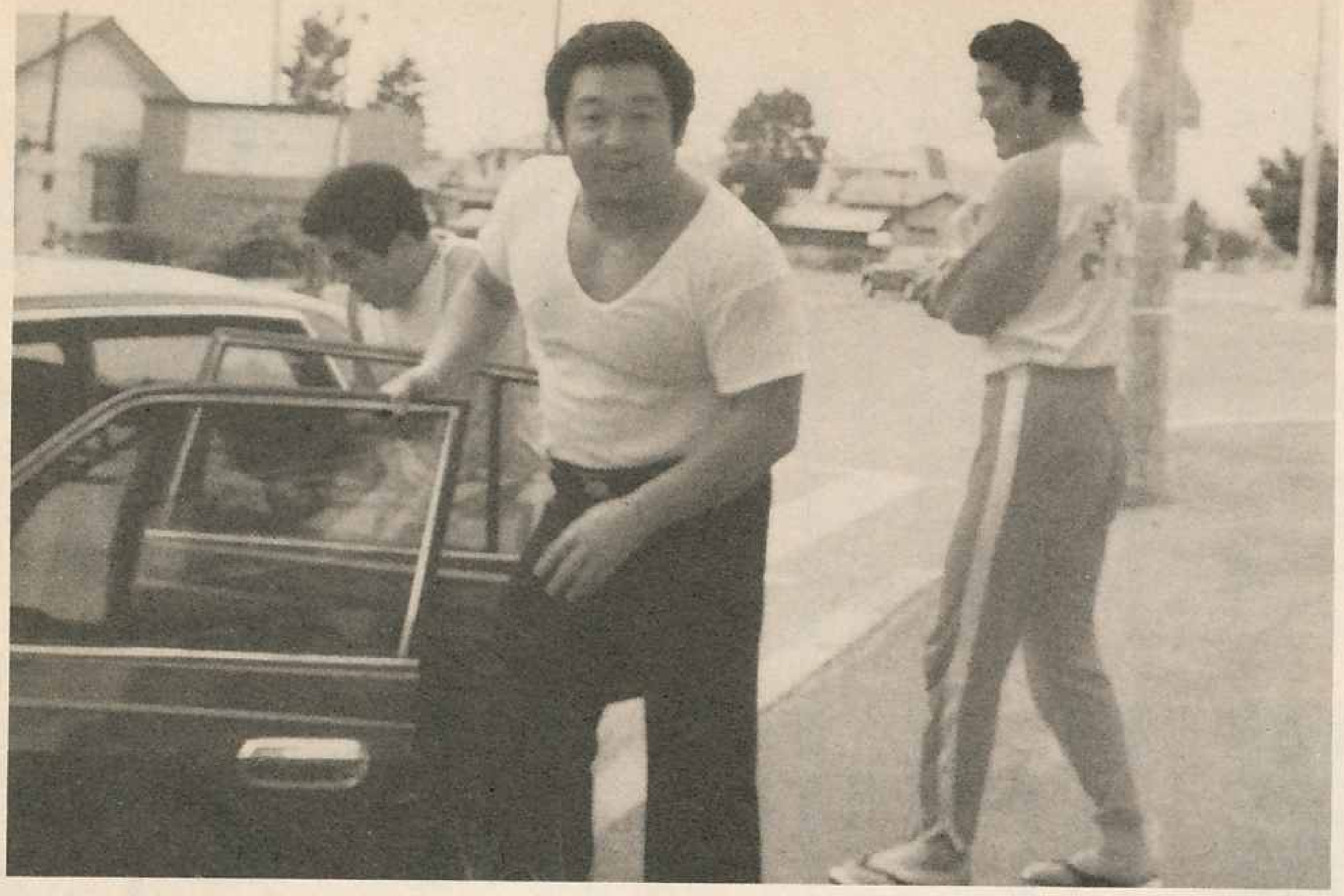
――結果はともかく、やろうとしていたことは正しかったですよね。

藤原　正しかった。金を使って一生懸命やってさぁ。みんなどうのこうのって、おかしいよ、そりゃ。

荒川　もうすぐ、また出てきますよ。自分のとこでやるとかそういうんじゃなくて、マット界を良くするために出てきますよ。そういう人ですよ。

――そういえば折原さんから聞いたんですけど、SWSの道場で酔っぱらったジョージ高野さんが一升瓶片手に大暴れした時に荒川さんが現れて、高野さんとゲロまみれのスパーリングをして揉め事を何とか終了させたという伝説もあるみたいですね（笑）。

荒川　あ～っ（笑）。アイツは酔っぱ



らうとキレるから。前田もそういうことあったよ。酔っぱらって暴れてたから、ロープに帯で前田をぐっちゃったんです。本人覚えてないけど（笑）。

——うわ〜っ、カッコいいですねえ。

荒川　カッコいいとかそんなんじゃなくてね。マット界で「僕とスパーリングやりたい」って言われれば、どこでも「お願いします」って行くんですよ。でも行ったら嫌がられますけどね（笑）。まだまだですね。負けないですよ（笑）。

——でも全日にまで、この2人で上がったわけですからね。

藤原　私も上がってますよ！

荒川　この人はどこでも上がれますよ。でも、この人が一番やりたいのは、ひょうきんプロレスなんだから！

——なぜだ（笑）。

荒川　逆に僕は、彼のスタイルが一番やりたいです。やっぱり、ああいうのが格闘技ですよ。私がガーッとやっても、笑われて終わりですよ。やっぱりある程度のガタイを持ってガーッと行かなきゃ。だから私がそういうのを出してんのは、練習の時だけ（笑）。試合では目をチョンと突いたりしてね。

藤原　でも考えてみたら幸せだよ。俺らプロレスやってなかったら、今頃ブタ箱入ってるくらいしかないもん（笑）。やっぱり猪木さんのおかげだもんな。

荒川　彼なんか間違ってもそういうこと言う人間じゃなかったのに、こうなったのは素晴らしいですよ。大きくなったなぁと思ってさぁ。いや、態度がだけどね、キャハハハハハ！

藤原　歳がいかなきゃわかんねぇよな。

荒川　そうそう。特に私、遊びながら飯食わしてもらってるからわかるんですよ、感謝の気持ちが（笑）。

藤原　オッサンは楽してるよな。仕事もしないでさぁ……。

——具体的には何やってるんですか？

荒川　いや、何もしてません！　だからメガネスーパーの会長も「あんた、何やってるんですか？」って言いますよ。感謝してます（笑）。

——それでも許される（笑）。荒川さんホントに世渡り上手すぎますよね（笑）。

荒川　日本のスーパースターって、もう全部会いましたからね。藤原選手、長嶋さん、ジャンボ尾崎って（笑）。偉い人に会って「今度、遊びに来なさい」って言われると、俺はホントにすぐ行っちゃうんですよ（笑）。

藤原　言っちゃ悪いけど、俺は尾●さんとは兄弟だよ（笑）。

荒川　彼がね、レスラーとしてまだ有名じゃない時、博多行ったんですよ。

藤原　「いい身体してるから有名な方なんでしょ？」って聞かれたから、俺は「藤波辰巳です」って答えたよ（笑）。そしたら「さっきねぇ、ジャンボ尾●さんが来たわよ」って（笑）。もう二十年前のことだから、時効だよな。

——いい話、山ほど持ってますね（笑）。そう言えば昔、荒川さんが新日を辞める時に藤原さんが男泣きしたっていう伝説もありましたよね。

荒川　そうそう、彼だけね。僕、初めての円満退社だったの。そしたら彼が「オッサン、一言も言わねえで」って怒るわけですよ。「いや、もう前から辞めるって決めてたんだから」って。僕、新日本には未練も何もなかったから。

——やり残したこともなかった？

荒川　だって当時の選手みんな辞めちゃってたからね。それ以上いたら間違いなく天狗になっちゃうから辞めたの。もっと苦労しようと思って辞めたら、もっと楽になっちゃった（笑）。オッサンに怒られちゃったよ、「俺が泣いた、あの涙は何だったんだ！」って（笑）。

藤原　バカバカしい。損したよ！

荒川　坂口さんとは連絡取ってるんですよ。「（坂口社長のモノマネで）お前と藤原みたいな馬鹿がいなくなったよ」って言ってますよ（笑）。あれは猪木さんと夫婦ですよ。オカマ関係ですよね。

——オカマ関係ですか！（笑）

荒川　いやオカマじゃないけども、すごくいい関係。

藤原　猪木さんが、とんでもないことばっかりやってるだろ。それを上手にブレーキ踏むのが、あの社長だから。

荒川　猪木さんが地道にやるようになったら、あそこも終わりですよね。猪木さんが無茶してとんでもないことやって、坂口さんがハラハラしてるってそういう関係でいいんじゃないですか。

——まあ、坂口さんに派手にやれって言うのも無理でしょうけどね（笑）。

荒川　いやぁ、もっと地味になっちゃうでしょ（笑）。私は坂口さんに言いたいこと言ってるから、裏表ないもん。坂口さんも言ってる「（坂口のモノマネで）お前はいいなぁ」って（笑）。

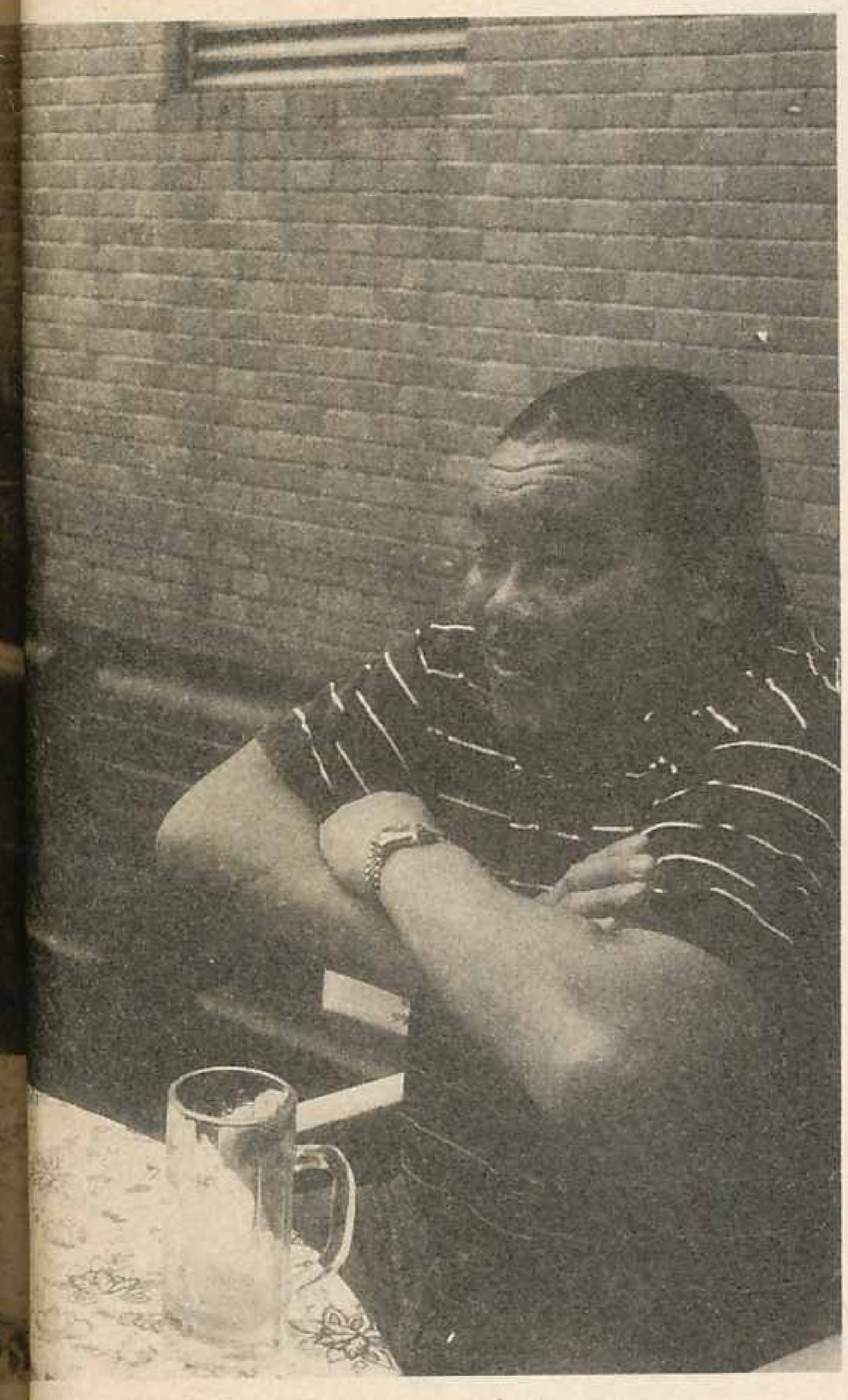
藤原　坂口さんもいま、辛いと思うよ。

荒川　それを男が言っちゃダメよ。辛くないよ、何もしなくていいんだから



「レスラーは酒を飲め」「喧嘩しろ」でしょ？ ヤクザと紙一重だよ。

（笑）。これは書いても大丈夫よ。「これ見て文句がある奴はここへ電話しろ」って、組長の電話番号載せといて（笑）。
藤原　いや、気苦労はあると思うよ。
荒川　気苦労くらいしたっていいよ、あの人。200キロあるんだから（笑）。じゃあ、ちょっと坂口さんの真似やってみてよ。おい、坂口さん！
藤原　だって、これやったらゴッチさんが腹抱えて笑ってたぜ（と言って坂口ウォークを真似しつつ……）。
荒川　坂口さん、電話です！　坂口さん……。ちょっと電話なんですけど……。坂口さん……。
藤原　（坂口さんのモノマネでゆっくり振り返り）…………あぁ？
一同　ガハハハハハ（大爆笑&拍手）。
荒川　じゃあ次、馬場さん！
藤原　（馬場ウォークを真似しつつ、ゆっくりと無言で振り返る）。
一同　ガハハハハハ（大爆笑&拍手）。
藤原　コレやったらゴッチさん、のたうち回って笑ってたよ。「お前、俺を殺す気かーっ！」って（笑）。
荒川　（本誌を見ながら）でもゴッチさん、この身体は大したもんだよ。
藤原　まだ練習してるもん。あそこまでやりゃあね、何だって言えるよ。誕生日が8月3日だから、もう74歳だよ。



荒川　先生（藤原）は先月の27日が誕生日、丁度明日で48歳と1ヶ月。
——よく覚えてますねぇ（笑）。
藤原　でもいいもんだよ、お誕生日覚えてくれるってさぁ。ウイスキーくれたんだけど、ちゃんと取ってあるよ。
荒川　そういえば俺も武藤、橋本、蝶野、船木に、「正月だから日誌に今年の希望書いて持ってこい」って、みんなに持ってこさせたの、未だにあるよ。でも、みんなゴマ擦ってんだよ（笑）。蝶野は「荒川さんと相撲とって、一番でも勝ちたいです」とか（笑）。
藤原　面白くねえや、そんなもん（笑）。
荒川　橋本は「ベンチで240キロ上げたいです」って。
——「打倒、荒川！」なんですね（笑）。でもやっぱり三銃士世代までは、この二人の面白さが伝授されてるんですよね。
荒川　三銃士ね。あいつらはいろんな勉強してますよ。「酒飲まなきゃダメだ」っていう勉強だから。ガーッと飲ませて「樽も飲め！」って随分やったから。
藤原　「人がいる時はガンガン飲め！　でも、いない時は飲むな」と。
荒川　この人も常にウイスキー持ってるけど、全部演技ですからね。中身は本物だけど、普段は1滴も飲まない。
藤原　あんな飲んだら身体壊すよ。
荒川　しかし、人が二人でもいたらガーッと飲むけど（笑）。
藤原　オッサンが一升瓶のお酒を一気飲みで、18秒で……。
荒川　19秒。「1分で飲んだら金くれる」って言うから……、それも金かかってたから飲めたんだよ（笑）。
藤原　飲み終わってサッと立ったから、俺がそーっと付いて行ったら便所行って「オェ〜」ってやってるわけ。でも俺に気付いたらニヤッと笑ってさ（笑）。でも、そうじゃなきゃ身体壊すもんな。
荒川　四国で足を怪我した時にも、宴会があったんですけどね。
藤原　ギプスして、ケンケンでみんなのとこ「お〜っす！」って回りながら酒飲んで（笑）。だけど怪我なんて、怪我じゃなかったもんな。怪我にナメられてたまるかって！
——怪我にもナメられたくない！（笑）
荒川　正真正銘、縫ってるんだもん、これ（足を見せる）。「あ、捻挫やったな」って思って、歩けないから救急車呼ばれて。複雑骨折でね。そしたら猪木さんが僕を背負って行ってくれたんですよ、空港まで。背中ながら感謝してましたよ、私は。そん時、三田明さんが羽田空港にいたんですけど、「どうぞ！」って席譲ってくれたんですね。
——三田明が！（笑）
荒川　あれは昭和48年7月31日だね。
——よく覚えてるなあ（笑）。
荒川　病院では「レスラー生命が……」とか言われたけど、冗談じゃないって思ったの。だから病院でバーベル持って一生懸命練習してたの。
——しかし、あの頃の新日はホント面白いですよね。
藤原　今から考えたら最高だったな。
——なぜか必ず試合後には、荒川さんがリング上にいるんですよね（笑）。
藤原　目立つのが好きだったよなあ。出るなって言うのに必ず前にいるの。うるせーんだもん。あんまり騒いでるから客が喜んじゃってさぁ（笑）。こっちで真剣にやってんのに笑われちゃ

ドン荒川 VS 藤原喜明

うから、「お前、セコンドに来るな」って言ってたの。それなのにカメラがあると必ず映る位置にいるからさぁ（笑）。

——だけど藤原さんは、めったにセコンドについてないんですよね。

藤原　俺はそういうときには必ず便所で●●●ってたからさ（笑）。

——つくづく猪木さんの苦労がわかりますよね。どう考えてもまとめきれるわけないですから、あんな集団（笑）。

藤原　いや、だから面白かったんだよ。あれはやっぱり猪木さんの教育だったのかもしれないよ。「レスラーは酒を飲め！」「喧嘩はしろ！」でしょ？　そりゃあヤクザの組と紙一重だよね。それはプロレスを大きくするわ。

——面白いわけですよね、それは（笑）。

藤原　やっぱり、まともじゃつまんねえもんな。ヤクザの組作ったら、俺たちいいヤクザになってたよな。

荒川　結局、悪いんだもん、代議士だって。だから。悪いんだもん、代議士もヤクザも紙一重だから。

藤原　悪くなきゃデカいことできないよ。政治家もそう。クソ真面目にやってたら悪いことしないかもしれないけど、いいこともできないよ。政治は力だもん。それには絶対、金もいるし。

荒川　カッコいいこと言ってたって、み～んなそうなんだもん。俺、全部知ってんだもん。だから猪木さん政治家向きだよ、はっきり言って。

藤原　田中角栄さんだってね、みんな「悪い、悪い」って言うけど、やっぱり力あったもん。いいこともやったもん。今の政治家は、みんな小っちゃくなっちゃって。悪いこともやってねえけど、いいことだってやってねえよ！

荒川　一言で言えば、綺麗事じゃ世の中は収まらない。スポーツもそうよ。

藤原　だいたいスポーツは綺麗だって言うけど、綺麗じゃ勝てませんよ。上手に騙して勝つわけだからね。野球のピッチャーだってそうだろ？

荒川　本だってそうよ。まともなこと書いたって誰も見ませんよ。

藤原　嘘書くから面白いんだよ！

荒川　何で『東スポ』が売れるかって言ったら、だって面白いもん。面白くなきゃ人生ダメですよ。無茶しなきゃ。

藤原　『東京スポーツ』面白いよな。「アントニオ猪木、トップ当選！」って、よく見たら、アントニオ猪木が落っこって、コロンビアトップが当選（笑）。

荒川　同じ事みんな書くんだから、逆に違うこと書かなきゃ本売れませんよ。

——プロレスなんて特にそうですよね。

荒川　プロレスなんて、綺麗事じゃ収まりませんよ。しがらみ、8がらみがあるんですよ（笑）。でも謙虚な気持ちでね。今日は高田とも会ったけど、向こうはチャンピオンだから、こっちは2歩3歩引いて接しなきゃ（笑）。

藤原　いや、俺も高田と会ったんだよ、今から2週間くらい前かなぁ。突然、ポルシェがスッと止まってさぁ、高田が窓開けて「どーもぉ！」なんて言うんだよ、バカ野郎！

荒川　今日会ったら「また、飲みに連れてって下さい」って言ってたよ。

藤原　俺に？　結婚式も呼ばなかったくせして！

——その辺のメンバーでまた飲んだら、どうなるか楽しみですよね（笑）。

荒川　あれ（高田）もキレますからね。前田も半端じゃない、キレっぱなしで。

——そして佐山さんは酒は飲めないけどキレちゃうし（笑）。

荒川　いや、とんでもない！　佐山には俺も騙された。あれほど飲む人間いないんだよ！　普段は甘いモンばっか食べて。でもある



店行ったら「佐山さん、強いわね～、ウィスキー1本空けていきましたよ」って言ってたの。

藤原　嘘でしょ？

荒川　いや、ホントに。佐山に確認したの。そしたら「すいませ～ん」って（笑）。でも、あの辺、みんなこの人が引っ張って行ってたもんね。なんか宗教的なもんがあったよ。麻原彰光じゃなくて藤原彰光みたいな（笑）。

——みんな藤原イズム入ってますよね。

藤原　だけど、元は猪木さんだと思うよ。教育がそうだから、バラバラになるのが当然だったんだよな。

荒川　猪木さんがやってきたことを、みんな真似してるんだから。だからやっぱり猪木、馬場っていうのは偉大なんですよ。これからは独立しようと思ったら、スポンサーとお客さん持ってなきゃ出来ないですよ。1回やってみたい人間はやればいいんです。やって失敗すればわかりますよ。僕らは全部やってますから。（SWSも藤原組も）東京ドームやってますからね。悔しかったら、東京ドームやってみろって！

藤原　大変なことよ、うん。

荒川　それから彼は人間変わったんですから。すべてのマスコミさんには感謝しなくちゃいけないんです。

藤原　マスコミだって、馬鹿多いよ。

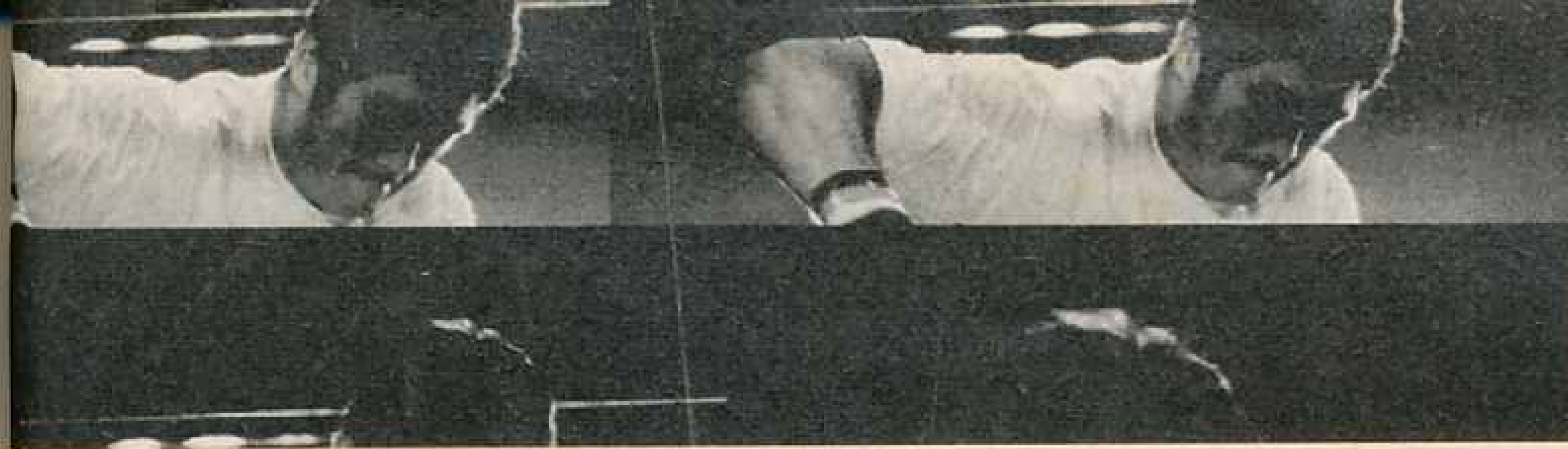
——ガハハハハ、その通りです！（笑）

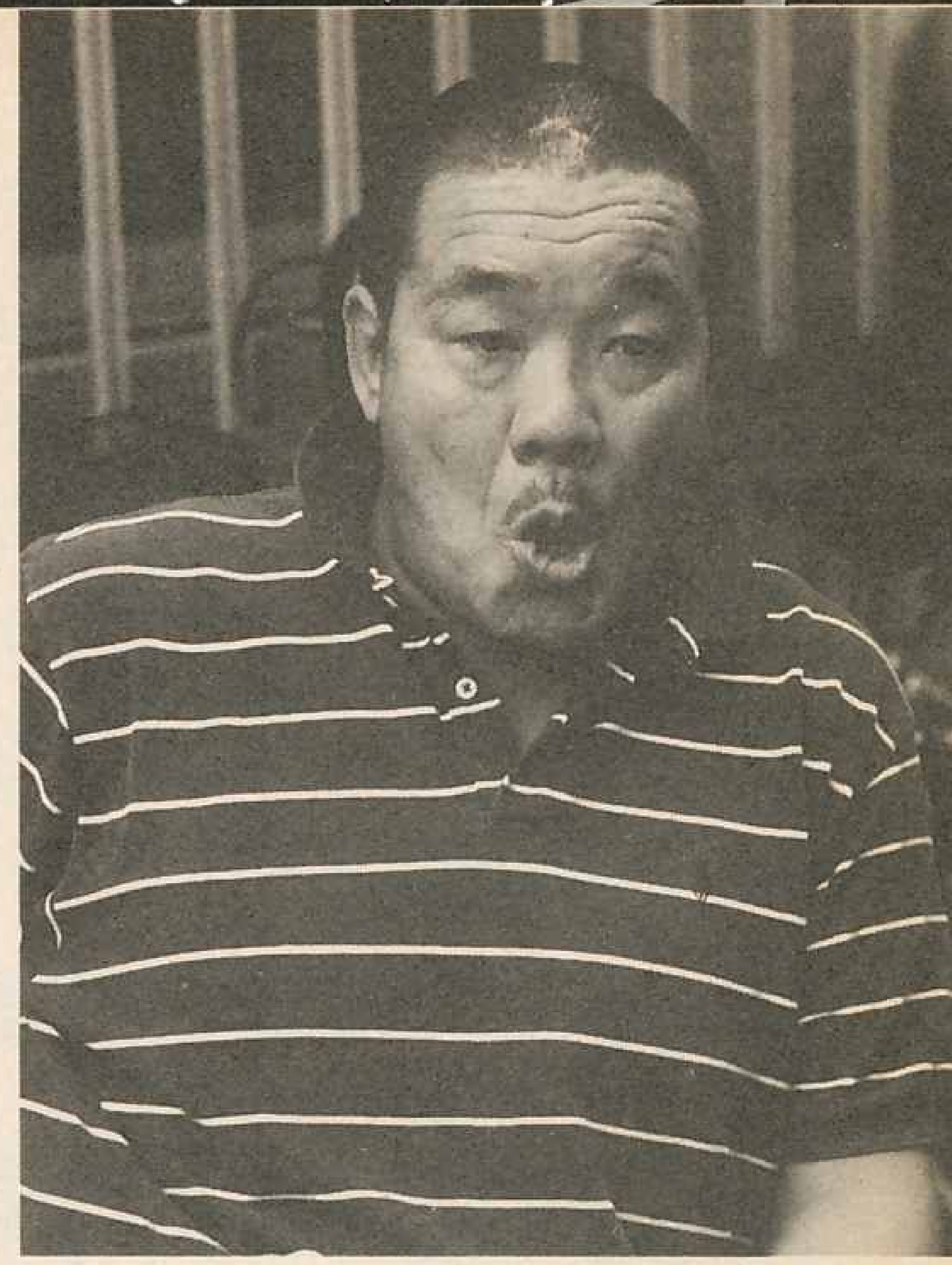
藤原　全然わかってないのによぉ。まぁ、好きにやりゃあいいんだよ、要は。

荒川　好きにやってもね、ちょっとチャンチャンバラバラはね。

藤原　そう、仲良くやればいいんだよ。

荒川　俺もひとつだけ信念があるんだ



素人は殴りません。暴走族は殴ります！

よ。やっぱり鍛えた肉体をぶつけなくちゃいけない。ひょうきんプロレスって言っても、鍛えた肉体をぶつけてた。木刀持った奴はチャンチャンバラバラ剣道でもしてりゃいいんだから。いろんなプロレスってあってもいいけど、ロープに針金張ったりとか……。

——針金ですか（笑）。やっぱりグレイシー柔術とかよりも、僕にはこういうプロフェッショナルな意識を持ったレスラーの方が幻想持てるんですよね。

荒川　いや、だってグレイシーなんて大したことないですもん。

——ガハハハハハ！（爆笑&拍手）

荒川　柔道着なんだから、掴めばいいだけなんだから！

——そうですか！　しかし、そんな信念だからひょうきんプロレスやっててもナメられなかったんでしょうねぇ。

荒川　ナメられるなんて冗談じゃねえ。ナメられたら、すぐナメますよ（笑）。

——この二人は特に「素人には絶対ナメられちゃいけない！」っていう思いが強いんじゃないですか？

荒川　いや、いまはプロも素人が多いから（笑）。

——ガハハハハハハ！（爆笑&拍手）

荒川　ふっかけられたら参ったしちゃいけねぇ。素人にやられても、「ハハハハハ～、負けてやったんだよ」位の気持ちを持ってなきゃダメでしょ。

——組長も最近、某TV番組で暴走族の少年に平手打ちしたことが週刊誌で叩かれてましたけど、あれはレスラーとしては絶対に正しい姿勢ですよね。

荒川　書かれるだけいいですよ、私は殴っても書かれないですもん（笑）。

藤原　素人は殴りません、僕は。暴走族は殴ります！

——ガハハハハハ！（爆笑&拍手）

荒川　暴走族と言えば、僕もあるんですよ。僕の車チンケだから、暴走族がナメてくるんですよ。「10人だったら負けるけど6人……、よしっ、いける！」と思って。そしたらたまたまプロレスファンがいたんですねぇ（笑）。だから「ああ、車に気を付けなよ」ってコロッと変わって（笑）。切符一枚でも売ろうっていう気持ちがあるんですよね（笑）。

——商売上手ですねぇ。

荒川　メガネかけた人だったら「あ、メガネのお客さん」って（笑）。俺はメガネスーパーの社員だから、メガネかけた人にはみんな感謝！　みんな神様だから絶対喧嘩ふっかけませんもん。

——ガハハハハハ！（爆笑&拍手）

藤原　でも、いい人生やってるよな。

荒川　はっきり言って……、もう素晴らしい人生！　だって明日野球見たいって言ったら見れるんだから。巨人戦だけですけどね（笑）。相撲見たいって言ったら相撲見れるし、プロレス見たいって言えば、藤原組見れるし（笑）。

藤原　私に言いなさい！

荒川　また1回やってみたいよね。

藤原　やるかい？

荒川　よし、やろう！　すぐ試合しますから、タッグ組んで。

藤原　俺、オッサンと組みたくねえよ。イメージがガタガタ崩れるじゃねえか。

荒川　もうイメージなんかないじゃない。1円玉と一緒だよ、もう崩れようがないじゃない。でも彼も大人になったなぁ。最近、貫禄出てきたね。

藤原　あそこが環七だから、あっちが環八……（貫禄とかけた組長ギャグ）。

荒川　俺はトンパチ。

——ダジャレもいい勝負ですね（笑）。しかし二人から見たら、いまのレスラーが小粒に見えるんじゃないですか？

荒川　小粒なんてそんな、大粒ですよ。みんな身体もでかいし。だからガンガン稽古して。何か主張するにも稽古して、強くなきゃできないわけだから。「俺が抜けたら会社が迷惑する」くらいにならないとダメですよ。彼が抜けた時、痛かったもん。でも最近は誰も抜けてないから、もうそろそろ新日本も誰か分裂してもいい頃じゃない？

——そうなんですか（笑）。しかし藤原、荒川の離脱は痛かったですよ、ホント。

荒川　いや、私なんか屁みたいなもんですよ（笑）。私は関係ない。

藤原　だけど、もう辞めて何年だ……。



だってグレイシーなんて大したことないんだもん

ドン荒川 VS 藤原喜明

荒川　8年。平成元年ですよ。

藤原　俺が出戻りで新日にいた頃か。……でも好きなことやって来たよ。

荒川　ちょっとやり過ぎだわ。

藤原　でも俺ら、正しく生きてるもん。

荒川　レスラーもマスコミも騙してない、まっとうに生きてる。だからどこで誰に会っても避けませんよ。だから全日本でも新日本でも行けるんですよ。

藤原　真っ正直に生きてるから、こうやっていられるんだよな。

荒川　そうそう、一回だけ彼の悔し涙を見たことあるんですよ。彼がヒザ痛めて歩けない時期、山本さんにスクワット千回やらされてね。そしたら彼がキレちゃって、道場の白樺の木に思いっきり「この野郎、ブチ殺すぞ!」って包丁メッタ刺しして。みんなシーンとしちゃって。迫力あったですよ（笑）。

——さすが、元調理師ですね（笑）。

藤原　自分の包丁10本ぐらい持ってたからね。

荒川　彼と私、同じ部屋だったの。彼は漫画とか今日の練習の反省とか、全部ノートに書いてあんですよ。俺は書かないけど（笑）。ゴッチさんとの練習のこととかね。僕は彼がいないときにそれ読んで「ふんふんふん」って覚えちゃってたから、スパーリングやっても極められなかったんですよね（笑）。

——ガハハハハハ！（爆笑&拍手）ゴッチノートを盗み見して強くなった！

荒川　二人会うと話が走馬燈よ（笑）。しかし彼は猪木さんの付け人の頃からすごかったよ。猪木さんが「靴」って言ったら靴下も靴ベラも持ってかなきゃいけない。それが全部わかるから。

——藤原さんの付け人としての才能は、もはや伝説ですもんね。

藤原　俺はカバン持ち10年だよ。

荒川　私も全部わかってるんですよ。でも「俺はこの人に付いていたらダメになっちゃうな」って。猪木さんは忙しいけど、僕だって忙しいんだもん、猪木さんよりタニマチ多いんだから（笑）。

藤原　俺はね、猪木さんの●●が全国どこにいるか全部覚えてたから。「あ、今日は●●だな」って思ったら、下着とか着替えとか全部ピシッとした一番いいヤツを持っていったからね。

荒川　小鉄さんが100点満点だったら、彼は120点だったもんね。小鉄さんは二人をよく可愛がってくれましたから。しょっちゅう飲み行って。僕が電車の中でも女ひっかけるんですよ（笑）。3人でチークダンスとか踊って。

藤原　九州、博多覚えてる？

荒川　もぅ！　彼はねぇ、すごい達筆な女の子、顔はあっち向いてホイなんですけど、彼、ヤっちゃってんの（笑）。

藤原　もう一人は可愛い子なんだけど、あれは山●さんがしっかりヤって。

——しっかりヤりましたか（笑）。

荒川　山●さんも、な〜にカッコいいことばっか言ってんの（笑）。だって、トイレ行ったらみんな股開いてやるでしょ？　それと一緒。（のものもに）あなたも股開いてオシッコするでしょ？

のも　（無言で素直にうなずく）

荒川　みんなそうなんだよ。お前らみんなカッコつけんなよって（笑）。

——いや〜、しかしホント素晴らしいですよね。レスラーの鑑ですよ。

藤原　ホント、よくやったよ。

荒川　アンタ、過去形ばっか言ってるけど、俺はこれからだもん。みんなびっくりするようなことやるんだから。夢がなくなったら終わりだから。

藤原　よくやったって、オ●●コだよ。もうオ●●コはいいなあ……。

——そんなしみじみ言われても（笑）。

藤原　自慢じゃないけど、私は天●とも、橋●とも兄弟だよ。

——ええ〜〜〜〜〜っ!?

藤原　控室でさぁ、「あんの野郎、あいつとヤったんじゃねえか」とか言ってたら藤●がシュンとしてるんだよ。「お前、ヤったんかい?」って聞いたら（ゆっくり頷くポーズ）。ガハハハハハ。

荒川　いや、辰っつぁんはむっつりスケベだから。あれほどのスケベはいなかったんだから。熊本でも、どうしょうもなかったんだから。

藤原　◎×▲#■（あまりにも過激すぎるため自粛）！

——ええ〜〜〜〜〜っ!?

荒川　しかし辰っつぁんも、今でこそ気取ってるけど、あんなスケベいなかったなぁ。●●はするし、ナニはするし、昔の証拠写真持ってるもん（笑）。

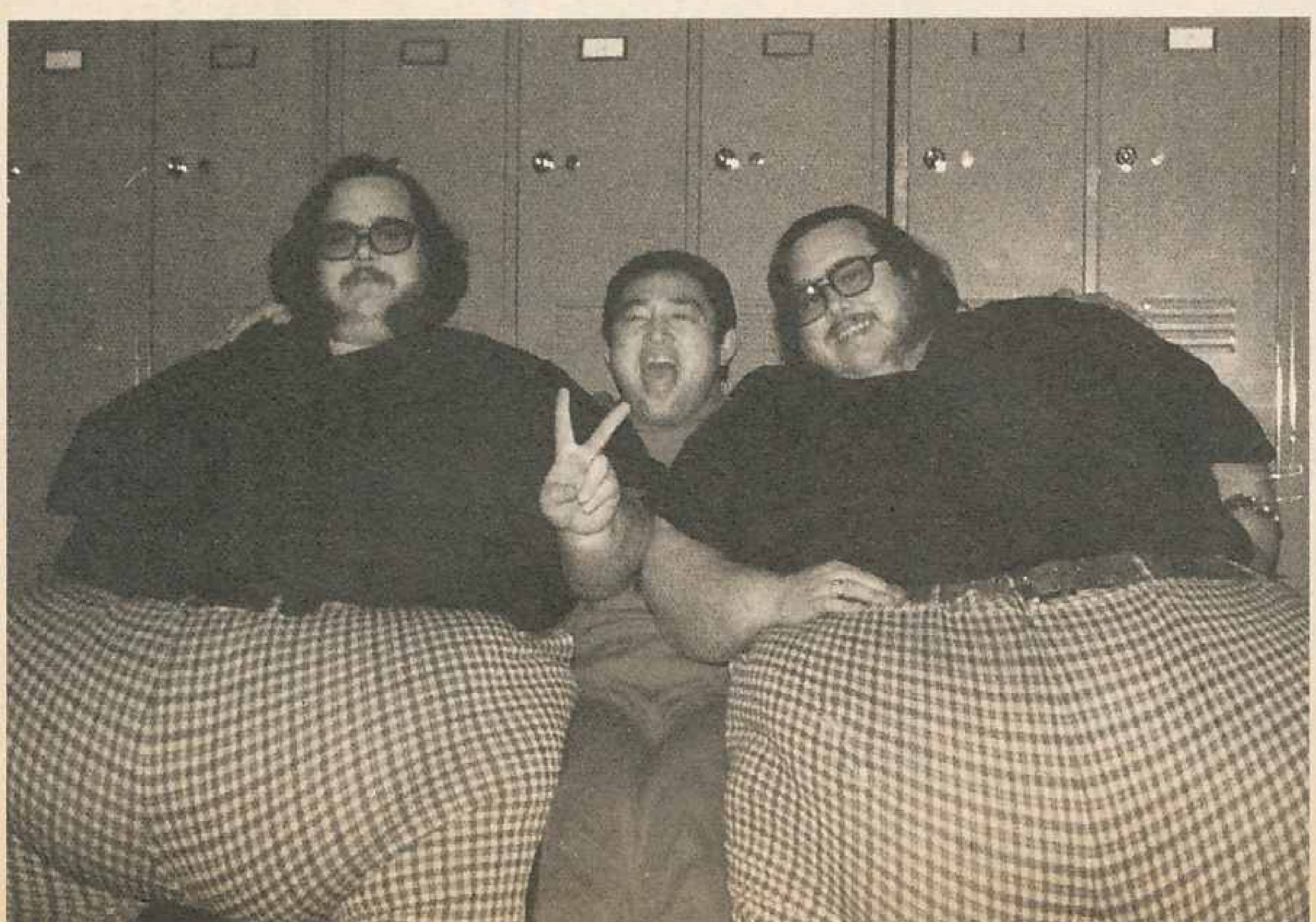
藤原　あんまりバラさない方がいいんじゃねえか（笑）。

荒川　でも嘘ついてないもん。文句があるなら出てきなさい、ここに（笑）。

——ステキですね（笑）昔の選手って、みんなこんな感じだったんですか？

藤原　あぁ？　いまの奴はセコイよな。俺たちはメチャクチャだったもん……。

荒川　守りに入ってますよね。猪木さん見習ってどんどん行かなきゃ。家を建てたり、いい車乗ったりするのもい





ドン荒川 VS 藤原喜明

いけど、もっとハチャメチャやらなきゃ。人様に迷惑かけちゃダメだけどね。

藤原　暴走族を殴るのはいいの？

荒川　いいけど、もっと本気でやらないとダメよ。中途半端だから書かれるの。でも偉いよ、オレなんかこないだ殴ったけど書かれなかったもん（笑）。

――組長もかなり怖いですけど、荒川さんがキレるのも逆に怖いですよね。

荒川　僕はキレたら、殺すかどっちか。

――ええ～～～～～～～～～っ!?

荒川　猪木さんも坂口さんもみんな知ってますよ、それ。2人と3カ月、口聞かなかったこともあるし。

――扱いづらい人ですねぇ（笑）。

荒川　でも、僕は練習は率先してやる方だったから。いつも最後までいて。今日だって練習して来たんだから。

藤原　いまやったって負けねえぞ。なんなら今やるか？

荒川　今度、酒飲んでない時な（笑）。

――やっぱりゴッチさんもそうだと思うんですけど、要するに強ければ何でも言えるんでしょうね（笑）。

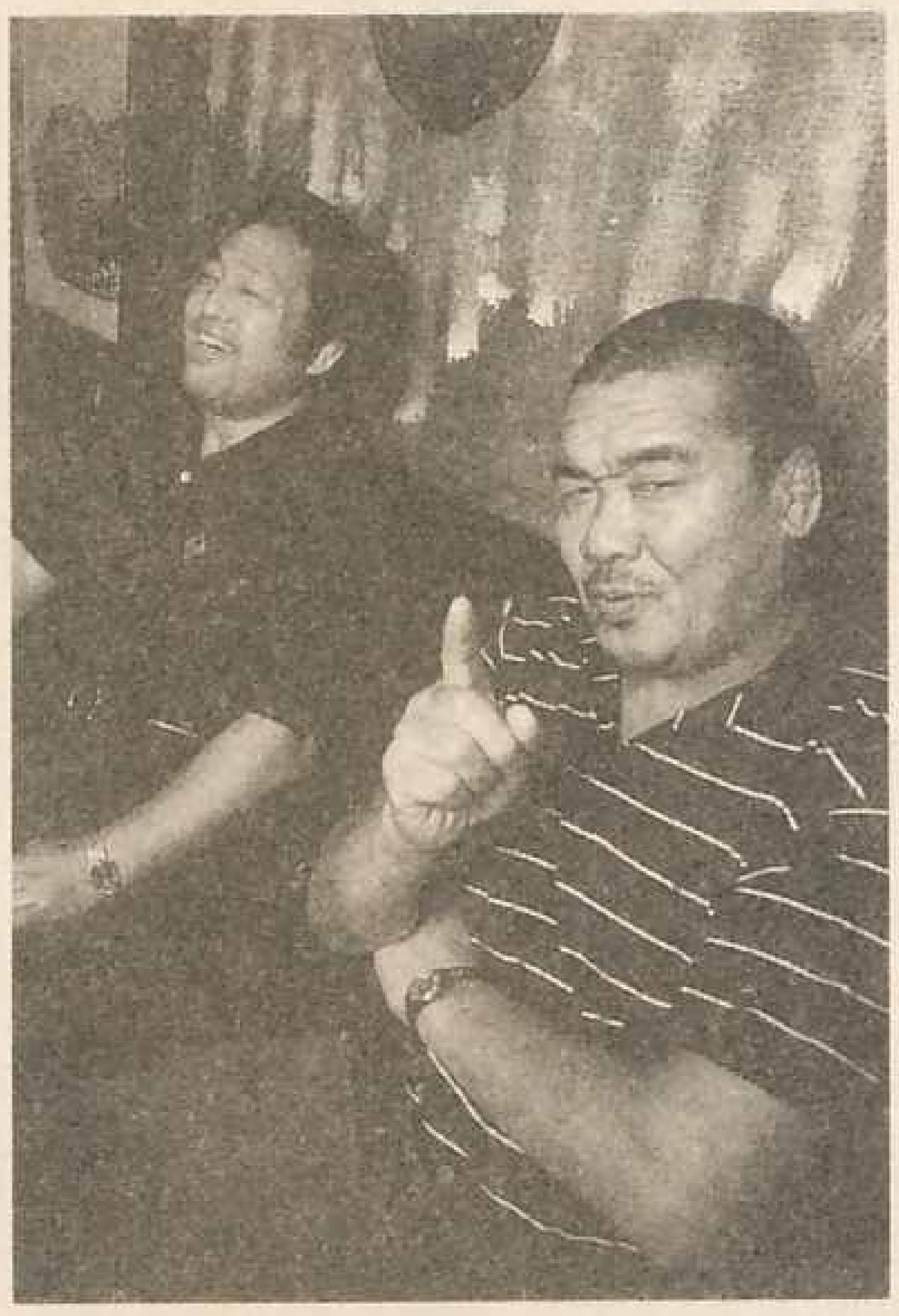
荒川　そうじゃないんだよ。まぁ人間の強さって、セメントの強さって言ったらそうじゃない。全て心ですよ。僕はセメント全部弱い。この人も全部弱い。僕らはハートが強いの。なぜなら、一番自分が弱いってわかってるから。

――弱いんですか!?

荒川　いや、ホントです。だからもう、何もないわけ。「行け！」って言われたら行くし、おだてられたら僕は乗っかるなんてもんじゃないよ。半端じゃないんだから。誰にも負けないですよ。

――そうですよね、いざとなった時の新日の選手の覚悟って……。

荒川　いざ鎌倉ですよ。打てば響く太鼓なれって感じですよ。だから昔、こういうことあったな。福島で雪が降ってる時さぁ、子供がワーッとヤジで汚いこと言ったの。そしたら猪木さんが「藤原、退場させろ！」って言うから連れ出したら、後から猪木さんが来て、子供達に「大丈夫かぁ？」って（笑）。この人、怒っちゃって（笑）。



藤原　あれじゃあ人気出るわけだよ！

荒川　だけど、お客さんは大切にしなきゃ。お客さんは神様。それを仕掛けるマスコミも神様。感謝しなくちゃ。

藤原　そうだよ。ありがてえよな。

荒川　私なんか新日本辞めてどうなるかなぁって思った時に、それが初めてわかったんですよ。私なんかメインイベント取ったわけでも何でもない、ごく普通の消える人間のレスラーですよ。それをこうして呼んで頂いて、もう感謝の気持ちでいっぱいです。『紙のプロレス』って「神」ですね、ホントに。

――新日出身なだけあって、猪木さんみたいなこと言いますね（笑）。

荒川　だから、死んでも感謝しなくちゃいけないっスよ。組長はおそらくね、後5年くらいしたら死んじゃうでしょ。

――また、ひどいことを（笑）。

藤原　いや、そうかもしれないよ（笑）。もういいよ。幸せな人生だった……。

――そんな～。また、できれば選手育てて欲しいんですよね、藤原さんには。

藤原　もうやらないよ。さよならだよ……。あのね、今日は猪木さんの夢を見たんだよ。大変な夢でな……。

荒川　だから新日本が反対しようとも、彼と猪木さんの絆は切れないですよ。

――修行とは出直しの連続なり、と。

藤原　いいこと言うよな（笑）。

荒川　姿三四郎の言葉だよ。

藤原　あれはやっぱり盗んだのか？

荒川　あの人は、本読んでるからね。雨垂れの話もそう。猪木さんの話は全部、本なんだよ（笑）。俺は全部わかる。

――元ネタがですか（笑）。しかし25年間隠され続けてきた新日の裏話が次々出てきますね（笑）。

藤原　まだなんぼでもあるよ。でも言っちゃいけないことは言ってないから。

――寸止めしてる、と。いや、でも素晴らしいですよ。やっぱりプロレスラーはこうでなくっちゃ（笑）。

藤原　やっぱり俺らは夢を売ってるから、だからサラリーマンと同じ事やってたら夢じゃないもん。

――夢を売る！　そういえば荒川さんも前に『笑っていいとも』とか『俺たちひょうきん族』で、斉藤清六さんとかを相手に、すごいちゃんとしたプロレスをやって夢を売ってましたよね（笑）。

荒川　あれはですねぇ、プロレスがナメられちゃイカンと思ってね。僕は空手とかのプロの人も素人だとして見てますから、瓦20枚割る人が殴っても、もし骨折したとしても「アハハハハ～」って笑いますから。笑ったら勝ち。大丈夫よ、気持ちは大丈夫（笑）。

――それがレスラーの意地ですよね。カッコいいなぁ～。いまでも腕とか胸とか凄い太さですもんねぇ。

荒川　いやいや、毎日4時間練習してるからね。今日だって練習してきたよ。走るだけでも2時間だから。

藤原　暇なんだもん、だって（笑）。だけど結構いい人生だったよな。

荒川　また死んじゃったようなことを。

藤原　死んでるようなもんだよ。

荒川　思いきり死んでくれ。泣いてやるから（笑）。俺はフルマラソン80歳ぐらいまでやりたいなあ。

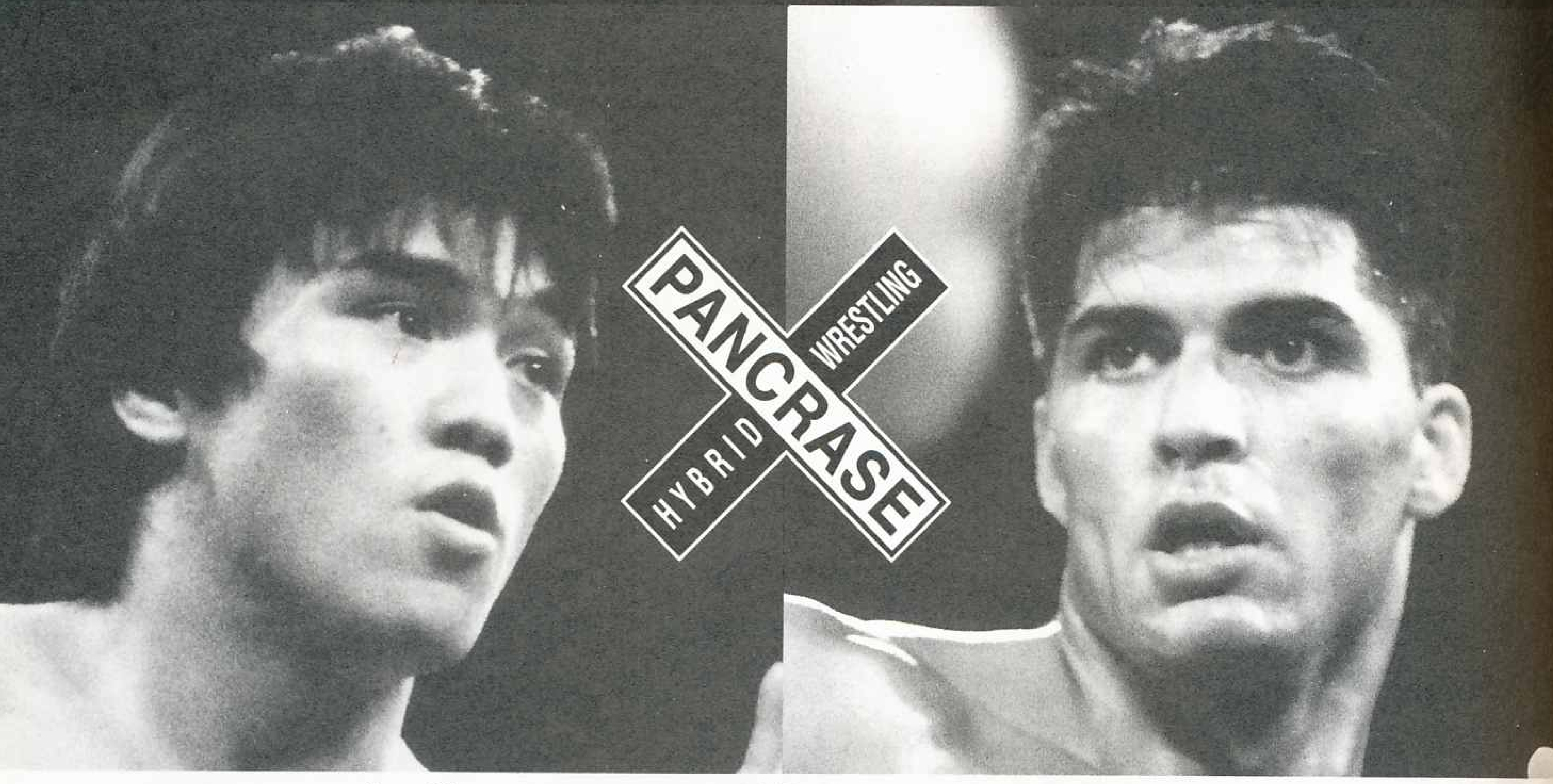
藤原　俺はね、100歳過ぎてもセンズリしたいね（笑）。

荒川　いま、カイてるかい？　僕は背中掻いてるよ（笑）。

――あ～あ（苦笑）。

【97年5月26日、安い！ ウマイ！ しかもムエタイも観戦できるタイ料理屋オーエンジャイにて収録】

NISSAN PRESENTS PANCRASE 1997 ALIVE TOUR



アライブツアー、秋のクライマックス！

第1試合（10分）
美濃輪育久 vs 窪田幸生
（パンクラス＝P's LAB）（パンクラス＝横浜道場）

第2試合（10分）
キム・ジョン・ワン vs クリス・チャーメース
（韓国）（オーストラリア／初参戦）

第3試合（10分）
冨宅飛駈 vs 伊藤崇文
（パンクラス＝P's LAB）（パンクラス＝横浜道場）

第4試合（10分）
髙橋義生 vs ジェイソン・ゴドシー
（パンクラス＝P's LAB）（アメリカ）

第5試合（10分）
國奥麒樹真 vs ジョン・ローバー
（パンクラス＝P's LAB／3位）（アメリカ／初参戦）

第6試合（20分）ランキング戦
渋谷修身 vs バス・ルッテン
（パンクラス＝横浜道場／7位）（パンクラス＝チカラジム）

第7試合（20分）ランキング戦
鈴木みのる vs 山宮恵一郎
（パンクラス＝横浜道場／5位）（パンクラス＝P's LAB）

セミファイナル（20分）ランキング戦
船木誠勝 vs ガイ・メッツァー
（パンクラス＝P's LAB／1位）（パンクラス＝アメリカ／4位）

メインイベント（30分）キング・オブ・パンクラス タイトルマッチ
近藤有己 vs ジェイソン・デルーシア
（パンクラス＝横浜道場／第5代キング・オブ・パンクラシスト）（パンクラス＝アメリカ／2位）

9.6（SUN）東京ベイNKホール OPEN 17:00 START 18:30

当日券 17:00より 発売開始

〔入場料金〕SS・¥15,500 A・¥10,500 B・¥6,500 C・¥5,500 ※当日券は全席種500円増しになります。※全席種ともアリーナかスタンドとご指定ください。

〔チケット発売場所〕チケットぴあ・03(5237)9999 チケットセゾン・03(3250)9999 ローソンチケット・03(3573)1015 CNプレイガイド・03(5802)9999
書泉ブックマート・03(3294)0011 大山アメリカン・03(3962)6443 レッスル渋谷店・03(3464)0078 レッスル池袋店・03(3989)0056 後楽園ホール・03(5800)9999
プロレスマニア館・03(5276)0304 ビデオショップチャンピオン・03(3221)6237 アイドール新宿店・03(3371)5211 ファイター・03(3354)1903
ゴールドジムノーストーキョー・03(3917)9434 パンクラス・03(5792)7077 ※ぴあ、セゾンは、各地の窓口でお求めになれます。

主催／フジテレビ、㈱ワールド パンクラス クリエイト 後援／GAORA(CS放送) 特別協賛／日産自動車株式会社

館内FM放送を使った、選手による実況解説を実施！ ●解説予定：稲垣克臣選手 山田学選手 ●FMラジオとイヤホンをご持参ください。●周波数は当日発表いたします。

公式読本「矛」「盾」増刷記念！ ●当日パンクラス・グッズ購入者対象に山田選手がサイン会を行います。●グッズ売場にて17:30より ●色紙はご持参願います。

初参戦選手プロフィール

John Lober ジョン・ローバー（アメリカ）
1968年2月26日生 カリフォルニア州イングルウッド出身 身長180cm 体重90kg
「コンバティブ・ファイティング・システムズ」所属 専門はジークンドーとカーロス・グレイシーの流れを汲むブラジリアン柔術 戦歴中、UFCF大会で実力者フランク・シャムロック選手を圧倒した実績が光る常に積極果敢に攻める戦法は、まさに彼が持つ「マシーン」の異名通り 得意のアームロック等、多彩な関節技に磨きをかけて初参戦！
1996 第1回IFC大会ヘビー級優勝 1996 第2回IFC「ワールドツアーII」大会ヘビー級優勝 1996「エクストリーム3」出場 ※イゴール・ジノビエフと引分け 1997 UFCF主催第5回ハワイ大会「スーパーブロウルIII」ヘビー級スーパーファイトチャンピオン※フランク・シャムロックに判定勝ち 1997「エクストリーム4」出場

Chris Chalmers クリス・チャーメース（オーストラリア）
1972年9月22日生 オーストラリア国メルボルン出身 身長180cm 体重86kg
グレイシー柔術の流れを汲む総合格闘技、ジョン・ウィル氏主宰の「シュートファイティング・アカデミー」所属 すでに活躍中のデビッド・モア、レス・ジョンストンに続き、同団体の切札的存在がやってくる シュートファイティングの大会では10連勝（8KO） 極真空手、ムエタイの経験の他、マチャド道場やジェットセンターで練習するためはるばる渡米したほど格闘技の虫 6月に来日予定だったが、怪我の為断念 今回が念願の初参戦となる
1988 ビクトリア州極真空手ポイント制大会3位入賞 1996 西オーストラリアサブミッショングラップリング大会無差別級1位 1996 ニューサウスウェールズサブミッショングラップリング大会クルーザー級1位

11.16（SUN）神戸ファッションマート

OPEN 15:30 START 17:00

〔入場料金〕SS・¥15,000 A・¥8,500 B・¥6,500 C・¥4,500
※当日券は全席種500円増しになります。※ABC席はリングサイドかスタンドとご指定ください。

8.31有名プレイガイドにて発売開始。

P's LAB PANCRASE TOKYO
パンクラス東京新道場《ピーズ・ラボ》ただいま第1次会員入会受付中！
体力づくりを目的とする方も、プロを目指す方も、どなたにも開かれたスポーツジムが広尾に開設。くわしくはピーズ・ラボ（03-5792-7079）まで。

イベント情報 ●丸井フィールド新宿店5Fにてグッズ販売中

〔総合お問合せ〕㈱ワールド パンクラス クリエイト TEL03(5792)7077 ホームページ（So-net）http://www.so-net.or.jp/pancrase/

七月に入ると暑い日が続いた。
梅雨がまだ明けぬうちから最高気温は連日三十五度を超え、関東の内陸部ではそこここで四十度にも達しようかというありさまで、異常気象というほかはなかった。
そんな記録的な猛暑にもめげず、千堂は、毎日のように社に居残ってはデスク・ワークを前向きにこなしていた。
デスク・ワークといっても執筆が主であって、一つには前月末の決算報告を無事に終え納税もすませることができた解放感のゆえか、秋からの新企画の目玉として〈追跡!! 万無比人〉なるドキュメンタリーを起こすことを編集会議に掛けて決定。これによって無比人を一気にスターダムに押し上げようとの狙いからにほかならず、千堂の署名原稿でいくことになり書き溜めの必要に迫られたのだ。連載物でグラビア頁ともなると、スタート時までに理想をいえば四週分はストックして置きたかった。
六月の半ば過ぎに千堂は無比人に言って記者会見を開かせ、その席上、
――この十五日付けをもちまして、わたくしが植野に代わり東都プロレスリングの社長に就任致し

強大な裏社会の組織力すら
凌駕する無比人
圧倒的な力を持つ男の出現により、
マット界は新たな時代へと突入する!
本格格闘プロレス小説第5幕

無比人

Mubito

虚構と現実がリンクする
壮大な格闘ロマン



真樹日佐夫

コラージュ=釜津田浩司

【前号までのあらすじ】
プロレス界の暗黙の了解を破り、団体のエースを一瞬にして倒してしまった無比人(むひと)。このことで、強さの証明と人気をともに手に入れた無比人だったが、団体の陰の後援者である暴力団組長から呼び出しを受ける。「目じゃないよ、暴力団なんか」。無比人の身を案じる千堂だが、無比人自身はまったくおびえる様子もない。その言葉通り、無比人は数十人の組員たちを数秒で叩きのめす――

ました。勿論、選手としても続けていきます。弱輩ですが精一杯頑張りますので、どうか一層のご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。
と挨拶させた。千堂と氷見子が立会人ということで同席していた。
格闘技マスコミ各社へ送らせたファックスには、重大な発表あり、としか誌(しる)してなかったせいもあってか記者たちは一様に化かされたような表情を見せ、
――万くん。確かにきみはいまや東都じゃ看板スターだが、社長業はまた別だよ。
――インディーズとはいえ、団

東プロのエースを追放し団体を乗っ取る無比人

無比人

体の長と名が付けば、ただ試合をこなしてりゃいいってものじゃないんだし。

——スポンサーの当てでもあるの?

——植野次郎が色々と言われながらも、とにかく社長と選手を掛け持ちでやってこられたのは、オフレコだけれども暴力団神州組の組長とつうかあの仲で、あらゆる面でバックアップを仰いでいたからこそなんだ。

——ゴールデンウィークの三日連続興行での試合結果が尾を曳いて植野との間が気不味くなり、彼の方でおん出たか、それとも追い出すかしたか。どちらにしろ、きみが後釜に坐ったことを知ったら神州組の梶が黙っていないのでは。

多分に批判的な発言が続いた。

ややあって、会場に静けさが戻ったところで、

——お答えします。

と、おもむろに一同を見回しつつ無比人。

——スポンサーの当てはあるのか、というと、はい、ございます。また神州組組長が黙ってないのではと、ご心配いただきましたが、この点も大丈夫。なぜなら植野体制のときと同じく、梶組長が今後も引き続き後ろ楯となることを快諾してくれたからです。

記者たちは、これまた申し合わせたようにぽかんとした面持ちで、

——ということは、スポンサーってのは即ち……。

——東都プロレスはこれまでと何一つ変わらず、ただ社長の首がすげ替えられたってわけか、つまり。

——植野が自ら墓穴を掘っただけだと。

リング以外のところで調子に乗り過ぎた罰か、といった声も聞かれた。

一々に頷き返す無比人であったが、ふと顎を引き加減に虚空を見据えるようにして、

——あんな見かけ倒しの半端者は、黙っていてもいずれ失脚して東都プロレスからもこの業界からも消えて行く運命だったのです。レスラーの面汚し、話すのさえ胸糞が悪くなる最低野郎だから消えて当然で、これっぽっちも同情の余地なし! 自分と出合ってしまったことで引退の時期を少し早めた、ということはあるかな。そう、自分は奴に引退を勧告してやったんですよ。さもないと今度リングで顔が合ったときには殺す、そう言ってやりました。するとね、瘧に罹ったみたいにぶるぶる震えだし、涙と鼻水を啜り上げながら郷里の栃木へ引っ込んで百姓をやる、だって。腰抜けなんですよ、腰抜け!

語気荒く捲し立てた。

千堂は驚いて彼を盗み見た。ついさっきまでおっとり構えて薄笑いさえ浮かべていたのが、眉は吊り上がり、射るような強い目色で別人のようだ。

会見に先立ち、記者団の反応を想定して無比人のために用意した台詞は、引き続き後ろ楯となるのを梶が快諾したという辺りまで。植野を扱き下ろしだしたのは彼の独断で、東都プロレスにスターは二人は要らぬ、と大言したときの傲岸さとはまた違う舌鋒の鋭さに、妥協を許さぬ内面の烈しさを千堂は視た思いがした。

無比人へ視線を向けた序でに先隣の氷見子を窺うと、いかにも酷薄な感じの朱い唇の暴力団組長をペニスバンドで犯しマゾ奴隷に落としてのけた、その折に見せた残忍さが信じ難いほどにあっけらかんとした横顔を列ね、つまらなそうにしていた。

神州組の組長室で、氷見子は、腰に装着した黒光りのする疑似ペニスをテーブルの上に這う梶の剥き出しにされた尻へ近づけると、

——日頃の悪行の報いだよ。覚悟するんだね。疣痔の組長さん。

芝居がかった調子で言い放った。眸子が濡れ濡れとして黒い宝玉のようにも見えた。

無比人の後に部屋へ駆け込んだ千堂には、数瞬、氷見子がなにをせんとしているのか判じかねた。戸口に立ち竦み、目を凝らすうちにも梶が絶叫を迸らせた。

そこで初めて事態が呑み込めたものの、どうすべきか見当もつかず、おろおろするのをよそに無比人の方は大股に進んでテーブルの向こう側へ回り込んだ。そうして氷見子たちと、千堂とを等分に見やりつつ、

——驚くほどのことでもないんだな、これが。アメリカの暗黒街辺りじゃ、ギャングスターが対立する組織のトップを攫ってこさせ、力尽くでバックを犯して配下にしちまうなんてことはざらだからね。生憎そっちの方の趣味はないもので、氷見子女王に出馬願ったわけだけれども。

と、いたずらっぽい目色のうちに言った。

——あんな道具を用意してきた、

ということは、これは予定の行動だと——。

無比人は言下に頷いてみせた。

——出馬願ったと言ったが、するとつまり主謀者はきみで、切り札として使う目的で彼女を連れてきたと、そういうことなんだな。

——その通りだよ、社長。だってこいつらに目の敵にされたままでは仕事にならない、そうなんだろう？

無比人を氷見子と一緒だったので詰ったことが想起され、千堂としては忸怩とするものを拭いかねた。同時にまた神州組について、無視したらとも目じゃないとも事もなげに彼が言明した記憶が新たな重みを伴って胸に迫った。恃む気持ちがさらに募ったことであった。

二人のやりとりの間にも、氷見子のペニスによって後ろから刺し貫かれたとおぼしい梶は、大理石のテーブルに頬擦りしていたのが上体を弓なりに反らせ、

——止めろ！　こんなことをして只ですむと思っていやがるのか、こ、この、ど変態があ！

痛さの余りか絶叫し、合間に精一杯どすを利かせた胴間声を絞りはするが、それ以上、彼女をどうにも振り放せぬ様子で、

——只ですむなんて思ってやしないよ。いいかい、セックスには入れる側と入れられる側とふた通りあり、入れるのは男で入れられるのは女。女の方が快感の点ではずっと深いってことなんだけれど、おまえはいま生まれて初めて入れられるセックスを体験してしまったんだ。これはどういうことかというと、男としては通常味わうはずのない粘膜に異物を受け容れる快感を知ってしまった以上、もはや後戻りはできない。組長だなんて奢りは捨て、このあたしにバックを貸してひーひーと気分を出すだけが能のマゾ豚になるっきゃないってことなんだよう。わかるかい、このタコが。

床に立って小腰を落とした姿勢のうちに、責めて責めて責めまくられ、するうち突き出された腰がペニスを挿入されたまま妙な動きを見せはじめた。

くねるというか撓むというか、そんな怪しい反応のうちに梶は自らも氷見子に合わせるかのようであり、

——なーに。このおっさん、もう感じちゃってる。たわいないったらありゃしない。暴力団組長が聞いて呆れるよ、まったく。

Mubito

無比人は冷ややかに組長の顔を見下ろす

井出本らとともに無比人によって気絶しない程度に痛めつけられ、抵抗不能とさせられたところで尻を晒すなどという恥辱も許すしかなかったのだろうが、ここでまた恥の上塗りをすることになるのは時間の問題と視られた。

——痔主でもあることだし、実は経験者だったりして。ねえ、手を藉してやった方が無念さの度合いが増し、それだけ逆に屈服するのも早いんじゃない？

氷見子の視線が無比人へ流れた。

——手をねえ。ぞっとしないが、まあ。

千堂を意識してか、わざとのように苦笑いしながらも無比人は頷いてみせ、梶の腹の下へと横合いから手を差し伸べた。

その手が人工ではない一物に添えられるのが、千堂のところからもはっきり見えた。梶のそれは、すでに十全な高まりを示していた。

手を藉す、とは、なるほど文字通り……。

息詰まる思いで注視するうち、突如、梶が両手を突っ張らせ頤を上げて意味不明の高声を発した。

直後に白濁した液が大量にテーブルに撒き散らされた。

無比人が逸早く手を引き、高笑いを弾けさせた。

氷見子は、ペニスバンドの留め具をはずして腰から離すと、それを挿入した状態のままにして梶の前へと身を運んだ。正面に立ち、がっくりきた様子で頭を垂れるのを顎に手やって、ゆっくり仰向けた。

「可哀相にねえ、おまえも」

最前までとは打って変わった物柔らかな口調で彼女は言い、

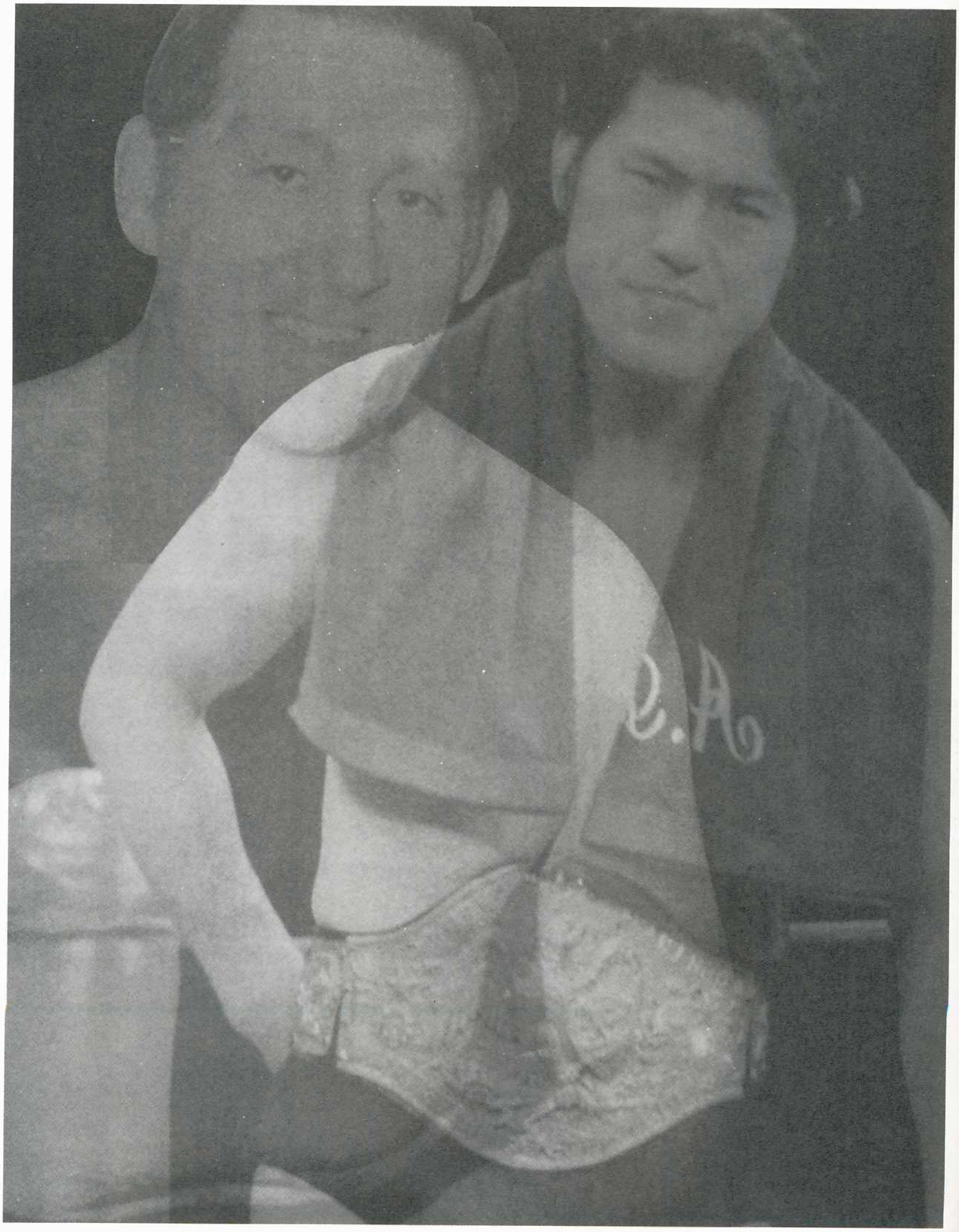
「これほどに堪え性がないというのも、ボス面をして突っ張らかってなくちゃならない日常の反動ってことなんだろうけど、そんな片時も気が抜けない堅苦しい明け暮れのなかで、自分を殺して生きて行くしかないなんて……。同情しちゃうよ、本当に」

顎にかかっていた手が頬へと滑っていき、もう一方の手も用いて顔をやさしく挟み込むようにした。慈愛に充ちた眼差しで、

「それにしても、あいつらが伸びてるうちのことでよかったねぇ。尤もまあ、あの様子じゃまだしばらくは意識を取り戻しそうにないけれど」

「…………」

驚いたことに、梶の目には光るものが見られた。



——只ですむなんて思ってやし

井出本らととも

組長の顔を見下ろす

ものが見られた。

Mubito

戦慄のセメントマッチ！　無比人VSタイガーキング

「いいかい、自分に正直になるんだよ。また、あたしにして欲しい？　今度は誰も見てないところで」

神州組組長は、子供が母親にしてみせるような感じでこっくりした。

思いがけない展開に千堂は茫然とする一方で、なぜかどきどきして落ち着かなかった。

無比人も浮き上がったのを悟ったか、いつの間にか笑うのを止めていた。

「ではアヌスにある物を預けとくんで、しっかり保管すること。いいね？　あたしとおまえを結ぶ絆は、あれだけなんだから」

と俄かにまた宣(せん)するような強い語調で、ぴしゃりと氷見子は言った。

そのことがあって何日かして、社にいる千堂に無比人が電話をかけて寄こした。昼の休憩中で、

――部屋からだけど、いま、目の前に誰がいると思う？

――さて。

――植野だよ、植野次郎。

――なんだってまた。

――一個五千円はしそうなメロンを二個持って、訪ねてきやがったのさ。梶にけんつくを食わされるかなにかして慌てたんじゃないの、東都を脱けてフリーになるからこれまでのことは水に流して欲しいって吐かすんで、駄目だ引退しろと言い渡したとこでね。

――引退？　なにもそこまで……。

――待って。ちょっと代わるから。

じきに電話口に植野が出て、まだ死にたくないので足を洗う、と喉に痰が絡んだような掠れ声で告げた。

その夜、氷見子も交え三人で食事をし、これまで通り梶を東都プロレスリングの後ろ楯に社長兼選手として再出発する、ついては営業面をサポートしてもらえまいかと、千堂は彼から逆に改まって頼まれることとあいなった。選手のマネージメント及び経理面は、氷見子が担当するという。

そうなった裏には梶の意思が働いているのは明白で、あれからまた氷見子と逢って入れられるセックスを堪能させられ、思いのままに操り操られる関係が定着したか、それは千堂の与(あず)かり知らぬことだった。この件に関して、実のところ無比人と彼女のどちらが主導権を握っているのか、についても。

こうして新体制の下にスタートした東都プロレスは記者会見を経て、その名もニュー東都プロレスリングと改め、旗揚げ興行を待つばかりとなった――。

新企画＜追跡!!　万無比人＞で側面からも強力に援護すべく、そのストック原稿の執筆に精力的に取り組みながら、一方では千堂は旗揚げ戦のカードについても、ニュー東都の営業本部長としてさまざまに思いを巡らせていた。

(14)

月が変わって初めての週末、国立競技場内の代々木第二体育館に於てニュー東都プロレスリング旗揚げ興行が“真夏の夜のカタルシス”と銘打って開催された。

メーン・イベントを迎え、場内は一種異様な興奮に包まれた。

万無比人VS初代タイガーマスク。三十分一本勝負である。

ムヒト、ムヒトのムヒトコールが無比人の登場とともに満場を揺るがすのが常だが、この日ばかりは些か趣を異にした。というのも、いつものように総立ちでコールを繰り返しはするものの、どこか心ここにあらずの印象を拭えず――というより不安があって、いまひとつ乗り切れない、そんな感じでややもすると上っ滑りしがちなのだ。

そのくせ常にも増して興味津々なことは、大半が若者であるファンに共通する目の輝きから窺えた。応援したいのはやまやまだが、さて勝利はありや否や、といった気持ちが錯綜し興奮をストレートに表に出すのを阻んでいる、そのようにも受け取れた。

青コーナーから無比人がリングへ上がった後、少しの間を置いてマントを身に纏った初代タイガーマスクが赤コーナーへの通路に姿を見せた。

すると総立ちのままでいたファンの口を一斉に、タイガー、タイガーのタイガーコールがついて出た。ムヒトコールとボルテージの点では差はないか、と千堂の耳には聞き分けられた。

（要するにムヒトとタイガー、そのどちらにも肩入れしたいわけか。即ち今日の客はどっちが勝っても満足した気分で家路をたどれる、ということであってくれたなら手を尽くした甲斐もあろうというものだが……）

彼はニュートラル・コーナー寄

虎戦士は歓呼の声に応え マントを高々と抛る

りの最前列の席に、リンネルのオフホワイトのスーツが涼しげな真澄と肩を並べていた。ニュー東都プロレス営業本部長としてではなく、『四角いジャングル』発行人なる中立の立場での観戦なのは言うまでもない。

虎戦士はマットを踏まえて立つと、歓呼のどよめきに応えるかのように脱いだマントを高々と抛った。

初代タイガーマスクこと佐山聡は、新日本プロレス在籍中にそのマスクを被る運びとなり、人気漫画のヒーローの空中殺法をそっくりそのまま現実のリングで駆使してみせて、忽ち一世を風靡した。

その後、二代目・三沢光晴、三代目・金本浩二、四代目（目下のところ企業秘密）と継承されるわけだが、プロレスのセンス、アクロバティックな身ごなし、技の多彩さとどれをとってみても初代の佐山が一頭地を抜いているのは衆目の一致するところではないか。

華麗さの点は措くとしても、日本のプロレス界にストロングスタイルの系譜を探るとなれば、力道山にはじまってアントニオ猪木と佐山聡と、この二人の名前はどうあってもはずせまい。

千堂は、久しい以前からそう考えていたことでもあり、スポーツ紙の頃より興味を持ってよく佐山の取材を買って出た。

『四角いジャングル』社を興してからは、"佐山熱"はさらに高じてインタビュー、対談、原稿依頼となにかにつけて誌上に登場願い、すでに盛りは過ぎたものの、四つ年長のこの天才レスラーを最近では千堂は、社の有力なブレーンの一人として考えるまでになっていた。

そんなことから今回、旗揚げ興行のカードを一任され、インディーズ他団体の協力を取りつけて交流戦としてはと考えたが、メーンの無比人の対戦相手には別格とするに足るビッグ・ネームを持ってこられまいかといった夢が膨らんでいき、思いついて佐山に意見を仰ぐことにした。さっそくに携帯の電話番号を押すと、

――佐山でーす。

鼻にかかった独特の高声が流れた。

宵の口に二人して何度も足を運んだことのある三軒茶屋のカラオ

無比人

ケ・バーで落ち合い、話を切り出すと、

――万無比人ねえ。名前は聞いているけど、モノホンなのー。

――と思うんです。

――わかった。何箇所か口をかけてみるよ。明日パラオに出かけて一週間ほどで帰るけど、帰ったらすぐ電話する。それまでには返事をもらうようにして置くんでぇ。

佐山は、この頃ではタイガーキングなどとまた別の覆面をつけて猪木とタッグを組んだり、柔道からプロ格闘技へ転じた小川直也のコーチをするなどもして本業のシューティングの方は休業状態にあるようだが、パラオ行きも猪木や小川と一緒とのことであった。

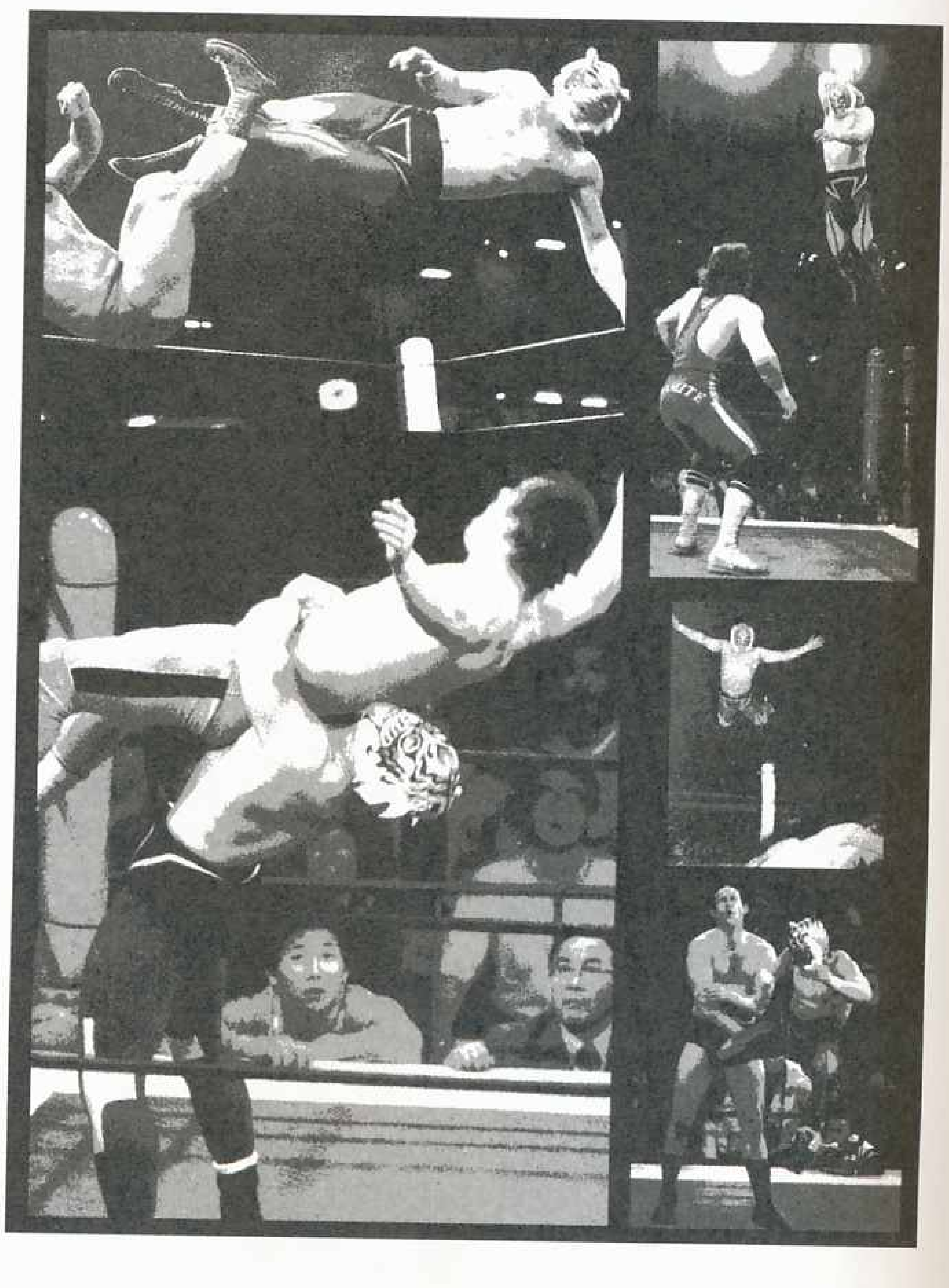
それが七月中旬で、帰国するとその日のうちに連絡を寄こし、

――ビッグ・ネームとはいかないけれども、俺でどう？　千堂ちゃんが本物と太鼓判を押すなら手合わせしときたい気もするし、この俺で良ければ新たな門出への餞として、ノー・ギャラでやらしてもらうよ。

――願ってもないけれど、それではいくらなんでも。

――いいの、いいの。

かくて異色の顔合わせは決定。千堂から知らせてやると、



リングから転げ落ちた無比人を襲う虎戦士

Mubito

（15）

——ビッグネームには違いないが、大丈夫なのかねえ、スタミナは。

無比人は憎まれ口を利きながら、満更でもなさそうに目許を綻ばせていた。

試合開始直後、無比人が身を低くして突っ込んだかと見るや、初代タイガーの左足へタックルを敢行。

一瞬早く、虎覆面はその左足を抜き上げて逃れるとともに余勢を利して後方宙返りを見せ、途中、前傾姿勢の無比人の顎を右足で蹴ったのだ。そのかみ業師と持てはやされたエドワード・カーペンティアの十八番、ムーンサルト・キックの応用と千堂には見て取れた。

（初代虎戦士の跳び技は、まだまだ錆びついてはいない！）

新鮮な驚きであったが、それにも増して唸らせられたのは顎をしたたか蹴り上げられ、のけぞりながらも無比人がいま一歩のところで踏み堪え尻餅をつかずにすませた、その下半身のバネの人間離れのした強靭さ——。

リング中央、姿勢を戻して相対峙する両雄を嵐のような大歓声が押し包むのを、肌が粟立つ思いで千堂は聞いた。

隣で真澄が脚を組み変えるのがわかった。

女王さまルックで極めた氷見子がスポットのなかへ躍り入った。

小柄なのにステージではびっくりするほど見栄えがするのは、腰が外人並みに高い位置にあるせいかと、千堂は今更のように得心しながら同席の真澄と無比人へなんとなしに視線を泳がせた。

五反田有楽街のはずれ近くに看板を掲げる〈SMパブ　ピンヒール〉。五階建て雑居ビルの四階にあり、営業スペースは十五坪程度か。千堂たちは、ステージに近い四人掛けのボックス席を占めていた。

「ねえ、本部長」

真澄と隣り合って坐る千堂へ、向かいの無比人が斜め後ろのステージの方は見ようとしないまま、思い出したように言った。いつの頃からか、社長から本部長に変わり、千堂としてもこだわるでもなくそう呼ばせていた。一方、彼の方は、いまや逆に社長と呼ぶべきところ、それではなにか味気ない感じもして、くん付けで通すことに決めてあった。

「どう、気に入った？」

「どうって、北海くんがかね、ステージの」

「違う、違う。車ですよぅ、自分の」

「ああ、車」

「どーかなあ。ちょっと派手めじゃなかったかって気もしてるんだが」

なにがちょっとだと、千堂は腹の中で毒づいた。

代々木第二体育館での旗揚げ戦から二週間。五十二回目の終戦記念日に当たるこの日は、真澄の三十七歳の誕生日でもあり、オパール観光の社員たちで企画したパーティーへの招待を千堂も受けていた。で、社での仕事を終えて出かける仕度をしていると、そこへ氷見子から電話がかかった。

——今日、氏家さんのバースディパーティーでしょ。

——きみ、それを。

どうして、と千堂は突っ込んで訊こうとしたものの、喉元に留めた。三千万の融資を言ってきた際、色々と調べさせたようなことを彼女が匂わせていたのを思い出したのだ。

——ご招待申し上げるんで、お揃いで店へきて。だってこんなときでもなけりゃ、なかなか彼女を呼べないでしょう、店が店だし。

——残念だが、先約が。

——その後でいいわよ。どこへでも、無比人に車で迎えにやらせるから。

結局、押し切られた格好で渋谷のオパール観光まできてもらうことになったのだが、無比人の車を見て、千堂は目を剥いた。ベンツの600で夜目にも鮮やかなショッキング・ピンクの車体に、ミスタープロレスリング、と黒のペイントの横文字がはみ出さんばかりの大きさで躍っているではないか。

——中古だけどさ、伝説のレスラーと引き分けた記念に張り込んじゃったんだ。

初代タイガーとの一戦は、彼の得意とするローリング・ソバットで場外へ転げ落ちた無比人だが、続いてのトペを仰向けの片膝を鋭く立てて迎撃。逆転かと視られたが、とっさに虎はエルボーで刺し違え、両者リングアウトによる痛み分けに終わっていた。

「さーて、今夜は少し趣向を変えようかね」

オーナー兼Sのクイーンは、言うと客席にいた同じ衣裳の一人を名指してステージへ上げた。

いきなりその女の横っ面を撲った。

（以下次号）

無比人を襲う虎戦士

そう呼ばせてい

揃いで店へきて。だってこんなと

た。

(以下次号)

世界の強豪に挑戦し続けます!

えー、ノブです。先日、バイクに乗って取材に向かっていたら、車にはねられてしまいました。「あっっ!」と思う暇もなく、6mほど空を飛び、頭からコンクリートに叩きつけられました。普通、ああいう瞬間は思い出が走馬燈のように駆けめぐるといいますが、嘘です。ボクの場合は「ま、しゃーないな」という単語が頭の中をグルグル回ってました。ノブを名乗る以上はいつ、何時、何が起こっても「ま、しゃーないな」で片づける準備があるんです!

構成=フライング・ノブ

今号のひとことキング

「『元気』って、クソ・ポジティブでいいですね」

(山口県　山本貴司　17歳)

ズバリ言って、ひとこと業界を根幹から揺るがす名言です! G1見てても、「元気」が売り物の人と「元気が売り物」が売り物の人とじゃ全然違いました。元気を売り物に生きたいモンですね。

☆ウィー・アー・ハガキングダム!!(メカニカル・ボイス)。というわけで、さっそく今回も編集部に届いたハガキを紹介します。まずは前号の感想のおハガキから。

前田さんのインタビュー記事を私は初めて読んだんですがGOODでした。カタブツ君は、う~ん……がんばれ!!

(町田市　嶋田紋奈　14歳)

今号のお絵かキング



(埼玉県　中川雅博　19歳)
ディック東郷の股の下をくぐって以来失踪しているセニョールの似顔絵です! 不調の原因はマスクにカタブツ君がいたから!?

☆前号は日明兄さんのインタビューがブッちぎりで人気ナンバー1でした。引退間近で、各団体を花束片手に渡り歩く兄さんの姿に一抹の寂しさを感じますが、口をついて出てくる言葉は波紋を呼ぶ危険なものばかり。引退してもこの調子で突っ走ってほしいもんです!

『トンパチ』は「ザ・インテリジェント・センセーショナル・インタビュー集」と書いてあるが、theは母音の前では「ジ」と読むので、この広告はインテリジエントではない。

(大阪府　小山宗之　17歳)

☆17歳につっこまれる34歳のインテリジェンスって何? この広告はいつまで経っても成長しないエマニュエル坊やのような中村カタブツ君(通称じじい)の仕事です。しかし、意外にも彼は社内でただ一人の大卒です。大学ではインテリジェンスは磨かれないということでしょうか?

オレをハガキングダムに載せるな、バカ! 前号のこのページで茂木のこと「オマエ」って言ってるじゃねえか! 謝っといてくれ。あの時は試合後で興奮してたんだよ。のものものこと、もっと教えてくれよ、かわいいじゃねえか。

(東大阪市　前田君と長州君　19歳)

☆載せるなと言っておきながらペンネームでハガキを送ってくる姿勢はナイス! そんなキミにのものもの近況報告! 邪道姫ことのものもは、電話の応対をするたびに「寝てたの?」と聞かれる寝ぼけボイスの持ち主。先日、山口昇編集長(人喰いサメ愛好家)への電話をのものもが受けた際、相手から「山口さんの赤ちゃん?」と聞かれ、「ほえぇぇ???? 違いますぅ~」という驚くべきやりとりが発生しました。ダブルクロスに電話をかける方は「赤ちゃんだ!」と思っても切らないでください。

3号で船木のロングインタビューを載せておきながら、4号では前田とゴッチの船木批判、近藤の「変なコメント」発言、とどめに「15才にして3回」という若さ爆発のエピソードを掲載するあたり、「人を2階に上げておいて急に梯子をはずす」落武者イズムが感じられます。何だかんだ言ってもターザンのこと好きなんだね。

(千葉県　武田いづみ　17歳)

☆『紙のプロレスRADICAL』は「急に梯子をはずす」だけじゃ飽きたらず、そこに落とし穴を掘って待っちゃうような遊び心に溢れる雑誌です! ンムフフフ。

つまらない記事・前田日明インタビュー。理由は太ってるから。

(世田谷区　関田健太郎　19歳)

☆ナメてんのかー! この野郎! 破壊王はあの体型でも抜群に面白いと思うが、違うか? 「要は面白いか、面白くないかで~す。面白さが分からないカタブツ(34歳のあの人のことではない)はダメで~す」(タイガーキング・談)。そういうことです!

前号の茂木選手にしろ、サスケ社長の記事にしろ、カタブツ君の選手に対する接し方にハッキリ言って「プロレスラーに対する愛」をまったく感じません。カタブツ君の記事を貴誌の売り物のひとつと考えるのは即刻やめるべきです。

(北区　本堂勝　37歳)

☆ズバリ言って、このクサレ外道に「プロレスに対する愛」はありません。「空手の方が強い」と言ってはばからない男に、プロレスを好きにさせるのがボクらのやることだと思います。「LOVEとかってあるでしょ? 『好きにさせる』ってことも凄く大事な要素というかね」(アントニオ猪木・談)。そういうことです!



(山口県　肉プロ)
前号のもてぴょん VS カタブッチから、足だけ書いてよこすというアバンギャルドなイラスト。本人も自分の足と見比べて「オレの足より似てるよ」とわけのわからないことを言ってました。

イタコにブロディ、アンドレ、マードック、アドニスを呼んでもらい厳流島でのタッグマッチを次号でやってください。レフェリーはミスター空中で。(もちろんマードックにはケツを出してもらいアドニスにはロープ最上段で股間をぶつけてもらいます)。

(愛知県　今村龍彦　29歳)

☆よし、やろう! でも、それって観客にしてみれば、イタコがプロレスしてるだけでしょ?

ストロングな試合をとりあげてインタビューしてください。

(神戸市　安田芳樹　25歳)

☆ストロングなのはいいんだけど、試合にインタビューはできません。

ハガキングダムは、これから世

ハガキン

（は） 通称 ハガキング

パンク
ラス本はShow制作と聞いて、大変不安になりました。

（小金井市　堀江将司　23歳）

☆パンクラス本のために10日あまりダブルクロスに泊まり込んだShow氏が短パンを着用していたのですが、あんなにムサ苦しい短パン姿は他に類を見ません。それとは関係なく本は素晴らしい仕上がりで、全国書店で絶賛発売中です。

ボク
は新日本プロレスの昔の話を読むのが好きで、ケロちゃんの本もほとんど持ってるし、小鉄っつぁんの本も買いました。やっぱりドン荒川と藤原喜明の2人の独特の世界はメチャクチャ面白い！　次号では真っ先に読みたいと思います。

（板橋区　金本雄二郎　20歳）

☆新日本プロレスの25周年を『紙のプロレスRADICAL』なりに祝福した特別企画です。治外法権の立場から垣間みる新日本プロレスもまた魅力的でした。今号の分も読んだら感想を送るように！

ポス
ターを毎回付けてほしい。

（群馬県　原口武一　18歳）

☆ポスターって『週プロ』とか『ゴング』みたいなヤツですか？　『紙のプロレスRADICAL』がポスターをつけるとしたら、ダブルクロスでいちばんフォトジェニックなじじい・中村カタブツ君（34歳）の名シーンだけを激写したポスターをつけますね。ジュースをこぼして怒られてるところやカタブツ君が流さなかったトイレのポスターなんかどうでしょう？



（熊本市　山崎英紀　31歳）
うまいっっ！　ののもも大絶賛してます。あの寝ぼけフェイスを描き切ったのは素晴らしい。また、イラストを書いてくるように姫が申しておりました。



（埼玉県　中川雅博　19歳）
前号の入稿後に届いたハガキです。なお、NOW　KOREAが旗揚げする模様。トップを張るのはもちろんジャイアント・コーリア（空想）。

「志野、『紙プロ』に入れば？」な大募集！

今回の募集は（高田）ノブ兄さんに、強引に『紙プロ』入りを勧められていたキングダムの広報・志野さんに捧げます！

■本誌へのご意見、ご感想（茶髪の人大歓迎）
■素敵なイラスト（元ヤンキーの人大歓迎）
■レスラーの雑誌に載らないちょっといい話（愛車が竹槍デッパな人大歓迎）
■ダジャ専入選を狙う最強のダジャレ（突然、丸坊主にされちゃう人大歓迎）
■二代目を探せ！に載りそうないい二代目（愛車はシャコタン仕様の人大歓迎）

尚、ハガキには合言葉の「志野はどう？」を必ず明記すること！　宛先は〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702（株）ダブルクロス「ウィー・アー・ハガキングダム!!」係まで。

ダジャ専
日本ダジャレズム専門学校
講師＝ダジャ・コング

今号のダジャキング



（熊本県　塩本祐介　31歳）
わざわざ教訓までつけてくる過剰なサービス精神にジ〜ンときちゃいました。

くだらねえことが世の中を動かすんです！

どうも。先日、フリーの講師になったばかりのダジャ・コングです。今回はハガキの数は少ないですが、素ん晴らしくくだらない作品ばかりで感動しました！　グーです！　この調子でバカを極めましょう！　どうせバカになるなら世界一のバカになれ！　というわけで引き続きハガキは募集します。だんだんいい感じになってるんで、もっとハガキをよこしやがれ！



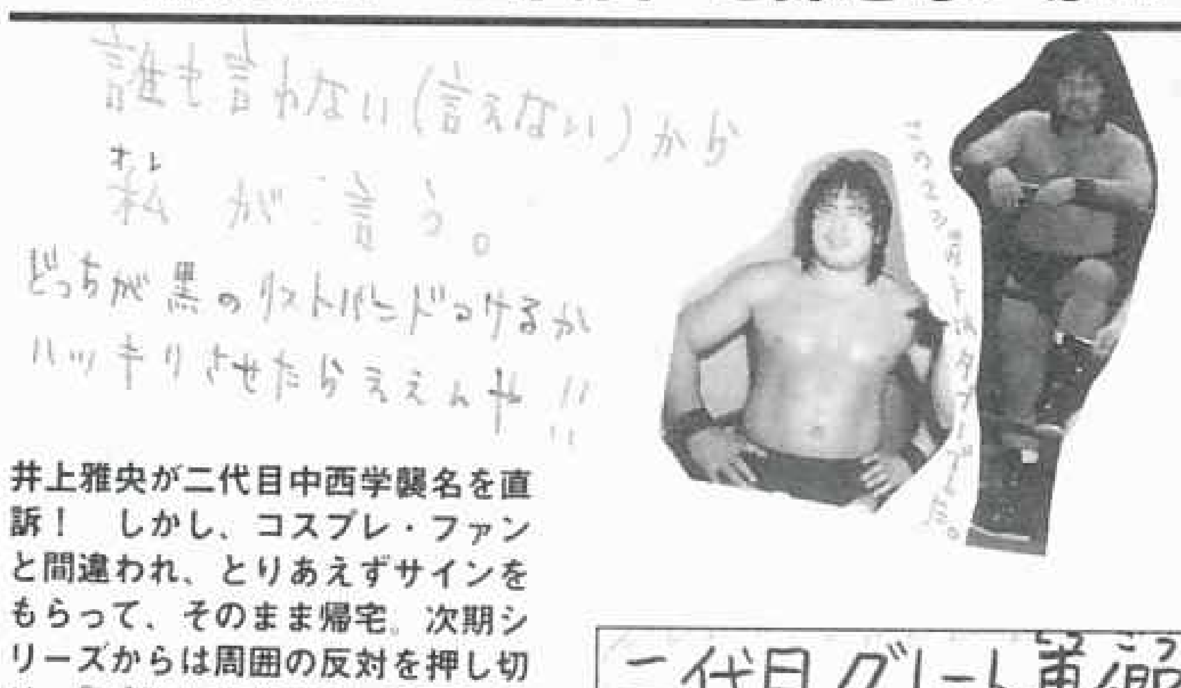
（大阪府　うしえもん　20歳）
遠近法までも大胆に取り入れたバチバチなダジャレだね。人選も文句なし！



（名古屋市　花井順平　16歳）
屁とかウンコとかチンコがネタの中学生レベルのダジャレは絶対支持します！

二代目を探せ！

VIVA！ 二代目・長州力がG1初優勝！ キミも時代の最先端、"二代目"を探さないか!?



井上雅央が二代目中西学襲名を直訴！　しかし、コスプレ・ファンと間違われ、とりあえずサインをもらって、そのまま帰宅。次期シリーズからは周囲の反対を押し切り、「プチ★ナカニシ」のリングネームで参戦決定。本人大満足。

（千葉県　17円）

わざわざ写真まで貼ってくれてます。どっちがクロサワかハッキリさせたらええんや！



（熊本県　塩本祐介　31歳）
ジェット浪越の顔があからさまに似てないが、その目のつけどころはナイス！　ところでエンペラー吉田って、まだ生きてるの？　情報求む！

G1、見ましたか？　二代目・長州力、見ましたか？　あの黒いショート・タイツ、見ましたか？　どうすんの、IWGPタッグも取っちゃってさ。このまだと三冠王だよ。やっぱり、時代は二代目だね。初代がバックについてるもん、心強いよね。正月には鉄仮面被ってた人が、夏には黒のショート・タイツだもん。時代ってヤツだね。両国では、涙が止まらなかったよ。目にゴミが入っただけなんだけどね。

のも〜る

手紙を送ってくれた人、ありがとう。返事として半年以内に「のも新聞」を送ります。気長に待っててね。引き続き手紙は募集中で〜す！　〒151 渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 (株)ダブルクロス「のも〜る」係まで。

えるので、不本意ながら2ページもゲット！

無意識とは悪である

Kata butsu Land

カタブツランド。★DX

デラックス

完全脱力主義のカリスマ！

日本全国の『やればできる子』に捧げる『実録!! 世界びっくり人間列伝』千葉県在住 中村カタブツ君（34歳）

「この業界にいてはいけない人間」（高知県 津野祐一君）「死にかけ人形」（江戸川区 佐藤耳男君）「中村クソタラシに改名しろ」（大阪府 小山宗之君）と不人気が大爆発！ しかし、一方では「生きる勇気が湧いたぜ!!」（茨城県 酒井智明君）などサエナイ君のカリスマとしての勘違い人気も小爆発！ どっちにしても、こんなスゴ玉はみたことない!!

中村カタブツ君（34歳）、自分のウンコもちゃんと流せないポンコツ・ダメ人間である。最近も相変わらず、毎度毎度同じような失敗を繰り返し、その度に怒られている。このコーナーが始まって以来、何一つ進歩していない。というよりも、むしろ退化している。読者ハガキでも、前号の『もてぴょんvsカタブツ』は超ブッちぎりで最下位NO1をゲットした。ホントに走り出したらとまらない、土曜の夜の天使のような勢いである。最近は、ターザンがカタブツ御指名で電話してきては、「オマエは汚いカッコしてるだろ！　オマエは、中村コジキですよぉ～！」と見えもしないのに定義されてしまうのだから、カタブツ君は凄い。

さて、失敗ばかりするのに人一倍『男らしさ』にこだわることは、すでにRADICAL3号で書いた。しかし、最近ではその自我さえも崩壊したらしく、女々しいいいわけをするようになった。だが、それさえもスキだらけで「つっこんでください」と言わんばかりの売春婦のようないいわけだったりするから、始末に負えない。今月のカタブツランドは、ここ最近の失敗に加えて、いいわけも同時に掲載するので、ご自由につっこみを入れながら読んでいただければ幸いである。

●『男らしさ』を強く意識する中村カタブツ君（34歳）は本宮ひろ志先生の名作『山崎銀次郎』に憧れた硬派な野郎。そりゃ男らしいやと思っていた矢先、「あとは『俺のソバ』も好きだよ」とターザン山本ならずとも「失礼ですよぉ～」と怒りたくなるバカ発言。ちなみに正解は『俺の空』（名作）。

●30枚以上も束になってる書類をホチキスでとめたままの状態でFAXしようとした中村カタブツ君（34歳）。あわてて止めた山口昇（ティラノザウルス愛好家）を睨み付け、舌打ちしながらホチキスの針を抜き捨て、「女の腐ったヤツじゃあるまいし、いちいち細かいんですよ!!」と自分の否を棚に上げ、さらには「会長（山口昇）は何でも人のせいにしようとする」とスネだす始末。

●ドジなのでいつも終電を逃すカタブツ君。最近は終電の時刻が近づくと、社内から一斉に「帰れ」コールの集中砲火。

●極真4級・大道塾3級のプチ空手家の中村カタブツ君（静岡県出身）を空拳道に入門させるというプランが浮上。「ところで空拳道って誰がやってるか知ってるの？」と聞くと、目を泳がせながら「ん、知ってますよ…（この間、頭をかきむしる）…風大左衛門」だって。ちなみに正解は大文字三郎。

●整理という行為が何一つ出来ない中村カタブツ君（A型）に「手帳を持てば？」と山口昇鬼畜編集長から珍しく温かいアドバイス。しかし、「手帳って車と同じなんですよ。分不相応というか、まだ手帳を持つ身分じゃないと思います！」だとさ。

●インタビューのテープを原稿にする作業をやっていた中村カタブツ君（入社1年）。普通、1時間のテープなら8時間あれば余裕で終わるところを72時間かける仕事っぷり。原因はもちろん居眠りをしているからなのだが、本人に原因を聞くと「ホント、ボクにもわかんないんですよ。何でですかねぇ？　機械の調子が悪いのかな……」と恨みがましく機械を見つめながら、また居眠り開始。

●ヨネ原人と対決しに盛岡まで行ったカタブツ君だが、行きの新幹線に乗り遅れるという大チョンボ。テープ・レコーダーを持っていくという簡単な任務さえ果たせず。じつは盛岡は前回、出張に行ったときも10万円を落としている鬼門とも言うべき場所。で、「遅刻した理由は？」と聞くと、「ホントはギリギリ間にあったんだけど、朝のラッシュで電車が7分遅れたんだよ」と女々しくいいわけ。何か隠してる感じだったので「ホントの理由は？」と聞くと「…前の晩に『エヴァンゲリオン』見て、シンジ君の「どうせボクなんかいらない人間なんだ！」っていうセリフに共感しちゃって、興奮して朝まで寝られなかったんだよ」とアッサリ白状。「シンジ君はエヴァに乗れるからいいけど、ブチはエヴァに乗れるの？」とつっこまれると、「そうなんだよなぁ……何にもないもんなぁ。さ、帰ろう！」とさっそく現実逃避。

●中村カタブツ君（エヴァに乗れないシンジ君）が、電話口で「テメェ、何者だ!!　名を名乗れ！　ブッ殺すぞ！　無礼者！　死ね、この野郎！」と5分以上に渡ってすごい剣幕で怒鳴り散らすという事件が発生。電話後「どうしたの？」と聞くと、興奮状態で、「ハアァ、ハアァ」と言うだけで話も出来ない。ようやく10分後に肩で息をしながら「ナメたイタズラ電話だったんで、ビビらしてやりましたよ！」と、じつは他愛もないことだったのが発覚。でも、その後はニヤニヤしながら机に向かい鼻歌を歌うほどのゴキゲン状態。ちなみに目撃者ののものも（永遠に23歳）は「あれは必要以上に怒鳴ってたよねぇ。見られてるの意識してやってたもん」とのこと。男らしいとはこのことを言うのだろう、きっと。

●「どうしてこんなに失敗ばっかりするんだろう？」と邪道姫ののものも（23歳）に相談した中村カタブツ君（34歳）。しばらく話を聞いていたののものもに「養護学校に行けばぁ～」と言われても笑って許していたのだが、同じことを吉田豪に言われて「殺してやる！」と突如ブチ切れ。返す刀で「女に言われる分にはいいんですけど、会長（山口昇）や豪さんやノブに言われるとムカつくんですよ！　何でですかね？」と結局は全員を敵に回す。

●図書印刷営業部のすぎすぎこと大杉さん（2代目・カタブツ君襲名予定）から「藤本かずまさってどこの人ですか？」と聞かれ、間髪入れずに「宝島の人です！」と言い切った中村カタブツ君（元サーファー）。横で聞いていた吉田豪に怒られる。ああ見えても、毎週『週プロ』は熟読しているのになぜ、そうなるのか？　問いただしたところ「一生懸命ナナメ読みしてました」だって、ほえ～。

●ヘビースモーカーの中村カタブツ君（キャスマイ派）は一日4箱を吸う男。「確実に脳細胞がやられてる。だから、こんなにドジが多いんだ」という話になり、本人もその気になって「6月12日から全面禁煙しますよ」と高らかに宣言。それをサポートしてあげようと「吸ったときの罰金はいくらにする？」と聞くと「ボクを信用してないんですか？　罰金は必要ないです！」と自信満々のご様子。その一週間後の早朝、ビルの下で隠れてプカプカしているところを、酔っぱらった山口昇（入稿で切羽詰まると、ファールカップを装着して気合いを入れるハイブリッド編集長）に発見されブン殴られる。

●パンクラス本の入稿作業を終えた後のお話。2日間の休暇後の出勤日に、なぜか落ち込んで仕事もせずに頭を抱えてタメ息をつくばかりの中村カタブツ君（趣味はアウトドア）。「何かあったの？」「嫁と揉めたの？」といろいろ聞いても、「いや…（この間、頭をかきむしりながら）…何も話したくないんですよォ！　ほっといてくださいよォ！」の一点張り。いろいろ質問してもだめなので「タバコ吸ってもいいよ（この時禁煙中）」というと、途端にニヤけだし、口を開いたと思ったら、「Showがむかつくんですよ！　あの野郎、自分はやる気ないくせに、オレに説教しやがって！」とライバルに敵意向きだし。カタブッチはやる気あったんだ？　「やる気だけなら負けてないのに……」と案外、控えめ。原因は入稿作業中に、むさくるしいShow氏に自分の失敗をネチネチ怒られたことだとか。些細なことだがプライドが傷つけられたのだろう、相手もライバルのShow氏だし。怒りが収まらないご様子なので、「ケンカで決着つけたら？」と聞くと「やってやりますよ！　アイツはグローブつけたっていいですよ！　オレは素手でやりますから！」とどう考えても矛盾した強がり方なのだが、これも男らしさの一つの形なのだろう。

●禁煙宣言から1カ月後、カタブッチがそ知らぬ顔して社内でタバコをプカプカ。「あれ？　解禁ですか？」と聞くと、ひょうひょうと「解禁です」とぬかし、さらには「罰金制度にしなくてよかったぁ。だって、もともとは豪さんが『イヤだ』って言うから禁煙したんですよ！」と、お得意の事実ねじ曲げ&責任転嫁。さらに開き直って「だって、外行って吸ってんだから意味ないじゃん」って、お前が全部ぶち壊したんじゃねえか！

●ブチの一人よがりの聞き間違いシリーズVOL.1。リーコーポレーションがどこをどう聞いたのか、P&Gに!?

●バリスのアゴさん（カタブチ的表現。本当は新日のビデオを作っている会社、VALISのアボさん）から原稿を依頼された中村カタブツ君（筒井康隆にはうるさい34歳）。「『プロレスもビデオも虚である』っていう論陣を張ろうと思うんです」と珍しく覇気のある答え。「まあ、ブチには何もないもんね」と言うと怒りだすが「ありますよ!!　思い出せないけど」「でも、それ面白いの？」とつっこまれると「そうかぁ」と脳内袋小路に閉じこもり出てこれなくなる。しばらく経って、「原稿書いたの？」と聞くと「書いてません！　だってバリスが何も言ってこないんだも～ん」と晴れ晴れと答えてくれた。脳内袋小路からは抜け出したようだ。

●ブチの1人よがりの聞き間違いシリーズVOL.2。『おちゃっぴー』が『オーチャビィ』に!?　出版界の人間なんだから、それぐらい知っとけ！

●中華の出前でラーメン&杏仁豆腐セット注文した中村カタブツ君（外食派）。なぜかラーメンを食べずに、杏仁豆腐から食べ始める。曰く「杏仁豆腐が食べたかったんですよぉ」とのこと。でも、最終的にはラーメンと杏仁豆腐を交互に食べ、ちょっと不満げ。さらに翌日も中華料理屋で杏仁豆腐を注文して、得意げに「オレは杏仁豆腐にはうるさいよ」と語り始める。そして、一口食べて「あんまりおいしくない！　アーモンドが……」とウンチクタレ始めるので、「じゃあ、おいしい杏仁豆腐って、どんなやつ？」と聞くと、「え～っと……わかりません」とアッサリ白旗。杏仁豆腐とラーメンを交互に食べるヤツに味のことをとやかく言われたくない。

前号の『カタブツランド』の最後で「生まれ変わる！」と宣言したにもかかわらず、何をどう生まれ変わったのか、さらにやる気のベクトルが下&後ろ向きになってしまったようだ。猪木さんならずとも嘆きたくなるダメっぷり。生まれ変わらない方が、まだましだったのかもしれない。

今号の『紙のプロレスRADICAL』はお盆進行のため、締切前が普段よりゴタゴタと慌ただしいのだが、中村カタブツ君（34歳）だけは6日間連続で一日中居眠りだけしかせず、社内で勝手にお盆休みを取ってしまうからたまらない。じっくり観察した結果、ラジオからはやい曲（ロックとかテクノ）がかかると目を覚まし、ゆっくりした曲（ヒップホップとかブルース）がかかると夢の中へ行ってしまうという法則が発見された。このままいつまでもお盆休みを取られていると、こちらもたまらないので（株）ダブルクロスでは中村カタブツ君（34歳）の席の後ろで演奏してくれる生バンドを広く募集したいと思う。もちろん、激しい曲をやってくれるバンド限定である。ちなみにギャラはカタブツ君から出る予定。

ホントにバカにつける薬がほしいと思う今日この頃である。



不人気大爆発！しかし、失敗が青天井に増えてる

緊急速報!!

中村カタブツ君（34歳）が交通事故を引き起こす！

中村カタブツ君（34歳）がクソ忙しい入稿作業の真っ最中（カタブツ的にはお盆休みの真っ最中）にフラフラと無言で外出。「あのバカどこに行ったんだろう？」とみんなで話し合っていると、（株）ダブルクロスの電話がけたたましく鳴った。相手は中村カタブツ君（34歳）。何と車に乗って、事故を起こしたというではないか!!

どこで事故ったの!?

「う〜んとねぇ、甲州街道の甲州街道方面！」

どこ!? そんな説明で分かってたまるか、ボケじじい！

「何で分かんないのかなぁ？ 普通、分かるでしょ？」

もういいよ。ところでどんな事故？

「前の車のオカマ掘っちゃったんだよ」

そう。まあ、いいや。とりあえず写真撮ってきて！『カタブツランド』で使えるようないい写真撮ってきて！

「は〜い。じゃっ、よろしくお願いしますぅ〜」と「じゃっ」の部分だけは元気に一旦、電話を切った。

その後、プロレス業界、出版業界、ダブルクロス周辺には電話でいち早く速報が流されたことは言うまでもない。ある人は言葉を失い、ある人は笑い、みな一様にあきれていたのだが、カタブツ君のケガを心配していた人は皆無であることも付け加えておかねばなるまい。

3時間後、警察の現場検証を終えて、「オレ、ダメでしょ？」とばかりに微妙にニヤニヤしながら、会社に入ってきたので、とりあえず何も言わずに迎える。別に打ち合わせをしたわけではなく、みんなカチンと来たのだ。すると、うろたえ出すカタブッチ。でも、やっぱり事情を知らなければならないので、本誌編集部では事故の当事者である中村カタブツ容疑者（34歳）の緊急インタビューを収録することが急きょ決定した。

――写真撮れました？

ブツ とられちゃった……デへへ。

――えっ、撮られたの？

ブツ いや、取り上げられちゃった。

――なんで！

ブツ いや、なんか、相手は怒ってないんですよ。**相手は怒ってないんだけど、怒らせちゃったみたいなんですよ。**

――だからぁ！ 怒ってるの!? 怒ってないの!?

ブツ いや、怒ってないんです！ **だけど……。**

――もう、いいよ。で、なんでカメラを取り上げられたの？

ブツ いや、パチパチ撮ってたら『何で撮ってるの？』って聞かれて……『**ボクの事故の取材です**』って答えたら、怒っちゃったんですね。

――あ〜あ、**天性の怒らせ上手**だね。

ブツ 何で……オレはいつもこうなんだろう（と頭をかきむしる）？

――それで事故の原因って何？

ブツ 信号で停まったから、サイドブレーキ引いたんですよ。ギアはドライブだったんですけど。それで、ボクは居眠りしてないんですよ。**居眠りしてないんだけど、寝ちゃったのかな……そしたらゴン！**って。

――寝てんじゃん！

ブツ そうなんですかね。でも、**停まってるような距離**だから、大した事故じゃないです。

――停まってるような距離って何!? スピードでしょ？

ブツ あっ……（と天を仰ぎ30秒間固まる）……どうしてこんなに……。

――車に傷はなかったの？

ブツ ないです（後から傷を見てみたら、ボンネットに赤いペンキがついて、**ペコッとへこんでいた**。これも、その場しのぎの単なる言い逃れ）。

――車はどうすんの？

ブツ もう、ボロボロだから、**ちょっとぐらい傷がついても変わんないですよ。**

――ボロボロにしたのはお前だろ!!（車をぶつけたのは今回で5回目）

ブツ なんで、ボクのことばっかり、責めるのかなぁ。あ〜、もうヤダ！ あ〜、**もっと、前向きで行きましょうよ。**

――ほえ〜。とっとと風呂に入って、シャキッとしてきやがれ！

と、もはやいいわけとは呼べないレベルの低さに、ダブルクロス内が凍りついてしまった。

会社でおとなしく寝てるだけなら、別に誰にも迷惑をかけないからいいのだが、外に出てまで居眠りしてたんじゃ、腹ペコの野獣を街に放つようなものだ。おっかなくてしょうがない。ブチはいつ、何時、誰に対しても中村カタブツ君（34歳）なのだ。ひょっとしたら、踏切を歩いているときや、核ミサイルの発射ボタンを掃除してるときや、不発弾を処理しているときや、チェーンソウで木を切ってるときや、戦闘機を操縦してるときでも居眠りするんじゃないだろうか？

とにかく、こんなスゴ玉は見たことない。



☆☆☆ ~~私は土曜日の夜~~ ☆☆☆

当初、このコーナーは人間核弾頭・中村カタブツ君（34歳）の完全責了コーナー『私は土曜日の夜』の予定でしたが、自分のコーナーがあるのさえ忘れて居眠りをして締切を守れなかったため、突然ですが（株）ダブルクロスからの求人広告とさせていただきます！

お願いだから、中村カタブツ君（34歳）よりできるアミ〜ゴを募集します！

『紙プロ』をつくってる会社、（株）ダブルクロスでは、こんな狂った時代に、編集のできる編集者のみを赤ん坊に戻ったつもりで募集します!! あなたもボクたちと『最強ッ!』の仕事をしてみませんか？

資格：今回は編集経験者のみとさせていただきま〜す！
職種：『紙のプロレス』他、小社発行物の編集で〜す！
勤務地：東京都代々木で〜す！
初任給：たぶん出ま〜す！（でも、仕事の面白さと辛さは保証付きで〜す！）
勤務時間：仕事があれば随時で〜す！
年齢：34歳以下で〜す！（でも、仕事ができれば97歳でもいいで〜す！）
特典：入社してスグ、あなたのキャラクターに合ったホーリーネームを差し上げま〜す！
（例：タコヤキ君、40円、カタブツ君、ジュゴン、結核）。あとは中村カタブツ君の生いいわけが聞けま〜す！
採用方法：書類選考の上、小社オールスター・キャスト（チーフ面接官はカタブツ君！ 仕事はお茶くみだけどね）で面接を行いま〜す

履歴書（写真貼付を忘れずに!）と400字×2枚の論文（お題は「紙プロと私」）と自己PRグッズ等を同封の上、送付してください。こちらから面接日を連絡します。

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 （株）ダブルクロス「私は土曜日の夜係」
※詳しいお問い合せは TEL 03-3403-5188 担当：坂井ノブまで

てて止めた山口昇（ティラノザウルス愛好家）を睨み付け、舌打ちしながらホ

ギリ間にあったんだけど、朝のラッシュで電車が7分遅れたんだよ」と女々し

員を敵に回す。
●図書印刷営業部のすぎすぎこと大杉

ネチネチ怒られたことだとか。些細なことだがプライドが傷つけられたのだろ

ット注文した中村カタブツ君（外食派）。なぜかラーメンを食べずに、杏仁豆腐

ホントにバカにつける薬がほしいと思う今日この頃である。

紙のプロレス

本誌 Back Number の告知

第23号は栗拾いの頃に発売予定

第9号 リニューアル新装刊!

特集『週刊プロレスとは何か?』第1回

なぜ『週プロ』が40万部というオバケ雑誌になり得たか? メディアの存在意義を活字プロレスの鬼**ミスターX、テリー伊藤**らが分析した。



◎**仁義なきワイド特集**「さらば! みちのくプロレス」

◎**大仁田厚** ドッカンビリビリインタビュー

◎**糸井重里** セメントインタビュー

第8号 『噂の真相』から「もっとまじめにやれ」と指摘された!

特集『さらば新日本プロレス』

ターザン山本、山口昇、柳沢忠之、斎藤雄一が当時の新日本プロレスに決別宣言した禁断の㊙企画!



◎**紙プロ初登場 ザ・グレート・サスケ** ロングインタビュー

◎**闇の格闘家を語る 関根勤** インタビュー

第5号 初期『紙プロ』の香り漂う世謝出版時代の一冊!

特集『たたかいグランプリ』

人は何とどう闘っているのか! 疾風怒涛アンケート

極私的闘争コラム 出たがり「おジさん」との闘い／**山口昇** 右翼! 世界最悪のイメージとの闘い／**鈴木邦男**、人が集まる場所に行かない闘い／**杉作J太郎**ほか



◎ロングインタビュー**馳浩**

◎対談 **デビル雅美VS氏神一番**

◎特別寄稿・再考察「なぜ馬場は馬場さんと呼ばれるのか」／**板内良**

第12号 前田日明女子便所事件勃発!

特集『色気とは何か?』

●緊急座談会「前田日明に愛をこめて」**谷川貞治・山口昇・柳沢忠之**



●**9大インタビュー**

前田について語る **村松友視**

現nWoジャパンリーダー **蝶野正洋**

ザ・グレート・サスケ／ターザン山本／アントニオ猪木ほか

第11号 心にドス! な人たち集合

特集『狂気とは何か?』

狂気をうちに秘めた凄玉6人ロングインタビュー **堀辺正史／タイガー・ジェット・シン／ガッツ石松／西村知美／佐野量子／糸井重里**



◎**特集**『週刊プロレス』とは何か? **完結編**

初代『週プロ』編集長・**杉山頴男**独占手記

全女企画広報部長 **ロッシー小川**インタビュー

週刊ゴング編集長 **小佐野景浩**インタビュー

第10号 祝10号記念特大号!

特集『週刊プロレスとは何か?』第2回

現『UNO』編集長・**花田紀凱**、元『週刊ファイト』編集長・**井上義啓**ほかが『週プロ』の雑誌作りの仕掛けを解き明かす。



◎対談 **アントニオ猪木VSキューバ大使**

◎**ユセフ・トルコ** ガチンコインタビュー

◎**テリー伊藤** セメントインタビュー

第15号 インディーレスラーと初遭遇

特集『インディペンデントの逆襲』

●**第一部 3大インタビュー** **高野拳磁／ポイズン澤田／中牧昭二**



●**第二部 あんた誰?**

「山口昇試練の十人組手」**茂木正淑／神風／島田宏／ウルトラマンロビン**ほか

◎**巻末緊急特集『K—1とは何か?』**

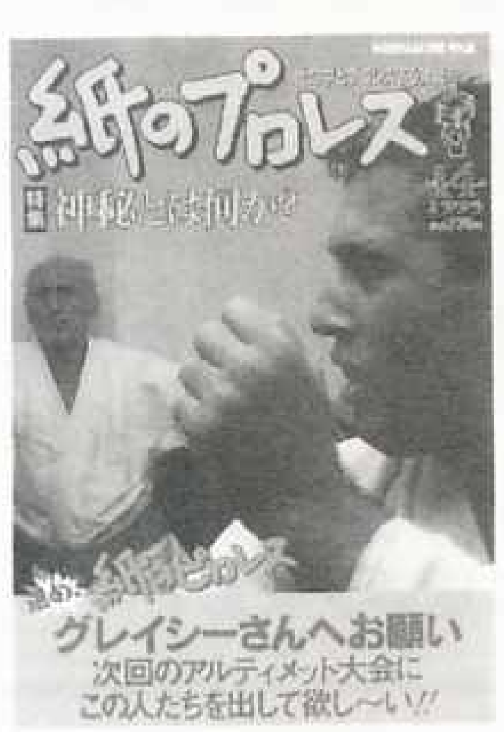
●3大インタビュー **石井和義 谷川貞治 ターザン山本**

第14号 『紙プロ』流に「何でもあり」を定義

特集『神秘とは何か?』

●5大インタビュー

佐山サトル「僕の動き、それがもう神秘になってるんじゃないですか?」



鈴木みのる「神秘性のない奴はレスラーという範疇に入れちゃいけない」

大槻ケンヂ「偉大なる理念を残す人はインチキ臭くなければいけない」

元プロボディーガード **清水伯鳳**

大東流合気柔術六方会宗師・**岡本正剛**

◎ガチンコインタビュー **遠藤幸吉／高田文夫**

第13号 安生洋二がグレイシー道場に乗り込み、返り討ちに!

巻頭緊急特集『道場破りとは何か?』

2大インタビュー

山本小鉄「返り討ちに遭ったら、俺なら、その場で腹切りますよ」

上田馬之助「道場破りだなんだって言ったって長生きしたヤツが一番強い」



特集『ファミコンプロレスの逆襲』

●**前田日明／スペル・デルフィン／馳浩／斎藤文彦／須田剛一** 5大インタビュー

●プロレス座談会「平成のプロレスファンとは何か」

◎セメントインタビュー **養老孟司／糸井重里**

第18号 高田延彦リング上で引退発言! 緊急座談会・高田引退発言の読み方

『高田延彦さんへ愛をこめて』

出席者・**花くまゆうさく、山口昇、柳沢忠之**

◎特集『すてきな奥さん』



大山倍達未亡人
大山智弥子インタビュー
佐々木健介夫人
北斗晶インタビュー
ライガー夫人
●●千景インタビュー
石川雄規夫人
石川道枝インタビュー
サスケ夫人
村川メリーインタビュー

第17号 新日本プロレスの北朝鮮イベントを検証

特集『実況パワフル北朝鮮!』

●新・闘魂二人三脚対談編
アントニオ猪木VS永島勝司



●3大インタビュー
ブル中野／橋本真也／村松友視

◎巻末特集
『藤原組の逆襲』

緊急スクープ座談会
「ツボ原人とは何か」

◎新連載「誤釣生活」
糸井重里

第16号 新日本プロレス総力取材

特集『新日本凸凹大学校』

●5大インタビュー



後藤達俊／マサ斎藤／キラー・カーン／橋本真也／田中秀和

＜巻末2大対談＞
糸井重里VS谷川貞治
ユセフ・トルコVS由利徹

◎青春の大発掘アントングッズとは何か?

第21号 いにしえの殺人技術に迫る

特集『幻的格闘技』(ファンタスティック)

古武術でプロレスする!
古武術の達人6大インタビュー



前田日明(格闘術使い)／**岩井作夫**(古武術・武備会)／**甲野善紀**(武術研究会松聲館)／**世古典代**(寛水流空手二代目会長)／**井谷利之**(野太刀自顕流師範)／**櫻井文夫**(合気道S・A代表師範)

◎2大インタビュー
石井和義／ガッツ石松

◎山口昇と東京シュガーベイブ
ユセフ・トルコ／高田文夫インタビュー

第20号 プロレス的視点で格闘技を読む

特集『劇的格闘技』(ドラマチック)

格闘技のドラマ性に迫る4大インタビュー
角田信朗／真樹日佐夫／大槻ケンヂ／村松友視



◎日本プロレス界の3巨頭にスペシャルインタビュー
ユセフ・トルコ／上田馬之助／遠藤幸吉

◎2大インタビュー
松永光弘／神取忍

◎特別連載
「極道一代・山口昇物語」
黒田信一

◎W井上毒舌人生相談
フリーダムフォース
人生相談

第19号 廃刊の危機!?

特集『さようなら紙のプロレス』

紙のプロレスを偲ぶ2大企画
●**山口昇**20ページぶち抜き原稿「ぼくの思い出」



●4大インタビュー
ターザン山本／ユセフ・トルコ／上田馬之助／糸井重里
紙プロ追悼対談
◎**高野拳磁VSザ・グレート・サスケ**
◎K—1三兄弟+1
「負けず嫌い対談」
出席者　**石井和義、ターザン山本、平仲信明、谷川貞治**
●『紙プロ廃刊』記念親善スポーツ大会
ターザンが華麗に舞った!
「K—1バスケット」
◎巻末『紙プロインター特集』
山崎一夫　ミスター・ポーゴ
インタビュー
◎新連載「書評の星座」

バックナンバーの購入方法

＜購入方法＞

＊なお1号〜4号、6号7号は完売しました。

○定価は『紙のプロレス』第5号、8号、9号は700円、第10号から第22号までは780円となります。『大山倍達とは何か?』『極真とは何か?』は1530円、『猪木とは何か?』は1320円です(消費税5%込み)。
○『紙のプロレス』の送料は1冊=240円、2冊=310円、3〜5冊=380円、6冊以上=450円。
○『何か』シリーズの送料は1冊=310円、2冊=340円、3冊=450円。
○例えば『紙プロ』5号と10号を購入する場合 5号700円+10号780円+送料310円=1790円
『紙プロ』と『何か』シリーズを同時に購入する場合、送料は変わります。

＜申し込み方法＞

●現金書留　〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3—11—3—702
(株)ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで
●郵便振替　00130—3—769154　(株)ダブルクロス

第22号 最近の若者を嘆いてみた

特集『この人が喝っ!』

●太平洋戦争の撃墜王・**坂井三郎**(元特攻隊員)インタビュー
●元海女・**田仲のよ**インタビュー



◎巻頭インタビュー
「北の国から96・冬眠」
ジョージ高野

◎新春ウルトラ対談
(格闘術使いVS解剖学者)
前田日明VS養老孟司

◎プロレス雑誌を斬る!
プロレス風紀委員会結成
高阪剛／セッド・ジニアス／小佐野景浩(『週刊ゴング』編集長)／**熊久保英幸**(『ゴング格闘技』編集長)

バックナンバー常備の気骨のある店

——書店——

山形／八文字屋エビスヤ店　神保町／書泉ブックマート、書泉グランデ　秋葉原／書泉ブックタワー　池袋／リブロ池袋店、芳林堂書店池袋店　六本木／青山ブックセンター　大井町／博文堂大井町店　中野／タコシェ　吉祥寺／ブックスルーエ　町田／福家書店　浜松／イケヤ文楽㈱有楽店　名古屋／ヴィレッジ・バンガード、ヴィレッジ・バンガード2　豊田／ヴィレッジ・バンガード5　春日井／アイビー・ブックス　富山／精文館書店　大阪／駸々堂コミックランドアメリカ村　岡山／ブックマスターフィッツ

——プロレスショップほか——

水道橋／プロレス・マニア館、チャンピオン　新宿／アイドール　渋谷／レッスル渋谷店　池袋／レッスル池袋店　日本武道具　大山／大山アメリカン　東大和／オフィスTAKA　札幌／リングパレス　甲府／キャッチ　名古屋／アイドール　和歌山／ヘラクレス和歌山駅前店　大阪／アイドール、バディスラム、チャンピオン、金沢／プロレス屋

大好評『何か?』シリーズ



猪木とは何か?

2大緊急
ロングインタビュー
アントニオ猪木／村松友視
◎告発仕掛人・**仙波記者**に迫る!
◎**立川談志**メッセージ
◎**新間寿**記者会見誌上再現



大山倍達とは何か?

押して忍んで
11大インタビュー敢行
大山智弥子／大山茂／石井和義／前田日明他
◎お宝対談発掘
大山倍達VS力道山



極真とは何か?

極真魂溢れる
16大インタビュー
黒澤浩樹／フランシスコ・フィリョ／村上竜司／ウィリー・ウィリアムス／中村誠／大沢昇／磯部清次／松井章圭他

世界初のプロレス専門店
レッスル®
営業時間　月〜土 AM11:00〜PM7:00　日祝祭 AM10:00〜PM6:00
年中無休

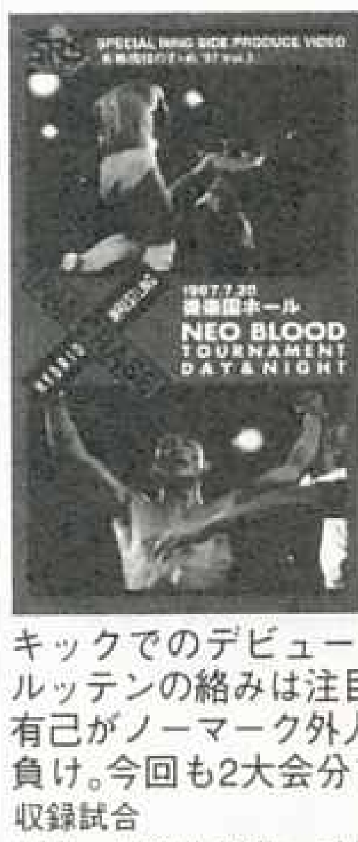
レッスルフェア列伝"夏の章"
開催期間 7/5(土)〜8/31(日)

恒例のレッスルフェアがスタート!! ★★★★★
人気のサイン会や素敵なプレゼントがいっぱいでお待ちしてマス!

新日本プロレス THE25 PART1 〜革命と抗争〜
100分¥10,200


今年で25周年になる新日本プロレスの革命と抗争の歴史を7つに分けて収録。様々な試合、レスラーが出てくる超御楽しみビデオ。まずは一部を紹介します。(PART2は「挑戦」です。)
「新日本プロレスの生い立ち」猪木vsゴッチ、猪木vs小林、猪木vs大木他
「長州力維新の時代」&「IWGP」革命反乱!長州、藤波に宣戦布告/長州、藤波からWWFインター王座奪取/猪木IWGP失神事件/第2回IWGP乱入暴動事件他
「UWFの遺伝子」藤原vsゴッチ/前田凱旋マッチ前田vsオーンドーフ/前田vsマシン/新日本vsUWFイリミネーションマッチ/前田、ニールセンとの格闘技戦に激勝/UWF代表者決定リーグ戦前田vs高田/前田&高田&藤原vs藤波&木村&星野/船木練習風景。船木vs安生。UWF練習風景。/UWF自主興行 前田vs高田/猪木vs藤原
「マシン軍団」S・マシン、猪木を相手にデビュー/マシン軍団4人に増殖/藤波「お前は平田だろう」発言/ジャイアントマシン登場!他
「海賊男の登場」猪木vsマサ斎藤に海賊男乱入/ビリー・ガスパーの名で本格参戦/他
「飛龍革命」MSGでWWWFJr王座奪取/藤波vs木村ワンマッチ興行/「無我」旗揚げ/他
「nWo」nWo日本初上陸/nWo蝶野、後楽園で初登場/全面対決!新日本&WCW連合軍vs nWo&狼軍団/大阪ドームにnWo総登場/他
[スペシャル映像特典]○新日名言集○造反名場面集○軍団抗争決着バトル集
(内容を変更する場合もあります。御了承下さい)

パンクラス ネオブラッドトーナメント DAY&NIGHT
¥6,930


'97年7/20後楽園ホール。今回はワンデイトーナメント。昨年の覇者近藤が一年もしないうちにキング オブ パンクラシストになったように今年の優勝者も期待大だ!注目はパンクラス初参戦の美濃輪育久&このトーナメントがデビュー戦となる窪田幸生。インディーファンなら、知っているがU系ファンには未知の選手。アンダーポジションからの攻撃は見物。窪田もデビューとは思えない落ち着きでTKO勝ち。優勝候補の山宮、長谷川とこの2人との絡みは見物。トーナメント以外にも船木を目標にする渋谷の念願の試合や柳澤とルッテンのキックでのエキシビションマッチ。全日本キックでのデビューを目前に控えた柳澤と有名キックボクサールッテンの絡みは注目!この大会の最も驚かされたのは現王者近藤有己がノーマーク外人ジェイソン・ゴドシーにまさかのギブアップ負け。今回も2大会分で見所たくさんです。
収録試合
山宮vs長谷川、近藤vsゴドシー、船木vs渋谷、山宮vs窪田、長谷川vs美濃輪、伊藤vsダイク、長谷川vsモア、美濃輪vsチン、窪田vs金、山宮vsジョンストン、エキシビジョン 柳澤vsルッテン

死闘!天龍vs後藤 最終決戦
120分¥9,870


'97年7/6両国国技館。天龍源一郎トリプル記念大会。メインはこの半年間、天龍を狙い続けていたターザン後藤と天龍との一騎討ち。天龍にとっては勿論、自身の記念試合でもあるがファンや武井社長までも手にかけた後藤への怒りの一戦。後藤にとってもインディーの夜明けを賭けた試合。両者負けられないこの一戦は今までにない展開へ!セミは北原組vs北尾組だが、北尾組には何とECWのトップ、トミー・ドリーマーが加わっている。ECWパフォーマンスに注目!他にも、ライガーを破ったインター王者安良岡vsアノ折原。両者の意地のぶつかりあいは赤丸!藤原vsブッチャーはお互いの持ち味出しまくり!他にも中野、ディートンなど個性派揃い!試合外でも、あのリングスの前田日明がお祝いに駆けつける等、話題満載!(勿論インタビューも有り)
収録カード
天龍vs後藤　北原&荒谷&ランスvs北尾&平井&ドリーマー　安良岡vs折原　藤原vsブッチャー　嵐&仲野vsディートン&中野　大刀光&菊地vs石川&川畑　バトレンジャーvs三宅　石井&一宮&奥村vs望月&岡村&多留

来襲!新日本最強軍団 大日本占拠!
¥9,870


'97年6/7横浜文体。大日本3周年記念大会。5大団体対抗戦が組まれた大日本史上最もビッグな大会。メインの中牧&山川vs後藤&Xのノーロープ有刺鉄線ガラス&画鋲トリプルヘルデスマッチは壮絶な中牧の流血の中の感動勝利!セミでは石川&健悟の石川一家&新日本の混成軍王者チームvs平成維新軍大将越中&影俊の大日本ヘビー級タッグ選手権。(大日本の選手権なのに大日本の選手が一人もでてません。)他にも、ライガー、サムライ、大谷、田尻のトップオブスーパーJr参加選手によるタッグ戦は田尻vsライガー、田尻vsサムライとおもしろい!大日本女子部創立記念試合は一生懸命立ち向かう小山にタマフカが大きな壁となる!大日本vs石川一家4対4首獲り合戦は藤田の頑張り、邪外のうまさと冬木金太郎にも注目!
収録試合　中牧&山川vs後藤&X、石川&木村vs越中&斎藤、田尻&大谷vsライガー&サムライ、ナガサキ&志賀vs邪道&外道、小山&椎名vs玉田&府川、岡野&谷口&小林&藤田vs川畑&松崎&奥村&高橋、ウォーリアーvsスンビート、本間vsエキスプレス

キングダムvsアルティメット全面戦争
¥9,870


'97年7/29.代々木第2体育館。旗揚げ第3戦となるこの大会、一番キングダムの激しさ、魅力が出た大会はない!メインは現キングダムのエース、安生洋二がアルティメット大会準優勝者203cmのポール・バレランス(6月にはパンクラスの柳澤と対戦)と激突!!関節の取り合い、パンチの応酬は見応え十分。特に、安生のキック攻撃は凄いゾ!他にも、WKA&ISKAの世界キック王者であり、日本では正道会館の金選手と名勝負を繰り広げているオーランド・ウィット、柔術のニコラス・スタークス、ビル・ロビンソン道場出身のブライアン・スミスなど強豪揃い。このキングダムvsアルティメットの試合はキングダムの方向性を示す闘いだ!要チェックなのが垣原vs山健。何と18秒で山健のKO勝ち。敗者の垣原は試合の記憶を無くしてしまった程の激しい試合。このビデオを見ずして、キングダムを語るなかれ!
収録試合
安生vsバレランス、金原vsスタークス、桜庭vsウィット、佐野vs高山、垣原vs山本、松井vsスミス

全女ベストコレクション −1997 4月→6月−
120分¥8,820


全日本女子プロレスの戦いをフラッシュバックでお届けする待望の第2弾。猛武闘賊の暴走、堀田の軍団結成を'97年4月から6月までのドキュメンタリーな動向をたっぷりと収録
収録試合
●97.3/25.京子地元凱旋・実家訪問、京子&渡辺&前川vsアジャ&吉田&伊藤●4/20.貴子vs伊藤、山田vs前川、吉田vsネフタリ●4/26.元川vs渡辺●5/4.G★TOPタッグトーナメント●5/6〜9.秩父合宿●5/22.玉田vs元川●5/24〜27.タマフカ・グアムツアー●5/26.渡辺&前川vs下田&三田●6/1.豊田&吉田&伊藤vs堀田&渡辺&前川、玉田&府川vs下田&三田、京子&タニー・マウスvs山田&中西、吉田&伊藤vs下田&三田、京子&山田&タニー・マウスvs堀田&渡辺&前川●6/12.前川vs元川●6/17.京子vs伊藤●6/18.渡辺&前川vs下田&三田、豊田&吉田vs堀田&伊藤●6/19.第3回GRAND NORTH6人タッグリーグ戦<出場チーム>豊田&貴子&田村、京子&山田&タニー・マウス、アジャ&玉田&府川、吉田&椎名&元気、下田&三田&サヤ・エンドー、堀田&渡辺&前川、伊藤&中西&高橋 <その他 貴重映像>6/25.小樽で鉄柱が折れるハプニング?アジャvs下田がノーロープのエニウエイマッチ!!

ALIVE TOUR 博多&後楽園大会
120分¥6,930


97年6/18後楽園&6/30博多。今回からパンクラスビデオがより早く発売!後楽園大会のメインは鈴木の東京復活試合、ジャグジット・シンを最短21秒でKO勝ちで完全復活。注目は、國奥vsデルーシア。博多大会の見所はこれまた、秒殺となった船木の復帰戦と、近藤が巨人シュルトを下した試合。両者共に試合後復活した鈴木に強烈なアピールを投げかけた。これからの展開に注目!

4団体対抗タッグ大戦争 &ファイヤーストーブデスマッチ
90分¥9,870


'97年6/3後楽園。メインはナガサキ&志賀、田尻&谷口、石川&健悟、中牧&岡野、邪道&外道の5チームが一斉に試合をする初代大日本認定タッグ王座争奪スクランブル・トーナメント。(おまけに冬木や荒井(小鹿社長も乱入)田尻vs邪外やナガサキvs健悟や田尻vs健悟等注目カード有り!もう一つのメイン、ファイヤーストーブマッチ松永vs山川もサーベルや殺人ガマも出て盛りだくさん

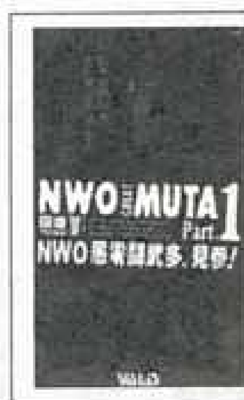
全女 動乱、悪夢の札幌!!
WWWA QUEENS ROAD 札幌 2DAYS　90分¥7,770


'97年6/17&18 札幌中島体育センター。"フリーダム・フォースの解散、猛武闘賊の大暴走プレーなど、見逃せないシーンが続出。"WWWA両タイトル戦、CMLL戦、オールパシフィック戦、タマフカ5番勝負等今回の収録されているカード全てに意味があります。
収録試合　97.6/18.渡辺&前川vs下田&三田、豊田&吉田vs堀田&伊藤、山田vs貴子、玉田&府川vsアジャ&京子、6/17.(ダイジェスト)京子vs伊藤、吉田vs玉田

LLPWライブバトル'97
平成GUREN隊、壊滅?　¥5,040


'97年5/14後楽園ホール。メインは今時最も危険な軍団平成猛GUREN隊イーグル&土屋&長嶋vs決起軍キャロル&二上&紅のLLPW認定6人タッグ選手権。この試合に負ければ軍団解散という屈辱的要求を飲み決死の挑戦を試みる決起軍。セミではカルトヒロイン元川がアノ神取忍とドリームタッグ?結成!対するは立野&和田部。他、沖野が風間に大善戦した試合も御薦め!

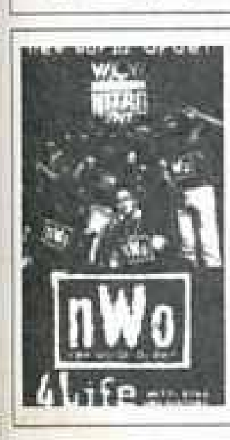
nWoグレートムタ ①②
各60分各¥3,880


パート1 '97年6/22ムタ&蝶野&スティングvs橋本&小島&中西、6/24ムタ&蝶野&天山vs藤波&佐々木&飯塚、6/25ムタ&蝶野&スティングvs橋本&健介&平田、他をノーカット収録。パート2 6/30ムタ&蝶野&天山vs橋本&健介&飯塚、7/1ムタ&スティング&ヒロvs橋本&健介&飯塚、7/5ムタ&蝶野&天山&ウォールストリートvs藤波&健介&平田&飯塚、他を収録。nWoムタを堪能してください!

女子プロレス・イメージビデオ Ore〜10代のアイドル戦士たち〜
9/10発売
60分¥3,800


ファン待望の女子プロレス・アイドル発掘ビデオの登場だ!注目の出演選手は、FMWの池田陽子、J'dの小杉夕子、SPWFの千春、JWPの本谷香名子、全女の脇沢美穂の5名。そして、進行役&ナレーションは工藤めぐみと豪華版!
『全出演選手共通内容』①自己紹介②Q&A③水着姿でのビデオ初公開!セクシー(?)イメージ映像④もちろんリング上でのファイトシーンも。
『個別オリジナル企画』☆池田陽子〜実家のお花屋さんのお手伝いに密着ドキュメント!☆小杉夕子〜初公開!小杉夕子のお宅を訪問!☆千春〜女子高校生レスラー、千春の通学風景!☆本谷香名子〜香名子の休日・浅草"花やしき遊園地"で遊ぶ!☆脇沢美穂〜脇沢美穂、ボディーボードに初挑戦!
『お約束ボーナス企画』
*全員パジャマで参加のマル秘パジャマトーク!*犠牲者は誰か?恒例?「寝起き」ビデオカメラ襲撃!(Oreとは、ダイヤモンドなどの原石。鉱石。の意味です。)

nWo 4Life
120分¥5,000


'96年7/7〜'97年6/16USA。今メッチャンコ流行してるnWoの本場の試合がビデオでまとめて見られます。ホーガン、アウトサイダーズと結束、衝撃のヒール転向!に始まり、ホーガンがホール、ナッシュとnWo設立から蝶野、ムタがnWo入りで初合体!蝶野&ムタvsスタイナーズ。そしてロッドマン乱入!まで入ってこの御値段!これを見れば現在までのnWoの活動が分かるのだ!初回特典として、「nWo」ロゴステッカーが付きます。

BIRTH STEP 2 キングダム旗揚げ第2戦
¥9,870


'97年6/20代々木第2体育館。メインは安生vs桜庭の現キングダム最強決定戦。桜庭の安生技術を封じるテクニック、グラウンド技術は必見!そして注目されたのは佐野vsマーク・ホールのアルティメット戦。果たして、アルティメットにキングダムは勝てるのか?またキングダムルールの中、ドンドン力をつけている山本の太々しさ、ゴリゴ松井の頑張りに注目!解説は、金原&高田という豪華ゲスト!

ミスター素人 社長・武井 vs 極悪レスラー 鬼神・後藤
¥9,870


'97年6/6後楽園。ついに、武井社長が試合に出場、天龍&荒谷&武井vsターザン後藤&三宅。レスラーでも格闘家でもない武井社長がリングに上がって果たして大丈夫なのか?何と天龍が武井社長にドロップキック。武井社長を試合に出させないように、天龍が孤軍奮闘。武井社長の張手攻撃や荒谷のムーンサルト3連発等、見所たくさん。他、アノ阿修羅原との龍原砲トークショーやインタージュニア戦安良岡vsライガーの激闘等いっぱい詰まった内容です。

K-1DREAM'97
9/3発売
120分¥10,500


'97年7/20名古屋ドーム。まさに夢のカード!昨年のK-1優勝者アンディー・フグvs極真重量級王者フランシスコ・フィリォ!実現不可能と思われた対戦がこんなに早く実現し、見事なKO決着で終わるとは!他にもアーツvsバンナ、グレコvsシカティック、スタンvsマーブ、セフォーvsクロード、これぞK-1という試合の連続です。秋のK-1GPの参考にどうぞ!(K-1ジャパンGP他の試合は後日発売予定)

ビデオ新作情報

9月3日	K-1 DREAM'S97	¥10,500
9月10日	女子プロレスラー美少女図鑑〜10代のアイドル戦士〜	¥3,800
9月26日	新日本プロレス THE25 PART.2 -挑戦-	90分¥10,200
9月26日	STORY OF THE F　STAGE 1996.4.21〜1997.7.31	(2本組)¥18,000
9月下旬	船木誠勝のハイブリット肉体改造法	¥3,990
10月8日	'97THE FOUR HEAVEN IN NAGOYA DOME ①②	¥10,200
10月22日	長州力　引退記念試合	¥10,200
10月29日	'97G1 CLIMAX 〜FIGHT AND GLORY〜①②	¥10,200

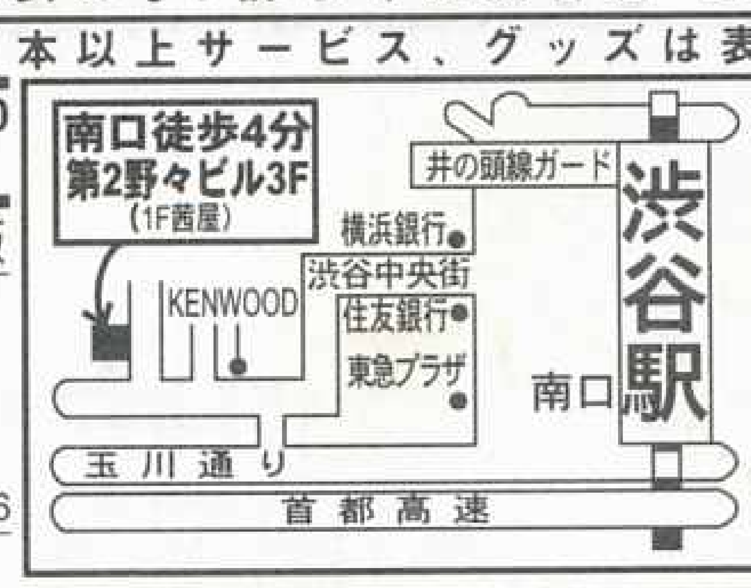
☆レッスルアルバイト募集中!!☆プロレス・格闘技が好きな、元気な女の子!詳しくは渋谷店・安原までご連絡を待ってます!

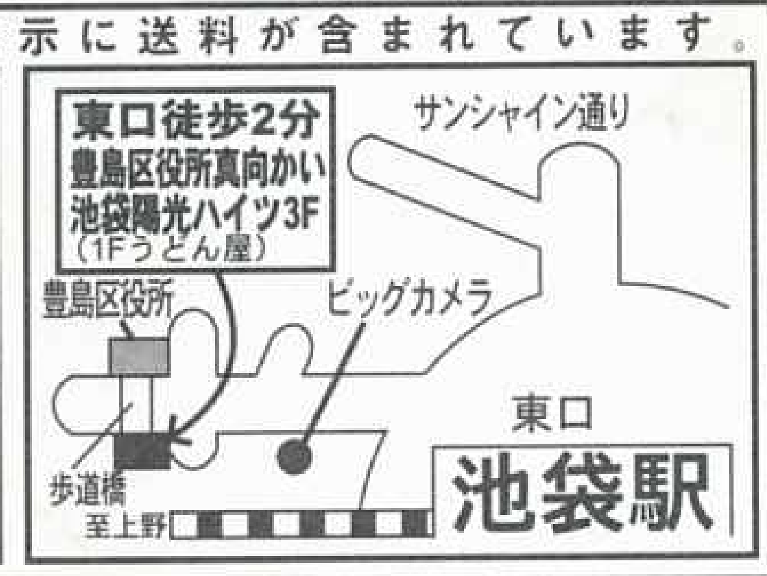
★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本につき¥500、2本以上サービス、グッズは表示に送料が含まれています。

1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる!(店頭・通販共)

【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。ビデオ送料は1タイトルにつき500円、2タイトル以上はサービスです。

●郵便振込口座番号　00180−8−65236　レッスル通販
通販部　TEL 03-3464-1780
レッスル渋谷店
〒150東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル　TEL 03-3464-0078
レッスル池袋店
〒170東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306　TEL 03-3989-0056





★最新グッズ情報満載レッスルレターをご希望の方は80円切手をお送りください。



GIRLS ARE GIRLS

ガールズはガールズ

NOMONOMO column ● NOMONOMO column ● NOMONOMO

LOVE LOVE Takada Nobu-nîsan

ぬぴょ〜ん、我らが高田延彦選手とヒクソンの世紀の決戦 at 東京ドーム、やっと正式決定しましたね〜ん。のものも的には、興味なさそうなこの1戦だけど、実はバリバリ興味あるんですぅ（語尾上げて）。なぜなら、高田選手ことノブ兄さんを（尊敬の念を込めて敢えてこう呼ばせて頂きます、押忍！）、のものもはめちゃんこ愛しているからです。と言ってもプロレスラーとしてではなく（のものもはノブ兄さんの試合は数えるほどしか見たことない）、だからと言っていち男性としてでもなく、この気持ちは愛なのか恋なのか、はたまた何であるか自分でもよくわからないんだけど、のものもはノブ兄さんにゾッコン・マイ・ラブなのです。

今回の『紙のプロレス　RADICAL』の撮影。のものも、ノブ兄さんと直接会うのは今回で2回目だったんだけど、前回はのものも、大・大緊張だったうえ、とてもじゃないけど近寄れない高貴な雰囲気をノブ兄さんが醸し出していたため、全く喋れず近寄れず。

そんなこんなで今回も、ヒクソン戦を前にしてピリピリしてるかと思いきや、予想に反して、とってもフランク＆おまけに格好もラフなノブ兄さんと対面できたのであります。プレゼント撮影の為、ファーファのぬいぐるみがそばにあったので、「高田さん、ファーファで〜す」と差し出したところ、いたく気に入った様子で、両手でぐしゃぐしゃ握りつぶし可愛がっておられました。そして「ああ、今日のノブ兄さんだったら、一緒に写真を撮ってもらえるんでは、（ニヤリ）」と思ったのものもは、あまりの興奮状態でつい「志野さん（キングダムの元ヤン広報）、一緒に写真撮ってもらっていいですか？」と口走ってしまったのです。それを聞いたノブ兄さんは「志野と写真撮りたいの？（ニヤリ）」と、ちょっぴり意地悪なことを言いつつも、のものもとの記念撮影に快く応じてくれたのでした。のものも、超感激♥


写真を撮るときに、さりげなく一言「前田さんとも撮ったんでしょ？（笑）」。ごめんなさ〜い、おっしゃる通りですぅ。

なんかすっかり自慢になっちゃって、読者様の方々は胸クソ悪いご気分だと思いますが、ズバリ言って自慢です。職権乱用ですよ、はいはい、ごめんね。

というわけで、ますますノブ兄さんフリークになってしまったのものもなだけに、10・11は死ぬ気でノブ兄さんを応援するぜ。だから、いくら眠くても今回ばっかりはすっぽかさないぜ、絶対！　だからお願い、ノブ兄さん、プロレスこそが最強！　というところを見せて下さい。宍倉次長の言葉を勝手に拝借させて頂きますが、ノブ兄さん、のものものことも「感動させてよ！」

LOVE LOVE Dream Factory

レッスル夢ファクトリー。この団体は、道場と事務所が一体化しているんですけど、なぜだかこちらが望む選手が電話に出ることが多いんでス。多いと言うより、いつもそうなんス。例えばもてぴょんに用事がある時はもてぴょんが出て、ツボさんに用事がある時はツボさんが、というように。あまりにグッドタイミングなんで、ある時「何で、そんなにタイミングよく出てくれるんスか？」と、ツボさんに尋ねてみたんスね。そしたら「何スか！　かかってくるとわかったからですよ！」と何だかよくわかりませんが非常に興奮しておったっス。こないだも、コラムの原稿を頂いたお礼のファックスを流したら、シャワー中だってのに電話するために飛び出して来て、「何スか！　シャワー浴びてて今、すっぽんぽんなんスよ、何スか！」と、会社中に響き渡るような大声で気が済むまで吠えまくり、ガチャンと切られちゃいましたっス。もう、何が何だかっス。

まぁ、ツボさんと言えば、数々の武勇伝（？）を流す、とんぱちレスラーなんですけど、最近ホットなツボ情報を聞いたので、それをこっそりお教えするっス。

"小坪選手、道場前に路駐してた車の上にウンコをする！"

どーですか!!

ん〜、でも非常に男らしいっス。そんな小坪さんを、のものもちょっとだけ、ホントにちょっ〜とだけ好きになりましたっス。でもこれは恋じゃないっス、念のため。


藤原組にいた頃のツボさん（当時・ツボ原人）。藤原組にいた頃から、彼の行動はかなり奇天烈だったようだ（やはり下ネタ中心）。ツボ（通称・下ネタキング）、おそるべし！

NOMONOMO column ● NOMONOMO column ● NOMONOMO

■お詫び■

『紙のプロレス　RADICAL・第4号』「魂打カルテット」記事内において、KKベストセラーズ発行のプロレス王国特別編集『新日本プロレスSUPER BOOK！6』11ページに掲載されている写真を、掲載の確認を怠り、無断で使用しましたことを、プロレス王国編集部、関係者並びにカメラマン野呂英成氏に深くお詫び申し上げます。

株式会社　ダブルクロス
代表取締役　山口 昇
担当編集者　野本 真貴子

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

ごく一部のラジオ番組や漫画家、お笑い芸人などの間で反響大爆発！
共感の声のついでに、数多くの誤解を生みまくりながらも懲りずに活字で愛と誠を追求する、非常にラブリィな戦う書評コーナー。

日佐夫クン人生劇場

書評の星座

PART2



プロレス読本FILES 2
（別冊宝島特別編集／宝島社）

アーリー『別冊宝島』支持者として近頃の一般向け路線にどうにも物足りないものを感じていたボクにしてみれば、定期刊行物としてシリーズ化するために大事なサムシングを失ったかのような本書は、どうにも非常に物足りなさすぎ。その理由は巻末に書かれたこの一文を紹介するだけで、誰にでも理解してもらえることだろう。

「今回、当編集部は、ある団体との関係を修復させていただいた。以前の別冊宝島プロレス&格闘技シリーズには、特定の団体・個人にとっては誹謗・中傷と受け取られて無理のない記事を掲載した号もあったことは否定できないと思う。しかし、今回のこのシリーズは、そうした後ろめたさを排除することを基本理念にスタートさせている。本誌はこれから『新本格派活字プロレス』というものを模索していくつもりでいる。その過程においては、他誌にない真実を追い求めて行きたいし、その姿勢は常にスキャンダラスでありたいとも思っている」

これはフルコン山田編集長（個人的には大好き）の「前田日明を全否定せよ！」や、流智美先生（これまた大好き）による一連のUインター暴露などの記事を自己批判した文章なのであろう。

スキャンダリズムを失った別宝だけでなく『プロレスファン』もそうなのだが、かつては業界外から毒素をバラ撒いていた雑誌がターザンの辞職以降すっかり転向して、いつの間にやら業界内に収まってしまった昨今（結局、本書でも面白いのは業界外のフリーライター・中田潤氏だったりする）。

それは別に知ったこっちゃないのだが、そのせいで『紙のプロレス』の毒素が目立つようになってしまったことが非常に問題なのである。

検証 新日本VS全日本・仁義なき抗争の25年史
（日本スポーツ出版社）



いまでも独り言で馬場を挑発し続ける猪木だが、そんな2人のとことんまで仁義皆無な抗争の歴史を辿った素晴らしすぎる資料がこれ。

昭和49年の時点で**「もはや対決を避けている時ではない！　ジャイアント馬場にあえて進言する……。今こそ猪木と戦って倒すべきである!!」**などと、なぜかあの『ゴング』が無理難題を押しつけて対戦を煽りまくるのも凄いが、その尻馬に乗って猪木もさらに吠えまくる。

「馬場さんがショーマン・スタイル？　冗談じゃないですよ……あれはショー以前のコミックです！」（昭和50年・猪木談）

そこまで言われたら馬場が対戦を受けるわけもなくなるのだが、昭和54年のオールスター戦でタッグを組んだ後、馬場はこう告白する。

「8・26で馬場――猪木戦をやったらと言われた時は、やれば喧嘩……つまりスポーツではなく殺し合いにさえなりかねない雰囲気があった」（昭和55年・馬場談）

なんとビックリ。フレッド・アトキンスにセメントを習い、地下秘密練習場で密かなるトレーニングに励んできた馬場が、下手すればキラー猪木と殺し合うところだったわけなのだ！

とまあ興味深い発言も多い貴重な一冊だが、個人的には猪木が**「前座試合もメインイベントも区別がなくなってしまったのは、いまのプロレス界の悲しい現実だ」**などと昭和48年の時点で言い出していたのも非常に衝撃的であった。



フィリオのすべて
（フランシスコ・A・フィリオ監修／アスペクト）

極真好きでブラジル人好きのボク的にはたまらなすぎる、褐色のマス大山ことフィリオ。これは彼の自伝、技術講座、練習法などを網羅した、良くも悪くも基本に忠実な一冊なのだが、我らが日明兄さんとの対談を収録したことで基本を完全に無視した素晴らしさが大爆発したのだ。

「フィリオを勇気づけようと思って」日本刀持参で登場し、刀にポンポンと粉をはたきつけつつ**「これは何をしているかわかる？　ここに刃紋があるでしょ。ここにうつりがあるでしょ。　ここに実戦の傷があるでしょ」**などと、ブラジル人相手であることも気にせず怒涛のように日本刀話をマイペースで語り続ける日明兄さん。

話はなぜかスケールアップして南北朝の乱や応仁の乱、そして神風特攻隊にまで及び、**「今日はこの刀にある気が伝わったと思うので、それを感じて頑張って」**と勝手なエールを送って対談を終わらせるのだから、さすがである。

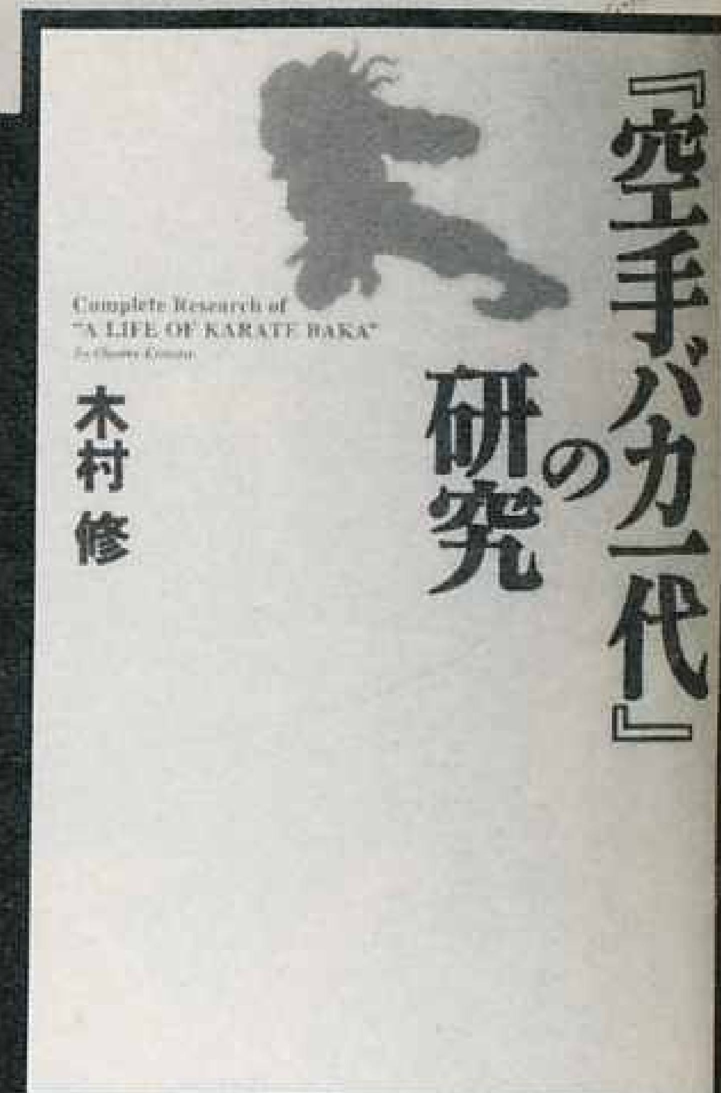
やはりフィリオがアンディを1RでKOしたのは運と実力だけでなく、我らが日明兄さんと日本刀のおかげでもあったのだろう、きっと。

これはいつかキッチリ言わなければいけないと思っていたのだが、実は『空手バカ一代』ってあんまり面白くない。

というか、梶原作品の中では明らかにレベルの低い宣伝的な作品であり、研究するほどのものではないと正直ボクは思う。

『カラテ地獄変』シリーズや『人間兇器』など

の「人間の性、悪なり」な暗黒空手漫画や、『ケンカの聖書』『花も嵐も』『虹を呼ぶ拳』『空手戦争』『英雄失格』などの傑作を見ても答えは明白なのだが、極真をモデルにしながらも名前を変えて登場させた作品の方が破壊力やファンタジーが増しまくるのも当然というもの。
マス大山の人間的な魅力や圧倒的な強さが伝わるのもまた『空バカ』ではなく、大東徹源や大元烈山が登場するそれらの作品の方なのだ。
そんな『空バカ』を『フルコン探偵団』所属の人物が研究してしまったため、いささかツッコミ不足というか、あらすじ紹介が中心になったりと実に『フルコン探偵団』らしい仕上がりなのだが、巻末に我らが真樹先生の特別寄稿を収録したという英断だけでボクは許す。文句なしだ。

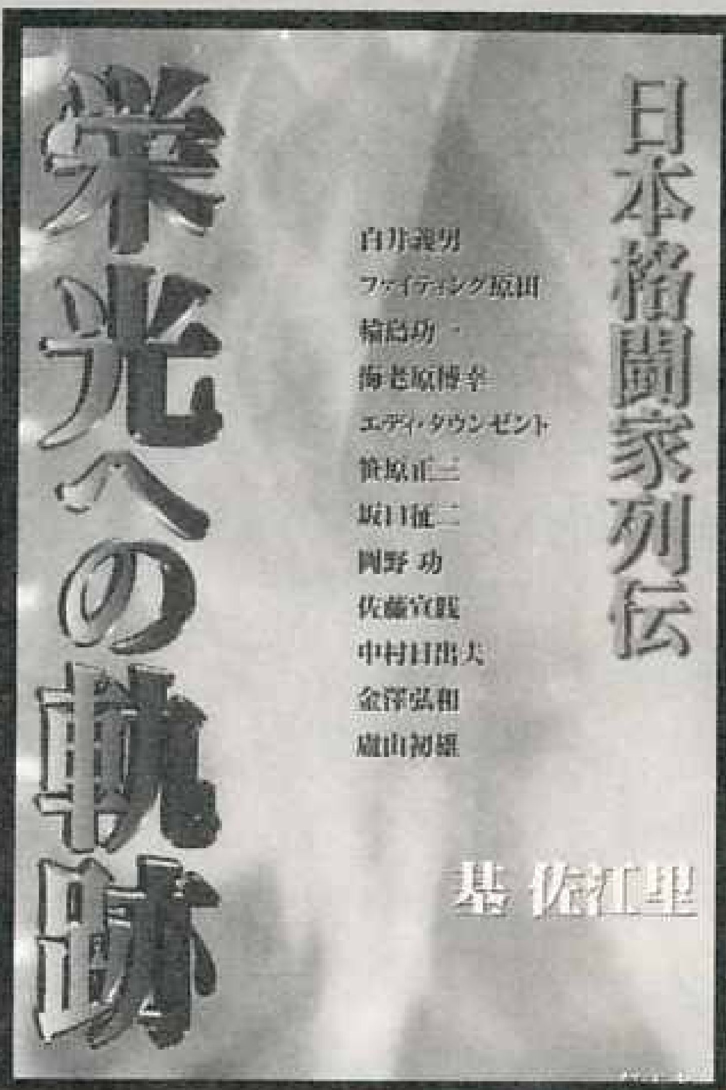


『空手バカ一代』の研究
（木村修／アスペクト）



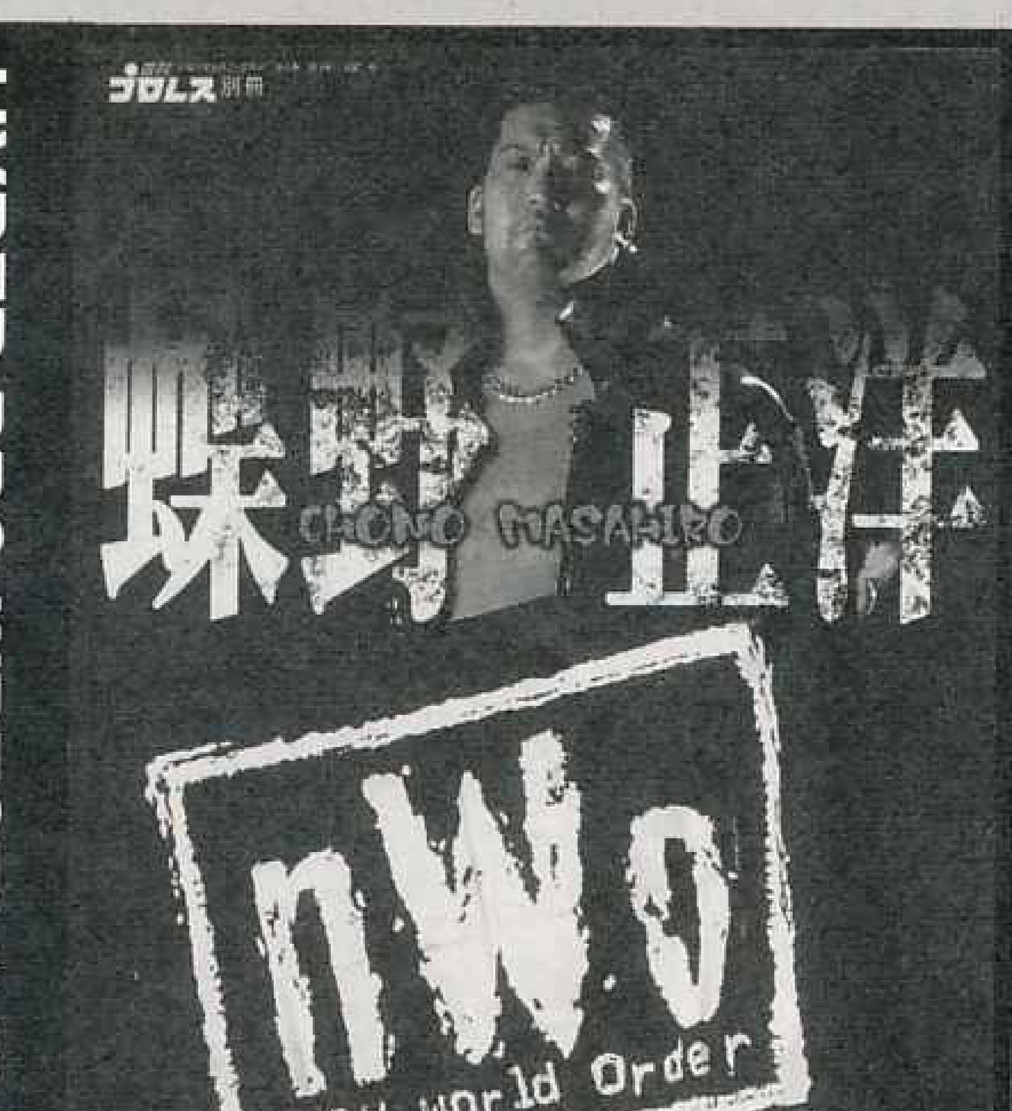
最強最後の大山倍達読本
（『ゴン格』特別編集／日刊スポーツ新聞社）

ズバリ言うと誰が見ても本誌別冊『大山倍達とは何か？』を模倣したとしか思いようがない、同じ版型&レイアウトで全く同じ形式（インタビュー集&過去の記事再録）な衝撃の一冊。
それなのに**「あるムックで、遠藤幸吉さんがこう答えていた」「その本は『空手バカ一代』ファンから夢を奪った」「その記事には多少の不信感があった」**などと名前も出してくれないどころか批判ばかりなのは不可解極まりないのだが、衝撃事実満載の内容は、さすが個人的に一番好きな格闘技雑誌『ゴン格』の特別編集。
「実は整備兵だった」「神国・日本は負けていないという敗戦反対運動で逮捕されていた」「失恋ばかりしていた」などの貴重な初期マス大山エピソードや、新間寿インタビュー、極真の空手着に身を包んだ猪木の写真など、内容的には文句なし。どこかの空バカ研究書のような空手ダンスチックなものよりもキッチリとフルコンタクトで研究されているわけなのである。



日本格闘家列伝・栄光への軌跡
（基佐江里／気天舎）

日明兄さんの師匠・田中正悟のまた師匠であるエディ・タウンゼントや、もう一人のゴッドハンド・中村日出夫らの格闘家と共に、我らがビッグ・サカこと世界の荒鷲・坂口征二社長が柔道王として紹介されている非常に画期的な本。
圧倒的なまでの強さが嫌になるほど伝わる柔道話だけでなく、赤字会社だった新日をここまで再建させた社長としての人間性も伝わってくる素晴らしき発言の数々も収録している。
「南極でプロレスやるとか言ってるウチの会長に比べると、自分の人生なんかもう平凡そのものです。山もなければ谷もないというね……」
「私は座右の銘としているものも何もないんですよ。思想もなければ、宗教もなければ、迷信も何も信じない。尊敬する人もいない」
座右の銘も思想も宗教も迷信も尊敬する人も全てを雑多に取り込んで、人生の山から谷までひたすらダイナミックに動き続ける猪木と、それに振り回されて困惑する周囲の人々……。
他人の迷惑も気にせず巨大な自我を好き勝手に振り回し続けるほど我の強い猪木の側にいすぎると、当然のごとく反面教師にして誰もが無我になってしまうものなのだろう。きっと。



HYPER PRO-WRESTLING ALBUM Vol.3 蝶野正洋
（『週刊プロレス』別冊／ベースボール・マガジン社）

平成のプロレスファンは大いに喜び、昭和のファンは大いに憤慨するnWoだが、ボク的には非常に満足できるナイスな集団である。
というかホーガンとかはどうでもいいので、あくまでも蝶野&武藤率いるnWoジャパン勢に限定した話なのだが、中途半端なプロレスなんかよりも、むしろ蝶野が昔から大好きだと公言してきたフレアーイズムが面白いに決まってる。
さらに「ウチのジジイ共は何もわかっちゃいねえ！」だのと本音混じりの会社批判を繰り返し、ファンの誰もが不快に感じていると思われる辻アナには暴行まで振るいながらも、表面的なカッコ良さとプロレス技術の巧さによるファンの絶大な支持によってそれらをキャラクターとして無理矢理認知させてしまうやり口は、画期的にも程があるというものなのだ。
そもそも**「長州から新日本の舵取りを奪う！」「ウチの会社、腐ってるよ！」「『週プロ』がやってるのは試合レポートじゃねえよ！ 作文じゃねえか、オラ！」**などと本音を押し通すことなんて、明らかに蝶野だけの特権のはず。
佐藤忠志（ホリプロ所属の金ピカ先生）チックなコーディネートが横行するプロレス界にあって、シルバー&黒にゴルチェを合わせた特異なセンス（本書でもその衣装でポリスやブライアン・フェリーのアルバムをバックにポーズを決めていたりする）は免罪符に値するわけなのだ。
ラーメンマンと呼ばれていた頃の、ナマズ髭で七・三分けな蝶野には絶対に許されなかったようなことでも、この衣装なら許される、と。
結局、面白くてカッコ良くてファンに支持される人物であれば、猪木に限らず何を言っても許される存在になれるわけなのだろう、きっと。
となれば、活字プロレスが衰退しきったいまこそ、表面上はキャラクターに見せかけて「オラ〜、エ〜ッ！」と新日のジジイ共（あくまでも蝶野調）や辻アナに対してクールかつスタイリッシュにカッコ良く噛みつきまくる『活字nWo』は成立できないものなのだろうか？
……と名案を思いついたのはいいんだが、ウチはどうにもカッコ悪いし、ファンにも支持なんかされちゃあいないから、まず無理な話であろう。ましてや、ターザンなんてとんでもない。あれはもはや活字ローラン・ボックだし。
そういう意味でもnWoジャパンや蝶野は男子一生の憧れというわけなのである。

検証'97

巨人伝説の幕開け　G馬場のあの……

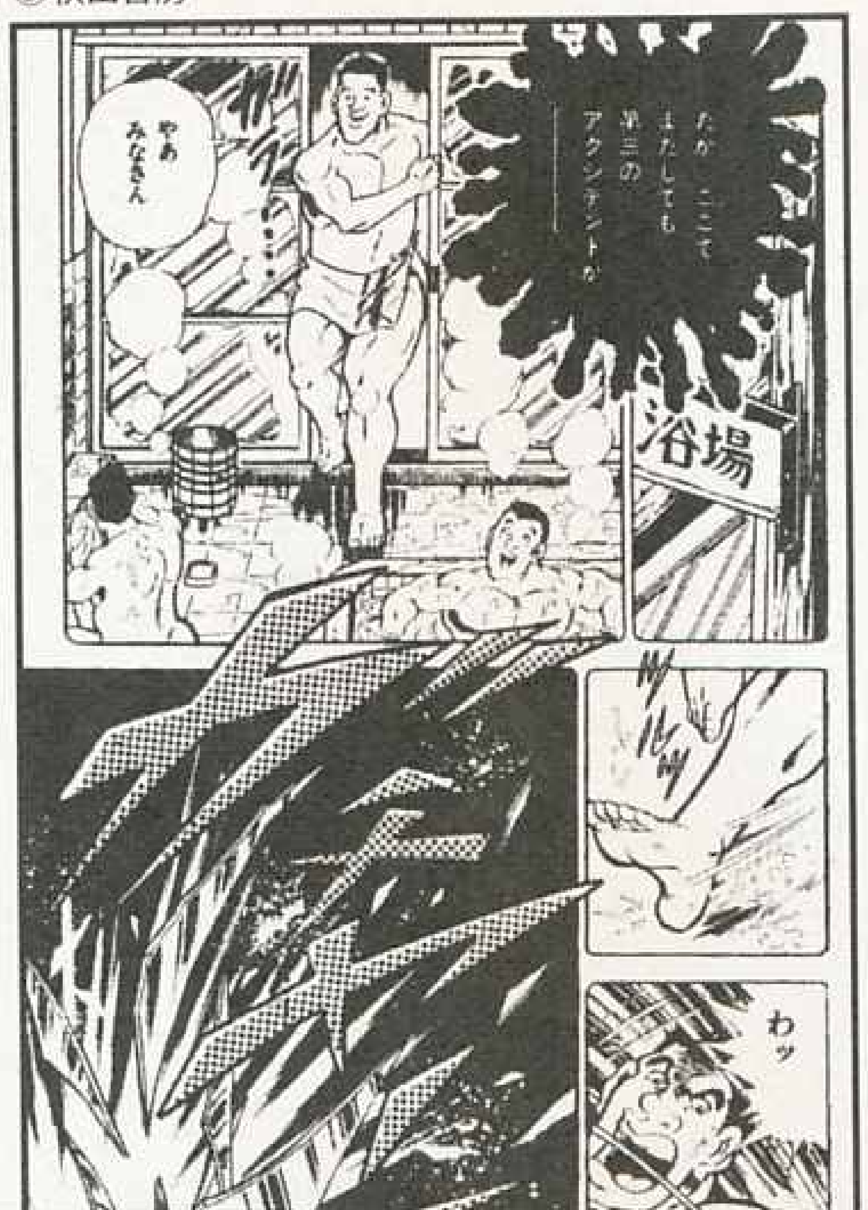
構成／椎名基樹

ザ・検証'97。プロレスには多くの謎と伝説がある。その謎と伝説に、鋭いメスを入れ、深く探ってみようってのが、このページの趣旨である。

今回、検証を試みたのは、プロレス界最大の伝説ともいえる『あの事件』だ。プロレスファンにとって『あの事件』とはなんであろうか？　シンの猪木夫妻新宿襲撃事件か？　前田、長州顔面蹴撃事件？　藤波の雪の札幌「こんな会社やめてやる」事件か？　それとも、小林邦昭の東京→大阪間新幹線のメニューたいらげ事件？　はたまた橋本の「時は来た～！」絶叫事件だろうか？　確かにどの事件も、プロレスファンの心に生き続け、たまに「あれは一体なんだったのだろう……」という思い出し笑いとなって表れる。

しかし、プロレスファンにとって『あの事件』といえば、ただ一つしかない。それはもちろん『G・馬場、風呂場で転び、プロ野球を断念事件』だ。この事件をプロレス界、最大の事件であり伝説であることに、異議がある者はいまい。なぜなら、日本プロレス界において、最大といえばやはりG・馬場しかいないからである。そして、次の理由として、この事件ほど、世に知れ渡った伝説はないという点だ。プロレスファンはもちろん、ガキ以上の年齢の人なら、かなり多くの人がこの事件を耳にしたことが、あるのではないだろうか。しかし、よく考えてみれば、風呂場で転んでケガをしただけという、何でもないといえば何でもない事件が、どうしてこうも多くの人にインパクトを残したのだろう。このインパクトを物語るように、この事件はすでに4本の漫画に再現されている。これらを見比べて、なぜこの事件がこれほどまでに、人々の想像力をかきたてるのか。さらに、馬場は本当に風呂場で転んだのか。だとしたらどうして。プロレス界最大の事件を考えてみることにしよう。

漫画は読者に見比べていただくとして、当の馬場がこの事件に対して、どういうコメントをしているのだろう。馬場の自伝『16文の熱闘人生』から引用してみよう。「宿舎の旅館で、練習（野球の）が休みなので、食事をしないまま朝風呂に入っていたんですね。出ようとしたところめまいがして倒れて



『風雲プロレス30年史』原作／真樹日佐夫　漫画／森村たつお　この漫画では2ページにわたって、問題のシーンが再現されている。ここで一番気になるのは、馬場の風呂場にやってきたセリフ「やあ、みなさん」だ。にこやかに馬場がこのセリフを言うと、湯船に浸かっていた同僚が、嬉しそうに反応している。唯一、現場に他人を描き、目撃者有り説を唱えている作品。

『プロレススーパースター列伝』原作／梶原一騎　作画／原田久仁信
ご存じ、当時の子供達をプロレス・トワイライトゾーンに引きずり込んだ、この作品では石鹸滑り説を提唱。見所はなんといっても、事故直後に馬場が言うセリフ「もう、プロ野球は断念するしかない……」。このあまりに素っ頓狂なセリフは、当時、中学生の僕たちの間で大流行。何かにつけて「○○は断念するしかない……」と呻いていました。

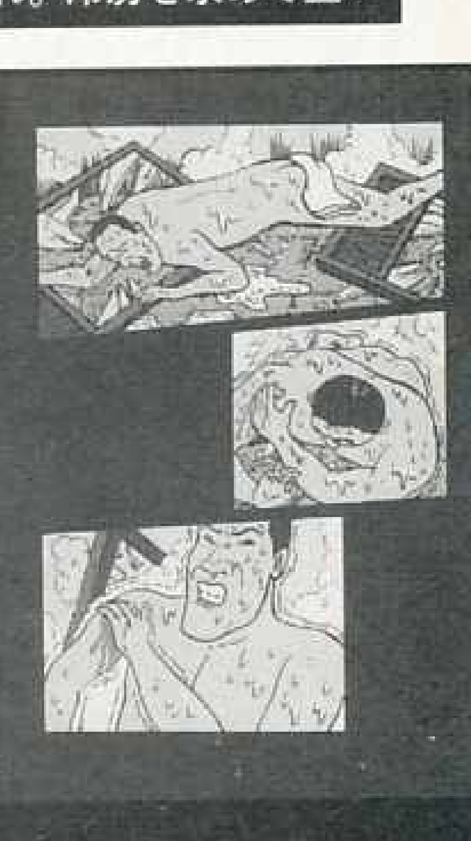




『ぼろぼろのダチョウ』作／椎名基樹　画／藤本康生　恥ずかしながら、自分の本です。これは、前書き漫画としてこのシーンだけ描いて本書に収められた、全ての物語は、ここから始まったといっても嘘でもないし、本当でもないとか訳のわからない事を書いたんです。本の冒頭にインパクトがあるといいなぁと思って。このアイディアを思いついたのが、アニメ『アポアポワールド』を劇場で見た後。アニメの内容は馬場が住む街の人々は、み↘



↘んな全日本プロレスの大ファン、その街の人々に悪役レスラーが馬場挑発のため、手を出し、我慢してきた馬場もついに立ち上がるというシュールリアリズム。それがファミリータッチのアニメで描かれている。観客は僕と友達。そして全日ファンと思われる女の子一人。アニメオタク男3人連れ。冷房を求めて空↙





↘いた映画館にやってきた、貧乏中年カップルの計8人。そのメンバーでポイントがずれた苦笑を漏らしながら鑑賞。そのディープな雰囲気を吹き飛ばしてくれたのが、この馬場転倒シーン。全員揃った大爆笑で、初めて劇場に一体感が生まれた。ちなみに、僕の友人は、映画を見た後、気持ち悪くなり吐きました。

ファンの間に根強く残る

越中詩郎最強論に迫る！

構成／せきしろ

イラスト／天久聖一



越中のことを語るうえで避けては通れない人物がいる。ワンナイト・タッグトーナメントでタッグを組む人がいなくて、無理矢理昔の部下である越中を呼びつけた、そう“中学生なのに仲間がいないから近所の小学生と遊ぶ男”ドラゴン藤波である。思えばあの時から平成維新軍がおかしくなった。

越中にとって藤波は“扱いに困る”上級生なのである。確かに小学生の頃は家も近所だったからよく遊んだ。しかし中学生になった越中は不良に憧れだした。一方、一足先に中学生になった藤波は不良グループとは縁遠い人（「歴史研究会」などの文化系クラブ所属）になっていた。ベクトルが180度違う二人。越中にしてみると、もう一緒には遊びたくない。それなのに廊下ですれ違うたびに藤波が話しかけてくる。「おいおい、そんな変形学生服着てたら先輩に目つけられるぞ！」などと底の浅いツッパリ知識を交えて、一応先輩なので軽い会釈はするが、カッコ悪いったらありゃしない。友達にも「あんな奴と知り合いなの？」とか言われる。まるっきり無視してしまえばいいのだが、なまじっかイイ人なのでそうもいかない……。

二人の関係はそんなところではないだろうか。とにかく藤波との出会いは越中にとって不運そのものである。藤波、引退しろ！

さて本題である『越中最強論』に移ろう。一般に最強と呼ばれる人には仰々しい「戦歴」（○戦無敗だとか、猛獣に勝ったなど）があったりするものだが、越中にはそれがない。また、その真偽ははっきりしない「噂」（＝「伝説」。ケンカ○段など）に包まれているものだが、そういったものも皆無。なのになぜ『越中最強論』が存在するのか？　それは彼のファイトスタイルにある。相手の技を受けて、受けて（たぶんニコ・ゴルドーの“ＯＬがデスクで足を組み替えるような”蹴りまで受ける）、必要以上に受けて、しかも耐える。観客はそこに無抵抗主義でお馴染みのガンジーを見るのではないだろうか。「ガンジーは最強じゃない」なんてことを誰が言えよう。そんな事言ったら何だかバチがあたるような気がするし、そう言うためにはすごく勉強しなければいけないような気がするはずだ。プロレスファン全員学者にならない限り『ガンジー（＝越中）最強論』は否定される事無く、根強く残っていくのである。

越中、早くケガを治して本隊をブッ潰してくれ！

ザ・コブラ



ザ・コブラさん



『ジャイアント台風』原作／高森朝雄　漫画／辻なおき　昭和44年発売という古い漫画。おそらく馬場の転倒シーンを描いた、初めての漫画ではないだろうか？　『列伝』と原作者が同じだけあって、ここでも石鹸滑り説を採用。このシーンでは、馬場の愚痴ともとれる独り言が細かく描かれている。石鹸滑りの前に、馬場が思い詰めた状態だったと推測している。この転倒シーンが、もっともドジである。

しまったんです。その時に、左ひじが切れました」

なんといきなり、朝風呂であったことが判明！さらに、石鹸で転んだのではなく、腹が減っての立ちくらみであることも判明！　どの漫画も、足元が滑る様子をアップで描いており、それがこのシーン最大の見せ場であったのにかかわらず、それが根底から否定されてしまった。

しかし、風呂場で転んだことが、野球をあきらめてプロレス入りするキッカケになったことは、本当だったようだ。伝説は生きていた。そして、その伝説はまだ現役で戦い続けている。素晴らしきかな、Ｇ・馬場。これからは風呂の前にはメシを食え！



花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL

コブラ

今月の汁

回復させてよ!!



この雑誌でなにを書こうが、「カタブツランド」の面白さには負けてしまいます。それでも、なにか書かねばならぬがんばりまっす。

と言っても別になんも書く事ないんだすよね、今のプロレスには。今、なにがあるっていうんですか？ なんもないでしょ。あるのは猪木・佐山・小川のトリオと、藤田だけでしょ。それだけですよ。でも逆に考えれば、彼らがいなかったらゾッとしますよね。あの3人面白トリオと、本当の実力ではすでにトップを感じさせるし、おそらくトップなんだろう藤田がいなかった、今の新日で何を見ろっていうんですか？ 辻アナ感覚で、ヒューヒューヒャッホーしながら楽しめっていうんですか？ そんな事できねーよ！ クソったれ！ エー！ オラオラー!!

ハッいかん、すでに新日してしまってる……失礼しました。

それにしても、本当は自分より強い藤田を後輩にもつ先輩の人達ってやりづらそうですよね。実力者の浅草キッドを後輩にもつたけし軍団の一部の人達もそんな感じなんでしょうか。

新日がだめなら、じゃ全日はどうか。こないだある有名格闘家が、久しぶりにたまたま全日をテレビで見た時の感想が「なにあれ、面白いね」。その面白かった理由が「ドリフみたい！」です。ダメだ、こりゃ。ズバリだ。

たしかに、全日の試合は凄い事してますけど、なんか違うような気がします。前によくターザンが「両者リングアウトやってた頃のダメな全日」と言ってましたが（今は逆の事言ってる）、あの頃の全日のがサイコーですよ。「明るく・楽しく・激しいプロレス」と言うけど、"明るく"なんて言われたら、なんか違うわ、引いちゃうよ。ついでに言うと、FMWの"胸いっぱいのプロレス"も最悪である。男のプロレスラーに"胸いっぱいの"なんて言われても困るよ。みんなは困



ングたち

プロレスのツボ 全国版

小坪弘良（レッスル夢ファクトリー）

読者の皆様、いかがお過ごしだろうか。デスマッチの無い新しいインディーの波を巻き起こそうと最近、柄にもなく真面目に働いている小坪弘良です。

突然だが、俺のアルバムにはプロレスファンだった頃に、新日本時代の藤原さんと撮ってもらった写真が大事に保管されている。それを見るたび人間の因果って奴は不思議なもんだなァと思う。特にこの業界の住人になってからは、それを痛感させられることが多い。夢ファクトリー代表・高田龍氏とは5、6年前に、プロレスとは全く関係の無い会社で一緒に働いていたし、そうそう、こないだ昔の新日本のテレビ中継をビデオで見ていたら、画面に向かってピースサインを出しているパンチパーマでチョビヒゲの最前列の客を見つけて道場中が大爆笑。「あれ、茂木さんだァ」。当の本人も「本当だ、俺だァ」なんて言ってテレ笑い。あの時代には、この柄の悪い客が10何年の時を経て、新日本のリングでタイトルマッチをやるようになるなんて、本人を含め誰一人として想像もしなかったはずだ。

かくいう俺にも熱烈プロレスファンだった時代があったわけで、福岡にプロレス興行が来ると聞きゃあ必ず馳参じて、友人と大騒ぎ。しかも、なぜか「大売り出し」ののぼりを持ってきては振り回すといった、今考えるとかなり迷惑な客であった。まぁ、それでも当時はプロレス黄金期のお祭り騒ぎの時代。そんな馬鹿げたガキも笑って許してもらえる大らかなムードもあった。そんなことを繰り返していたプロレス少年時代、ある会場でいつものようにのぼりを振り振り、熱狂的な声援を送っていたある日のことだった。俺は相棒と一緒に手分けして会場を盛り上げていた。しばらくすると、会場の反対側にいるはずの相棒が顔を抑えながら俺の所にやってくるではないか。

「どうしたと？」

「いやあ、何かわけわからんけど、どっかの兄ちゃんに殴られたっちゃん」



「なんや、どこのどいつや、そげんことするとは」

喧嘩っぱやい九州男児の血が騒いだが、なかなかその男を見つけることはできなかった。俺達が悪ノリしていたのは認めるが、いきなり殴るとはヒドイ奴だ。ちなみにその相棒は今、裏ビデオの卸業をやっていて、俺も何度かお世話になったことを付け加えておく。

その後、俺は高校を卒業して上京。自衛隊やスポーツインストラクター、

声なき声



西野健一（MANZAI—C）

芸人が「プロレス好きっス」などと言うとベタな感じがして嫌なんですけれども、私も『マシン眼』から『I・Y語録』までチェックしている、プロレス村の住人です。最近、嬉しい事に、ダジャレを考え『甲・乙・丙』などと浮かれ気分でロックンロールなチンカス芸人の私も、リングスの髙阪選手や成瀬選手とウーロン茶を酌み交わしたり（一緒に飲みに行っても、私、酒ダメなんで）、リングサイドのチケットを、一緒に見に行く弟の分まで買えるくらいの身分になりました。これを私は『ボキャブラバブル』と呼んでます。

前から思ってた事なんですが、リングサイドで見ると特に感じることがあります。それは「カメラマンが邪魔だっちゅーの♥」。まぁ、怒りをパイレーツ風に誤魔化してみましたが、本当、何も見えない事が多々あります。場外での攻防などは周りをカメラマンが囲んでしまい、そのカメラマンが散ると、1人のレスラーが横たわっているという具合です。まぁ、何をやっていたのかはだいたい想像がつくんですが、それにしても……。ひどい時は、リング上の展開すら見えなくなる事もあります。雑誌などでしか、東京近郊のビッグマッチを見れない人がいるのも分かりますが、金を払った客が集中して見れないというのは、どう考えても納得できません。以前、新日が『週プロ』を取材拒否した時、二階席後方から望遠カメラで撮った写真を見ましたがあれで充分だと思いました。「長州よ、全部の雑誌を取材拒否してくれ！」と、フジテレビの『どうーなってるの!?』にFAXを送りました（本当の様なウソの話）。みなさんはどう思っているのでしょうか？「カメラマンどけ！」などと言う声をたまに聞きますが、もっともっと言ってもらえないでしょうか？なぜなら、僕は言えないから。声をからして叫んでみませんか、あの頃の様に——。そう、ドリフのコントを見ながら絶叫していた「しむらぁーー、うしろぉーーー！」の感覚で。でも「カメラァーー、どけぇーー」何て言っても無駄なのかなぁ。だって志村もなかなか気が付いてくんなかったもんなぁ。

——などということを考えながら、全日の武道館をリングサイドで見ていて、振り返るとそこには、馬場の試合をニコニコしながら見ている志村けんさんがいました。

「あっ、志村が後ろ——」。

MANZAI-C■西野健一（左・著者）&森光司（右）で送る、実力派漫才コンビ（コントもできるよ！）。最近生意気にも事務所を設立。お仕事の依頼よろしくね！
連絡先／フリー・TEL03-5771-5281

ってないの？ えっ、「困ってない」。す、すいません。

パンクラスのマイクとかも、こっぱずかしい（特に鈴木みのる）。そうですよね、みなさん？ えっ、「しびれる！」!? す、すいませんです。

U系はどうか。キングダムの暴走特急・鈴木健氏の、その暴走のホコ先が格闘技へ向かうと腹が立ってしょーがないが、そのホコ先がプロレスなら面白いからいいです。だから、最近リングスへちょっと向けたそのホコ先は、変えずにそのまま暴走しつっ込んでほしい。リングスとぐちゃぐちゃの抗争をしてほしいであります。

しかしそれは、前田VS高田戦なんかではない。そんなの本当に面白いですか、みなさん？ 違うでしょう？ ぜひやるべきなのは、やってほしいのは、前田VS安生戦である。いろんな事を、ハッキリさせてほしいもんであります。

ここ数年、私の中のプロレスファン度は、しぼみにしぼみまくってますが、『週刊テレビプロレス・テイキングバンプ』の〝ポーゴ特集〟の時は、100%回復しました。あれは、あの年のすべてのテレビ番組の中でナンバー1の作品であった。なんとかノンフィクション大賞とかにノミネートされてもいいと思います。

最近では『トンパチ』ですかね。あの本を読むと、私の中のプロレスファン度がビンビン回復してきます。

でも、いずれも試合じゃない。試合で、プロレスファン度が回復する日は、果たしてくるのでしょーか？

花くまゆうさく■北区系漫画家。最新刊に『人間リミットボタン』『生きま～す』。前回告知した個展はギャラリーが潰れた（笑）ため中止！ でも、10月に渋谷アートワッズでやるのでよろぴく♥

ふぞろいの

運送業等、何年かの社会人生活を送ったあとに悲願であったプロレスラーになるべくW★INGの門を叩いてデビュー。藤原組で再デビューを果たしてからは、つぼ原人として業界に旋風？を巻き起こした。それから俺は修行のためアメリカへ渡り、フロリダのマレンコ道場に入門した。皆、そこでは温かく迎えてくれて友人もできたが、その中には同じ日本人レスラー林田伸一（読者の皆様はご存じかな？ 現・九州求道軍所属）がいた。林田は俺が聞いてもそりゃねえだろうっていうぐらいのヒドイ九州なまりで、その雰囲気が外人にも伝わったらしく、通称ジャック（田舎者の意）と呼ばれていた。ジャックと俺はいつも一緒に行動していた。トレーニングや食事等を共にしながらジャックは、プロレスに対する熱い思いをいろいろと語ってくれた。フロリダのビーチ、俺達は並んで日光浴をしていた。

「小坪君、俺さぁ、すんげぇプロレス好きったいねぇ」

「うん、うん」

「そいでからくさ、プロレスをば馬鹿にする奴な、も絶対許せんったいねぇ」

「うん、うん、そらそおやろ」

「そいでからくさ、昔、プロレス会場で大売り出しの旗ば振りよる奴がおったけん、ブン殴ったったいねぇ」

「お前かぁぁぁぁぁぁぁぁっ！！！！！！！！ そりゃあ俺の相棒じゃあ」

「でぇええ!? ほんなこつねぇ」

人間の因果の不思議なお話、小坪弘良でした。

小坪弘良■W★ING、藤原組を経て、現在はフリーで夢ファクを主戦場としている。アソコにテーピングをしてコンビニに行く、ウンコを流さないなどなど（誌面には出せない話が盛り沢山、悪行数知れず……。

ヒューヒューヒャッホーし

われても困るよ。みんなは困

ロレス興行が来ると聞きゃあ必ず馳参

自衛隊やスポーツインストラクター、

紙のプロレス RADICAL VIDEO

幻のみちプロ&バトラーツ合同興行 or 伝説のターザン山本追悼興行

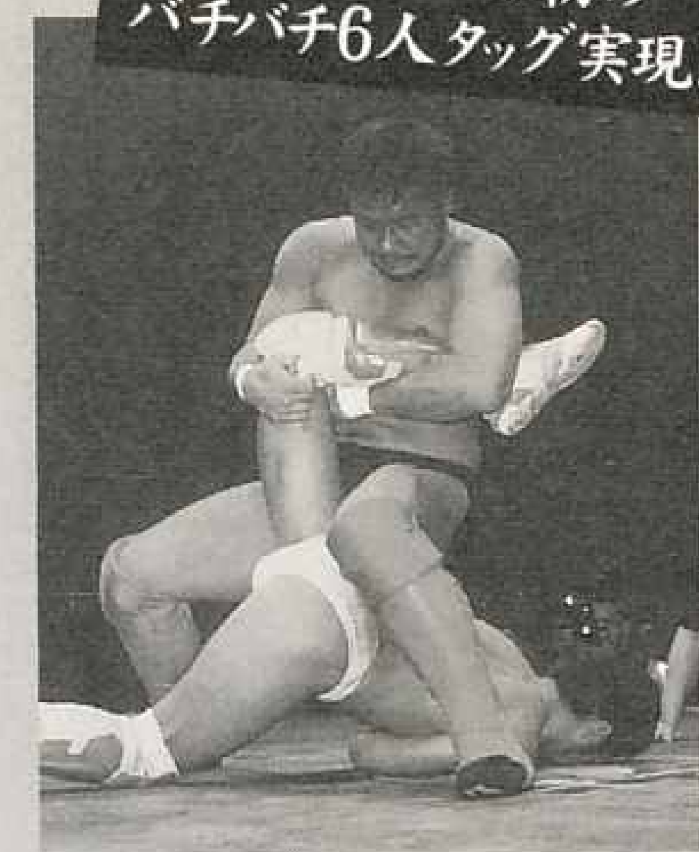
闘いのドンキホーテ!!

すべての道がローマに通ずるなら、ドンキホーテよ、でたらめにゆけ!!




仰天の社長タッグ、遂に実現!
謎の刺客・山賊男の正体は!?

驚愕! バトラーツ初のバチバチ6人タッグ実現!!





人生、KAWASAKI初巡礼!

"戦闘用"佐山タイガー出陣!!




戦火拡大!
みちプロ正規軍VS海援隊DX!!



ターザン山本、発狂!

これは96年の裏・日本プロレス史だ!!



**あれは夢か幻か!?
たった700人しか
目撃できなかった、
業界騒然の
96・12・26を
完全再現!!**

企画・発売/株式会社ダブルクロス　販売/クエスト

¥6600(税抜)
●全国書店、レコード店、ビデオショップ、プロレスショップ等で絶賛発売中!!
●みちのくプロレス&バトラーツ会場でも仰天の発売中!!
VHS/SPA-4802
90min/NTSC/COLOR/MONO/Hi-Fi

生か死か! 聖か邪か!

永久保存版の収録内容!!
【96・12・26　クラブチッタ川崎】

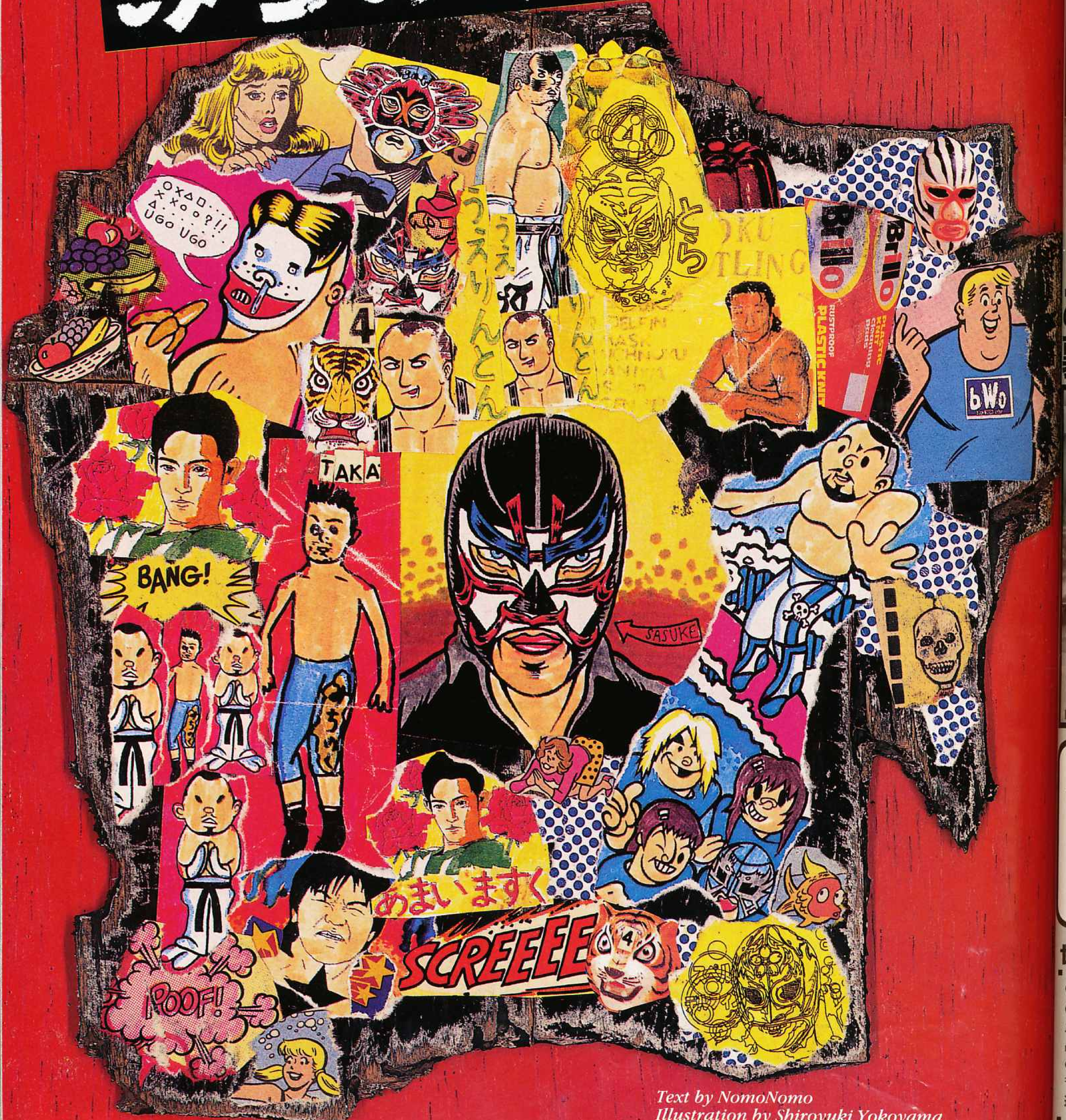
★ザ・グレート・サスケ&石川雄規vs山賊男ガリバーX&山賊男ガリバーXX
★池田大輔&アレクサンダー大塚&米山サトシvs臼田勝美&小野武志&田中稔
★初代タイガーマスクvs獅龍
★グラン浜田&スペル・デルフィン&薬師寺正人vsディック東郷&MEN'Sテイオー&TAKAみちのく
★新崎人生vs愚乱・浪花
★その他、未公開のターザン密葬と発狂の場面、各選手からのターザンへの「弔辞」、翌日Uインター解散を控えたゴールデン・カップス突如来襲の様子なども収録

世界の平和のために、特別通販も行うんです!

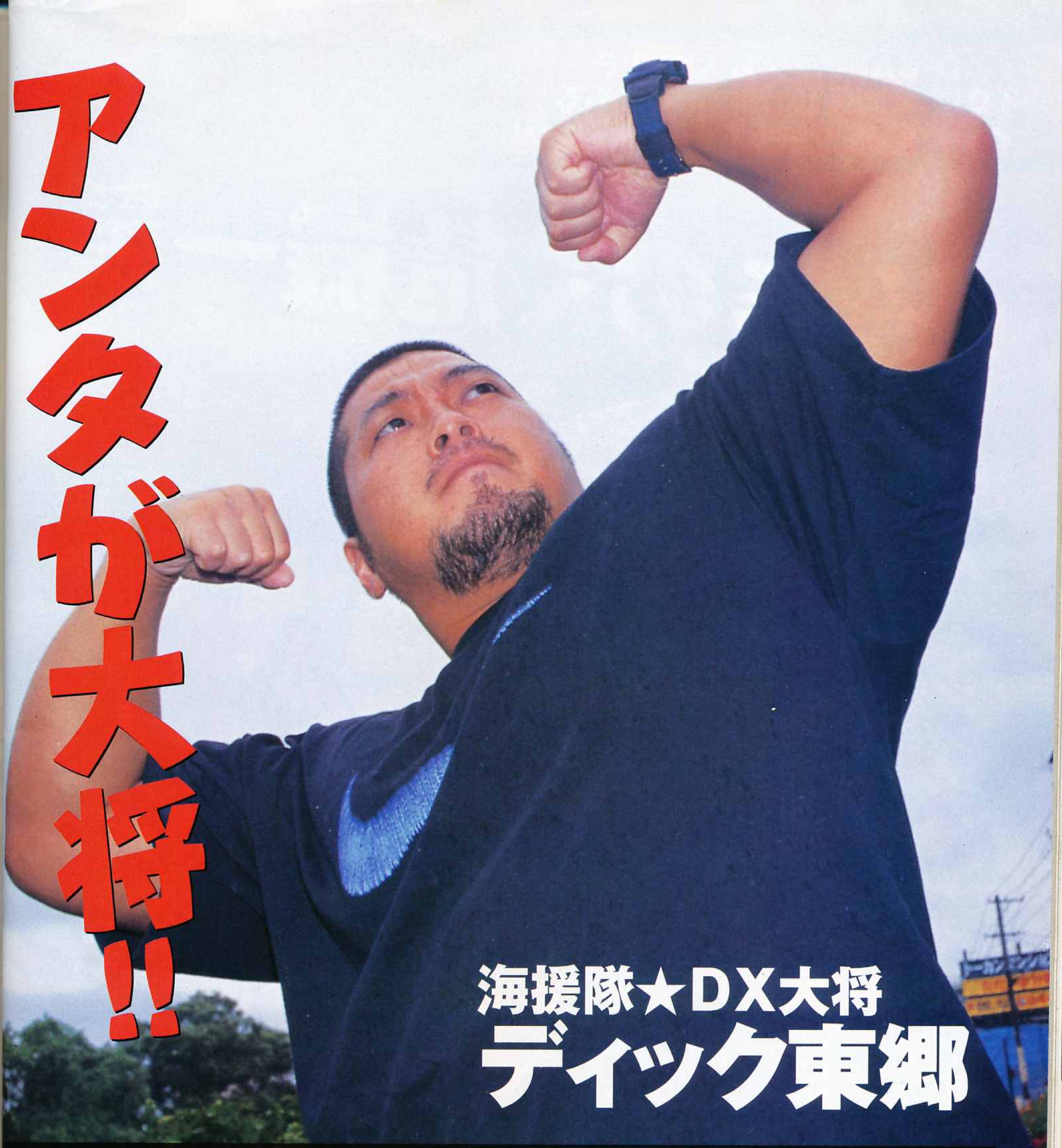
①現金書留 ②郵便振替 00130-3-769154 名義:(株)ダブルクロス
①②いずれかの方法で下記住所へビデオの料金をご送金下さい。送料・税込みの大出血価格7500円です。その際、住所、氏名、年齢、電話番号を明記していただかないと商品が届かない場合がありますので、必ず明記してください。(郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に記入)
〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 株式会社ダブルクロス『ドンキホーテ通販』係まで。TEL. 03-3403-5188 FAX. 03-3403-5187

RADICALは、ケガ人続出で
10・10(両国)に暗雲たちこめる
みちのくプロレスを断固応援するぜ!!

みちのく危機一髪



Text by NomoNomo
Illustration by Shiroyuki Yokoyama
Photographs by Yuri Saitou , Kouichi Hamada



アンタが大将!!

海援隊★DX大将
ディック東郷

東郷 これ、いつ発売なんですか？

——8月24日です（気持ちよく間違えてるが、正しくは27日）。浪花クンまでケガしちゃって、正規軍はますますパワーダウンしちゃいましたねぇ。

東郷 そうだねぇ。決起した若手3人の中でもリーダー格の浪花が骨折しちゃったんで、これはもう……ダメでしょう。

——アハハハハ〜。ファンの目で見ても、どう考えてもキツイだろって思いますよぉ。

東郷 そうですねぇ、どうなることやら。こっちも相手がいなくてやりがいがないですからね。

——お客さんの入りも芳しくないし。

東郷 ンフッ、寂しい会場もありましたね（笑）。

——100人切ったのって久しぶりじゃないですか？

東郷 二ケタは最初の年以来ですね。

——お客さん少ないとやりがいがない？

東郷 う〜ん、やっぱり声援にしろブーイングにしろ、客の声って大事だからね。静かな会場はやってても張り合いがないかもしれないな。

——みちのくはファン一体化プロレスですもんね。パンクラスとは大違い。

東郷 パンクラスは静かなんですか？

——すごいシーンとしてますよ。

東郷 ポテトチップス、パリッってやったら……。

——きっと怒られますよ（笑）。私はやっぱりワイワイ騒いで、時には踊りながら見る方が好きだけど。

東郷 アメリカなんかそうですもんね。お客さんみんな元取ろうと思って、必

要以上に騒いでますよ。
—お客さん少ないし、相手も力不足で、今はやる気ナイナイ状態？
東郷 う〜ん、若い奴等とやるのは楽しみなんですけどね。勝ち負けみたいな目標はないですね。あいつらがどう頑張るか、それを受け止めながら試合するのは楽しいですけどね。
—おお〜っ、敵対してても、やっぱり心はみちのく！
東郷 結局みちのくがなければ生活ができないですから。生活感を漂わす一人としては。それに元々、正規軍にいた頃は、俺とテイオーで教えてましたから。
—テイオーさん、こっち覗いてますよ（笑）。
東郷 特別友情出演ということで（笑）。あっ、ナハハハ〜。ならず者もいる！
—中島半蔵さんも来た（笑）。匂いでわかるんですかね（笑）。
東郷 知らず知らずに寄ってくる（笑）。あ、船木さんまで来た！
—やっぱり匂いでわかるんだ！ いや、今日は硬派なインタビューにしようと思ったんで、ちょっと東郷さんに一発吠えて頂かないと。……と思ってたんですが、何かずいぶんほのぼのしちゃってますねぇ。じゃあ、ちょっとここらでデルフィンさんの話でもしましょうか。
東郷 デルフィンねぇ……。
—6・22浪江のデルフィン×東郷戦は、すさまじいの一言でしたねぇ。あれは個人的にも大ブーイングでしたよ。
東郷 俺に？
—いや、デルフィンさんに。「ふざけるな、デルフィン！」ってファンの声も多かったと聞いてますよ。
東郷 それは意外だったな。だってデルフィンって、何だかんだ言っても人気あるじゃない。事務所にも激励の手紙たくさん来てるみたいだし。
—えーっ、そっちの方が意外！
東郷 でもいいことしても悪いって言われるのは俺だから。
—そんな淋しそうにつぶやかないで下さいよ（笑）。
東郷 ンフッ。でも、雑誌でも叩かれて、サスケや浜田が注意したのにも関わらず、答えを出さなかったのは本人の責任ですからね。まぁ、あのままいたって邪魔なだけだから。どうせコーナーに立ってるだけだし。そんなヤツいたら、下の頑張ってる奴等に悪影響でしょ。やっぱり"腐ったミカン"は取り除かなくちゃと。
—金八ファンとしては（笑）。
東郷 ンフッ、そうそう（笑）。
—今は怒ってるって言うより呆れてるって状態なんですか？
東郷 うん、もう頭にないですね。
—でも私、東郷さんとデルフィンの絡み大好きでしたよ。展開がスピーディで何度見てもワクワクしましたもん。
東郷 まぁ、昔とはズレが生じてきちゃったんでしょうね。
—デルフィン選手とダメになっちゃった理由のひとつとして、やりたいスタイルの違いっていうのがありましたよねぇ。こう言っちゃなんですけど、私は"楽しいプロレス"がなければ、みちのくプロレスじゃないと思ってしまうんですよね。
東郷 うん、あってもいいと思うよ。だからデルフィンが"楽しいプロレス"をやりたいならやればいいんだよ。ただ俺らは激しく行きますけど。
—一人でおちゃらけてたら、ただのバカじゃないですか（笑）。
東郷 ンフッ、そうだねぇ（笑）。俺らだって、楽しいスタイルできますよ。
—そりゃそうですよねぇ。かつてのみちプロがそうだったんですから。
東郷 だから「激しいスタイルに飽きたら、楽しいスタイルに変えようか？」って、たまに話すんですけど（笑）。
—アハハハ〜。じゃあ以前激しいスタイルに変わったのも、楽しいスタイルに飽きたからなんですか？
東郷 俺の場合は、あの頃デルフィンがルードとか言ってたけど、あんなのはルードとは言わないだろう。サスケもふがいないし、ここはいっちょ本物のルードを見せてやろうっちゅーんで、当時平成海援隊を作ったんですよ。
—はぁ〜。じゃあやっぱデルフィンさんのこと好きなんじゃないですか。
東郷 ええっ!?
—だってホントに嫌いだったら無視するじゃないですか。それをケツ叩いてやろうってんだから、それは愛がある行為ですよね？
東郷 試合で絡むから無視できないだけですよ。だからね、俺らは本当のル

金八ファンとしては腐ったミカン(デル)は取り除かなくちゃ

チャ、そしてルードっていうのを伝えたかっただけなんスよ。ファンはデルフィンがやってるのをルチャ、そしてルードだって思ってたでしょ。それは違うんだよって伝えたかっただけなのに、うまいこと伝わらないんだよなぁ。
—東北の人に、本物のルチャを見せたいという思いで？
東郷 そうですね。わかって欲しいんですけどね。あと、正規軍にいた頃は、リンピオの仮面被ってるのがすごい窮屈でね。だから今は素でできるんで、すごい伸び伸びやってんですよ。
—いい人の仮面は窮屈ですか（笑）。では、サスケ社長に対しては今、どんな気持ちを抱いているんですか？
東郷 ンフッ、サスケ社長？
—あ、東郷さんは「サスケ」と呼び捨てにされて結構だと思います（笑）。
東郷 う〜ん、サスケはWWFで頭がいっぱいみたいですからね。ギャラとかで揉めるんだったら……、俺らも出たいなと。
—アハハハハ〜。では、サスケ社長に対しても、そんな「ふざけるな、サスケ！」という思いはないと？
東郷 ん？ ありますけどね（笑）。ありますけど、彼はやりたいことやるでしょう。
—言っても聞かないと（笑）。でも私、前は「サスケ、新日本やWWFじ





■ディック東郷　H３年、対ＭＡＳＡみちのく（現・グレート・サスケ）戦でデビュー。現在、入場曲はピット・ブルズ、入場の仕方がサンドマン、髪型がサターンと、一人ＥＣＷで会場を盛り上げるニクイ奴。

DICK TOHGOH

みちのくの危機を救ってるのは我々海援隊なんだから

ゃないだろう、今のみちのくは相当ヤバイぞ！」って思ってたんですけど、サスケ社長がどこかで「それも全てみちのくのためだ」と発言している記事を読んで、ああ、そうだったのかと思っちゃいましたよ。

東郷　うん、長い目で見ればそうかもしれないけど、今の現状を考えたら長い目も何もないだろう。ここでコケたら先がないわけだから。だからもう余裕こいてるヒマはないと思うんですよね。今、12人でやってるんですけど、浪花が骨折して11人ですよ。もうこれ以上人減ったら興行できないような状態でやってんのに……。

——ＷＷＦのサニーちゃんじゃないだろう（笑）。

東郷　ねえ（笑）、サニーちゃんじゃないですよ。サニーちゃんにギャラ払うんだったら、俺らのギャラ上げろっちゅーに（笑）。

——アハハハハ～。

東郷　と、テイオーが言ってました（笑）。

——東郷さんはサニーちゃんには興味ないんですか？

東郷　だってサニーちゃんって人の女でしょう。

——人の物には手を出さない？

東郷　人の物には手を出さない。いけないことです。

——アハハハハ～、意外と常識人だ（笑）。さて、10・10両国の話ですが、去年はメインが人生×ハヤブサ戦でしたよね。あのカードに関しては不満はありました？

東郷　いやぁ……、不満でしたよ（笑）。

——それホントですかぁ？

東郷　思うけど、言わない時もあっていいじゃないですか（笑）。

——アハハハ。（側にいた篠さんに）東郷選手は、あんまり会社に不満言うタイプじゃないんですか？

東郷　「さんざ言ってる」って今、心の中で言ったろ（笑）。

篠さん　いや（笑）、メインの話は去年かなり揉めたじゃないですか（笑）。もう忘れちゃった（笑）。

東郷　あれ、そうだったっけ？　もう忘れちゃった（笑）。昔の話は忘れることにしてるから。

——過去は捨てる（笑）。ちなみに今年は「メインやらせろ」って訴えたりしないんですか？

私、こういう危機な状態でこそ、海援隊メインで今のみちプロをバーンと見せるべきだと思うんですけど。

東郷　それを会社に強く要望してください（笑）。両国だからって人生×アンダーテイカーとかね、普段やらないようなカード持ってきたら、それは東北のファンをナメてますよね。何だかんだ言っても、みちのくの危機を救っているのは、我々海援隊ですからね。この暑い夏を誰が乗りきっているか。そこを考えてもらいたいですね。

——暑い夏？　熱い夏？

東郷　暑い夏。ホント、何でか知らないけどやたら暑いんですよ。人生に言いたいんですけど、ＦＭＷに行くのが苦行なら、ウチの試合はもっと苦行だよと。もう、泣けてくるほど暑いです。

——みちのくの会場は、クーラー無いとこ多いですもんね。夏ヤセしちゃいますね（笑）

東郷　俺、ヤセないんですよねぇ。こないだラドン温泉みたいなとこへ行ったら脂肪を計る機械みたいのがあって、やってみたら「運動不足、肥満！」って出ちゃったんですよ（笑）。

——アハハハハ～、失礼な機械ですねぇ（笑）。はぁ～、面白いんですずっと話聞いてたいんですけど（笑）、最後に、一言吠えてシメますか。

東郷　吠える？　ん～、俺、至って普段はおとなしいんですよ。

——ほえ～。そ、そんなぁ（笑）。

東郷　まぁ、サスケの留守中に事務所を乗っ取っておくから。篠も俺のことを社長と呼べ！

篠さん　ええ～っ！

東郷　社長室のインテリアも全部換えちゃう！（笑）

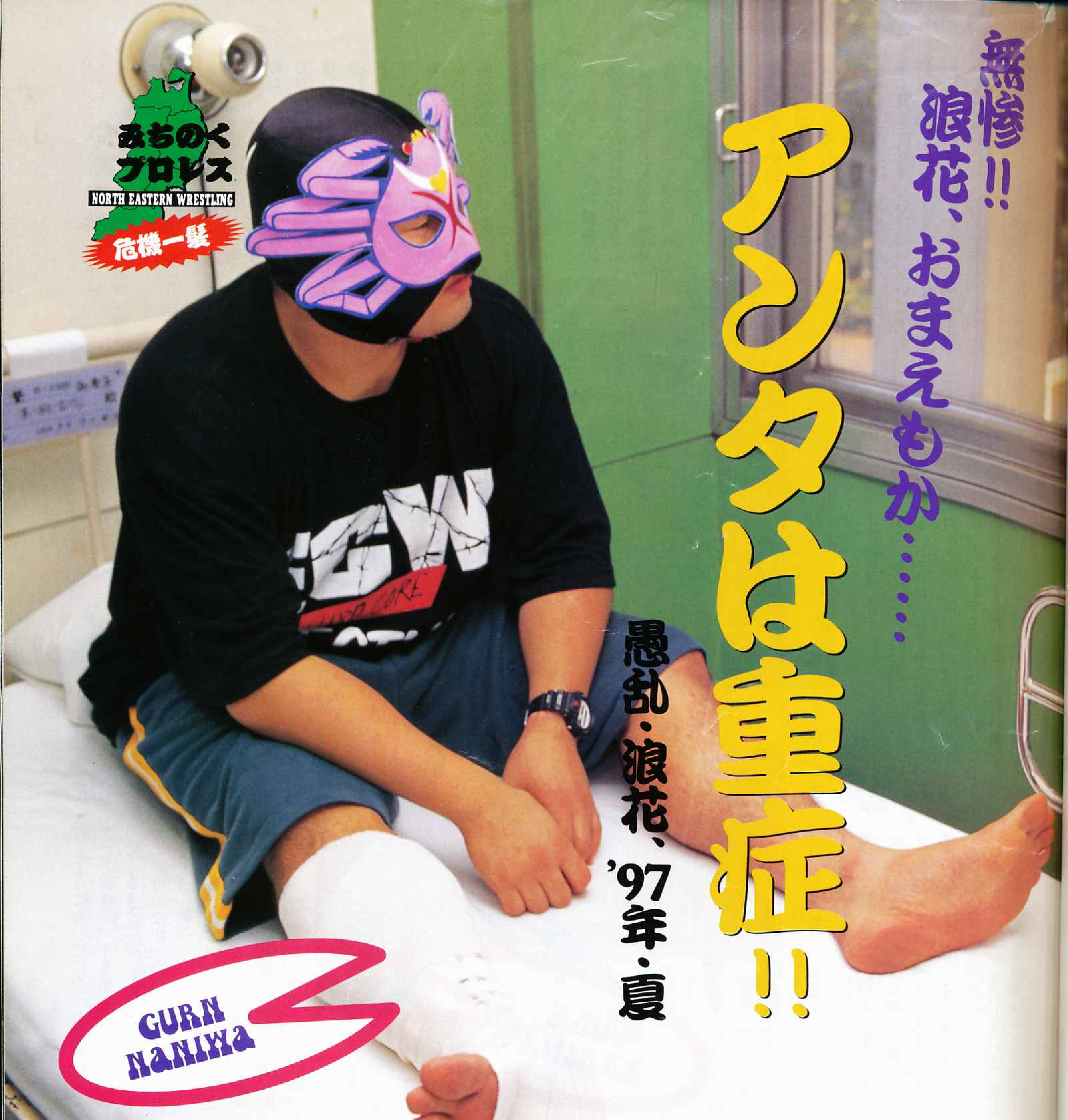
篠さん　何に？

東郷　ミラーボール（笑）。

——超ほえ～。

【97年8月4日・盛岡のとあるホテルにて収録】





無惨!! 浪花、おまえもか……
アンタは重症!!
愚乱・浪花、'97年・夏

【97年8月4日・盛岡のとあるホテルにて収録】

——浪花クン、ちょっとどうしちゃったの、一体。

カニ もう、大変ですぅ。

——浪花クン、大きなケガするの初めてですか？

カニ 2回目。4年前、旗揚げ当初にちょっとだけ。

——じゃあ欠場するのも2回目？

カニ そうですねぇ、これって真面目なインタビューなんですかぁ？

——そうですよぉ。めちゃめちゃ真剣勝負のインタビューです！ ということで、まず、事故の経緯から教えて下さい。

カニ これ（テレコ）もう入ってるの？

——入ってるよ。

カニ あ、そう。この「あ、そう」っていうのも書くの？

——もうなんスかっ！ そんなこたぁどうでもいいでしょ。今はケガの話！

カニ あ、はいぃ。8月1日、MEN'Sテイオーとの『スーパーウェルター級選手権試合』で……。

——はい、はい。

カニ ……ケガしちゃいましたぁ。

——そりゃあ見ればわかるっスよ！

カニ あ、そう（笑）。最初、ラリアットで奇襲をかけて、DDT3連発やって、場外コロコロって落ちたんですよ。そこまでは良かったの。それで調子にのっちゃって、鉄柱越えプランチャをやろうと思ってポーンと飛んだら、うまい具合にMEN'Sテイオーの椅子攻撃がすねに当たっちゃって、それで変な風に落ちちゃったみたいで……。

——あらぁ〜。

みちのくプロレス
NORTH EASTERN WRESTLING
危機一髪

カニ　いつも自爆するんだけど（笑）、こないだは落ちた瞬間「あれ、これは痛いぞ！　いつもとちょっと違うな」って。

―骨折してるっていつ気が付いたんですか？

カニ　折れてるのはわかんなかったけど、何かおかしいなぁとは思ってたんですぅ。でも選手権試合だったし、試合は始まってるしで、もうやるしかないから。

―でも、すごい精神力だ、骨折してるのに試合するってーのは。そういうとこ、やっぱレスラーって凄いぃって思いますぅ。

カニ　そぅお？

―うん、凄いですよ。ド根性なんですかね。あ、でも浪花クンはあんまり根性あるように見えないけど（笑）。

カニ　まぁまぁ。でも、今年の夏はボクたち、薬師寺、星川、ボクの若い衆3人が主役だったわけじゃないですか。社長もいないし、デルフィンもいないし。だから妙に気合い入っちゃって、勝ちに急いじゃった部分が大きかったですよね。

―そんなにベルト欲しかったんですか〜？

カニ　えーっ！　そりゃベルト欲しいよぉ。やっぱチャンピオンになりたいじゃないですかぁ。

―そうなのかぁ。関係ないけど、若い衆3人のチーム名はないんですか？

カニ　ないですぅ。

―ないなら作っちゃえば？　リーダーの特権で。

カニ　えっ、ボクがリーダーなんですかぁ？

―違うの？

カニ　知らなーい（笑）。

―でもね、今までの浪花クンって、野心とかってなかったと思うんですよ。あったとしても私には伝わってこなかったんですよね。だから若い衆3人で結束して海援隊★DXに立ち向かって行くようになって、やっと感情が出てきたと言うか、やる気がビンビン伝わってくるようになったなぁと。

カニ　野心なかった？　そんなことないですぅ（笑）。

―でもデルフィンがいた頃って、完全にお笑い担当だったじゃないですか。海援隊★DXが提唱している"激しい闘い"で、一番遠い所にいたのはデルフィンじゃなく、浪花クンだったと思いますよ。

カニ　厳しいですねぇ（笑）。まぁ、マイペースでやってたから（笑）。

―ちょっとマイペースすぎ！（笑）

カニ　あ、そう？　そうかなぁ。どうだろうねぇ（ニヤニヤ）。

―デルフィンが提唱している"楽しいプロレス"、海援隊★DXが提唱している"激しいプロレス"、浪花クンは、ホントのところどっちがやりたいんですか？

カニ　特にどっちかっていうのは……。

―やりたいスタイルとかないの？

カニ　ないなぁ……。

―ない！　なんでやねん!!　流されてきちゃったの？

カニ　どこに？

―どこにって周りに……。

カニ　どうなんだろ。わかんないですぅ。……インタビューになってませんねぇ（笑）。

―なってないよ！　浪花クン、ズバリ言って、何がしたいんスか？

カニ　何もしたくない……。

―ガハハハハハ。おもしろいなぁ、浪花クンのギャグは。

カニ　（ポツリと）ギャグじゃないんですけどぉ。ウソウソ、これカットにして下さいぃ。何がしたい？　今は特にはないですぅ、ホントに。

―でも強くなりたいっていうのはあるでしょ？

カニ　強くなりたいですぅ。

―他団体にあがりたいっていうのもあるでしょ？

カニ　う〜ん、そうですねぇ。

―ライバル倒したいっていうのもあるだろうし。……そういえばライバルって誰なんですかぁ？

カニ　ライバル、誰なんだろう？　誰だと思いますぅ？

―えっ⁉　……テイオーさん？

カニ　……。

―間違った？

カニ　いや、海援隊★DX全員ですね、



——そんなにベルト欲しかったんです

結束して海援隊★DXに立ち向かって

いプロレス"、海援隊★DXが提唱し

カニ　いや、海援隊★DX全員ですね、

はいぃ。

——う～ん、浪花クンは、ちょっと大人すぎですよね、悪い意味で。曖昧な答えでごまかしてるのは、その裏に会社（みちプロ）があるからでしょう？

カニ　……あの、質問はぁ？

——レスラーはもっと子供の方がいいんです！　若いうちは若気の至りで何をやっても許されるんです！　会社なんて気にせず、言いたいことがあるなら言っちまえ！　吠えたいことがあるなら吠えちまえっ！（炎上!!）

カニ　……このマスクどうですかぁ？

——うん。めちゃめちゃかわいい。

カニ　おでこの所にほら、ハートマークがあるんですよぉ。

——うん。ハートマークかわいい。……って話をごまかさない！（笑）。でも、せっかく新日本に出ていい評価もらったのに、このまま埋もれちゃうのもったいないじゃないですか。

カニ　ボク、埋もれちゃうの？　あ、新日本と言えば、ボク、佐々木健介さんに怒られちゃったんですよぉ。

——エッ！　G1優勝者＆二代目長州力に？　何ですか、それは？

カニ　巡業2日目に短パンはいてたら「おい、おまえ汚い格好するな！　レスラーだったらGパンをはけ！」って。怖いから次の日からGパンはいたんですよぉ（涙）。

——あらぁ～。ケンスキーさん、オシャレですもんねぇ。パワー時代の鉄仮面といいあの髪型といい、普通の人はそうそう真似できないセンスですよねぇ。さすが、二代目長州力!!　ま、それはいいとして、それにしても最近のみちのくはかなりヤバイ状態にあると思うんですが……。

カニ　えっ、ヤバイんですかぁ？（笑）

——どう考えてもヤバイだろ（笑）。だって最近、お客さんの入りがあまりにも寂しすぎるような……。

カニ　そうですねぇ。100人いかない所とかありますもんねぇ。

——こんな状況じゃあそりゃサスケ社長も戻ってくるさ。でも、実際のところどうなんでしょう、サスケ社長とか上の人がいなくても、自分たちだけで何とかイケル！って思ってました？

カニ　う～ん、どうなんだろ。やってみなくちゃわかんなかったですねぇ。（しばし考え込んだ後）ファンに、もう飽きられてるんですかねぇ。

——いや、そうではないと思いますよ。ただ戦力不足なのは確かですよねぇ。人気者のデルフィンもいないし……。浪花クンはデルフィンに対してどう思ってるんですか？

カニ　もう何とも思ってないですね。

——あらぁ～、浪花クンまでもそう言うか。先日、東郷選手をインタビューしたんですが、東郷選手もそうなんですよ。もう呆れてるって感じの答えで。まだ「ふざけんな、デルフィン！」とか言ってる方が愛がありますよね。もうみんな見放しちゃってるのかなぁ……。なんか寂しいですねぇ。

カニ　アハハハハ、そうですかぁ？

——笑うとこじゃないっ！（笑）。もしデルフィンさんが戻ってきたら浪花クンはどうします？

カニ　ボクもケガしちゃいましたから。今は何にも言えないですねぇ。

——こないだのデルフィン×東郷戦（6／22浪江）は、浪花クン的にはどう映ったんですか？

カニ　あんな人が師匠だったなんてガッカリですよ。もう情けないの一言ですよねぇ。やっぱりあの時ボクに譲っとけばよかったのに……。でもボクも東郷とのシングルを前にケガしちゃったから、あんまり人のこと言えないですよねぇ。だから1日でも早く復帰できるように頑張りますぅ。

——両国までには復帰できそう？

カニ　いやぁ、復帰したいんですけど……。いや、何とか治すんでボクを見に来て下さい。

——おおっ～！　今日のインタビューで一番心強い発言！　では、何を見せてくれるんでしょう？

カニ　カニ歩き。

——ぽえ～。

【97年8月4日・都内某病院にて収録】



■愚乱・浪花　H5年、対獅龍戦でデビュー。7・26（上山大会）対MEN'Sテイオーとの『スーパーウエルター級選手権試合』で右足首骨折、及び右足ジン帯損傷を負う。

両国までには何とか治すんで、ボクを見に来て下さい！



やっぱりアンタは社長!!

ザ・グレート・サスケ緊急帰国!!
サスケ! 今すぐみちプロを復興せよ!!



——お帰りなさい、サスケ社長!

サスケ　ただいま!　ホントだったら今、WWF出てるはずだったんですけどねぇ。あまりにもみちのくがヤバイんで、急遽帰国してきたんですよ。

——今年の夏のみちプロ計画はとんだ誤算だったと?

サスケ　そうですねぇ。ホント、こんなに客足が減るとは思わなかったですよ。僕が頭蓋骨骨折してた時も、ちょっとだけお客さん減ったみたいですけど、今回ほどじゃないですからね。

——今いる選手だけでも頑張ってることは頑張ってると思うんですが。

サスケ　うん、頑張ってる。その頑張りは評価したいけど、数字として出ちゃった以上、やっぱり経営者としては、もうひと頑張りしてほしかったなと。

——ほう、経営者的には?

サスケ　そうそう。

——看板選手がこぞって欠場だったわけですもんね。

サスケ　そうそう、デルフィンもいないし……。

——ホントの所、デルフィン選手はどうなんですか?

サスケ　本音は首にしたいんですよ。もう、だらしなさすぎる!　でも激励のファンレターがすごいんですよねぇ。

——復活を願う声が多いと?

サスケ　そう、いつも見に来てくれる東北のファンは、もうデルフィン不要論なんですよね。でも東京のファンっていうのはデルフィンのいい所しか見てないんで「まだ、デルフィンは頑張れる」って意見なんですよ。だから激励の手紙はほとんど東北以外からなんです

みちのくプロレス
NORTH EASTERN WRESTLING
危機一髪

よね。それもハンパじゃない量。しかも『週プロ』の人気ランキング見たら5位でしょ。俺より人気あんだもん（笑）。

――そりゃおかしい！（笑）

サスケ　でしょっでしょっ！　なんでやねん！（笑）

――なんでやねん！（笑）

サスケ　人気ありますからねぇ、経営者的には、ちょっともったいない商品なんですよね。ま、商品って言い方は失礼なんですが（笑）。

――誰に？（笑）。今、ホントに行方わからないんですか？

サスケ　わかんない、わかんない。大阪の家まで探しに行ったんですから。

――えっ？　ホントですかぁ？

サスケ　ホントに（笑）。また、お兄さんがいい人でねぇ（笑）。「すいません」とか謝っちゃったりしてね。

――でも何でこうなっちゃったんでしょうね。

サスケ　今に始まったわけじゃないですからね。1年前からですよ。海援隊がどんどん勢力つけてるのに、デルフィンは相変わらず無気力ファイトですからね。東北のファンはそういうとこ見逃しませんから。

――あ、そういえば6・22浪江の試合、私、『FIGHTING TV SAMURAI！』で見たんですけど、あの試合後のサスケ社長は抜群に面白かったですよ。

THE GREAT SASUKE
『サスケ大爆笑』でも全然笑ってる場合じゃないですね

サスケ　そうですか？

――お父さんみたいだったじゃないですか、引き戸ガラガラガラガラって閉めて（笑）。

サスケ　ガハハハハ。そうそうそう、『ドリフ大爆笑』のバカ兄弟みたいでしたよね、ガラガラガラって（笑）。

――「すいません」とか、ふがいないデルフィンに代わって謝っちゃったりして（笑）。

サスケ　「すいません」ガラガラガラってね（笑）。あん時に限って引き戸だもんね。引き戸に鍵まで閉めちゃったもん（笑）。しかも控室の中は畳（笑）。

――控室の鍵閉めてあの後はどうしたんですか？

サスケ　コスチューム脱がせてあげて。

――ホントにお父さん状態だ（笑）。

サスケ　そうそう、もう、いかりや長介になってしまいました（笑）。

――アハハハハ、ハァ〜。でも、サスケいない、デルフィンいない、人生も出たり出なかったり、TAKA、獅龍、浪花、あとヨネまでもいない……。戦力不足の一言ですよね。

サスケ　そう、最大のピンチですねぇ。アメリカ行ってる場合じゃなかったですよ。

――ホントだったら『サスケ大爆笑'97』に戻ってくる予定だったんですよね？

サスケ　そうです、そうです。

――『サスケ大爆笑』なんて言ってる場合じゃないですね（笑）。

サスケ　全然笑ってる場合じゃない、全然（笑）。ホント、ヤバイ！

――でも、あのシリーズタイトルはめちゃめちゃグーですよ。最高！（笑）

サスケ　いいでしょ、あれ（笑）。

――しかし時期が悪かった（笑）。そんな呑気なこと言ってていーのか、サスケ！って思いましたもん（笑）。

サスケ　ガハハハハ。時期悪かったですよね〜。

――夏は稼ぎ時だっちゅーにね。そういえば今年の夏のシリーズは大イベントがないんですね。

サスケ　そうそう、去年は『世界選手権シリーズ』、おとどしは『覆面ワールドリーグ戦』、今年はないですもんねぇ。

――何でまた今年はやらなかったんですか？

サスケ　予定変更になっちゃいましたけど、私はアメリカ行ってるはずだったんでね。でも、これは実験なんですよ。企画物なしでどれだけイケるかっていう。

――ほぉ〜。

サスケ　でもダメだったと（笑）。早くも答えが出ちゃいました。ん〜、参った。

――大きなお世話ですが、この分じゃ10・10の両国もヤバイ気がするんですけど……。

サスケ　ヤバイ？（笑）　WWFじゃダメかなぁ（笑）。

――WWFもいいけど、今のみちプロを見たい気がしますよね、いちファンの心理としては。

サスケ　あ〜そうかぁ。逆に僕は、そのへんをのものもさんに聞きたいですね（笑）。ファンのニーズを。

――アハハハハ、私なんかの意見でいいんですかぁ？

サスケ　うん、うん。両国の件ではねぇ、僕もいろいろ煮詰まってるんですよ、実際。だからファンの声が聞きたいですね。

――じゃあ、いい案を思いついた方は、サスケ社長にぜひ、一筆！（笑）

サスケ　ぜひ聞きたいですねぇ。

――そういえば、10・11に高田×ヒクソン戦、東京ドームが決まりましたけど。

サスケ　はい。

――日が近いですねぇ。

サスケ　えっ!?　いや、ウチには別に影響ないでしょう。ウチ好きな人はドーム行ってもウチ来てくれるでしょう。……たぶんね（笑）。（ボソッと）俺も見に行こうかな、高田×ヒクソン戦。

――ヌハハハハ。両国以来、東京では試合やってませんよね？

サスケ　はい、今年も両国





手紙はほとんど東北以外からなんです



THE GREAT SASUKE

みちのく最大のピンチ 今、サスケ本気で悩んでます！

だけで。これからも年に1回は両国大会をやりたいですね。

——私、前は月1回は必ず東北に通うマニアのファンだったんですが、最近全然見に行ってなくて……。

サスケ 寂しいですねぇ。またぜひ来て下さいよ（笑）。

——ぜひ行きます（笑）。で、去年の両国以来みちのく見てないんですけど、何かそんな見てない気がしないんですよね。

サスケ あ、そう？

——何ででしょう。

サスケ ひんぱんに雑誌に出てるからかなぁ。雑誌見て、試合行った気になってるのかなぁ。

——あ～、そうかなぁ。……って、私、そんなアホな子じゃないですよ！（笑）

サスケ ガハハハハハ。

——辛辣な言い方ですが、希少価値が下がってるのかなぁなんて、ちょっと思うんですよ。純粋なみちのくだけの試合はなくても、各選手が単体で他団体に上がったりしてるわけじゃないですか。だから、何かいつでも見れるような錯覚はありますよ。

サスケ あ～、そうか、そうか。

——だから、みちのくの純粋カードは今すごく見たいんですよ。今の私にはWWFより純粋みちのくの方が魅力ありますもん。……っていうのが、私のいちファンとしての意見です（笑）。

サスケ そうか、そうか。いや、今日は参考になりますね、ホントに。

——そういえば、今、みちのく最強6人タッグ「みちのく・ザ・ベスト」って誰になるんですか？

サスケ いないですよねぇ。

——じゃあベストじゃなくてベターだと？（笑）

サスケ ベターもできませんよ。試合の質が落ちてるっていうことはないと思うんですけど、やっぱり前に比べると選手層が薄いですからね。問題はそこですよね、やっぱり。

——みんな頑張ってますけどね。まぁ、ちょっと切迫感があった方がいいのかもしれませんよ、選手には（笑）。やっぱりぬるま湯はイカンですよ（笑）。

サスケ ヌハハハ、そうですねぇ。でも、経営者としてはホント頭が痛いですけどねぇ（笑）。

——でもまぁ両国で挽回するということで。

サスケ そうですねぇ、でも挽回できるんでしょうか。ガハハハハハ。

——今の心境をズバリ言うと？

サスケ ちょっとピンチかなと。ブルーです。両国もサニーちゃんが来るのはいいんだけど、カード、本気で悩んでます。皆さん悩むサスケにいい意見聞かせて下さい。どーぞ！

——悩めるサスケに愛の手を！ どーぞ！

サスケ ガハハハハハ、どーぞ！

【97年8月7日トランシーバーにて取材】

みちのくプロレス
NORTH EASTERN WRESTLING
危機一髪

みちのくニュース

オープニング・テーマ、選手入場曲などを会場使用バージョンで完全収録！

『みちのくプロレス大全集』
10月8日、世界に向けて発売決定!!

これ１枚で、みちプロの会場に行った気になれる、そんなパーフェクトＣＤが、10月8日、世界全人類に向けて発売される。人生、TAKA、浪花などなど、ファンが望んで止まなかった選手の入場テーマ、そして、東郷、テイオー、船木が歌う（？）海援隊★ＤＸの『アブノーマル・パラダイス』（発売を機に10月から会場使用される）など、ファンのハートをくすぐる豪華絢爛な内容！　さぁ、今すぐお近くのレコード店で予約を!!



レコーディング秘話をにこやかに談笑する海援隊★ＤＸの皆さん

TOCT -9945／￥3500（税込）●16ページ、オールカラーブックレット付き
■製作総指揮／ザ・グレート・サスケ　■発売・販売／東芝EMI
○問い合わせ先／東芝EMI・映像部　03-5512-1749（木目）
みちのくプロレス　0196-26-1333（篠塚）

［みちのくプロレス日程］

『サスケ大爆笑’97』

8月31日（日）　宮城・ニューワールド仙台（17：30）

『東北ドームツアー』

9月14日（日）●山形・酒田市営体育館（15：00）
9月15日（祝）●福島・白河市中央体育館（15：00）
9月16日（火）●宮城・女川町総合体育館（19：00）
9月17日（水）●青森・三戸町アップルドーム（19：00）
9月18日（木）●岩手・東和町ふれあい施設「毘沙門ドーム」（18：30）
9月19日（金）●秋田・大館市民体育館（19：00）
9月20日（土）●青森・十和田市おらんどーむ（18：30）
9月21日（日）●青森・弘前市カルチャーロード特設リング（13：00）
9月22日（月）●福島・保原町民体育館（18：30）
9月23日（祝）●福島・会津若松市「あいづドーム」（15：00）



なぁなんて、ちょっと思う

プロ期待(ハズレ)新弟子(以下)
カタブツ君(34歳)
道場破りシリーズ第2弾!!

きて下さい!!

原人 中村カタブツ君

革命対決

ネ原人とブチ&(ちょっとだけ)一般常識対決だよ!



世紀の対決 5分前

【前回までのあらすじ】

中村カタブツ君(34歳・静岡県出身、通称・ブチ)。「プロレスはおもしろくない!」「プロレスなんて弱いじゃねーか!」など聞きずてならないような失言を繰り返すメガトン級のダメ男である。そんな彼にプロレスの怖さ&強さを思い知らせる意味で、前回は、もてぴょん(FROM・夢ファク)に立ち上がってもらい、道場髪切りマッチを経験(言うまでもないが結果はもちろん惨敗)。プロレスの強さを身体で教えてもらい「プロレスなんか弱い!」の発言はあっさり覆されたことだろう(たぶんね)。

そこで、身体で知ったけど頭ではわかってない(何てったってカタブツだから)ブチ(34歳)のために今回は『プロレス&一般常識テスト対決』を遂行! 相手は人間に満たない(けれどスペイン語はペラペラ)ヨネ原人に決定! ブチ、おまえが人間であるならば、間違っても負ける相手ではないだろう……。

ゴン太の求愛攻撃に、カタブツ早くもたじたじ……







みちプロ道場横に住むゴン太君(♂)。ブチの足を持ち腰を動かすニクイ奴。ゴン太……、かなりの勢いで発情期である。

カタブツ君、ヨネ原人のおもちゃになる





興奮鎮静のため、カタブツ君以外のおもちゃを与えてみたら……



ヨネもブチも夢中!(ちなみに勝ったのはブチ)







ヨネ原人選手はスペイン語しかわからないため、特別通訳&代筆としてみちプロ・リングアナの篠塚さん(通称・しのさん)にお越しいただきました。

[問題]

問題（答えはP143にあるよ!）
カタブツ道場破りシリーズ第2弾

お気をつけ下さい!! **ヨネ原人** VS 起きて下さい!! 中村 **カタブツ**君

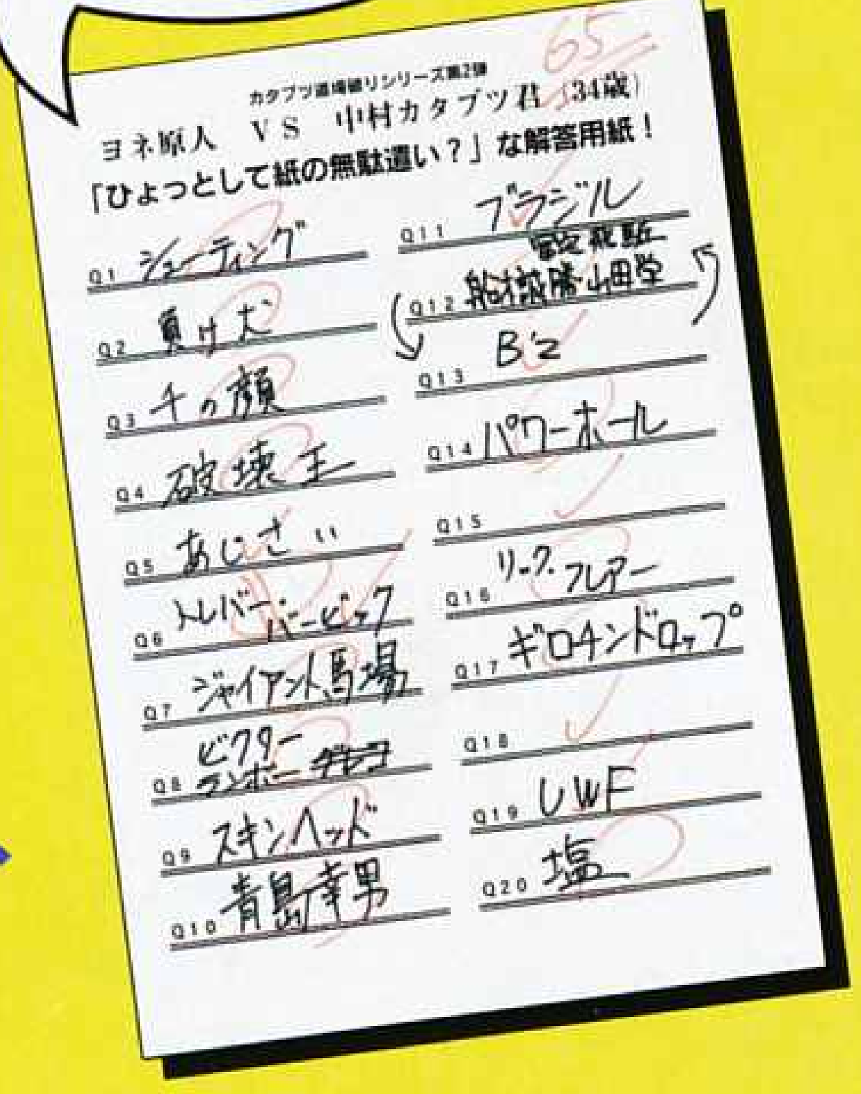
プロレス&一般常識クイズ
「どっちがプロレスに詳しいのか？　ハッキリさせろ!!」

Q1 4代目タイガーマスクは以前、何の競技をやっていた人でしょうか？
Q2 最近、nWo軍団が対戦相手の背中に“nWo”とスプレーするのが流行っていますが、以前、高野拳磁は将軍KYワカマツにマジックで何と書かれたでしょうか？
Q3 ミル・マスカラスはいくつの顔を持つ男と言われていたでしょうか？
Q4 橋本真也のキャッチフレーズは何でしょうか？
Q5 「紫陽花」、この漢字の読みがなをカタカナで書いて下さい。
Q6 アントニオ猪木は昭和51年、あるボクシング世界ヘビー級の現役チャンピオンと異種格闘技戦で戦いました。それは誰でしょうか？
Q7 全日本プロレスの社長は誰でしょうか？
Q8 今年、バトラーツに参戦した“2mコンビ”とは誰と誰でしょうか？
Q9 ケンドーナガサキの髪型は何という髪型でしょうか？
Q10 現在の東京都知事は誰でしょうか？
Q11 今度、高田延彦と対戦するヒクソン・グレイシーは現在どこの国に住んでいるでしょうか？
Q12 最近、ハヤブサの新しいコスチュームをデザインした人がいたバンドの名は何でしょうか？
Q13 パンクラスが広尾に新しい道場を開きましたが、そこに所属する選手を3人挙げて下さい。
Q14 今度、引退する長州力のテーマ曲名は何でしょうか？
Q15 1603年に成立した幕府の将軍家の名前は何でしょうか？
Q16 アントニオ猪木と北朝鮮で対戦したレスラーは誰でしょうか？
Q17 ブル中野の必殺技は何でしょうか？
Q18 大仁田厚の1回目の引退興行は、どこで行われたでしょうか？
Q19 前田日明が2番目に所属した団体はどこでしょうか？
Q20 塩化ナトリウムとは俗に何と呼ばれているでしょうか？

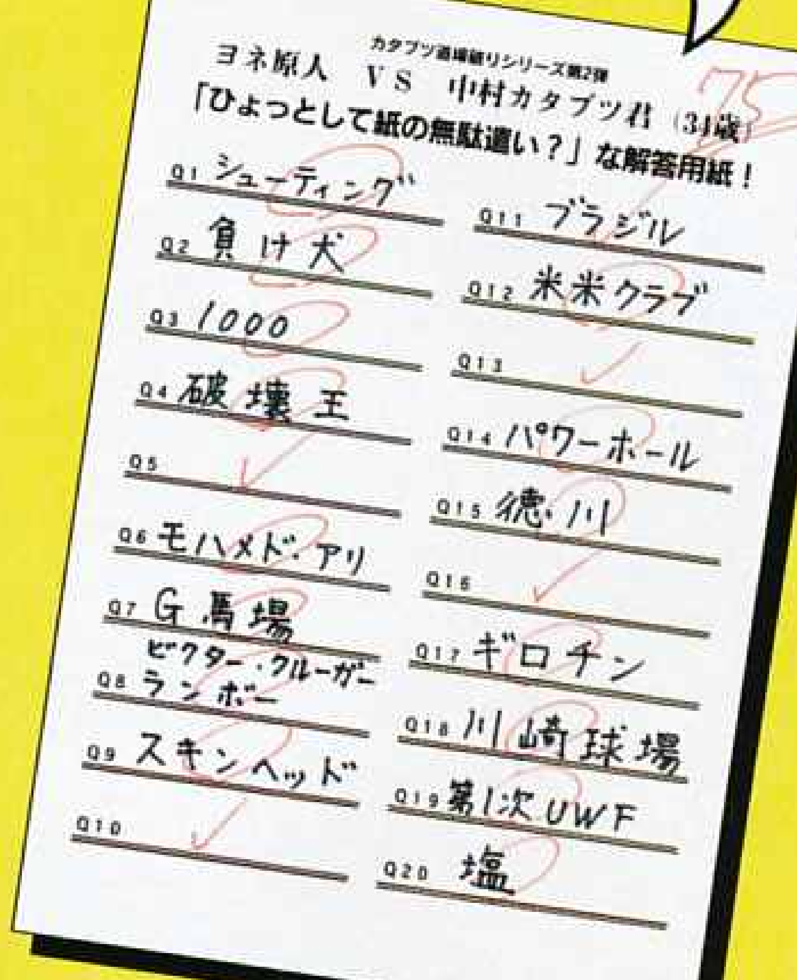


2人の回答

中村カタブツ君（34歳）


カタブツ道場破りシリーズ第2弾
ヨネ原人　VS　中村カタブツ君（34歳）
「ひょっとして紙の無駄遣い？」な解答用紙！
65
Q1 シューティング
Q2 負け犬
Q3 千の顔
Q4 破壊王
Q5 あじさい
Q6 トレバー・バービック
Q7 ジャイアント馬場
Q8 ビクター ランボー
Q9 スキンヘッド
Q10 青島幸男
Q11 ブラジル
Q12 [illegible]
Q13 B'z
Q14 パワーホール
Q15
Q16 リック・フレアー
Q17 ギロチンドロップ
Q18
Q19 UWF
Q20 塩

ヨネ原人


カタブツ道場破りシリーズ第2弾
ヨネ原人　VS　中村カタブツ君（34歳）
「ひょっとして紙の無駄遣い？」な解答用紙！
75
Q1 シューティング
Q2 負け犬
Q3 1000
Q4 破壊王
Q5
Q6 モハメド・アリ
Q7 G馬場
Q8 ビクター・クルーガー ランボー
Q9 スキンヘッド
Q10
Q11 ブラジル
Q12 米米クラブ
Q13
Q14 パワーホール
Q15 徳川
Q16
Q17 ギロチン
Q18 川崎球場
Q19 第1次UWF
Q20 塩

なぜなんだカタブツ!
ヨネに負けるなんて……
新弟子以下どころか、
おまえなんか
人間以下だ!!

ところが……



13



12


11

しかも
足までつって……
もう何やっても
ダメだこりゃ

そして今回も敗れた
無知人34歳……
Muchito



「スパーリングに敗れ、能力テストでも敗れ、ボクは一体どうしたらいいんでしょか？方眉剃って、これから盛岡の山奥にこもります。そりてスーパーカタブツ原人として、また皆さんの前に姿をお目見えすることをここに訴います。ボ、ボクはやればできる子なんだぁぁぁぁぁ!!　お願い、見捨てないで」カタブツ君（34歳）より　〈なお、本文は敢えて原文ママで掲載させて頂きました〉

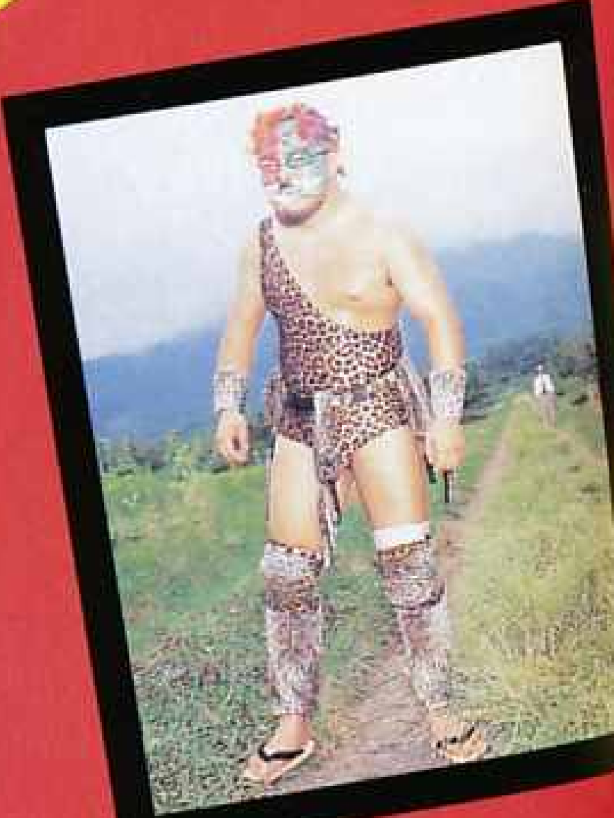


15



14

紙プロ期待（ハズレ）の新
中村カタ　ブツ
道場破りシリ　ーズ第2
お気をつけ下さい!!　起きて下
ヨネ原人 VS カ
のうなし
能無革命
今回はヨネ原人とプロレス&(ち
一般常識テスト対決た







必読連載第4回

石川雄規の『闘いの美術館』

あるいは『儚い記憶』



人の記憶というのは不思議なものだ。たとえば老人が、つい昨日のことは忘れてしまうのに、何故か遠い昔のことは鮮明に覚えていたり、人によっては忘れたくても忘れられないことがあったり、受験生にいたっては、覚えたくても覚えられない現実と日々闘っていたりする。かくなる私も、そんな記憶・思い出の不思議を体験したことがある。

「お母さん（私）と猪木とどっちが大事なの！」

高校生の頃だったろうか、私がかたくなにプロレスラーを目指し、進路問題で連日連夜家庭内戦争が起きていた頃のある日、母親が半狂乱になってそう叫んだ。大人からみればただの子供が、命を懸けて〝人生〟というものに挑戦していたのだ。真剣に闘いを挑んでいたのだ。反対するならそれもよし、真向勝負なら闘いがいもある。

しかし、私の真剣な挑戦に返ってきたのが、前述の言葉だった。〝人生〟というテーマにおいて、親が子供に対して絶対に持ち込んではいけない選択肢である。

言葉を失った私に、父親の言葉がさらなる追いうちをかけた。

「そうだ、どっちなんだ」

悔しさをとおり越して、悲しくなった。父親には、男として母親の言葉を取り消してほしかった。男の人生への挑戦に際しては不適切な選択肢だと諌めてほしかった。

私はその哀しい言葉に対して返す言葉を見つけられなかった。故にその瞬間から、父親の背中を見て生きることを拒否せざるをえなかった。

そして同時に、その時「猪木だ」と答えられなかった自分を責め続けて生きるしか道はなくなった。これは、哀しい選択肢がもたらした、非常にせつない答だった。そして自分の中では、けっして忘れることのできない、許すことのできない言葉・事件となったのである。今考えると、その頃からだった。つい数年前までの間、幼い頃の記憶がまったくと言っていいほど思い出せない時期がずっと続いたのだ。

もちろん、記憶喪失というような病的なものではなく、とにかく記憶があまりにも朧気（おぼろげ）で、思い出という実感がなかったのだ。それは、自分の中で不思議な謎としてずっと引っ掛かっていた。

そして三年前、その謎がようやく解ける出来事に出会ったのだ。

それは突然の電話だった。実家にいる父親が心臓を患い倒れたという。最悪の事態も無きにしもあらずという連絡を受け、病院まで急いで車を飛ばした。病室には父親が静かな寝息をたてて眠っていた。父親の手をそっと握ると、わけもなく涙がでてきた。

よくある、子供の頃言われた「大人になればわかる」という言葉に意地を張っていて、実際大人になると、やっぱり親の言っていたことが正しかったな、と思ったりして流す涙の様なくだらない感情ではない。ただただ無心に涙がでてきたのだ。

私は今まで、大人に言われてきた「大人になればわかる」といった類の言葉に対して「やっぱり俺は間違っていた、昔言われた通りだなぁ」などと思ったことは一切ない。「やっぱり俺が言ってたことが正しいじゃねぇか、おまえらこそやっとわかっただろう」という場合が全てだ。

決して自惚れではなく、私はそう言えるために全精力をかけて生きてきた、馬鹿じゃないかと言われる程意地を張って生きてきた、その結果だと思っている。

そんなことを思いながらしばらくそうしていると、父親が目を覚ました。私を見ると「忙しいだろうに……」そう言って涙をこぼした。

なにも言えずにいる私に、父はぽつりぽつりと病状を話した後、すこしおいてこう続けた。

「最近思うんだ。他のプロスポーツ選手に比べて、プロレスは市民権という部分ではむくわれてない。本物のプロレスの奥深さを理解出来ない連中が多すぎる。10年前にお前が言っていたことが最近になってようやくわかってきた」

「ああ。あの頃猪木さんは、世の中の愚かな価値観に挑戦し続けていたんだ。俺は今夢を信じないバカな連中に、いかに奴等が愚かか知らしめてやる為に闘っている」

父はニヤリと笑ってこう言った。

「俺はな、今学校で生徒達や同僚の教師にこう言ってるんだ。俺の倅は、本物のプロレスをやってるんだ、ってな」

長い間背をむけ続けていた父と、その時初めて男同士として向き合った様な気がした。そしてその瞬間、自分の中で姿を消していた幼い頃の記憶が一気に蘇ってきたのだ。キャッチボールをしたこと。庭で一緒に風呂の薪割りをしたこと。父の自転車の後ろに乗り、酒匂川の河原に行って夕日を見たこと。父に抱かれた幼き日の写真さえ、覚えている筈がない赤



母親が半狂乱になって叫んだ!「私と猪木とどっちが大事なの!」

ん坊の時なのに記憶がある様な気がした。私はどうやら父親に背を向けている間、知らずのうちに記憶を封印していたらしい。記憶とは本当に不思議なものである。

　父はその後、順調な回復を見せ、今ではすっかり元気になっている。この話は、自分の中ではあまりに生々しい感情なのでずっと文章にできないでいた。でも、どうしても文章に残しておきたかったこの気持ちを、どうか少しだけわかってほしい。

　記憶といえば、私の知人が面白い話をしてくれた。

「人が亡くなるというのは、その人の肉体が消滅するだけでなく、その人のもっていた記憶がすべて消滅するということだ。それはその人の中にあった思い出がすべて無に還ってしまうことであり、その人と自分との間に存在した思い出は、自分が生きている限り、その人に関する記憶は自分の中に存在するけれど、その人の中に存在した自分に関する記憶はその人の死によってすべて消えてしまう」

　なるほど、である。記録はずっと残るけれど、記憶は順番に消滅して行くのだ。そのくせ、記憶に残ることは、時には記録に残ることより難しい場合がある。難しいくせに儚い、それゆえ愛しいのだろうか。人は愛しい者の記憶の中になんとかして自分の存在を刻み込もうと必死になって生きる。その人が消えればその記憶の存在も消滅してしまうのに、それでも人は思い出を刻みつづけるのは何故だろうか。

　それがわかるにはまだまだ時間がかかりそうだ。ただひとつ言えることは、バトラーツの全ての闘いは、観る人の心の中にしっかりと記憶として残りたいという情熱に溢れていると思う。それは、応援してくれる人を、心から愛しているからだ。先にも述べたとおり、記憶というのが順番に消滅してゆくものであるとすれば、何十年か後、バトラーツの闘いを記憶している人が、この世にいなくなる時がいつか来るかもしれない。それでもいいと思っている。

　今、私達が同じ時代に生まれたこと。

　そして生きていること。

　同じ思い出を共有できること。

　その喜びに比べたら、記憶の儚さなんて、どうってことないことだから。

格闘探偵団バトラーツ　石川雄規



“T-REX”の咆哮!!

ター・クルーガー

聞き手／山口昇
Interview by Noboru Yamaguchi

撮影／浜田孝一
photographs by Kouichi Hamada

手助け／島田裕二&のものも
help by Yuji & Nomonomo

"2メートルの熱血"がバトラーツで大暴れ!!

デカイ！ 強い！ 熱い！ 3拍子揃った2メートル恐竜（あるいは怪獣）！ ビクター・クルーガー！ こいつは一体何者なんだ――！ RADICALはこんなに熱い2メートルと闘うバトラーツを応援するゼ!!



VIKTOR "
ビクター

聞き手／
interview
撮影／浜
photograp
手助け／
help by Y

―ナイスツーミーチュー！ 『ロスト・ワールド』は見ましたか？

ビクター いや、まだだ。

―面白いですよ。僕的には小説の方が面白いけど。

ビクター そのうち見るつもりだよ。

―好きな恐竜は？

ビクター いちばん大きいのが好きだ。T-REX（ティラノサウルス）だ！

―やっぱりデカイのが好きですか。自分のファイトとT-REXの強さを重ね合わせたりする？

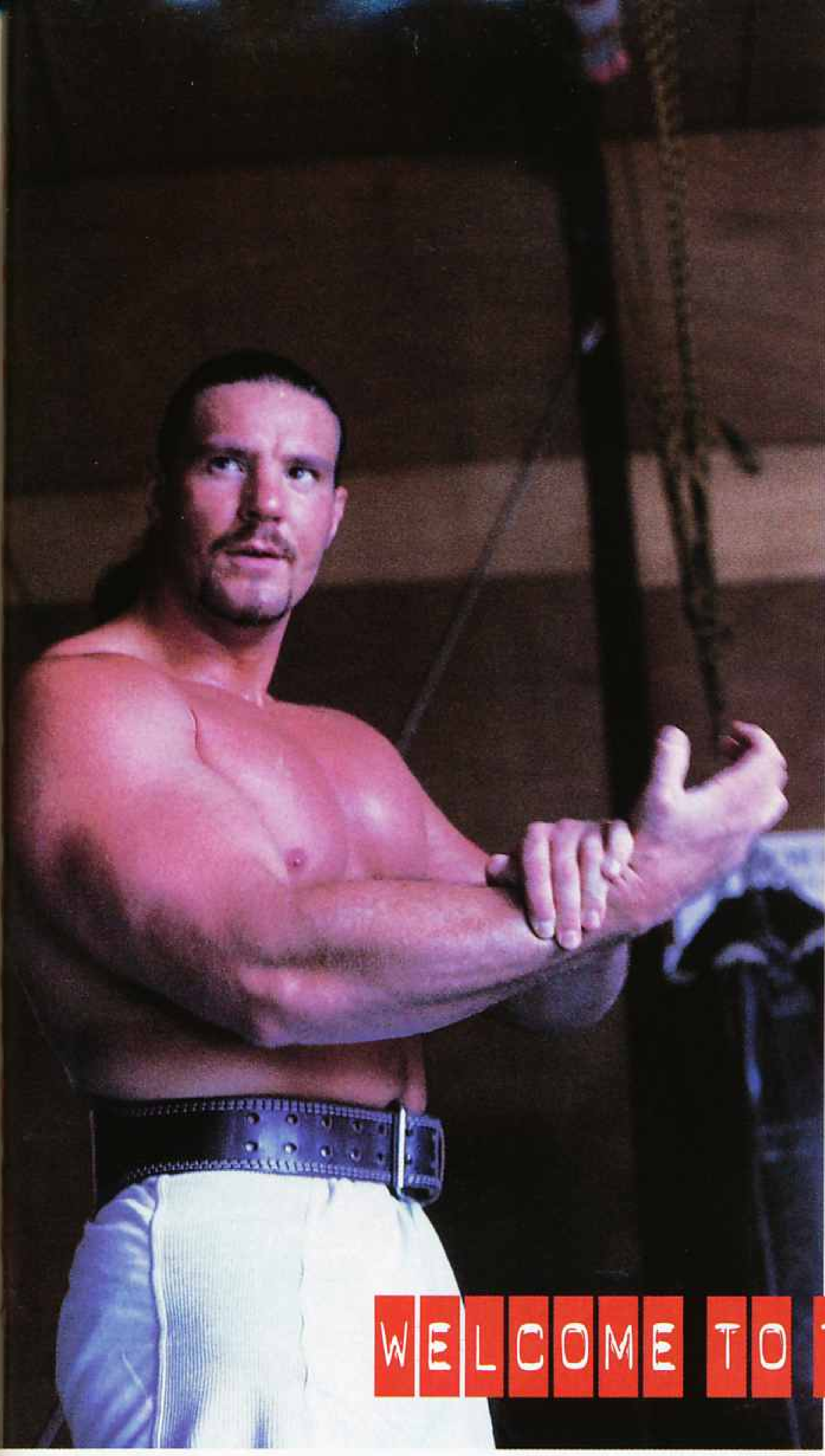
ビクター （ニカッと笑い、うなずく）いい質問だ。T-REXと私の試合スタイルは似ているよ！ しかし、T-REXは試合に対するプランを持っていないのさ。私はプランを持っている。そこが違いだ。

―いいこと言うなぁ。

ボンジョビ島田広報 どうもー、お疲れっしぃ！ いい話するでしょうビクターは。は～い。

―まだ始まったばっかだよ。

ボンジョビ島田 でも言っときます



けど、ビクターは話が長いですよ。

ビクター　それから、もう一つ。私は敵対する相手を痛めつけるが、決して食べたりはしない（笑）。

——なるほど。ビクター選手みたいに大きな選手は、日本ではよく『恐竜パワー』という言い方をするんですよ。

ビクター　ガッハッハ、なるほど。

——じゃあ、人間T-REXの生い立ちから聞きましょう。いつ頃からプロレスに興味を持ち始めたんですか？

ビクター　かなり早いときからだな。じゃあ、16歳の頃の話から始めよう。私が真剣にトレーニングを始めたのは16歳の時だ……（遠くを見つめる）。

※その後、パワーリフティング、ウェイトリフティング、陸上競技を経て、故郷・オーストリアでアメリカンフットボールを始めた話。19歳の時にアメフトの本場アメリカに渡り、ジュニア・カレッジ（短期大学）で、アメリカ人とアメフトで互角に渡り合えた話。カレッジ卒業後はセミ・プロに1年、プロに1年（UFL）在籍した話。そのチームの本拠地は台湾の台北にあり、その時点からアジアを含む環太平洋地域に興味があった話。セミ・プロの時に、並行してプロレスラーのキャリアも始めていた話。ある日パワーリフティングを一緒にやっていた友人が、WCWのレスリング・スクールに誘ってくれた話などを一気にビクターはしゃべった。本当に話は長く、そして熱い！　しかし！　熱い話が繰り広げられる中、本誌の邪道姫・のものもは、薄目を開けながらしっかりと夏バテ防止のためか睡眠をとっていた。

——もともと憧れたレスラーは誰だったの？

ボンジョビ島田　オットー・ワンツ？

ビクター　いや、実はユージ・シマダだよ。

ボンジョビ島田　ハッハッハー。憧れたのは私なんですよ、は～い。

——うるさいからあっち行ってボンジョビでも歌ってろよ！

ビクター　それはジョークだ。私のキャリアの中では、特に憧れたレスラーやヒーローはいなかったが、WCWスクールのときの3人のインストラクターは古い時代の知識も経験もある素晴らしいインストラクターだったんだ。ジ・アサシン、ブラックジャック・マリガン、アーン・アンダーソンだ。

WELCOME TO THE LOST WORLD

——アメフトからプロレス一本に絞ろうと思った動機は？

ビクター　この頃流行りのビジネス用語で言えば『パラダイム・シフト』ということだ。

——は？　パララ……なんですか？

ビクター　パラダイムというのは自分の価値観の転換ということだ。自分の人生の見方がまったく変わってしまったんだ。

ボンジョビ島田　あ、こういう話になると、とくに長いですよ。は～い。

ビクター　それは私がUFLでプレイしていた最後の年のことだ……（遠くを見つめる）。

※チームプレイで勝つ喜びから、一人で闘うことの喜びを見出すまでの話が続くが、本当に本当に長いので超大幅カット。

ビクター　リングの上では私が負ければ私のせいだ。私が勝てば、それは私の勝ちだ。ハードなトレーニングをすれば、それが自分に跳ね返ってくる。そのことによって私は発想の転換ができて、価値観が変わったんだ。

——いってみればフットボールはいつも11人で獲物をとるわけじゃないですか？　プロレスの場合は1人で狩りをしなきゃいけないんだけど、転向するときに不安はなかったんですか？

ビクター　I DONT KNOW FEAR！　恐怖などというものを私は知らない！

——おお！　知りませんか。

ビクター　本当は、私の辞書にも以前は「恐怖」という言葉があったんだ。

——おお！　ありましたか。

ビクター　だが、そのページは破り捨てたよ。

——おおぉぉ！　破り捨てましたか。



ビクター　誤解してほしくないんだが、私は相手を尊敬しないというわけではない。私は切磋琢磨していくこと、それが人生の興味であり、自分の人格の一部であると考えている。もちろん私はプロだからお金は得るが、それがすべてではない。なぜかというと、ただ単に億万長者になるだけだったら、今まで受けてきた教育によって、もうとっくになってるかもしれないからだ。

※経営哲学の話になり、のものも熟睡。

ビクター　プロレスは相手と競争することによって、私のより高い人生目標を見つけることを助長してくれる役割を果たすんだ。そして、自分の限界はどこにあるのか、そしてその限界を超

バトラーツの連中とお互い

を自分の頭と体の中に取り入れている。例えばキックは以前やっていたことも

——ビクターは自分の国も含めて世界中にバトラーツのスタイルを広めてい

れば、それが自分に跳ね返ってくる。

どこにあるのか、そしてその限界を超

バトラーツの連中とお互いを高めあっていくんだ



えられるかどうかという試練になっていると思う。

──ビクター、素晴らしすぎて私は声も出ない！　じゃあビクター、例えばアメリカのマットで、リスペクト（尊敬）できない相手にぶつかったことはない？

ビクター　ガハハハ！　人の悪口を言うのは非常に簡単なことだ！　だから、わたしはそれを避けたい。それはマイマザーの教えなんだ。私はマザーの教えを守るよ。

島田広報　ビクターは母ちゃんには弱いんですよ。

──悪口になるということは、リスペクトできない相手がいたということですね？（笑）。

ビクター　……ノーコメントだ（笑）。

──ガハハ！　じゃあバトラーツの連中はみんな尊敬できる？

ビクター　ベリー、ベリー、ベリーマッチ、リスペクトだ！　ひとりひとり全員に敬意を表します！　バトラーツの連中も私も、お互いに存在を初めは知らなかったが、たぶんどこかで出会う運命をもっていたんだ。

──バトのファイトスタイルは好き？

ビクター　イエス！　バトラーツのスタイルを自分の頭と体の中に取り入れている。例えばキックは以前やっていたこともあるが、カラテのブラックベルトを持っているとかカンフーやケンポーのエキスパートというわけではないんだ。だが、そういうものに興味はあった。しかし、このスタイルはヨーロッパやドイツにはあまり紹介されていない。彼らはヨーロッパの60年代、70年代の非常に古いスタイルを守っていて、マーシャルアーツやブドーの要素が加わる前のスタイルをやっている。だから、こういった日本のスタイルを取り入れることはアップグレードになる。つまり、バージョン・アップだ!!





5・21後楽園で行われた、ビクター＆ランボーvs石川雄規＆池田大輔戦。この試合の途中では突然、本部席のマイクを掴んで「キックに気を付けろ！」と叫びだした（いや、これホント）。ビクターの「感情の爆発」は誰にも（本人にも）止められないのだ！

──ビクターは自分の国も含めて世界中にバトラーツのスタイルを広めていこうという気持ちがあるんですか？

ビクター　そうだ。ぜひやりたいと思うが、今すぐは難しいかもしれないな。というのは自分自身もまだ、このバトラーツスタイルを学んでる途中だからだ。いまはお互いに高めあっていくということが必要な時期なんだ。私も本当に自分が学ばなければならないというのがわかってきた。ドイツにはわずか2、3人だが、私の弟子ともいえるヤツらがいて教えている。将来的には、彼らにも日本に来てもらい、生活様式やバトラーツ・スタイルを経験することで学んでもらいたい。こういうことは口で説明するより、経験しなければ絶対わからないことだからだ。

──関節技は面白いですか？

ビクター　オー、イエス、イエス、ベリーマッチ！　オモシロイ（日本語で）。

※この後、なぜか日本とヨーロッパの構造的関係についての長～い話になったが、当然のように超大幅カット。

──ビクターは日本のどんなところが好きなんですか？

ビクター　非常に細かいところまで組織だってトレーニングをするところだ。そこが好きだ。

──どこが組織だってるんだ（笑）。ここはどこの団体よりもみんな好き勝手にやってるのに。

ビクター　つまり、ビデオを見るにしても、ただ見るだけではなく、分析し

VIKTOR KRUGER

ながら、そこから学んだことを書き留めるという学習をやっている。日本人は何でも100パーセントやることはやる、そういうところがとても好きだ。

——なんかバトラーツに変な洗脳ビデオでも見せられてるんじゃないか（笑）。

ビクター 人の上に立つためにズルイやり方をしてるヤツは、闘うことを恐れているヤツだ！ しかしここでは常にお互いを切磋琢磨しあうことで高めるという方法で強くなってると思う。つまり、それが人生に対して、どう考えるかといった態度、姿勢だ。人生哲学的に言うと、自分のいい面を高めて、悪い面がわかれば、それはブロックしてなくすことができる。そういった態度でものごとを捉えることができれば、本屋で辞書を買い家に帰って開いたときには、初めから『恐れ』という言葉はないんだ。何も『恐れ』のページを無理に引き破ることもない！

——かあ、かっこいい。ところで日本の食べ物はどう？

ビクター チャンコ！ ドージョー、チャンコ！ アイ、ライク！

※チャンコの話になると、突然のもののもの目がパッチリと開く！

——バトラーツのチャンコはプロレス団体の中でもいちばんマズイという噂があるんだけど（笑）。

ビクター ホントデスカ？ だったら他のドージョーのチャンコも食べてみたいものだ。ホントなのか？

のものも というかヨネちん（米山サトシ＝現在欠場中）と日高っちょ（日高郁人＝今年デビューのクールアイ）が作ったのがマズイんだよ。

ビクター オ〜。教えてくれてどうもありがとう。これからは気を付けよう（笑）。ところでさっきの話の続きでもあるが、バトラーツというのは特別なファイティング・スタイルを持っている特別な集団だと感じている。そこが、まず好きだ。というのも、彼らは特別なファンを引きつけてる。つまりそれだけの魅力があるんだ。私はファンから逃げるようなタイプの人間ではない。

ファンと話してみて感じたことだが、ファンはバトラーツのレスラーたちと同じような人生哲学を持っているような気がする。

——（バトラーツとバトラーツのファンをこんだけホメるのは、やっぱり変な洗脳ビデオ見せられてるな）。

ビクター 聞いてるか？ 人生に対する姿勢に共通性が感じられるんだ。しかし、それは考えてみれば当たり前の話だ。特別なスタイルを持った特別なレスラーを育てるために、または存続していくためにはファンも同じスタイルに共鳴していなければならない！ 団体が育ってる影にファンがいる！ 理屈で考えれば当たり前なんだ。プロフェッショナル・レスリングはマッチョな大男がギラギラ日焼けして、そのボディを見せびらかすだけのもんじゃない。あえて誰とは言わないがな。レスリングは常時新しいものをファンに見せていかなければならない。それは、精神的なものも含めてだ！



——ビクター、あなたは熱い！ だけど話が長いんで、ここからは一問一答形式でいきたいと思います。バトラーツでいちばんタフだと思う選手は誰？

ビクター バトラーツの精神だ！ 正直言って、誰か一人を選ぶのは難しい。

——じゃあ、バトラーツでいちばん腹が立つ選手は誰ですか？「この顔を見ると俺の熱い血が煮えたぎってくるぜ！」みたいな。

ビクター 答えは同じだ。ひとりひとり、すべての選手が持っている。イシカワサンはこういったファイティング・スピリットを持った人たちを集めて、組織だってまとめていくという素晴らしい仕事をしてるではないか！

——（こりゃ確実に洗脳ビデオ見せられてるな）。石川雄規とはハートの部分で共通点があると思う？

ビクター イエス！ ベリー、メニーだ。頭の中の精神性を分かち合ってるような兄弟みたいだな。精神的なものがあるから、あそこまで徹底的にやれるんだ。だからといって、リング上では兄弟じゃないがな。ガッハハハ！

——リング以外で兄弟だったりして。ビクターと石川社長の共通点は普段はおとなしいけどリングに上がるとめちゃめちゃ熱くなるところだね。

ビクター それはいいことだろ？

——試合中、記憶が飛ぶなんてことはしょっちゅうあるんですか？

ビクター めまいがするのはしょっちゅうのことだ。………うーん、何だったかな、質問は？ ホワイ？

一同 （沈黙）。

通訳さん いまのは「記憶が飛ぶんですか？」という質問に対するジョークです（笑）。

——ああ、オーストリア・ジョークか（笑）。まったくわかんなかった。

のものも あはぁ、私もぜんぜんわかんなかったぁ（笑）。

ビクター ジャスト、ア、ジョークだ。

高郁人＝今年デビューのクールアイ）
が作ったのがマズイんだよ。

る姿勢に共通性が感じられるんだ。し
かし、それは考えてみれば当たり前の

直言って、誰か一人を選ぶのは難しい。
——じゃあ、バトラーツでいちばん腹

んなかったぁ（笑）。
ビクター ジャスト、ア、ジョークだ。



私の辞書に『恐れ』という言葉は初めからないんだ

VIKTOR KRUGER

ガッハハハ。炎のように盛り上がった試合の後は、記憶が飛んでいることは確かにあるな。

——自分のビデオを見て、自分で「怖いな〜」と思うことはないですか？

ビクター それはあり得るな（笑）。思い起こしてみると、ある試合のあった夜に、ひとりのファンが怖くて近寄れずに恐る恐る私を見てることがあった。その時、自分はファイトのことを集中して考えていたからだ。何も取って食おうというわけではないし、すべてのファンにボディアタックしようと思ってるわけじゃないんだがな（笑）。

——バトラーツの中でベストマッチだと思う試合は何ですか？

ビクター （しばらく沈黙して）つまり、ファンとか、その時の雰囲気とか、試合そのものをすべてひっくるめてすべてということだな？ シンン、この試合だ！（と机の上に置いてあった『週プロ』の5・21後楽園ホール大会の石川＆池田 vs ビクター＆ランボーの試合リポートを指さす）

——ああ、この試合ね。相手の攻撃でいちばん効いた技は何？

ビクター ザ・ヘッドバット！

——石川社長の？

ビクター イエス！

——社長の頭突きは「ゴツンッ」と凄い変な音するもんな（笑）。でも、あなたのキックがかすっただけで、社長も腹がミミズ腫れになったって言ってましたよ（笑）。

ビクター ガッハッハ！

——ビクターは本国ではカタブツって見られてるんですか？ それとも変な人って見られてる？

ビクター まあ、初めて会った人は真面目と思うかもしれない。中にはユーモアのセンスがあるヤツだと思う人もいるだろう。まあ、全体的にはオーストリアの人の私に対する印象はいいものだと感じているよ。

——なるほど。じゃあ最後にT-REXらしく思いきり吠えてください！

ビクター この間こういうことがあった。ドイツでバトラーツの私のファイトが流れたんだ。好評だったよ。しかし、そのことと私を恐れたのか、CWAが「バトラーツは3流団体だ」「ビクターはあるアルティメットのチャンピオンからの挑戦を逃げ回っている」といった妨害するような情報をプロレスファン向けの電話サービスで流したんだ。ここでハッキリ言っておくが、私もバトラーツは3流団体でもないし、公式には誰の挑戦からも逃げない！ バトラーツに挑戦したいというヤツがいたら、バトラーツのオフィスにコンタクトして来い！ GAOOOO!!

【97年7月25日 バトラーツ、おんぼろ道場にて収録】

オーストリア出身。202センチ、140キロ。昨年11月、バトラーツに初来日。年末の「タッグ・バトル96」をカール・グレコとのコンビ（チームX）で制覇。シングルでもまだ負け知らず（8月16日時点）。普段はもの静かだが、リング上の暴走とお喋りの暴走は誰にも（本人にも）止められない

俺より弱いヤツは名乗り出ろ!!

ブチがおくる読者プレゼント

このページでは何が何でも中村カタブツ君(34歳)を応援するゼェ!!

※なお、このページは本来、中村カタブツ君(34歳)担当だったのですが都合により、のものもがお送り致すことになりましたことを善良な読者&わずかなブチマニアの皆様にお知らせ致します(のものものプライドの為断っておきますが、キャッチ、小見出しなどはブチが制作致しました)。本誌144ページ中、ブチの制作ページはわずか4ページ。そのうちの貴重な3ページだったのに……(事の経緯は『カタブツランド』参照)。

と、いうわけで、RADICALは、**何が何でもカタブツ君(34歳)なんか、応援しません!! 以上!!**

驚愕!!

高田延彦が実際に試合で使用したレガースほかを緊急入手!!

●高田延彦本人使用のレガース、ニーパッド、コスチュームの3点セット 1名

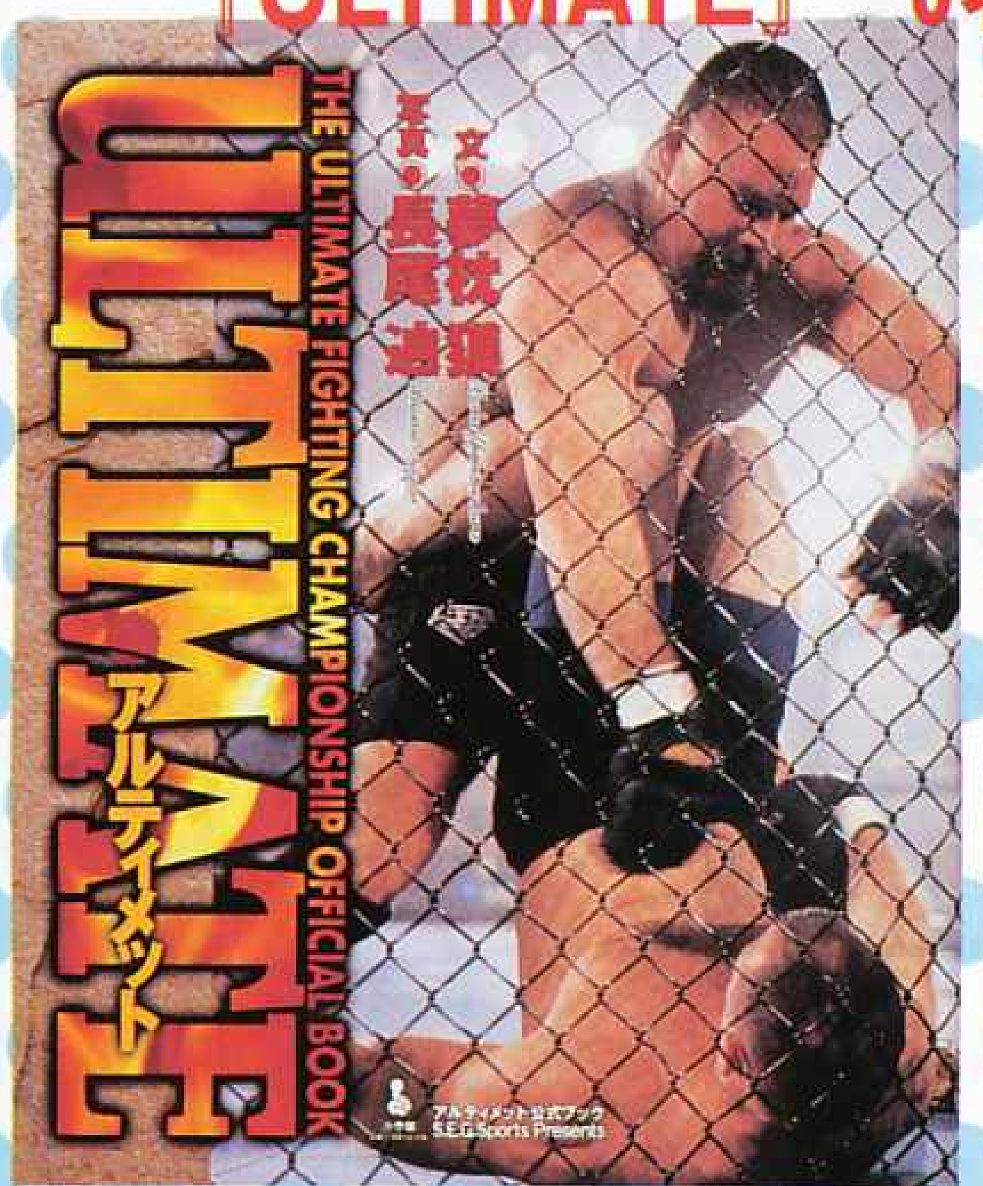


ノブ兄さん直々に「プレゼント出すよ」と、提供して頂いたコスチューム3点セット。去年9月の天龍戦からUインター解散まで、ノブ兄さんと汗水流した激レアもの! 手にした君は超ラッキーマン(またはウーマン)!





●アルティメット公式ブック『ULTIMATE』 3名



小学館より絶賛発売中の、アルティメット公式ブックを3名に。試合写真がめちゃくちゃカッコイイ(ブチが写真集と間違えたくらい)。オシャレな若者は即ゲット! 〈小学館提供〉

●ジャンボ鶴田ぶどう園『おらんちのわいん』 1名



身体もでっかいが器もでっかいジャンボ兄さんが、おみやげに持たせてくれた年間百本程度しか作らないという超貴重なワイン(ハカウマー!)を1名に。高田のノブ兄さんも飲みたがってたぞ! 〈ジャンボ鶴田ぶどう園提供〉

●10・11『PRIDE1』高田延彦VSヒクソン・グレイシー世紀の一戦のチケット 10名



久しぶりにドギマギする世紀の一戦、高田VSヒクソン戦のチケットを、ドカーンと10名に。みんなでドギマギしようぜ〜!(席は未定。これまたドギマギしてくれ) 〈KRS提供〉

●ファーファぬいぐるみ 10名



ノブ兄さん出演のCMでおなじみ、新しくなって更にふわふわの『スーパーファーファ1/6』。今回は非売品のめちゃんこキュートなファーファぬいぐるみを10名に。 〈日本リーバ提供〉

RADICAL5号 応募券

甦る感動！ 梶原一騎没後10年メモリアルグッズ

●アニメ『タイガーマスク』12枚組・最新版LD　1名



アニメ『タイガーマスク』が遂に完結！　全105話中の第61話〜第105話が12枚組のLDに姿を変えて完全復活！　ゴー！ゴー！タイガー!!　当たったら、みんなに自慢しよう。当たらなかったら9/21の発売で即ゲット！《定価¥60000（税抜）》〈東映ビデオ提供〉

●『あしたのジョー』フィギュア　1名



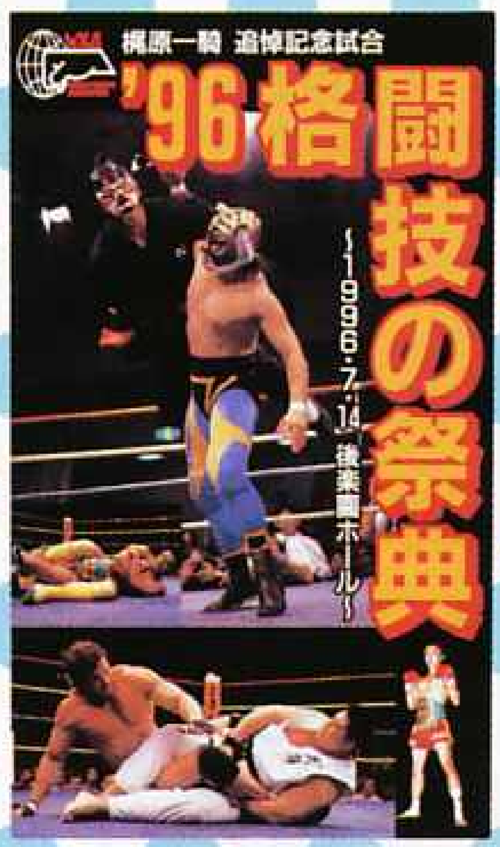
ちばてつや監修の『あしたのジョー』リアルでかっちょいいフィギュアを1名に！　何とトランクス&グローブに着せ替え可能！　ちなみに対象年齢は10歳以上だ！〈メディコム・トイ提供〉

●梶原一騎直筆原稿集『愛と誠』　1名



奇跡的に残っていた梶原先生の直筆原稿が現代に甦るっ！　まさか、梶原一騎の直筆原稿が拝めるなんてっ！　梶原ファンなら当然即ゲットの一冊だっ！〈風塵社提供〉

●梶原一騎追悼記念試合『'96格闘技の祭典』ビデオ　1名



今年は大々的に両国で開催する、おなじみ『格闘技の祭典』の96年版ビデオ。北尾のバーリ・トゥードマッチ、みちプロのタッグマッチ、佐山聡のトークショーなど見所満載！〈東芝EMI提供〉

●極真空手座像　1名



大山倍達没後3年記念して作られた、マス大山先生の重厚な座像を1名に。神棚に飾って崇めたいくらい、イイ味出しまくりの1品です！〈日本武道具提供〉

話題騒然!! レアグッズ他

●国際プロレス 金網デスマッチTシャツ　3名



全国1000万人の国際プロレスファンに贈る吉原家公認国際プロレスグッズ！　1000万人という数がどこから出てきたのか謎だが、間違いなく国プロマニアは泣いて喜ぶ激レア品！　VIVA!　〈VIOLET提供〉

●国際プロレス ユニフォームTシャツ　3名



●バンバンビガロ・ザンギエフTシャツ　1名



●バンバンビガロ・マサTシャツ　1名



●バンバンビガロ・コンビクトTシャツ　1名



相変わらずセンス抜群のバンバン・ビガロの最新Tシャツ。ザンギエフ、コンビクトも非常にイケイケなんですけど、マサ斎藤Tシャツには、すっかり心奪われ超胸キュンって感じっス。センスのいい奴は即ゲット・ザ・グローリー

〈バンバン・ビガロTシャツ提供〉

●パンクラスTシャツ1　各1名







パンクラスファンなら即ゲット！　ってここで貰わなくても、ファンなら当然持ってるよね？　しかし、どうしても観賞用にもう1枚欲しいって人は応募するっきゃないっス。ちなみに夏限定で『丸井・フィールド館』でも買えるらしい。丸井で買えるって何かすげえな。

〈パンクラス提供〉

●サスケ鉛筆　5名



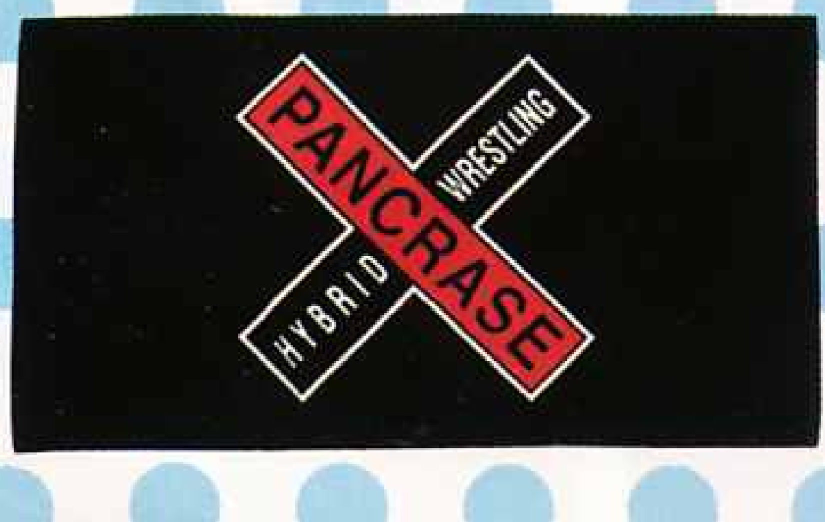
さすが！　チビッコのお客さんが多いみちプロならではの気の利いたグッズ。諸君、勉強しろ！〈みちプロ提供〉

●ダイエット・ブッチャー・マスクドスーパースターTシャツ　10名



これまたセンスの嵐が吹き荒れる（このコメントはセンスなし）、D・Bの最新Tシャツ。色は夏だから白！〈ダイエット・ブッチャー提供〉

●パンクラスバスタオル　1名



これまた今の季節重宝しそうなアイテムでありやす。海、山のお供に！　山で使うか？　たぶん使うだろう。こんなんでいいの、ブチ？〈パンクラス提供〉

●ザ・グレート・サスケ&スペル・デルフィンお面　各5名





あったらいいなと思ってたら遂に出た！　デルファンは、友だち（嫁でも旦那でも可）に被せてデル〜♥、なんちって。……いいじゃん、夏なんだし。〈みちプロ提供〉

●パンクラス公式読本『矛』『盾』　2巻セットで5名





この夏の思い出に、活字パンクラスを貴方に……（詳しい内容はP80〜81を見てね！）〈ナガブッチャーのShow氏提供〉

P131　ヨネ原人VSカタブツ君クイズの答え　Q1・シューティング　Q2・負け犬　Q3・1000　Q4・破壊王　Q5・アジサイ　Q6・モハメド・アリ　Q7・ジャイアント馬場　Q8・ビクター・クルーガー、ランボー　Q9・スキンヘッド　Q10・青島幸男　Q11・アメリカ　Q12・米米クラブ　Q13・船木誠勝、冨宅飛駈、髙橋義生、柳澤龍志、山田学、國奥麒樹真、山宮恵一郎のうち3名　Q14・パワー・ホール　Q15・徳川　Q16・リック・フレアー　Q17・ギロチン・ドロップ　Q18・川崎球場　Q19・第1次UWF　Q20・塩

ノモノモ所有 お宝プロレスグッズ大放出!!

●パワーぬいぐるみ　1名



ぬいぐるみっちゅーんですかね、コレ。すごくブサイクなとこが気に入って自腹で買いました。そして抱き枕として愛用してました♥　抱き心地、今イチだったけどね。

●荒谷の使用済みパンツ　1名



荒谷もノブなのに、扱いは大違い……。これは友達がオークションで3千円で落とした物を横取りした品。サインとかないのでホントに本人の物かは不明(洗濯済み)。

●W★ING Tシャツ C　2名



93年5・5、小田原『松永光弘VSレザー・フェイスの5寸釘デスマッチ』のTシャツ。これも着込んでま～す。

●W★ING Tシャツ A　1名



背中の「食」という文字が、食いしん坊のののものもにピッタリと思い購入。かなり着込んじゃってま～す。

●FMWポスター　1名



93年12・8、晴海大会の記念ポスター。片づけてたら出てきた。それまですっかり存在を忘れてましたぁ。ポスター付きの席だったんだよね、確か。

●W★ING Tシャツ B　1名



邪道・外道の激レアTシャツだぞ～。しかもこれは未使用だぞ～。ののもも姉さんの太っ腹ァ～!

●オリプロ・ポスター　1名



貼ってあるのを剥がして持って帰った形跡あり(ポッ♥)。板倉がエース!　でもそれより何より、ダーティ大和、どこ行ったんだ?　ホントはあんまり興味ないけど。

●みちのくプロレスポスター　1名



94年のみちプロポスター。海援隊DXの皆さんが、まだみんな正規軍にいた頃ですね。そしてみんな若いですね。変化がないのはサスケ社長だけですね。

●デジタル携帯電話　50名



『J―PHONE』『ツーカー』本体&標準セット(基本料金など全て込)をドカ～ンと50名にプレゼント。カタブツ君(34歳)のモーニングコール付き(希望の方は明記して下さい)。

〈インターテレコム提供〉

新作ビデオ

●97STRONG STYLE EVOLUTION IN 大阪ドーム PART1&2 2巻セットで　3組



5・3の大阪ドーム大会の模様をビデオでお届け!　橋本VS小川のIWGPヘビー級タイトルマッチ、越中VS木村健吾など、必見カードがてんこ盛り!

〈東芝EMI提供〉

●闘魂スペシャルVOL37 nWo愚零闘武多PART1&2　2巻セットで3組



nWo入りしたムタの日本初試合をばっちりフォロー。nWoファン&ムタファンは必見!　あ、もちろん新日本のファンもね

〈ヴァリス提供〉

シングルCD

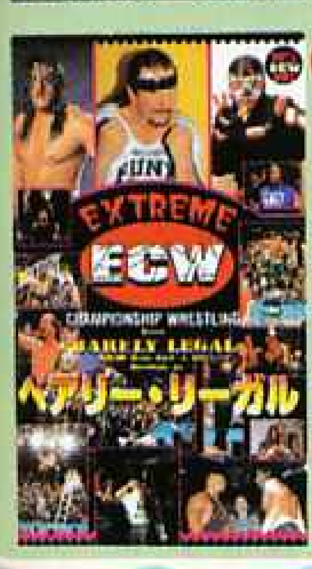
●BAD:D.imbrue『Soul　Brother』　5名



なぜか裏ジャケに、ジョージ高野氏が!　ソウルと言ったら、そりゃジョージだよ。って、どうしてじゃ～(トンパチネタ)。

〈ムラトー・アーツ・ヒット提供〉

●ECWベアリー・リーガル　3名



みちプロ6人タッグも収録されているECWのコアなビデオ。ECW、nWo、今、アメリカが熱いぜ～(日本は暑いぜ)。〈東芝EMI提供〉

●nWo・4・Life　3名



出たぁぁぁ!　あ、まだ出てないや、あ、やっぱもう出てる。nWoの誕生から最新映像まで、この1本でnWoの全てがわかる歴史的ビデオ。nWo信者なら当然即ゲット!

〈東芝EMI提供〉

応募方法

50

151-□□

東京都渋谷区千駄ヶ谷3―11―3―702
(株)ダブルクロス
「紙プロ」編集部
「正美」係まで

応募券

1.住所
2.氏名
3.年齢
4.希望商品
5.面白かった記事
6.つまらなかった記事
7.好きなプロレス団体
8.好きなレスラー
9.やってほしい企画
10.カタブツ君への一言

住所、氏名、年齢、ご希望の商品、面白かった記事&理由、つまらなかった記事&理由、好きなプロレス団体、好きなレスラー、やってほしい企画、そして次号はもういないかもしれないカタブツ君(34歳)に、最後のはなむけの言葉を明記し、応募券を貼って左記の住所へ送ってくれたもう!　なお、締切は9月30日でーす。よろぴくねん♥

※応募券のないものは無効とします

紙のプロレス RADICAL
No.5
1997年9月25日発行
定価:本体648円+税

発売元:株式会社ワニマガジン社
〒160　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03―3357―2911(販売・営業)
発行元:株式会社ダブルクロス
〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03―3403―5188(編集・制作)

編集兼発行人:山口昇
編集スタッフ:野本のものも真貴子/中村カタブツ君(34歳)/坂井ノブ/吉田豪/八木賢太郎(マック導入のため非番)
デザイン:ツースリー(出田さん、村松さん、ヒサさくん、マツ)
運搬:出前持ち入江　アタリ:古川ふるーる
カメラマン:斉藤ユーリ/浜田孝一
お勘定:林ヘックション一枝
フィニッシュ:ツー・スリー
印刷:図書印刷株式会社

編集内容等に関するお問い合せは(株)ダブルクロスにね♥

紙のプロレス RADICAL
No.6は
10月下旬
発売予定





ジョン・マガウラン院長



日本語スタッフが対応します。

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZIN MOOK 56 1997 No.5
打倒ヒクソンに最後の刺客!!
平成9年9月25日発行　編集発行人／山口昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体648円＋税

9784898292976
ISBN4-89829-297-6
C9476 ¥648E
1929476006486
雑誌 69861-56
©DOUBLECROSS 1997 Printed in Japan
印刷：図書印刷株式会社